中国人の使う中国語 使わない中国語

疑似体験 中文堂

久米ひろみ

中国人の使う中国語
使わない中国語

■目　次■

北京にて

留学生活（1998 年 9 月～ 1999 年 7 月）

まえがき　8

一　挨　拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
1. こんにちは　20
2. 初めまして 25
3. 自己紹介 27
4. ありがとう　と　すみません 31

二　授　業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
1. 初めての授業 34
2. 北京語言学院（現北京語言文化大学） 37
3. 先　生 40

三　買い物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
1. 自由市場にて 43
2. 自由市場で肉魚を買う 46
3. 友人に助けられて 50
4. 留学生たちの買い物 53
5. デパートにて 55
6. 観光地にて 57

四　寮生活 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
1. ルームメイト 60
2. 小姐と瓜子 63
3. テレビ 65
4. 電　話 68

五　交　通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
1. タクシー 73
2. バ　ス 77
3. 空港から北京市街に出る 81
4. 交通の変化 84

六　レストラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
1. しゃぶしゃぶ 87
2. 串焼き 89
3. 北京ダック 91
4. 食　堂 93
5. マクドナルド 95

七　旅　行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99
1. 切符の手配 99
2. 寝台列車 104
3. 飛行機 109
4. 陽朔にて 112

八　就職活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・117
1. パソナ（現 Pahuma） 117
2. 面　接 119
3. 引越し 124

「すごいぞ中国人」（北京編） 127

蘇州にて

就職、結婚、転職 (1999 年 7 月～ 2002 年 6 月)

一　買い物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140

1. 自由市場にて Part2　140
2. 自転車を買う 144
3. 家電製品を買う 147
4. 家電製品の売り場 150

二　出　社 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 153

1. 蘇州語 153
2. 食　堂 156
3. 名前を呼ぶ 159

三　仕事開始 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165

1. 単純作業 165
2. 国営会社的日中合弁会社 166
3. 面子と肩書き 172
4. 出張（食べ物編） 174
5. 出張（トイレ編） 177

四　行　事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181

1. 蘇州人の結婚式 181
2. 社員旅行 187
3. 旧正月 189
4. 年間行事 194
5. 中秋節 198

五　レストラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・203
1. 火　鍋 203
2. 頂鼎鶏 208
3. 上海蟹 211
4. 水晶麺 215
5. 五つ星ホテルのレストラン 221
6. ケンタッキー 223
7. 羊肉のおいしい店 227

六　生　活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・234
1. テレビ 234
2. 節約家の蘇州人 244
3. 原付バイク 247
4. 修理屋 250
5. 美容室 252
6. 銭　湯 257
7. カラオケ小姐 260
8. 王さん夫婦の存在 265

七　病　院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・268
1. 風　邪 268
2. 歯医者 271
3. 婦人科 273
4. 動物病院 276

八　恋　愛・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・280
1. 初デート 280
2. 自由市場にて Part3　286
3. 彼の友人 292

4. 蘇州人の食卓 294

九 結 婚 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 301
1. 蘇州の両親 301
2. 家探し～内装 305
3. 結婚写真 309
4. 結婚手続き 315
5. 差 別 321
6. 結婚パーティー 327
7. 新婚旅行 332

十 転 職 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 336
1. パソナ Part2 336
2. 面 接 339
3. 給料交渉 346
4. 引越し、上海へ 353

「すごいぞ中国人」（蘇州編） 364

上海にて

転職、妊娠、帰国（2002 年 6 月～ 2003 年 4 月）

一 出 社 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 374
1. 品質問題 374
2. 部下との確執 377

二　交　通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・381
1. タクシーの運ちゃん 381
2. 長距離バス 389
3. 地下鉄 394
4. 車窓から見えるもの 399

三　レストラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・404
1. 屋　台 404
2. 咸亨酒店 407
3. 新天地 416
4. 台湾のチェーン店 420

四　ショッピング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・427
1. 襄阳路服装市场 427
2. 路地にあるお店 432
3. 上海は買い物天国か？ 438

五　行　事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・443
1. バレンタイン 443
2. クリスマス 446
3. 誕生日 451

六　帰　国・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・455
1. 妊　娠 455
2. SARS の流行 458
3. 帰　国 461

まえがき

中国から帰国したある日、中国で知り合った友人からある依頼を受けた。彼女も帰国し、これから故郷で「中国語サロン」を開こうとしていた。そこで、彼女から「中国語サロン」の教材となるようなエッセイ風資料を作ってほしいと言われ、書き始めたのがこの本だ。

書く時に注意したことは、

1. 中国語を勉強する教材として使えるものであること
2. 中国語をまったく知らない人でも読めるものであること
3. 楽しく読める内容であること
4. 中国に留学する人や、中国で暮らしていく人の生活の手引書になるような情報も盛り込むこと
5. 中国人が使う生きた中国語が書かれていること
6. どんな場面で、どんな中国語が、どんなニュアンスで、どのように使われるかが、伝わるように書かれていること

私自身が中国語を喋っていて感じるのは、他の国の言葉を喋るということは、気持ちや感情、物の感じ方、考え方までその国の民族ものに近く変わってしまうことだ。つまり、本当に他言語を習得しようとすれば、その国の社会的背景を理解した上で、その

民族的感情を自分の中に宿すことだ､と私は思っている｡だから、語学習得への一番近い道はその国に住むことだ、と言われるのだと思う。

でも、中国語を勉強したいからといって、誰もが中国で暮らせるわけじゃない。だから、中国語を勉強したいと思う人、また中国に興味を持つ人がこの本を読んで、少しでも中国に行ったような感覚を持てて、少しでも中国の社会的背景を知ってもらえたらいいなと思い、これを書いた。

私たちが通常「中国語」と呼んでいるものは、中国語の中の共通語、「普通话(pǔtōnghuà)」と呼ばれる言語。本来「中国語」といえば、中国にある数え切れないくらいの方言すべてを指す｡よく聞く｢北京語」「上海語」「広東語」というのも「中国語」の中の一種。私がここで書いた中国語は「共通語=普通话(pǔtōnghuà)」になる。

ただ、中国へ行ったことのある人は気付いたことがあるかもしれないが、同じ「普通话(pǔtōnghuà)」を喋っていても、その中国人の出身地によって彼らの話す「普通话(pǔtōnghuà)」の発音や文法が変わってくる。これは、彼らの方言の発音や文法が影響しているからだ。

例えば､「あなたはどこに行きますか？」と聞くのに、北京や北方地区の中国人なら、

Nǐ qù nǎr
你 去 哪 儿?

と聞く。それに対し、上海や江南地区（長江より南の地区）の中国人なら、

Nǐ dào nǎlǐ qù
你 到 哪里去?

と聞く。どちらの中国語を喋っても、中国では通じる。

だから、私がこの本の中に書いた中国語も、もしかすると、読んだ人の中に「こんな言い方はしない。」と思う人がいるかもしれない。でも、これは私が訪れた街の中国人たちに影響を受けて、このような中国語になっていると考えてもらいたい。こう見てみると、中国語の「共通語=普通话（pǔtōnghuà）」も、絶対的な言語ではないことが分かってもらえたと思う。

また、ここでは中国語の発音や文法について説明はしなかった。それらの情報は、他の本や参考書に求めることができるし、私はこの本の中で、他の本からは得ることのできない情報を書きたいと思い、発音や文法についての説明は省略させてもらった。

この本の構成は、第一部「北京にて」、第二部「蘇州にて」、第三部「上海にて」となっている。文章の中に散りばめている中国語は、第一部は初級レベル、第二部は初級～中級レベル、第三部は中級～上級レベルとなるように、意識して書いたつもりだ。

中国といえば、人口世界第一位、国土面積世界第三位の巨大な国。五十六の民族が暮らし、三十四の直轄市・省・自治区に分か

れる国。そんな国のことを、一人の人間がすべてを語ることは到底できない。私がここに記した内容は、一人の日本人女性が中国へ行って、目で見て耳で聞いて体験したものを、断片的且つ部分的な中国として書かれてあるものと思って読んでもらえたらありがたい。

北京にて

留学生活

1998年9月 ～ 1999年7月

↑北京大学南門入り口

↑北京語言文化大学正門
（毛沢東の筆跡の「北語」見えますか？）

↑寮から教室までの道

北京語言文化大学

↑学校の食堂

クラスメイトと校舎の
前で記念撮影
←

↑ドロドロの桂林駅前

桂林の旅行

↑陽朔のタクシー運転手のおばさんとその息子

↑陽朔のタクシー運転手のおばさんと一緒に……

陽朔のおしゃれなカフェレストラン→

クラスメイトと…

↑お別れ会でクラスメイトと。真ん中は担任の先生

↑寮の部屋　お世話になったテレビ

お別れ会

寮の部屋　ここで自炊をしていた
北京は空気が埃っぽく、とにかく何でも布を被せていた↓

↑総合班で厳しく指導してくれた李老師

地下鉄入り口前

北京市街

故宮北にある景山公園から、故宮を一望する

一　挨　拶

1 こんにちは

私が北京留学を決心して一年後の 1998 年 9 月、やっと北京語言学院（現北京語言文化大学）に留学できた。留学生活の第一関門は寮「宿舍(sùshè)」の部屋を探すこと。これが大変。私は仲介業者を通さへんかったから、「宿舍(sùshè)」の手配も全部自分でせなあかんかった。

北京に到着したその日から寮の部屋探し。でも、当日すぐには入られへん。部屋探しは一日仕事や。そんなこととは知らず、初日、宿無しになった私は北京の友人の家に泊めてもらった。

それはさておき、どこに行ってもまず、挨拶「打招呼(dǎ zhāohu)」というのは重要やろう。どの本を見ても、挨拶は「こんにちは。你好！」と書かれてる。でも、私はこの「你好(Nǐhǎo)！」でいっぱい失敗した。日本人が「こんにちは。」っていう感覚で「你好(Nǐhǎo)！」って言うたら、まず間違いなく失敗や。

例えば、日本人やったら同じマンションに住んでたら、顔見知りじゃなくてもお辞儀をするか、「こんにちは」って言う。一度、私が恥ずかしい思いしたんは、友人のマンションで。友人の家に行こうとマンションの階段を上がってる時、上から降りてくる住

人がおった。私は日本と同じように、頭を下げながら「Nǐhǎo你好！」と言った。今思い出したら自分でもアホやなぁ、と思う。その住人は二人おったけど、二人で顔を見合わせて

「Nǐ rènshi ma你 认 识 吗？」　*あんた知り合い？*

「Wǒ bú rènshi我 不 认 识。」　*知り合いちゃうで。*

「Wǒ yě bú rènshi Tā shì shuí ya我 也 不 认 识。她 是 谁 呀！」

私も知らん。あいつ誰や？

って言うてた。そりゃ言うわ、知らん人に「Nǐhǎo你好！」って言われたら……。私は最初、そんなこと知らんかったから、日本人的感覚で言うてしもた。ちなみに、中国人は「Nǐhǎo你好！」と言いながら頭を下げることもせぇへん。

中国ではまず、知らん人には挨拶する必要はない。お辞儀もせんでええ。ちなみに、挨拶でお辞儀をするのは世界で日本人と韓国人くらいや。中国人はめったにお辞儀はせぇへん。

中国に実際住んだら、中国人はあんまり「Nǐhǎo你好！」って言わへんことに気付く。ほな、中国人はどうやって挨拶してるんか？

中国の大学では、大学の先生たちが「jiāzú家属」と呼ばれる学校の裏に建てられたマンションに住んでいる。だから、その先生の家族たちも普通にキャンパスの中を往来してて、彼らが挨拶しているのをよく耳にする。

(1)「Chīfàn le ma
吃 饭 了 吗?」　*ご飯食べた？*

「Chīle nǐne
吃了，你呢?」　*食べたでぇ。あんたは？*

「Wǒ yě chīle
我 也 吃了。」　*私も食べた。*

(2)「Nǐ qù nǎr
你去哪儿?」　*どこ行くん？*

「Qù mǎi dōngxi
去 买 东 西。」　*買い物行くねん*

こういった挨拶は、親しい人たちと交わされることが多い。日本人的感覚やったら、「なんでそんなことを聞くねん？」って思う。でも、別に真剣に聞いてるんとちゃう。「どこ行くん？」って聞かれても、「ちょっとそこまで。」っていう軽い気持ちで答えればいい。友人同士やったらこんな挨拶交わしてもええけど、生徒が先生に向かってこんな挨拶したらやっぱり失礼にあたる。先生には「Nǐhǎo
你好！」と挨拶した方がいい。

つまり、「Nǐhǎo
你好！」は少しかしこまったニュアンスがある。友人同士で「Nǐhǎo
你好！」とか言うてたら、少しおかしいし、冗談の挨拶か何かと思われてしまう。

慣れてきたら、自分も留学生たちの間で、こんな挨拶を交わしてた。

「Nǐ chīle ma
你 吃 了 吗?」　*ご飯食べた？*

「Wǒ chīle
我 吃了。」　*食べた。*

「Nǐ zài nǎr chīle
你 在 哪儿吃了?」　*どこで食べたん？*

Wǒ zài Hánguó cāntīng chīle
「我 在 韩 国 餐 厅 吃了。」 *韓国レストランで食べてん。*

À Hánguó liàolǐ Wǒ xǐhuān chī Hánguó cài
「啊，韩 国 料 理！我 喜 欢 吃 韩 国 菜。」

あ、韓国料理！私韓国料理めっちゃ好きやねん。

Zhēnde Nàme xiàcì wǒmen yìqǐ qù chība
「真 的！ 那么，下 次 我 们 一起 去 吃吧!」

ほんま!?　ほな、今度私ら一緒に食べに行こや。

追記：

Nǐhǎo
「你好！」の使い方で先生に対して「こんにちは」と言う場合には、Lǎoshī hǎo
「老 师 好！」と言う方が適切。他にも「呼称＋ hǎo
好」で「こんにちは」という言い方がある。

おじさん、こんにちは！＝Shūshu hǎo
叔 叔 好 ！
おばさん、こんにちは！＝Āyí hǎo
阿姨 好 ！

Lǎoshī nínhǎo nín nǐ
「老 师，您 好！」(「您」は「你」の敬称) と言っても構わへんけど、中国人は習慣的にこういう言い方はせんと、「Lǎoshī
老 師 hǎo hǎo
好！」と言う。”呼称＋好”で「こんにちは」やねんから、ほな会社で「部長、こんにちは！」って言うのに「Bùzhǎng hǎo
部 长 好！」って言うんか？　これは言わへん。ほな、「田中さん、こんにちは！」を「Tiánzhōng xiānshēng hǎo
田 中 先 生 好！」って言うんか？　これも言わへ

ん。「Chén bùzhǎng 陈 部 长，nǐhǎo 你好！」と部長には苗字をつけて、また「Tiánzhōng xiānshēng 田 中 先 生，nǐhǎo 你好！」と言う方が自然やろうな。習慣の問題やろう。

ややこしいなぁ……難しいなぁ……と思う。そう、挨拶の言葉、やっぱり国が違えば挨拶の習慣も文化も違う。
だから「Nǐhǎo 你好！」という誰もが知っているこの単語、実は使いこなすのは難しい。

分からん場合は、とりあえず、

1. かしこまった場所では「○○ xiānshēng 先 生 （xiǎojiě 小 姐）、nǐhǎo 你好！」と言う。
2. 友人とは、挨拶でちょっとした会話を交わす。
3. 目上の方には「Nínhǎo 您好！」、同年代の人には「Nǐhǎo 你好！」と言う。

この三つを覚えておいたらいいやろう。

2　初めまして

「こんにちは（你好 Nǐhǎo）」の次は、「初めまして」。これも、失敗とは言わへんけど、最初は私も変な中国語を使ってた。

よく教科書に、「初めまして＝初次见面 Chūcì jiànmiàn」って書いてるけど、あれはウソ。私も初めの頃はよくこの言葉使った。確かにこの訳は正しい。でも中国人はあんまり「初次见面 Chūcì jiànmiàn」とは言わへん。文章で「初次见面 Chūcì jiànmiàn」って書かれてるのはええけど、喋るのはおかしい。私もこの言葉を使って、何度となく、その場が異様な雰囲気に包まれて、相手に黙られてしまう経験した。

ほな「初めまして。」って言いたい時には何て言うたらええねん？ 答えは「你好！ Nǐhǎo」。前項で、「你好！ Nǐhǎo」は少しかしこまったニュアンスがあるって書いたけど、ビジネスでも、出張で初めて訪問した会社では「你好！ Nǐhǎo」って言うたらええ。中国人も「你好！ Nǐhǎo」って言うてる。

「你好！ Nǐhǎo」は、日本語の「初めまして」の代わりにも使われるし、目上の人とかに「こんにちは。」と言いたい時にも使われる。

ああ、あと、教科書（参考書）によく載ってるけど、実際は使わん中国語！

「见到你，很高兴！ Jiàndào nǐ hěn gāoxìng」

あなたにお会いできて、とっても嬉しいですわ。

そんなん、日本語でもあんまり言わへんで。文法的には正しいけど、中国人がそんな中国語使ってるかって言うたら、使わん、使わん……。ま、例えば、海を越えてずっとメル友でもしてた相手で、初めて会ったっていう時には、そんなこと言うかもしれんけどな。（中国人はお世辞でこういうことを言うことは少ない。）

また、ビジネスの話に戻るけど、前まで電話でよく話してて今回初めて顔を合わす人に対しては、「你好（Nǐhǎo）！」以外に、「久仰（Jiǔyǎng）大名（dàmíng）」という言葉も中国人は時々使ってる。意味は、「ああ、あなたがかの有名な、お噂に伺ってた○○さんですかぁ。」というようなニュアンス。これも、使う時には注意せなあかんで。電話のコミュニケーションだけで、かなり仲良くなっている相手と初めて会った時は、冗談っぽく使ってもいい。でも、かしこまって、目上の人と会った時に使うのは、ちょっと失礼になってしまうかもしれんから、雰囲気を見ながら使った方がいいかもしれん。

それから、目上の人に挨拶する場合は、「你好（Nǐhǎo）！」じゃなくて、「您好（Nínhǎo）！」。日本語でも敬語があるように、中国語には「你（nǐ）」の敬称「您（nín）」がある。これは「你（nǐ）=あなた」と同じ意味やけど、目上の人に対して使う。だから、挨拶も「您好（Nínhǎo）！」となる。

3　自己紹介

「初めまして」の後は、必ず自己紹介やろう。自分の名前を相手に伝えなあかん。この時、よく反感を買われてしまうのが、名前を言う時、中国語発音になってしまうこと。私も母親から何度か文句言われた。今の夫と付き合ってた時、夫は私のことを「久米(Jiǔmǐ)」と呼んでた。

「あんたには、“ひろみ”っていう名前があるのに、なんで全然違う発音で呼ばれなあかんの？」

そんなん、しゃーないわ。私らでも、中国人の名前、漢字があるから日本語読みするやん。例えば、鄧小平のことを「トーショーヘイ」って言うけど、中国語では「邓(Dèng)　小(Xiǎo)　平(píng)」って発音する。それと同じことやろう。

名前がひらがなやカタカナの人はどうするんかっていう問題もある。私も名前はひらがなやけど、私の場合、勝手に「寛美」と漢字を作って「久(Jiǔ)　米(mǐ)　寛(Kuān)　美(měi)」とした。芸能人でも、中国に行くと、誰が決めたんかは知らんけど、勝手に漢字がついてる。例えば、

松たか子：松(Sōng)　隆(Lóng)　子(zǐ)

宮沢りえ：宮(Gōng)　沢(zé)　理(Lǐ)　恵(huì)

Yǔduōtián Guāng
宇多田ヒカル：宇多 田 光

と、こういう漢字になってる。だから、名前に漢字がない人は、自分で漢字を作ったらいい。

ちなみに、欧米人が名前を中国語にする時は、日本語やったらカタカナを使ってしまうように、中国語の発音で元の名前の発音に近い漢字を探して、勝手に使ってしまうねん。例えば、「Jack=Jiékè 杰克」「Johnson=Yuēhàn 约翰」「Jenny=Zhēnní 珍妮」とか。ほな、これ分かる？「Lǐānnàdù Díkǎbǐào 里安纳度・迪卡比奥」この漢字、最初に見た時笑ったわ。だって、見ただけやったら、何のことかさっぱり分からんやろ？実はこれ、レオナルド・ディカプリオ。ここまで難しい発音になったら、時々、雑誌によって使ってる当て字（漢字）が違ってることもある。当時、タイタニック「Tàitǎníkè 泰塔尼克」が北京でもすごい流行ってて、色んな雑誌にタイタニック「Tàitǎníkè 泰塔尼克」の記事が載ってた。時々、記事によってはレオナルド・ディカプリオの名前の漢字が違ってたから、誰のことかわからんこともあった。

ほな、ここで自己紹介の練習。

Wǒ xìng Língmù
我 姓 铃木。　　*私は鈴木と言います。*

Wǒ jiào Língmù Huāzǐ
我 叫 铃木花子。　　*私は鈴木花子と言います。*

苗字だけを言う時は「wǒ xìng我 姓」と言う。

フルネームで名前を言う時は「wǒ jiào我 叫」と言う。

そしたら相手に聞く場合はどうか？「あなた」には「nín您」を使う。

Nín guì xìng
您 贵 姓？　*あなたの苗字は？*

Nín jiào shénme míngzi
您 叫 什 么 名 字？　*あなたのお名前は？*

また、もひとつ私が悩んだこと。留学生寮の中で、部屋のドアをノックされた時の「どなたですか？」。「だれ？＝shuí谁 ？」やけど、日本でも、誰か来て「だれ？」って聞いたら失礼やろ？中国でも、絶対丁寧な聞き方があると思っててん。でも、辞書にも載ってないし、どう言うたらええか、ずっと悩んでた。

そしたら、ある日友人（中国人）の家に行ってノックしたら、友人は「Nǎwèi哪位？」って言うた。それで「ああ、これや！」と思った。

留学生寮やったら、他の留学生もみんな「Shuí谁？」って聞いてた。留学生寮の中は、みんな中国語喋ってるから、中国語の聞き取りの練習になるかと思うけど、そうでもないで。だって、みんな中国語を勉強中の外国人やから発音も悪いし、間違った中国語、い

っぱい使ってる。

電話に出たり、門をたたく音があった時には、Nǎwèi
哪位「*どなた？*」とか、Nín shì nǎwèi
您 是 哪位？「*あなたはどなたですか？*」と聞く。これが正しい中国語。

中国で自己紹介をする場合は、日本と同じように名前から言うて、そして後は好きなように自己紹介をする。でも、気をつけなあかんのが、中国人と日本人の感覚の差。中国でも、やっぱり日本と国が近いだけあって、「謙虚なこと」は美徳とされてる。でも、日本人みたいに、あんまり謙虚に自己紹介したらマイナスになることもある。

例えば、中国は日本以上にアメリカナイズされてる部分があって、若者は就職面接とかの自己紹介で、すごい誇張して自分をアピールする。「あいうえお」を知ってるだけで、「私は日本語ができます。」って言い切るし……。

若者が集まるところで、

Wǒ de hànyǔ hái bútài shúliàn
「我 的 汉 语 还 不 太 熟 练 。」

私、中国語があまりできないの。

とは、あまり言わん方がええな。いい印象を持ってもらわれへんかも。

Wǒ huì yìdiǎn hànyǔ Wǒ zhèngzài xuéxí
「我 会 一 点 汉语。我 正 在 学习。」

私、中国語ちょっとできるね～ん。今勉強してるところ。

とか、積極的な自己紹介の方が好まれると思う。

まぁ、慣れるまでは難しいけど、時と場所、相手を見て、自己紹介する内容を考えた方がええと思うよ。

4 「ありがとう」と「すみません」

中国語で「ありがとう」は「Xièxie 谢 谢」と言う。これは中国語を勉強してない人でも知ってるやろう。でも、中国人は日本人のように頭を下げながら「Xièxie 谢 谢」と言わない。ほな、どないして言うか、相手の顔を見ながら「xièxie 谢 谢」と言う。中国人は、日本人がすぐ頭を下げる習慣があるのを知ってるから、別に癖で頭を下げながら言うてもいいけど、中国人はそんなことはせぇへん。

それから、私も初めの頃はよく「Xièxie 谢 谢！」「Xièxie 谢 谢！」って言うてたけど、中国人はあんまり「Xièxie 谢 谢！」って言わへん。言い過ぎると、わざとらしいと思われたりする。ほんまに感謝してるとか、感謝の意を告げなあかん時に「Xièxie 谢 谢！」って言うたらいい。(日本人や欧米人がちょっとしたことで「ありがとう。」"Thank

you!”って言うのとは意味合いが違う。）

そしたら「すみません」はどうか？ 日本語の「すみません」は色んな意味がある。英語で I’m sorry.も Excuse me.も日本語にすると「すみません。」になる。でも、I’m sorry と Excuse me を使い間違えたらすごくおかしい。それと同じで、中国語も日本語の「すみません」にあたる言葉がいくつかある。

Duìbuqǐ
「对不起」

ごめんなさい、と自分のしたことを謝る時に使う。

Bùhǎo yìsi
「不好意思」

相手がしてくれた好意に対して申し訳ないと思う場合、また、これから自分が行おうとしていることに対して、相手に先に断りを入れたい場合に使う。他にも、「ありがたい」に近い意味もある。

「こんなことしてもろて、ありがたいなぁ、おおきに。」というニュアンスを伝えたい時、「Xièxie
谢谢！」を使う代わりに使ってもいい。

Ràng yíxià
「让一下。」

ちょっと譲って下さい、という意味に使う。道を通してほしい時など。

Bàoqiàn
「抱歉。」

duìbuqǐ
「对不起」と同じ意味。「duìbuqǐ
对不起」は口語、「bàoqiàn
抱歉」も口語

やけど、より丁寧なニュアンスがある。日本語にすれば、「对不起(duìbuqǐ)」は「ごめんなさい」、「抱歉(bàoqiàn)」は「申し訳ありません」となるやろう。

この「すみません」をきっちり使い分けへんかったら、中国人との意思疎通がうまくいかへんことがあるからちゃんと覚えておきたいな。

二 授 業

1 初めての授業

あ～、ドキドキする。初めて海外で受ける授業や。朝 8 時から「上课(shàngkè)」（授業を受ける）や。寮から教室まで歩いて 10 分。北京の大学はさすがに広いわ。私が留学した大学は、北京の中でも小規模の学校。それでも端から端まで歩いたら 30 分以上はかかる。大学から出て買出しに行ったりしたら、その往復だけで一時間近くかかるから自転車「自行车(zìxíngchē)」はあった方がいい。でも、結局私は北京では自転車は買わんかった。なんでかって言うたら、色々めんどくさい「麻烦(máfan)」。自転車の盗難防止でいっぱい鍵「钥匙(yàoshi)」はつけなあかんし、品質悪いからタイヤ「轮胎(lúntāi)」の空気、しょっちゅう入れなあかんし、自転車置き場から目的地に行くのに結局いっぱい歩かなあかん。そやから、毎日「宿舍(sùshè)」から「教室(jiàoshì)」まで約 10 分歩いてた。買い物の往復 1 時間も頑張って歩いてた。

開講前、大きな講堂でクラス分けテストがあって、それで私は中級クラスに入ることになった。クラスは初级(chūjí)=1～4 級，中级(zhōngjí)=5～8 級，高级(gāojí)=9～12 級という風に三段階に分けられて、その基準は HSK というテストの結果による。HSK=汉语水平(hànyǔ shǐpíng)

kǎoshì
考 试の略。英語でいうTOEFLみたいなもん。

私のクラスは20名、8カ国の外国人が集まるクラス。中でもやっぱり日本人が多くて、8名は日本人が占めた。他に、韓国、インドネシア、モンゴル、ユーゴスラビア、スイス、アメリカ、ウクライナ。

さて、待ちに待った最初の授業が始まった。私は教室に入るまで、ずっと悩んでたことがあった。それは、出席を取るとき先生に名前を呼ばれたら、どう返事するかっていうこと。日本語では「○○さん」って呼ばれたら「はい！」って答える。「はい！」を直訳すればYesの意味やから、「duì
对」となる。でも変やで。英語でも名前を呼ばれて「Yes!」とは答えへんやん。（ちなみに英語では「Here!」と答える。）ほな、何て答えるねん？

私はこの心配があったから、座席は後ろの方に座っておいた。ほーっ！　よかった！　初めに名前を呼ばれたんは、インドネシア人の女の子やった。彼女は名前を呼ばれたら「Dào
到!」って答えた。そして、次の子も同じように「Dào
到!」。皆が次々に「Dào
到!」と返事をしていったんで、私もまねして「Dào
到!」と答えた。

「dào
到」　つまり、直訳すれば「到着しました。」という意味。

大学で色んな授業を受けたけど、その中でも総合中国語「zōng
综 hé hànyǔ bān zhōngjí bān
合 汉 语 班＝ 中 级 班」は、必須科目でとても厳しい。毎回

授業の最後に宿題「作业(zuòyè)」が出され、授業の度にテスト「考试(kǎoshì)」もあった。

毎回授業の始めは、听写生词(tīngxiě shēngcí) *単語聞き取り* / 听写句子(tīng xiě jùzi) *文章聞き取り*

先生が読む中国語をノートに書いていく。日本みたいに甘い授業とちゃうで。毎週覚えなあかん単語が 100 個は軽く超えてた。多い時は 150 個以上覚えた。

「复习做好了吗?(Fùxí zuò hǎole ma)」 *復習はやってきましたか？*

「作业做好了吗?(Zuòyè zuòhǎole ma)」 *宿題はやってきましたか？*

「好!开始听写生词!(Hǎo Kāishǐ tīngxiě shēngcí)」

よろしい。単語聞き取りを始めます。

「老师!请再读一遍。(Lǎoshī Qǐng zài dú yíbiàn)」

先生！もう一度読んでください。

「好。我读三遍，大家再听两遍。(Hǎo Wǒ dú sānbiàn dàjiā zài tīng liǎngbiàn)」

いいでしょう。三度読みますから、皆さん再度二回聞いてください。

毎回こんな感じで授業中にテスト。先生の言う言葉をちゃんと聞き取らなあかんけど、聞き取りにくかった場合、先生に伝える言葉、ちょっと注意して使わなあかん。

「不听(bùtīng)」 *聞かない。自分から聞こうとしない。*

「听不见(tīngbujiàn)」　*聞こえない*

「听不到(tīngbudào)」　*音などが小さくて聞き取れない（音や声が届かない）*

「听不懂(tīngbudǒng)」　*聞いて分からない。*

よく、日本人が間違うのに、「聞こえない」と言おうとして「聞く=听(tīng)」の否定形やと思って「不听(bùtīng)」って言ってしまう人がおる。あかん、あかん！　それじゃぁ「私、（先生の言うてること）聞かへん。」っていう、まるで反抗してるような意味になってしまう。これは要注意やで。

2　北京語言学院（現北京語言文化大学）

ここでちょっと、私が通ってた大学についてのお話。

北京の大学って聞いたら、大体の人はまず「北京大学」とか「清華大学」を思い浮かべると思う。このふたつの大学は、中国でも名門の名門、北京大学はどちらかっていうたら文系の大学「文科(wénkē dàxué)大学」、清華大学は理系の大学「理科(lǐkē dàxué)大学」。北京大学のキャンパスはとてつもなく広くて、移動には絶対自転車が必要。時々、観光で（北京大学のキャンパスは観光に来るだけの価値はある！）

キャンパスの中をタクシーでまわってる人もおった。そのくらい中は広い。中国チックな池や塔があって、池のまわりでは柳が揺れてて、「ああ～、中国！」って感じがすごくする。校舎とか中国人の寮とか、昔なつかしの中国って感じの建物。（ただし、外から見る分にはええけど、中で住むのは私はイヤやな。）この二つの大学は背中合わせにあって、教師たちが住むマンション（「家属（jiā shǔ）」）は 2001 年頃新しく作られて、広大な敷地に合併して作られてる。

ほな、私が通っていた北京語言文化大学はっていうたら、毛沢東「毛泽东（Máo Zédōng）」が、元々中国人が専門的に外国語を勉強する為に作った大学。中国人はよく略して「北语（Běiyǔ）」って呼んでるけど、大学の正門から毛沢東の筆跡で「北语（Běiyǔ）」って書かれた大きな看板が見えてる。当初は北京語言学院という「学院（xué yuàn）」で、大学よりランクが下に置かれてたけど、私が入学した 1998 年に「北京語言文化大学（Běi jīng yǔyán wénhuà dàxué）」となって大学に昇格した。

今じゃぁ、外国語を学ぶ中国人より、中国語を学ぶ外国人留学生の方が多くなってる。中国人が学ぶ中国語は「国语（guóyǔ）」、外国人が学ぶ中国語は「对外汉语（duìwài hànyǔ）」というけど、北语（Běiyǔ）は对外汉语（duìwài hànyǔ）の権威。前項に述べた HSK の試験内容は、この大学の先生たちが作ってる。それに、中国全国に売られている对外汉语（duìwài hànyǔ）の

教科書も、多くはこの大学の先生たちが編集してる。

私がなんでこの大学を選んだかって言うたら、私はちゃんと下見に行って、6 つの大学を比べてこの大学が一番良いと感じたから。それは留学する半年前、大学の下見の為だけに北京に行った。生活環境、寮、学校の教育システム、カリキュラム、教育設備、教材等々、どれをとっても、北语(Běiyǔ)が一番と私は思った。留学してみて、やっぱりこの大学にして良かったって満足した。この大学は、私にとって 100%以上の満足を与えてくれた。

最近じゃぁ、中国語を学ぶ外国人がかなり増えてて、中国語を喋る外国人芸能人もかなり増えてる。彼らのほとんどは、私が留学したこの大学出身。一番有名な人に、「大 山(Dàshān)」っていうカナダ人がいて、彼の落語はすごい！　私も聞いて分からんくらい。(落語は喋るのが早いし、中国人やないと分からん笑いのツボがあったり、社会的背景を理解してへんかったら分かれへんこととか、とにかく外国人にとっては難度の高い中国語。)彼の中国語は中国人よりうまい。そんな外国人も世の中に送り込んでる北语(Běiyǔ)。

留学の目的は人それぞれやし、魅力を感じる土地っていうのも、人それぞれ。でももし、純粋に、一番標準的できれいで正しい中国語を、できるだけ早く、しっかり身につけたいっていうんやったら、やっぱり北语(Běiyǔ)をお勧めする。上海とか、西安とかも留学生

が多いけど、語学のことだけを考えるんやったら、イマイチかも（人によって考え方は様々。これは私の主観的、個人的な意見、それに人によって土地への愛着も様々、留学目的も様々）。教材も見てたら、上海人が編集した对外汉语（duìwài hànyǔ）の教科書は、中国語の文法とか使ってる単語が、上海語（上海の方言）に基づいた内容になってる。別に、それが間違いとは言わへん。結局「上海語」も「広東語」も「福建語」も全部「中国語」。私ら外国人が勉強するいわゆる「中国語」は、中国どこに行っても通用する「共通語」。「絶対正しい、これやないとあかん」っていう中国語はないけど、ほんまに正式な共通語を学びたいんやったら、共通語は北京語から作られてるから、北京で勉強するのが一番や。北京人が編集した对外汉语（duìwài hànyǔ）の教科書は、一番標準的な共通語になってる。

3　先　生

語言（日本人は、よくこの大学を略して「語言」と呼ぶ）の先生「老师（lǎoshī）」たちは、すごく熱心。それに、北方人（běifāngrén）的な暖かさ、大らかさも加わって、どのクラスのほんまにええ老师（lǎoshī）ばっかりやった。

一番お世話になったのは中级汉语（综合汉语）の老师で、クラスの担任も兼ねてた。学校からの連絡とかがあると、いつも中级汉语の老师から通達があった。

老师たちのすごいところはいっぱいある。まず、私ら留学生「留学生」が喋る下手くそな中国語でも理解してくれること。ここは中国､色んな国の人が集まって喋る共通語は英語やなくて、もちろん中国語。目の青いも黒いも灰色も、どんな人もみんな中国語を喋る。留学生たちは自分の母国語のなまりを持って中国語を喋ってるから、発音はムチャクチャやし、文法かって間違うことが多々ある。

例えば私の経験で､留学生6人と中国人学生1人で喋ってた時、ウクライナ出身の子が喋った中国語をその中国人学生が理解できへんかった。だから、私ら留学生がその中国人に中国語でもう一度説明したこともあった。留学生同士の間やったら通用する中国語も、実際、中国人が聞いたら分からんっていうことがたまにあった。でも、老师たちは、留学生が喋った中国語で、留学生同士が聞いて分からん時でも、ちゃんと理解してくれた。

また、老师たちの話す中国語は、ごっついきれい。私ら日本人でも、正しい発音、イントネーションで正しい文法の日本語を話しているのは､ニュースのアナウンサー「主持人」くらい。

中国でも同じで、外に一歩出たら、一般の中国人は北京語なまりがきつくて、ごっつい聞き取りにくいこともある。でも、大学の老师(lǎoshī)たちはいつも分かりやすいきれいな中国語を話してくれた。

そんな語言の老师(lǎoshī)たちは、「对外汉语(duìwài hànyǔ)」（外国人が学ぶ中国語）の権威。海外に派遣されて、海外で何年間か中国語を教えて帰国したという老师(lǎoshī)もたくさんおった。外国人との交流も多いし、海外生活を経験した人もおったから、考え方が先進的な老师(lǎoshī)にも会えた。

三　買い物

1　自由市場にて

留学生活の中で、学校に通うよりも先にぶち当たる壁、それが「買い物」「mǎidōngxi 买 东 西」。まず、言葉は聞いて分からんし、自分もほとんどちゃんと喋られへんし、何とか喋れたとしても、今度は相手が自分の中国語を理解してくれへん（発音が悪い、もしくは間違ってる)。値段がはっきり分かってて、定価で販売してるスーパー(「chāoshì 超 市」)とかコンビニ(「xiǎochāoshì 小 超 市」/「biànlìdiàn 便 利 店」)やったら日本と同じで、買いたい物を籠に入れて、レジで無言で買ったらいい。でも､野菜とか肉を売っている自由市場やったら、絶対に屋台のおじさん、おばさんと話しせな買われへん。

ま、折角中国に来たからには、下手クソでも何でも中国語使って買い物をしてみたいよな。まず最初に使う言葉はこれ。

「いくらですか？」＝「Duōshǎoqián 多 少 钱 ?」

これは一番重要。買い物はまず、この言葉から始まる。でも、自由市場やったら、まずこう聞くのが普通。

「Duōshǎo qián yìjīn 多 少 钱 一 斤 ?」……*一斤(500g)はなんぼ？*

「Zěnme mài 怎 么 卖?」……*どう売るねん？*（つまり一斤あたりはいくらかと聞いている。）

なんでこんな聞き方するねん、と思うわな。市場は、野菜でも肉でも魚でも何でも全部量り売り。500g=一斤あたりの値段が決まっているから、自分が買いたい量をつかんで「こんだけいくら？」って聞いても、安く売られてるんか高く売られてるんか分からへん。まず、500g あたりの値段を聞いて、その値段に納得したら、自分が買いたいだけの量を掴んで、それが何 g あるかを測ってもらう。そしたら値段が出てくる。

Lǎobǎn Jīntiān qiézi zěnme mài
「老 板! 今 天 茄 子 怎 么 卖?」

社長！ 今日おなすいくら？

↑中国では、店主のことをよくこう呼ぶ。

À Jīntiān sānkuàiqián yìjīn
「啊, 今 天 三 块 钱 一 斤。」 *ああ、今日は 500g3 元や。*

Á Zhème guì Zuótiān hái liǎngkuàiwǔ ne
「啊!? 这 么 贵! 昨 天 还 两 块 五 呢!」

ええ？ そんな高いん！ 昨日は 2 元 5 角やったやんかー！

Tiān bùhǎo le suǒyǐ zhǎngjià le
「天 不 好 了, 所 以 涨 价 了。」

天候が悪くなってきたからな、そやから値上がりしたんや。

Nà wǒ bù mǎi le
「那, 我 不 买 了。」 *ほな、買わへんわ。*

À Děngyiděng Hǎole hǎole zhīdào le hé zuótiān yíyàng hǎo le liǎngkuàiwǔ ba
「啊, 等 一 等。好了,好了,知 道 了,和 昨 天 一 样 好 了, 两 块 五 吧!」

ああ、待って待って。分かったってぇ、昨日と同じでええわ、2 元 5 角や。

市場に行ったら、中国人はよくこんなやり取りしてる。つまり値切り交渉や。最近では市場の真ん中に電光掲示板があって、各食物の 500g あたりの定価が表示されてることが多い。でも、定価が表示されてても中国人はやっぱり値切ることを忘れへん。特に上海近辺の中国人はすごい。どこに行っても、物凄い値切り交渉バトルが繰り広げられてる。(北京人は、あまりしつこく値切らない。)

まず、外国人は見たらすぐ分かる(日本人も見たらすぐ分かる)から、高く売りつける。特に日本人に対しては高く売りつける。これ、中国の商売人の鉄則。そしたら、どうやったら安く買うことができるんか?手っ取り早いんは、他の人が買ってるのを横で聞いておく。その屋台で 2,3 人の人が買っているのを聞いてたら分かるけど、どの人も同じ値段で買っているとは限らない。一番安い値段を聞き取ったら、何くわぬ顔してその屋台に行く。「社長!これなんぼ?」と聞いて、高い値段を言われたら、

Á Gāngcái nǐ búshì mài gěi tā liǎngkuàiwǔ ma
「啊? 刚 才 你不是 卖 给 他 两 块 五嘛?」

ええ? さっきあんた2元5角で売ってたやんかー!

と言ってやる。ここまで言えるようになったら中国通!ま、隣で喋ってる中国人同士の会話が聞き取れるようになるまで、少し訓練は必要やと思うけど……。

あと、気をつけておきたいのが、中国貨幣の単位。話し言葉と書き言葉は違う。

元(yuán)：書き言葉　＝　块(kuài)：話し言葉

角(jiǎo)：書き言葉　＝　毛(máo)：話し言葉

分(fēn)：書き言葉　＝　分(fēn)：話し言葉

↑この単位は、今ではほとんど使われない。

2　自由市場で肉・魚を買う

中国で肉と魚を買うのは大変や。まず基本的に鶏や魚類は生きたまま売ってる。選んだら殺してもらわなあかん（もちろん、牛とか豚は大きいから生きてないけど、肉の塊で売ってる)。日本人にとっては受け入れがたい買い物や。鳥籠に入ってる鶏を選んで、5 分後に裸になった鶏を袋に入れてもらう。これがさっきまで生きてた鶏かと思うと……かなり怖い……。一羽丸ごと持って帰っても、普通の日本人は調理できへんやろうし。豚肉屋でも、豚の脚とか豚の耳とか、そのままの形で並んでる。初めて見た人にはすごい光景やと思う。

ほな、それらをどうやって買うか。基本はやっぱり「一斤(yìjīn)」

=500g あたり買うこと。日本人の感覚で「200g 頂戴。」とか、グラム単位で言いたくなるけど、中国では必ず「斤」の単位で買わんとあかん。200g ほしいんやったら 250g にして、
Gěi wǒ bànjīn
「给 我 半 斤」(250g 頂戴) と言えばいい。

『豚肉、牛肉、羊肉の買い方』

1. 値段交渉「huánjià 还 价」
2. 買う量を告げる、斤単位で言うこと
   Gàosu yào mǎi duōshǎo
   「告 诉 要 买 多 少」
3. 店主が肉の塊を切って、秤で重さを量ってくれる。
4. 肉の塊を持って帰って、自分で切るのは大変。ここで切ってもらう。
   Bāng wǒ qiēchéng kuài
   「帮 我 切 成 块 。」 *サイコロに切って頂戴。*

これが一番便利。

Bāng wǒ qiēchéng piàn
「帮 我 切 成 片 。」 *スライスして。*

普通、肉は生で売ってるから、スライスしてもらおうと思ってもできへん。日本人が想像する「肉のスライス」がほしいんやったら冷凍物しかない。無理やりスライスしてもらったら、焼肉みたいなスライスになる。それも厚さはバラバラ。

Bāng wǒ zuòchéng ròujiàng
「帮 我 做 成 肉 酱 。」 *ミンチにして。*

これもあんまりお勧めできへん。自由市場は外にあって、ミンチにする機械にはいっつもハエがたかってる。どうしてもミンチが必要な場合は、自分でミンチを作るか、市場でミンチにしてもらったら、持って帰ってからそのミンチを水でよく洗うこと。

Néngbunéng bāng wǒ nádiào féiròu
「能不能　帮　我拿　掉　肥肉？」

脂肪取ってくれへん？

上海近辺の中国人は豚肉の脂肪が大好き（2,3 時間煮込んで脂肪分を抜くと、コラーゲンだけが残って美容にいい）。豚肉にはたっぷり脂肪がついてることが多い。嫌いな人は先に取ってもらったらいい。

『鶏肉の買い方』

1. 値段交渉「huánjià
还　价」

2. 買う鶏を選ぶ。

Wǒ yào mǎi zhègè　zhèzhījī
「我　要　买　这个（这只鸡）。」

この鶏買うわ（鶏の量詞は「zhī
只」）。

3. 店主が鶏の重さを量ってくれるので、その分の代金を支払う。店主は、何分後くらいに取りに来てくれと言い、その間に店の裏で処理をする。

4. 後から受け取りに行く。（毛を剥いで、内臓を取り出して、洗

ったらすぐ調理できるようにして袋に入ってるでも、一羽の鶏、そのままの形。)

『魚の買い方』

1. 値段交渉「还价(huánjià)」

2. 買う魚を選ぶ。
「我要买这条(Wǒ yào mǎi zhètiáo)。」 *これ買うわ。*(魚の量詞は「条(tiáo)」)

3. 店主が魚の重さを量ってくれる。

4. 処理してもらう。うろこ「鱼鳞(yúlín)」や腸「内脏(nèizàng)」を取ってもらう。何も言わなくてもやってくれる。でも、たまに卵を持った魚で、その卵はおいしいから特に気をつけてその卵を残しておいてほしい場合、
「帮我留着鱼仔吧(Bāng wǒ liúzhe yúzǐ ba)。」 *魚の卵、残しといてや*
と言っておいてもいい。

5. 袋に入れてくれる。代金を渡して魚を受け取る。元気な魚は、処理された後でも元気に飛び跳ねてる。

中国語で「～して下さい。」は、「请(qǐng)～」やけど、市場で買い物する時、店主に「请(qǐng)～」をつけて言う必要はない。日本語に訳すと正しい中国語でも、市場で「请给我一斤(Qǐng gěi wǒ yìjīn)。*(一斤下*

さい。)」なんて言ってる中国人はまずおらへん。「qǐng请～」はつけんと、ぶっきらぼうに言えばいい。その方が自然でいい。

でも、ちょっと面倒くさいお願いをする時は、「qǐng请～」をつけたり「néngbunéng能不能～?」と言ったりすると感じがいい。(例えば脂肪を取り除いてくれとか……)

あと、一番注意せなあかんのは、持って帰って調理する前、肉でも魚でも蝦でも何でも、絶対によく洗ってから調理すること。これは忘れんように。

3　友人に助けられて

前項で自由市場での買い物のテクニックについて述べた。でも、私も中国へ行った当初からこんなテクニックを身につけていたわけとちゃう。このテクニックは、五年間中国に住んでいる間に身につけたもの。特に、蘇州へ来て、今の夫とデートといえば自由市場とかに行っていたから、買い物に関する様々なテクニックは夫から学んだと言ってもいい。

北京に着いた当初、身の回りの物を揃えるのに買出しに行かなあかん。どこで、どんな物が売っているのか、どこで買うのが一

番安くて一番いい物が買えるか、行ったばかりやから何も分からん。友人「朋友(péngyou)」はいつも一緒に着いて行ってくれて、助けてくれた。まだまだカンカン照りの暑い日差しの中、自転車で二人乗りしてあちこち買いに行った。

日本で買い物するのは楽や。車で運転して行って、いっぱい買った物車に乗せて持って帰れる。でも、北京で買い物したら、車はないから歩くか自転車しかない。別にタクシー「出租车(chūzūchē)」使ってもええけど（北京では初乗り十元、10km まで十元）、私の留学生活は超貧乏やったから、タクシーに乗る「打的(dǎdī)」金銭的余裕はなかった。（ちなみに、中国語で「タクシー」は「出租车(chūzūchē)」、「タクシーに乗る」は「打的(dǎdī)」。広東語でタクシーのことを「的士(dīshì)」と書くところから「打的(dǎdī)」と言われるようになった。）

ごっつい大きいプラスチックの棚を買った時は、一人は棚を自転車に括り付けてヨタヨタしながら押して歩き、一人は紐で縛った棚を持って歩いた。暑い日差しの中、一時間掛けて歩いて持って帰った。日本で買い物して一時間かけて歩いて帰る人はおらんやろう。中国に行っても、もしかしたら、私みたいな人はほとんどおらんかったかもしれん。でも私は、それを辛いとか、苦労してると思ったことはなかった。もちろん、しんどかったけど、でも新しい生活、大好きな北京での生活が始まるっていうだけでウ

キウキしてた。

「朋友（péngyou）」は生粋の北京人。一緒に買い物行ってくれたけど、朋友（péngyou）と老板（lǎobǎn）が何を喋ってるんか、当時の私はまったく分からんかった。特に男性が喋る北京語は、ものすごい巻き舌で、喋るのも超早い。私は横で人形のようにボォーッと突っ立ってるだけやった。

中国で「朋友（péngyou）」と言うと、その関係は日本人の友人関係より深い感じがする。朋友（péngyou）というだけで、できる限り助けてくれる。日本やったら友人の家に行く前、普通先に電話で約束をする。でも、中国やったら、いきなり友人宅「朋友家（péngyou jiā）」を訪ねたりすることがある。もちろん、これはかなり親しい場合。先に連絡することなく、人の家を訪ねることを指して、「串门（chuànmén）」と言うけど、私も北京ではよく朋友家（péngyou jiā）を「串门（chuànmén）」した。

最初から一人で買い物に苦労するのもええけど、友人に助けてもらえるほど心強いこともない。

4　留学生たちの買い物

私の場合最初の買出しは朋友(péngyou)についてきてもらったけど、ほとんどの留学生は自分で買出しに乗り出していってた。

今はもう、北京ではどこに行ってもほとんど無くなってしまったと思うけど、私が留学してた頃は、雑貨から電気製品、家具など何から何まで売っている自由市場が学校の近くにあった。最初の買出しで、みんなそこに行って値切り交渉「讨价还价(tǎojià huánjià) / 砍价(kǎnjià)」を楽しむ。そして買出しから帰ってくると、寮の中では友達同士で話しが盛り上がる。

「这个书架在哪儿买的(Zhège shūjià zài nǎr mǎi de)?」

この本棚どこで買ったん？

「我在五道口买的(Wǒ zài Wǔdàokǒu mǎi de)。」　*五道口で買ってん。*

「多少钱(Duōshǎo qián)？」　*いくらやった？*

「二十五块(Èrshiwǔ kuài)。老板的开口价是七十五块(Lǎobǎn de kāikǒujià shì qīshiwǔ kuài)，我还到二十五了(wǒ huándào èrshiwǔ le)。」

二十五元。店長の最初の言い値が七十五元やったんを二十五元まで値切ってん。

「啊(A)，你很会买东西的(Nǐ hěnhuì mǎi dōngxi de)。」

わぁ、あんたほんまに買い物うまいなぁ！

留学生たちは、友達が何か買い物をしてくると、必ず「多少钱？」と値段を聞く。これで、市場価格を確認する。

すぐに気付いたんやけど、中国人たちは、日本人や韓国人にはあんまり値段を下げへん。欧米人や他のアジア人にはよくまけてる。これは、中国人の日本人に対する民族的な感情もあるやろう。他の理由には、彼ら留学生は讨价还价のくどき文句を持ってた。（以下は、留学生らしく、下手くそな中国語にしてある。）

「我没有钱。我的钱不多。我很穷。」

ワタシお金なぁ〜い。ワタシのお金少ないヨ、貧乏ヨ。

「我的钱都要用在学费上。请再便宜一点，好吗？」

ワタシのお金、全部学費に使うヨ、安くシテ、イイ？

こう言って、店長たちの同情心を利用する。でも、こんなセリフ、日本人が言うても中国人たちは信じへんかったと思う。今でこそ、中国人も日本人以上にお金持ちになってきているけど、私が留学していた頃は、まだやっぱり、日本人の方が一般的にお金を持ってた。中国人にも「日本人是有钱的。（日本人は金持ちだ。）」という概念があった。だから、買い物に行って、このくどき文句はとても使われへんかった。でも実際は、私の留学生活は物凄い貧乏生活で、毎日一元一元を勘定して節約しながら

生活していたほどやった。

それで、私は讨价还价(tǎojià huánjià)が必要なところにはあまり行かんかった。他の友人より高く買わされてしまうのも悔しかったし、そういう場所に良品は少なくて、スーパーとかだとまだ品質にも安心できたから。私が讨价还价(tǎojià huánjià)に磨きをかけていくのは、蘇州へ行ってから。特に、今の夫と出会って、中国人の技を学んでから。それについては、また後から書くことにしよう。

5　デパートにて

留学当時、北京の百貨店というとほとんどが国営やった。その入り口には、必ずゴム製の透明な暖簾がかかってて、私はそれがどうも気に入らんかった。最近のきれいな百貨店（上海市内とか北京の外資系百貨店など）には見られへんようになったけどな。

暖簾を掛ける理由は、私の推測では、外は砂埃、埃、ゴミがいっぱい、それが店内に入らんようにしてるんやと思う。確かに北京やったら、黄砂の季節はすごい砂嵐。五月頃になると、今度は柳樹の綿帽子が街中に溢れかえって、ふわふわ浮いてる。もし、暖簾がなかったら、それらが店内に入って大変なことになると思

う。

でも、私はいつも、そのゴム製の暖簾を外してほしいと思ってた。その訳は、まず不衛生やと思う。デパートに入る人全員が暖簾を触るわけやから、暖簾は汚なくなってるやろう。でも、その暖簾を押しのけんとデパートには入って行かれへん。次に、前の人が入って行った後に続いて入る時、その重いゴム製の暖簾が落ちてきて、顔にバッシーンと当たりそうになる。バッシーンと当たりかける重い暖簾を、自分の顔や体に当たらんように受け止めなあかん。これはちょっと不便や。

その他に、初めの頃戸惑ったことがある。それは、代金の払い方。中国のデパートでは、代金の払い方が日本と違う。気に入った物を買うと決めたら、店員「售货员(shòuhuòyuán)」に買うことを伝える。すると、小姐(xiǎojiě)は三枚一綴りになった受取書「收据(shōujù)」を発行する（これを「发票(fāpiào)」=領収書と呼ぶ人もおるけど、会社とかの精算には使われへんから、「收据(shōujù)」と呼ぶ方がいいと思う)。それを持って別の場所にあるレジ「收银台(shōuyíntái)」に行って、そこでお金を払う。收银台の小姐(xiǎojiě)はお金を受け取ると、その收据(shōujù)一枚一枚にバン、バン、バンとハンコを押して、一枚引き抜き、残り二枚を返してくれる。その返してもらった二枚を持って元のお店に戻り、小姐(xiǎojiě)に收据(shōujù)を渡すと、商品と本人控えの收据(shōujù)

一枚を返してくれる。

中国のデパートに行って注意すること。

その一。shōuyíntái 收 银 台でよく xiǎojiě 小 姐 に聞かれることがある。

「Yǒuméiyǒu língqián 有 没 有 零 钱？」 *細かいお金ない？*

これはデパートに限らず、どこでもよく聞かれるフレーズ。細かいお金がきれて、おつりが渡せなくなるから、中国では小銭をいつも持ち歩いていた方がいい。

その二。デパートで「huánjià 还 价」(値切り交渉) はしないこと。

その三。服や靴などを買う時は、必ず試着すること。そして、品質の良し悪しを確認すること。必ず試着もしよう。

特に縫い目など細かいところをチェックする。デパートといえど、品質に絶対的なものはない。

「Néngbùnéng shìchuān 能 不 能 试 穿 ？」 *試着してもいい？*

6 観光地にて

北京にはたくさんの観光地がある。観光は留学の楽しみのひとつでもある。北京やったら、まず行きたいところに Tiān'ānmén Gùgōng 天 安门，故 宫，Yíhéyuán 颐和 园，Tiāntán gōngyuán 天 坛 公 园，Wànlǐ chángchéng 万里 长 城，Shísānlíng 十 三 陵，

Yuánmíngyuán
圓 明 園 などがある。どこに行っても、まずその規模の大きさに驚く。テレビのニュースでよく天安門広場が映っているけど、実際に行ってみたら、テレビで見てた大きさ（イメージ）とは比べ物にならん。そのスケールの大きさには圧倒される。

さて、観光地には出店がつき物。……やけど、観光地では買い物をせぇへんことや。これが鉄則。日本でもそうやけど、観光地の物は普通のお店で買うより高い。中国の観光地やったら、たまに十倍くらいの値段で売りつけられることもあるし、まずいい物はないと思っておいた方がいい。

Wànlǐ chángchéng
万 里 长 城 に行ったら、すごい行商人がおる。毎日あの急勾配を上り下りしてるタフな行商人たち。絵葉書を売っている行商人はすごくしつこい。どこまでも着いてくる。日本人を見たら「イチマァイ、ニマァイ、サンマァイ……」と、絵葉書をくりながら十枚まで日本語で数える。「十枚百元！安いよ！」と日本語で喋りかけてくる。百元って、日本円で千三百円やんか！そりゃ日本で売ってる絵葉書より高いって。「高い、高い」と日本語で言ってやると、「じゃ、五十元！」といきなり半額になる。でも、ここで買う必要はない。街では安いと四元くらいで絵葉書のセットが売られている。

日本人の友人と頤和 Yíhéyuán 園 に行った時のこと。ある行商人が近づ

いてきて友人に中国語でペラペラ喋りかけてきた。その友人は中国語はチンプンカンプン（「听不懂，看不懂 tīngbudǒng kànbudǒng = 聞いても見ても分からない」が語源）。友人はその行商人に着いていきそうになった。私は焦って、「ちょっと、ついて行ったらあかんで。」と友人を呼び戻した。何とその行商人、

「要不要去青岛？ Yàobuyào qù Qīngdǎo」 *青島へ行きませんかぁ？*

と聞いてたんや。後から友人が、

「何て言うてたん？」と聞いてきた。

「あんた、青島行かへんかって誘われててんで。」

「へぇ……青島ってどこにあるん？」

「北京から飛行機で一時間半くらいのところ。」

「えぇ～！もし着いていってたら、青島まで連れて行かれてたんかー！」

中国の観光地には、思いもつかないものが売られている。皆さん、観光地で物は買わないようにしよう。

四　寮生活

1　ルームメイト

留学。そこは海外。異文化に触れる絶好のチャンス。一番身近に感じられる異文化、それはルームメイト「同屋(tóngwū)」との共同生活やろう。

私は、折角留学したんやから同屋(tóngwū)は日本人やない方が良かった。部屋の中でも中国語を喋る環境を自分に強制したかったから。でも人によっては、同屋(tóngwū)は生活習慣が似てる同じ国の人がいいっていう人もおる。

私の同屋(tóngwū)は十七歳のインドネシア人やった。当時、インドネシア情勢が緊迫していたから、非難目的も含めて、多くの華僑インドネシア人が子供を中国に送って語学留学させてた。

インドネシア人がみんなそうやないと思うけど、彼女はむっちゃだらしない生活習慣を持ってた。食べた皿は何日も机の上に置いて洗わへん。いつも一週間は待ってやる。一週間過ぎて皿洗わん時は、

「珊妮(Shānní)，洗碗(xǐwǎn)吧(ba)。」　サニー、*皿洗いやー*。

と声を掛けた。洗面所にはまた、樽の水に漬けたままの服がある。三週間待っても洗わんかった時、

Shānní nǐ shénme shíhòu xǐ yīfu ya
「珊妮，你什么时候洗衣服呀！」

サニー、あんたいつ服洗うねん！

こう言うと、とっとと濡れて臭くなってきた服を片付けてた。

今度はトイレの水の流し忘れ。一回、う〇この流し忘れもあった。

Nǐ jīntiān xǐshǒujiān de shuǐ méi chōng gānjìng Xiàcì
「你今天洗手间的水没冲干净。下次
zhùyì yíxià
注意一下。」

あんた今日お手洗いの水流してなかったで。次から注意してや。

この時はさすがにムカッってきてたからきつめに言うた。今度は、テスト前になっても勉強せんとテレビばっかり見てる。夜中十二時過ぎるまでテレビを見てる。

Zánmen kuàiyào kǎoshì le Nǐ yàobuyào zhǔnbèi ne
「咱们快要考试了。你要不要准备呢？」

私らもうすぐテストやで。あんた準備せんでええの？

Ā
「啊,,,」 *ああ……*

Nàme bùhǎoyìsi néngbunéng diànshì de shēngyīn zài xiǎo
「那么，不好意思，能不能电视的声音再小
yìdiǎnr Wǒ zài xuéxí ne
一点儿？我在学习呢。」

ほな、ちょっと悪いけど、テレビの音もうちょっと小さくできへん？ 私勉強してるねん。

もちろん掃除も毎回私がやってた。

Měicì zhǐyǒu wǒ dǎsǎo fángjiān nǐ yě dǎsǎo yíxià ba
「每次只有我打扫房间，你也打扫一下吧。」

毎回私が部屋の掃除やってるやん。あんたもちょっと掃除しい

や。

これはいつも無視された。一緒に住んでた間、たったの一回だけ彼女が掃除してるのを見たことがあった。それは、彼女の母親が視察に来る前日やった。

彼女の母親が来た時も驚いた。母親とお姉さんがやってくると、一応私には挨拶してくれた。

「うちの子は一番下で甘えて育ってるから、ちゃんとしつけしてやって下さい。」

挨拶してくれるのはいいけど、なんで私が彼女をしつけなあかんねん。

「しつけなら自分でやってくれ。私は今、ほんまに困ってるねん。」と思った。母親たちは、そう言って私に挨拶した後、洗面所を一時間も占領した。いきなり寮の部屋を視察に来たかと思うと、人の部屋でシャワーを浴びだした。驚いた。私に何の断りもない……。

私がうるさい性格なんやろうか、それとも、私は正常で彼女がだらしないだけやったんやろうか。私の我慢は四ヶ月が限界やった。異文化圏の人との共同生活はやっぱり大変やった。

2　小姐(xiǎojiě)と瓜子(guāzǐ)

寮の中には数人の小姐(xiǎojiě)がおる。中国では女性の服務員(店員)のことを「小姐(xiǎojiě)」と呼ぶ。元々は、「○○さん」という呼称。文革時代は毛泽东(MáoZédōng)が使ってた「同志(tóngzhì)」が男女両方の呼称として使われてた。文革後は、男性は「○○先生(xiānshēng)」、女性は「○○小姐(xiǎojiě)」と呼ばれるようになって、お店の店員を呼ぶ時には「先生(xiānshēng)」「小姐(xiǎojiě)」と呼びかけるようになった。今でも「同志(tóngzhì)」を使うのは、共产党系(gòngchǎndǎng)のニュース「新闻(xīnwén)」と江泽民(Jiāng Zémín)くらい。時々若者たちが使うのは、あれは冗談「开玩笑(kāi wánxiào)」。

寮の中の小姐(xiǎojiě)は、ゴミを集め「收垃圾(shōu lājī)」に来たり、ベッドのシーツを交換「换床单(huàn chuángdān)」してくれたり、毎日留学生の世話をしてくれる。彼女たちとの交流も楽しかった。

一番楽しかったのは、中秋の名月「中秋节(zhōngqiūjié)」でのこと。中国では「中秋节(zhōngqiūjié)」を盛大に祝う習慣がある。月が丸いことから、家族団らんを過ごす慣し。留学生は家族と離れて中国に来てるから、留学生たちで中秋节(zhōngqiūjié)を祝おうと、寮長「班长(bānzhǎng)」や小姐(xiǎojiě)たちが楽しい催しを企画してくれた。

満月の下、寮前のバスケットボール広場で、輪になって座り留

学生が一人ずつ自国の歌を歌ったり、中国の歌を歌ったり、ハンカチ落としをしたりして遊んだ。各寮ごとに輪が作られて、ろうそくも灯された。

そこで私はある初体験をした。ひまわりの種とスイカの種や。中国では種、食べるねん！あー、こりゃ驚いたで。それまで種食べるのはリス、モルモット、ハムスターくらいやと思ってた。中国人はリスと同じように、種の中にある実食べる。それもすごいことに、種の皮を剥くのに手は使わん。全部口だけで実を食べてしまう。親指と人差し指で種をつまんで口に持っていって、歯で皮をパリッと割った後、舌を使って実を食べてしまう。残った皮はペッと吐き出す。手は汚れへん。すごい・・・。（食べた後の地面もすごいことになってる。）

小姐（xiǎojiě）は私に食べ方を教えてくれた。でも、どないやっても食べられへん。（ひまわりの種は食べれるようになったけど、スイカの種だけは未だによー食べへん。スイカの種は平たいし硬いから、食べるの難しい。）それに、種なんか食べて何がおいしいんやろう、と思った。でも、慣れてくるとこれがおいしい。皮には味がついてて（甘いのもしょっぱいのも色々ある）、皮も口の中に入れるとその味も楽しめる。種「瓜子（guāzǐ）」は食べ慣れると「やめられない、止まらない」で、いっぱい食べてしまう。中国人は、お酒やお茶

のつまみによく食べる。

大抵の外国人は「瓜子(guāzǐ)」が食べられへん。でも、留学生活が長い学生は中国人と同じように食べてた。そして、いつの間にか私も中国人と同じように「瓜子(guāzǐ)」を食べるようになっていた。

3　テレビ

寮生活でかなりお世話になったんがテレビ「电视(diànshì)」。中国のテレビは字幕つきの番組が多いから、新しい単語を覚えたり聞き取りの練習ができたり、すごい便利やった。

中国では多くの日本の番組が吹替え「配音(pèiyīn)」されて放送されてる。私が一番お気に入りやったのが「ちびまる子」。中国語で「ちびまる子」は「樱桃小丸子(Yīngtáo Xiǎowánzǐ)」という。「樱桃=さくら/小=チビ/丸子=まる子」。中国語に吹替えされてるけど、中国の声優たちは、日本の声優にならってそれぞれ特徴のある声で喋ってた。他には、すごい昔の宮沢りえのドラマとか、ドラエモンとか。

中国人で有名な日本の芸能人。

第一位、山口百恵「山口百惠(Shānkǒu Bǎihuì)」

今一番有名なんは、酒井法子「酒井法子(Jiǔjǐng Fǎzi)」

（それでも山口百恵の地位は不動かな？若者にとっての一位はのりぴーで、40歳以上の人たちにとっての一位は百恵ちゃん……っていうのが適切かも。）

第二位、高倉健「Gāocāng Jiàn 高 仓 健」

第三位、谷村信司「Gǔcūn Xìnsī 谷 村 信 司」

昔の人が結構有名。中国で有名な最近の芸能人は、

木村拓哉「Mùcūn Tuòzāi 木 村 拓 哉」

反町隆司「Fǎndīng Lóngsī 反 町 隆 司」

松島菜々子「Sōngdǎo Càicàizǐ 松 岛 菜 菜 子」

常盤貴子「Chángpán Guìzǐ 常 盤 贵 子」

松たか子「Sōng Lóngzi 松 隆 子」

宮沢りえ「Gōngzé Lǐhuì 宫 泽 理 惠」

広末涼子「Guǎngmò Liángzi 广 末 凉 子」

宇多田ヒカル「Yǔduōtián Guāng 宇 多 田 光」

浜崎あゆみ「Bīngqí Bù 兵 崎 步」

中国の若者と話しをしていると、日本の芸能人の話が出ることがよくある。すごい若いのに、いつの時代の話してるんや、と思うこともある。

「Nǐ kànguò "ZīSānsìláng" ma 你 看 过 "姿 三 四 郎" 吗？」

あんた"姿三四郎（映画）"見たことある？

何、それ。そんな映画あったん？ 私がまだ生まれる前やんか。

Gāocāng Jiàn hěnkù de
「高 仓 健 很酷的!」

高倉健ってクールでかっこいいよなー。

今はもうおじいちゃんやで。

Shānkǒu Bǎihuì hé Sānpǔ Yǒuhé yìqǐ pāi diànyǐng yǐhòu jiéhūn de
「山 口 百 惠 和三 浦 友 和一 起 拍 电 影 以 后 结 婚 的。」

山口百恵と三浦友和は一緒に映画撮影して結婚したんや。

その通りやけど、もう三十年くらい前の話とちゃうの？ ちなみに彼らはその映画の題名まで知っている。

Tāmen pāi de diànyǐng jiào Xuèyí. Rìyǔ de huà zěnme shuō ne
「他 们 拍 的 电 影 叫 “血疑”。日语 的 话 怎 么 说 呢？」

彼らが撮影した映画は「血疑」って言うねんな。日本語では何て言うん？

そんなん知らん。昔すぎて見たことない。

二十代の若者のくせに、30 年くらい前の日本の芸能界の話をする。もちろん最近のことにも詳しい。

Mùcūn Tuòzāi hé Gōngténg Jìngxiāng jiéhūn, yǐjīng yǒu liǎnggè háizi le
「木 村 拓 哉 和 工 藤 静 香 结 婚，已 经 有 两 个 孩 子 了。」

木村拓哉と工藤静香が結婚して、既に二人の子供がおるんや。

Fǎndīng Lóngsī hé Sōngdǎo Càicàizǐ jiéhūn, kuài yào
「反 町 隆 司 和 松 岛 菜 菜 子 结 婚，快 要

shēng háizi le
生　孩 子 了。」

反町隆司と松島菜々子が結婚して、もうすぐ子供が生まれるねんで。

つまり、中国の若者は日本に興味があるんやと思う。同じアジアで、なんで日本だけがあんなに発展したんか、っていう疑問もあると思う。中国では日本の音楽もテレビやラジオで流れてるし、最近やったら韓国のも流行ってる。アニメやったら、日本以外にアメリカのもpèiyīn配 音して放映されてる。でも留学当時は、私は中国語がほとんどできへんかったから、背景を理解してる日本のドラマやアニメの吹替え版を見ることがほとんどやった。

4　電　話

当時、寮の部屋に電話は付いてなかった。携帯電話「shǒujī手 机」も持ってなかった。

今の中国、猫も杓子も「shǒujī手 机」は持ってる。出稼ぎ労働者でさえ持ってる。もちろん留学当時も「shǒujī手 机」は売ってたけど、ムチャクチャ高かった。日本ではもう淘汰されて見ることさえないような古い機種しかなくて、それも値段は千四百元（二万円近

く）もしてた。そんな値打ちもない高い代物、まず買う人はおらんかった。

ほな、どないしてたんかっていうたら、公衆電話「gōngyòng 公 用 diànhuà 电 话」を使ってた。大抵電話の横にはおばちゃんかおっちゃんがおる。

「Ā yí 阿姨，wǒ yòng yíxià 我 用 一下。」 *おばちゃーん、ちょっと使うで。*

（“おばちゃん”には「ā yí 阿姨」と呼びかける。「xiǎojiě 小 姐」は若い女の子の呼びかけに使われるから、“おばちゃん”に対して「xiǎojiě 小 姐」と言うのはちょっと不釣合い。ちなみに「ā yí 阿姨」は、日本語の“おばちゃん”ほど失礼なニュアンスはなくて、“お姐さん”という感じで響きはよい。子供が自分の母親と同年代の女性に対して呼びかける場合にも使う。未婚の女性に対しても OK。）

と言うと、おばちゃんが電話を掛ける用のコインをくれる（コインなしでも掛けられる普通の電話もある）。そしておばちゃんが電話してる時間を計ってくれる。電話を掛け終わったら、おばちゃんが料金を教えてくれる。

「gōngyòng diànhuà 公 用 电 话」を使うのに、おばちゃんとの会話は普通そんなにない。でも、語言の南門出口付近の「gōngyòng diànhuà 公 用 电 话」のおばちゃんは、ちょっとした名物やった。そのおばちゃんはお喋り好き「xǐhuān liáotiār 喜 欢 聊 天 儿」で、歩くのも大変なくらい太って

て「胖 到 走 路 都 困 难(pàng dào zǒulù dōu kùnnán)」、「京叭狗(jīngbāgǒu)」という種類の犬を連れてた。その犬もおばちゃんに似て太ってて、目がギョロッとしてて、鼻が短く上向きのブサイクな犬やった(ごめん、でも、私はどうしてもあの犬をかわいいとは思えんかった・・・)。

そのおばちゃんの前を通ると、おばちゃんは留学生なら誰彼構わず、「你好(Nǐhǎo)！」と呼びかける。愛嬌のある留学生は返事する。

「你好(Nǐhǎo)！今 天 天 气 很 好。很 热(Jīntiān tiānqì hěnhǎo Hěnrè)。」

ニーハオ！今日天気いいなー。暑いなー。

と学生が返事すると、

「所以(Suǒyǐ)，要不要 吃 水 果(yàobuyào chī shuǐguǒ)？」 *だから果物食べへん？*

とおばちゃんが聞く。おばちゃんは隣の花屋と果物屋をメインの商売にしてる。

「不要(Búyào)。我 昨 天 吃 了 很 多(Wǒ zuótiān chī le hěnduō)。再 见(Zàijiàn)！」

いら～ん。昨日いっぱい食べたもん。じゃね～。

「再 见(Zàijiàn)！」 *さいなら～*

おばちゃんもあっけなく「再 见(Zàijiàn)！」する。性格はしつこくなくて、人懐こい。おばちゃんから「你好(Nǐhǎo)！」言わんでも、自分から好んでおばちゃんに喋りかける留学生も多かった。

ちなみに、当時の「公 用 电 话(gōngyòng diànhuà)」は国際電話「国际(guójì)电 话(diànhuà)」と国内電話「国 内(guónèi)电 话(diànhuà)」で電話線が分けられてた。

市内の「gōngyòng diànhuà 公 用 电 话」は大抵「guójì diànhuà 国 际 电 话」が掛けられへんかったけど、そのおばちゃんの「gōngyòng diànhuà 公 用 电 话」は、ちゃんと二種類の電話を置いてた。料金は高かったけど、他に国際電話を掛けられる公衆電話っていうものがなかったから、最初はそれを利用するしかなかった。

留学して半年が過ぎた時、大学が留学生寮の各部屋に電話を設置してくれた。電話カード「diànhuàkǎ 电 话 卡」を購入して、そのカード番号「kǎhào 卡 号」と暗証番号「mìmǎ 密 码」を入力「shūrù 输 入」すると電話を掛けることができた。もちろん国際電話も掛けることができた。

ここで、電話に関する中国語を少し紹介。

「dǎ diànhuà 打 电 话」　*電話をかける*
「guà diànhuà 挂 电 话」　*電話を切る*
「bǎ diànhuà guàdiào 把 电 话 挂 掉」　*電話を切ってしまう*
「huí ge diànhuà 回(个) 电 话」　*電話を掛け返す*
「liúyán 留 言」　*伝言を残す*
「fā chuánzhēn 发 传 真」　*FAX を送る*
「dǎ shǒujī 打 手 机」　*携帯電話を掛ける*
「fā duǎnxiāoxī 发 短 消 息」　*ショートメールを送る*
「chōngzhíkǎ 充 值 卡」　*プリペイドカード*

今時の留学生はみんな、携帯電話「shǒujī 手 机」を持ってる。時代

も変わったもんや。ああ、あのおばちゃん、今頃どうしてるんやろう？

五　交　通

1　タクシー

中国に行ってまず最初に使う交通機関といえば、タクシー「出租车(chūzūchē)」かバス「公共汽车(gōnggòng qìchē) or 巴士(bāshì)」やろう。手っ取り早いんはタクシー。今中国はマイカーブームとはいえ、日本ほど普及してないから道端にタクシーはゴロゴロしてる。(もし、北京とか上海の大都会でマイカーが日本同様に普及したら、道路はとんでもないことになるやろう。それもすぐ近い将来起こりうることやから、大都市では今急ピッチでインフラ整備を進めてる。)流しのタクシーは手を挙げたら停まってくれる。

北京のタクシーで気を付けること。

1. 追加料金の違い

初乗り価格「起步价(qǐbùjià)」はどの車も十元。でも、追加料金が 1.2 元/1.6 元/2 元のものと三種類ある。近くへ行く時はあまり差はないから関係ないけど、遠くに行く時は、車の側面の窓に貼ってある追加料金表示を確認してから乗った方がいい。

2. 乗車拒否がある

北京のタクシー運転手は、行き先が近いと乗車拒否「拒载(jùzǎi)」す

る人がおる。乗る前に窓を開けて、運転手に「○○まで行ってくれるか？」と聞く方がいい。

Dàobudào
「到不到○○？」　*○○まで行くか？*

3. 市内から空港へ行く時

空港までの道は有料道路、片道十五元かかる。もちろんそれは乗客負担。でも、たまに帰りの十五元まで

払わせようとする悪い運ちゃんもおる。

Nǐ zài gěi wǒ shíwǔkuài ba
「你 再 给 我 十 五 块 吧。」

あんた、あと十五元くれへんか。

Wèishénme
「为 什 么？」　*なんでやねん。*

Wǒ huílái háiyào zǒu zhètiáo lù ne
「我回来，还要走这条路呢。」

わし、戻って行く時、またこの道通らなあかんねん。

でも、それは払う必要がないから、こう返事したらええ。

Nǐ bùxūyào zǒu zhètiáo lù wàimiàn háiyǒu miǎnfèi de lù ne
「你不需要走这条路，外面还有免费的路呢。」 *あんたこの道通る必要ないやん。外にタダの道あるやんか。*

有料道路のすぐわきを側道が通ってる。普通のタクシーはその道を通って街に帰る。だから帰りのお金は要らんはず。

Wǒ háiyào děng chē shíjiān hěn cháng Děngchē de shíjiān wǒ bùnéng zhuàn qián làngfèi shíjiān Nǐ zài gěi wǒ wǔshí kuài ba
「我还要等车，时间很长。等车的时间，我不能赚钱，浪费时间。你再给我五十块吧。」

わし、まだ車待ちせなあかん（空港から街へ行く人を乗せるまで、かなりのタクシーが並んで待っている）。時間長いし、待ってる間、わしお金稼がれへん。時間を無駄にしてしまう。そやから、あんたあと五十元払ってくれへんか？

と言ってくるような、もっと悪どい運ちゃんもおる。そしたら、

「等不等 车 是 你的事，和我没关系。我没有 理由还要给你五十块。」
Děngbuděng chē shì nǐ de shì hé wǒ méi guānxi Wǒ méiyǒu lǐyóu háiyào gěi nǐ wǔshíkuài

車待つ、待たんはあんたの問題や、私とは関係ない。あんたにあと五十元払う理由はない。

と言ったらいい。また、あんまりしつこい運ちゃんがおった場合は（私は実際に何度もこんなタクシーの運ちゃんに出会った。運が悪かったんやろうか？）、助手席の前にある「驾驶证（jiàshǐzhèng）」（運転手の写真と登録番号が記載されたプレート）をメモして、タクシー会社にクレームすること。こういうお金を請求してくるのは違法行為やし、もし警察に届けられたら、その運ちゃんは免停、もしくは免許取上げになる。

私も北京ではあんまりタクシーに乗る機会はなかったけど、それでも色んな運ちゃんに出会った。中国語があまりできへんかった為に、お金で解決できるんやったらと思って、騙しやと分かっててすんなりお金を渡したこともある。でも、おもしろい運ちゃ

んもいっぱいおった。

文革以前の話をしてくれた運ちゃんもおった。

Xiànzài rúguǒ nénggòu huídào wéngé yǐqián duōhǎo Xiànzài
「现 在,如 果 能 够 回 到 文 革 以 前 多 好。现 在，
zhège shèhuì zhēn tǎoyàn
这 个 社 会 真 讨 厌。」

今、もし文革以前に戻れたら、どれだけいいやろう。今、この社会はほんまに嫌や。

こう喋り始めた。私はどうしてそう思うのか聞いた。

Yǐqián chūqù de shíhòu búyào suǒmén
「以 前，出 去 的 时 候，不 要 锁 门。」

以前、出て行く時、門の鍵をかけんでもよかった。

Xiànzài a shèhuì hěn bù ānquán Nǐkàn
「现 在啊，社 会 很 不 安 全 。你 看！」

今はなぁ、社会がごっつい不安全（ぶっそう）や。ほら。

Chūqù de shíhòu nǐ yídìng yào suǒmén shìba
「出 去 的 时 候，你 一 定 要 锁 门，是 吧。」

出て行く時、あんた門の鍵かけなあかん。そやろ。

Rúguǒ mén méiyǒu suǒ huì yǒu xiǎotōu jìnlái de
「如 果 门 没 有 锁，会 有 小 偷 进 来 的。」

もし鍵かけてなかったら、泥棒が入ってくるやん。

そう言って、長々と中国の古き良き時代の話を語ってくれた運ちゃんもおった。

あと、忘れられへんのが、故宮を案内してくれた運ちゃんや。あの時は、私がかなりお金を払ったからやけど、それでも、ごっつい親切にしてくれた。95 年の話になるけど、当時は故宮の入り

口は、外国人入り口と中国人入り口に分かれてて、料金も外国人料金（高い）と中国人料金（安い）があった。

Nǐ jìnqù de shíhòu búyào shuōhuà
「你 进 去 的 时 候，不 要 说 话。」

君、入っていく時、喋ったらあかんで。

Nǐ yì shuōhuà rénjiā jiù zhīdào nǐ búshì Zhōngguórén
「你 一 说 话，人 家 就 知 道 你不 是 中 国 人。」

ちょっと喋ったら、すぐ君が中国人じゃないって分かるからな。

そう言って、中国人料金で入場チケットを買って、ずっと一緒に故宮の中を歩いてくれた。色々見ながら説明してくれたけど、あの頃は中国語がほとんどできへんかったから、彼の説明も全然分からんくて残念やった。

今思い出したら、タクシーの運ちゃんの中でも、色んな中国人に出会えたなぁ。

2 バ ス

留学生の外出の友といえば、やっぱりバス「gōnggòng qìchē 公 共 汽 车」。なんといっても安い「piányi 便 宜」！それに普段はタクシーより時間かかるけど、でも渋滞の時はバス専用路線を通るから却って早い時もある。

まず公共汽车(gōnggòng qìchē)に乗ろうと思ったら路線地図が必要。中国どの街に行っても、まず到着した駅とか空港でその街の地図「地图(dìtú)」を購入する（三元～四元)。地图(dìtú)にはその街のバス路線が全部記入されてるから、それを見て公共汽车(gōnggòng qìchē)に乗ったらいい。

北京の公共汽车(gōnggòng qìchē)は大きく分けて二種類。

1.固定料金：どこまで乗っても同じ料金。バスの入り口に「一人一元(yìrén yìyuán)」とか、一人当たりの料金が書いてある。お釣りは出ないから乗る前に小銭「零钱(língqián)」を用意しとかなあかん。

2.変動料金：乗車距離によって料金が変わる。大抵集金係の人(「售票员(shòupiàoyuán)」)がおる。

「去哪儿(Qù nǎr)？」　*どこ行くん？*

と聞かれるから、

「西直门(Xīzhímén)。」　*西直門まで。*

と行きたいところを伝えたら、料金がいくらか教えてくれる。お釣りももらえる。

公共汽车(gōnggòng qìchē)に乗るのは面白い。色んな中国人を観察できるいいチャンス。

一番カルチャーショックを受けたんが、車内で痰を吐く中国人。中国人はよく痰や唾を吐く。車の窓から外に向けて痰を吐く中国

人もおれば、車内の床に吐く中国人もおる。更にショックやったんが、床に吐いた痰をまた靴ですり潰してる！きたなぁー！！最悪や。

また、バスの窓から平気でゴミを投げ捨てる「扔 垃圾(rēng lājī)」。道を歩いてても「扔 垃圾(rēng lājī)」。中国人は、自分の家を一歩出たら、そこはゴミ箱「垃圾桶(lājītǒng)」やと勘違い「搞错(gǎocuò)」してる。(私が行ったことのある街で、大連市だけはゴミのポイ捨てをする人はほとんどいなかった。市政府の指導が行き届いていて街はきれい。)早朝、掃除婦「清扫人(qīngsǎorén)」たちが道路を掃除するから朝はきれい、でも昼すぎになったら、道端にどんどんゴミが積もっていって、夜にはゴミだらけ。結局、掃除婦「清扫人(qīngsǎorén)」がおるから、ゴミを捨てても構わんと思ってる人が多いみたいや。

もうひとつカルチャーショックを受けたこと。それは北京国際マラソン「北京国际马拉松(Běijīng guójì mǎlāsōng)」が行われてた日のこと。バスに乗ってて、いくら待っても車がまったく動かん。こんな渋滞は経験したことがなかった。他の乗客も、前に停まってたタクシーとか別のバスの乗客もみんな、車から降り始めて歩き始めた。仕方なく私もバスから降りて歩いて前進していったら、何と！前の道路をタッタッタッタッと走る外国人､その前方を走る放送車。なんやねん、それ！

日本人の常識やったら、国際マラソンが行われる 1,2 ヶ月前には、CM とか看板でお知らせがあるもんや。それが中国はまったくない。それも、バスやタクシーの司机(sījī)たちもまったく知らん。そんなことがあり得るんやろうか？　テロ「恐怖(kǒngbù)」とかの防止策として、わざと開催内容を公開せんと、突然道を封鎖するようなことするんかもしれん。

でも、それだけ警戒しておきながら、歩行者はマラソンコースの道を勝手にどんどん渡ってる。警察もいっぱい立ってるくせに、誰も止める人はおらん。私も、その道を越えんことにはどうやっても目的地に着くことができへんかったから、外国人が頑張って走ってるところを邪魔にならんように道を渡った。そして、今度はバスはないからタクシーを捕まえて目的地まで行った。

バスに乗ってて、そんなカルチャーショックばっかりかというと、そうでもない。北京人の大らかさ、やさしさに触れることもある。

Qǐngwèn yíxià　Wǒ xiǎng qù Gǔlóu　zěnme zǒu
「请 问 一下。我 想 去 鼓楼，怎 么 走？」

ちょっとお尋ねしますけど、鼓楼に行きたいんです。どうやって行ったらいいですか？

À　nǐ zài xiàyízhàn xiàchē　wǎngdōng zǒu　yìzhí wǎng
「啊，你 在 下一 站 下车，往 东 走，一 直 往
qián zǒu　nàme nǐ huì kàndào yízuòqiáo　Nǐ zài zǒuguòqù
前 走，那么你 会 看 到 一座 桥。你 再 走过去，

yòushǒu huì kàndedào de
右 手 会 看得 到 的。」

あ、次のバス停で下りて、東に向かって歩いていったら、橋が見えてくるんですよ。それをまた過ぎて行ったら、右手に見えてきますよ。

Shì zhèyàng a
「是 这 样 啊。」 *そうですか。*

Yàobu wǒ péi nǐ yìqǐ qù ma
「要不，我 陪 你一起 去吗？」

何やったら一緒に行ってあげよか？

Búyòngle búyòngle Xièxiè
「不 用 了，不 用 了。谢 谢！」

いいです、いいです。ありがとう。

北京で道を聞くと、すごく親切に教えてくれる。北京人ってやさしいな……。それも私が北京を好きな理由のひとつや。

3　空港から北京市街に出る

北京国際空港「Běijīng shǒudū jīchǎng
北 京 首 都机 场 」は北京市郊外にある。北京市街地に入ろうとしたら、私はいっつもバス「gōnggòng qì
公 共 汽 chē
车」＋タクシー「chūzūchē
出 租 车」や。

[空港から乗る「chūzūchē
出 租 车」の欠点]

・乗るまでにかなり長い列に並んで待たなあかん。

・目的地が近いと分かると、運ちゃんが非常に機嫌が悪くなる（運ちゃんもかなり待ってるから)。

・料金がムチャクチャ高い（追加料金二元の車がほとんど)。

例えば、空港から語言までは約四十 km、追加料金 1.2 元のタクシーだと六十元前後で行けるけど、追加料金二元のタクシーになると軽く百元は超える。

まず「出 租 车（chūzūchē）」(二元タクシーの場合) やったら、空港道路（高速道路）を走るだけで七十元くらいかかって、その通行料十五元を足したら、既に八十五元（約 1100 円)。市内の目的地に着く頃は二百元近くにはなってる。

でもバス「公 共 汽 车（gōnggòngqìchē）」を利用したら、バス代十六元プラス市内移動のタクシー代数十元だけで済む。百元を超えることはないし、長い列に並んでタクシーを待つ必要もない。

空港からバスに乗って、空港道路を過ぎて市街地の手前で停まったら下車、そこには必ずタクシーが数台停車待ちしてるから、そのタクシーに乗ったらいい（もしバスが自分の目的地まで行くなら、もちろん途中下車する必要はない)。タクシーに乗ったら運ちゃんは大抵みんな同じことを聞いてくる。私も留学中、タクシーに乗る度に同じことを聞かれて、仕舞いにはオウム返しで答えてた。

Nǐ shì Rìběnrén ba Nǐ de jiāxiāng zài nǎr
「你 是 日本 人 吧。你 的 家 乡 在 哪儿?」

あんさん日本人やろ。生まれはどこや?

Dàbǎn
「大 阪。」 *大阪。*

Dàbǎn a wǒ zhīdào Shì dàchéngshì a Dàbǎn hǎobùhǎo
「大 阪 啊，我 知 道。是 大 城 市 啊! 大 阪 好 不 好？」

大阪、ああ、知ってる。大都会やろ。大阪はええか?

Hěnhǎo
「很 好。」 *すごくいいで。*

Nàme wèishénme lái Zhōngguó ne Xǐbuxǐhuan Zhōngguó
「那么，为 什 么 来 中 国 呢？ 喜不喜 欢 中 国？」

ほな、なんで中国に来たん？ 中国が好きか?

Wǒ xǐhuan Zhōngguó Wèile xuéxí hànyǔ wǒ láile Zhōngguó
「我喜 欢 中 国。为 了 学 习 汉语，我 来 了 中 国。」

私中国好きやで。中国語勉強する為に中国来てん。

Nǐ hànyǔ xuéle jǐnián
「你 汉 语 学 了 几 年？」 *中国語勉強して何年?*

Bànnián
「半 年 。」 *半年や。*

Á Nǐ hànyǔ shuōde zhème hǎo hànyǔ xuéle cái bànnián
「啊? 你 汉 语 说 得 这 么 好，汉 语 学 了 才 半 年
a Zhēn lìhài
啊! 真 厉 害！」

ああ？ 中国語こんなに上手に喋って、勉強してまだ半年やって!? すごいな。(←お世辞)

Nǎli nǎli
「哪里，哪里。」*いえいえ。*

Nǐ xǐhuan Zhōngguó de shénme dìfang
「你喜 欢 中 国 的 什 么地 方？」

あんさん中国のどこが好きやねん?

と話は続く。日本の出身地、中国語を勉強した年数(「うまいな

ぁ」と必ずお世辞を言う)、中国のどこが好きか、そこから始まって、自分の家族の話をする運ちゃんや、昔の北京の話をする運ちゃん、日本に興味を持って日本のことを色々聞いてくる運ちゃん、色んな運ちゃんがおる。一般的に北京人はお話好きで、運ちゃんは人懐っこくよく話をしてくる。タクシーに乗るのは北京人と話ができるチャンスでもあるから、ここで楽しんで積極的に運ちゃんと中国語で話をしたらいい。

4　交通の変化：見られなくなってしまったもの

a) 面包 miànbāochē

私の留学中は、北京の風物詩のひとつでもあった「面包车 miànbāochē」がたくさん見られた。「面包车 miànbāochē」は黄色いバンで、安い乗り合いタクシー。車は汚くてポンコツ「又脏又旧 yòuzāng yòujiù」、でも、留学生にとってはむっちゃ便利。人数が多くても一台に乗れるし、そして安い「便宜 piányi」。でも、2000 年に撤廃されて、今の北京ではもう一台も見ることができへん。寂しいなぁ……

b) 天津夏利 Tiānjīnxiàlì

私の留学中、1.2元のタクシーといえば、天津夏利（Tiānjīn xiàlì）（天津シャレード：天津第一汽車とトヨタの合弁会社が作った車）が多かった。小さくて赤くて、てんとう虫みたいな車やった。窓は手漕ぎで、後ろの座席に座ったら足の置き場もないくらい狭い車やった。（ちなみに中国でタクシーに乗る時、中国人は運転手横の前の座席に座る。）それが、今では中型車の天津夏利（Tiānjīn xiàlì）になって、窓も自動で開けられる。日本では当然のことやけど、北京で初めて自動で窓を開けられる車に乗った時は感動したもんや。

c）马车（mǎchē）

私が留学中は、北京の路上で「马车（mǎchē）」も見られた。これは、人が乗車するためのものじゃなくて、炭とかレンガとか、たまにはスイカとか、とにかく重い荷物を運搬する為に使われてた。大学の正門近くにも、時々数台の馬車が止まってることがあった。たまに大きな交差点で渋滞「堵车（dǔchē）」、何事かと思うと、交差点の真ん中で馬車が立ち往生してることも何度かあった。それはすごい光景やった。大きな道路の真ん中で、車と自転車と馬車と人がグチャグチャになってる。あまりの発展の早さに、古いものと新しいものが混在する、とても不思議な光景「不可思议的风景（bùkěsīyì de fēngjǐng）」やった。今の北京の路上では、馬車なんか見ることはできへんや

ろう。(ある所へ行けば今でも見られるとの情報もあるが……)

d) 地铁 dìtiě

私の留学中、北京の地下鉄「地铁 dìtiě」では、窓口で切符（ピラピラの紙）を買ってた「买票 mǎipiào」。人が多いと、その窓口の前は大混乱。何とか切符を買ったら、プラットホームに下がる階段の前でおばさん(彼女たちは駅員)に切符を渡して入って行く。でも、もう今は自動改札「自动 检 票 口 zìdòng jiǎnpiào kǒu」になってしまった駅も出てきた。そこではピラピラの紙もなくなってしまった。便利になった反面、北京らしさがどんどん無くなっていくみたいで、これまた寂しい。

六　レストラン

1　しゃぶしゃぶ

私が北京に行って虜になってしまった料理がしゃぶしゃぶ「涮羊肉(shuàn yángròu)」。ムチャクチャうまい！

中国にはこういうことわざ「俗话(súhuà)」がある。「不到长城(Búdào Chángchéng)，非好汉(fēi hǎohàn)。」(長城に至らずんば男子にあらず、つまり、長城に行かんと北京に来たとは言われへんっていう意味。)でも私はこう言いたい。「不吃涮羊肉(Bùchī shuàn yángròu)，非好汉(fēi hǎohàn)。」(しゃぶしゃぶを食べずんば男子にあらず)。

初めて食べた時は、この世の中に、こんなにおいしいしゃぶしゃぶがあるんかと思った。しゃぶしゃぶの肉は羊肉、たれは胡麻ダレ、それに中国の香草「香菜(xiāngcài)」を入れて食べる。どんな味やと聞かれても、これだけは実際食べてもらわんと分からん。

中級レベル以上のレストランに行ったら、大抵入り口にチャイニーズドレス「旗袍(qípáo)」を着た小姐(xiǎojiě)が立ってる。そして「欢迎光临(Huānyíng guānglín)！*いらっしゃいませ！*」と言ってくれる。でも、私ら留学生が普段行くお店は、小姐(xiǎojiě)の立っていない個人経営の小さいお店。そういうお店の方がうまい！一度、知人が「北京で有名なしゃぶしゃぶの店（在北京有名的涮(Zài Běijīng yǒumíng de shuàn

yángròu diàn
羊 肉 店)」っていうところに連れていってくれたけど、大してうまくなかった。

一般庶民「lǎobǎixìng 老 百 姓」が行くお店は汚い「hěnzāng 很 脏」。でも、注文したらすぐ、おばちゃんが荒っぽくお皿「wǎn 碗」やお箸「kuàizi 筷 子」を持ってきてくれる。しゃぶしゃぶの具を持ってくるのも早い。隣の中国人が大声でペラペラ喋ってるから、もし、ヒヤリング「tīnglì 听 力」を鍛えたいと思ったら、横で食べながら聞くこともできる。(中国人は食べながら物凄い大きい声で喋りまくる。)

Xiǎojiě Diǎncài
「小 姐! 点 菜!」 *小姐!注文や!*

Yángròu liǎngpán qítā shēngcài tǔdòu dòngdòufu fěntiáo
「羊 肉 两 盘,其他, 生 菜,土豆, 冻 豆腐,粉 条,
bōcài jīnzhēngū
菠菜, 金 针 菇。」

羊肉二皿、他はレタス、じゃがいも、冷凍豆腐、粉条、ほうれん草、えのき。(レストランでは、500g=斤単位じゃなくて、皿単位で注文する)

Yàobuyào yǐnliào
「要 不 要 饮 料?」 飲み物はいりますか?

Liǎngpíng píjiǔ wǒ yào bīngde
「两 瓶 啤酒, 我 要 冰 的。」

ビール二本、冷たいのやで。(中国では往々にして生ぬるいビールが出てくるから、必ず“冷たいやつ”と言うといた方がいい。)

Zhīdàole
「知 道 了。」 *分かりました。*

一度私の友人が北京に旅行に来た。私は、「Bùchī shuàn yángròu 不 吃 涮 羊 肉,

fēi hǎohàn
非 好 汉。」と思って、友人たちを「Shuàn yángròu diàn
涮 羊 肉 店」に連れていった。これが予想外に、まずい「Bùhǎochī
不 好 吃」と言われた。何があかんかったんかっていうたら、「xiāngcài
香 菜」や。「xiāngcài
香 菜」は、においに癖があるから中国人でも嫌いな人がおる。もし「xiāng cài
香 菜」が嫌いやったら、それをたれに入れへんかったらええ。

羊肉は食べたら身体が温まるし、おいしい。だから、やっぱり冬はshuàn yángròu
涮 羊 肉や。

2　串焼き

北京の串焼き、これがまたうまい「Hěn hǎochī
很 好 吃」！冬は「shuàn yángròu
涮 羊 肉」、夏は羊肉の串焼き「yángròu chuàn
羊 肉 串」や。

どの店に行っても絶対炭を使ってる。机の真ん中に炭を入れる穴があって、炉の鉄枠の上に羊肉の串「yángròu chuàn
羊 肉 串」を乗せて自分で焼く。自分の好みで、塩や香辛料を掛ける。一本一元、むちゃ安い「Hěn piányi
很 便 宜」！むちゃうまい「Hěn hǎochī
很 好 吃」！

「yángròu chuàn
羊 肉 串」で高級レストランは見たことがない。この料理、元は新疆料理「Xīnjiāng cài
新 疆 菜」。街でもよく、立って「yángròu chuàn
羊 肉 串」を焼いて売ってる新疆人を見る。しゃぶしゃぶの時と同じ

で、チャイナドレスの小姐がいないお店に入っていくと、早速注文。

Xiǎojiě Diǎncài
「小 姐！ 点 菜！」 *小姐！注文！*

Yángròu èrshí chuàn xiānggū sānchuàn tǔdòu liǎngchuàn
「羊 肉 二 十 串 ， 香 菇 三 串 ，土 豆 两 串 ，
yángcōng liǎngchuàn Hǎole
洋 葱 两 串 。好了。」

羊肉二十本、しいたけ三本、じゃがいも二本、玉ねぎ二本、そんでええわ。

Yǐnliào ne
「饮 料 呢？」 *飲み物は？*

Wǒ yào Xuěbì
「我 要 雪 碧。」 *私、スプライトがええわ。*

Wǒmen méiyǒu guànzi de zhǐyǒu dàpíng de
「我 们 没 有 罐 子的，只 有 大 瓶 的。」

うち、缶のはないんです。大きい瓶のしかないんですけど。

Xíng Wǒmen yìqǐ hē ba
「行！我 们 一起 喝吧。」 *ええよ、私ら一緒に飲むわ。*

Gěi wǒmen sānge bēizi ba
「给 我 们 三 个 杯 子吧。」 *三個コップ頂戴。*

こうして注文が終わったら、小姐が炭「tàn 炭」を持ってきてくれる。

Lái lái lái Tàngde xiǎoxīn diǎnr
「来，来，来！ 烫 的， 小 心 点 儿！」

来たで来たで。熱いで、気付けてや。

少し待って、炭が燃え出したら小姐が炉の蓋を取り外してくれる。そして、串をクルクルまわしながら肉を焼いていると、脂がシタシタと落ちて、その度に炭がジュッ…ジュッ…と音を立てる。煙も出ていいにおい。肉はやわらかくて、香辛料と塩の味付けも最

高！ そして、おなかいっぱいになったら、

「小姐(Xiǎojiě)！ 买单(Mǎidān)！」 *小姐！ お勘定！*

「买单(mǎidān)」はもともと広東語。共通語では「结帐(jiézhàng)」って言うけど、今は中国の大部分の地域で「买单(mǎidān)」という言葉が使われている。

3 北京ダック

北京に来たんやから、そりゃ北京ダック「北京烤鸭(Běijīng kǎoyā)」食べなあかんわ。普通の人はそう思うはず。私もそうやった。

私の個人的意見やけど、「北京烤鸭(Běijīng kǎoyā)」は特にごっついおいしいとは思わん。それに、「北京烤鸭(Běijīng kǎoyā)」って言うけど、中国どの街に行っても大抵「烤鸭(kǎoyā)」はあるし、私は中国どこで食べても大して味に差はないと思う。元々は、北京で飼育されたダックが、欧米で「北京ダック」「北京鸭(Běijīngyā)」というダックのブランド名で売り出されて、世界でも有名になった。だから、「北京(Běijīng)烤鸭(kǎoyā)」と言えば、本来「北京鸭(Běijīngyā)」というブランドのダックを焼いたものじゃないとあかんはず。でも、今の中国で本物の

「北京鸭(Běijīngyā)」を出してる店はどれだけあるやろうか？

それはさておき、「北京烤鸭(Běijīng kǎoyā)」の注文の仕方。

小姐が「要多少(Yào duōshǎo)？」って聞くから、「一只(yìzhī)」とか「半只(bànzhī)」とか、ダック何匹分かで注文する。

最初は私も「一只(yìzhī)」がどのくらいの量になるんか分からんと、二人で行ったのに「一只(yìzhī)」も頼んでしまった。分からんかったら小姐に聞いたらいいのに、まだ中国語があんまりできへんかったから聞く勇気がなかった。お皿が出てきた時には、あまりに量が多すぎて泣きそうになった。小姐も、

「两个人吃(Liǎnggèrén chī)，太多了(tài duōle)。」*二人で食べるには多すぎるで。*

とか言うてくれたらいいのに、教えてくれへんかった。でも、中国で注文した料理がたくさん残っても、持って帰っていいねん。

「小姐(Xiǎojiě)！打包(Dǎbāo)！」　*小姐！包んで！*

と言えばいい。だから小姐も、わざわざ「多すぎる」とは言わんかったんかもしれん。

五つ星ホテルのレストランで「打包(dǎbāo)」する人はあんまりおらんと思う。巷のレストランやったら「打包(dǎbāo)」は普通にしていい。持ち帰り用ケースに小姐が入れてくれる時もあるし、ケースを渡されて自分で勝手に入れていい場合もある。

ちなみに、北京ダック一匹分「北京烤鸭一只(Běijīng kǎoyā yìzhī)」は五,六

人で食べてちょうどいい量。二人で食べに行くんやったら「半 bàn 只 zhī 的 de 一半 yíbàn」(半匹の半分、つまり四分の一) と言って注文するのが適当。

4 食 堂

留学中はほとんど自炊してたけど、たまに食堂「食堂 shítáng」で食べることもあった。大学の中には、外国人用の「食堂 shítáng」と中国人用の「食堂 shítáng」があった。外国人用食堂は、欧米人やアフリカ人 (と思う、黒人の人) が利用することが多かった。でも私は、そこの「食堂 shítáng」は高くてまずい「又贵又不好吃 yòu guì yòu bùhǎochī」と思ってたから、ほとんど利用せんと、中国人用食堂に行ってた。中国人用食堂は、汚いけど安くてうまかった「脏是脏，但是又便宜又好吃 zāng shì zāng, dànshì yòu piányì yòu hǎochī」。

食堂の中にはブースで分けられたお店が並んでる。「南方小吃 nánfāng xiǎochī」(南方のちょっとしたおかず)、「八宝粥 bābǎozhōu」(八方粥)、「各种凉盘 gèzhǒng liángpán」(各種前菜)、「砂锅 shāguō」(土鍋)、「南北风味 nánběi fēngwèi」(南北風味) などなど……。

最初はどのブースのがおいしいか分からんかったから、全部の

ブースのを食べてみた。結局いつも食べるのは、三鮮麺「三 鮮 米 线 sānxiān mǐxiàn」と蒸し餃子「蒸 饺 zhēngjiǎo」になってしまった。

「三 鮮 米 线 sānxiān mǐxiàn」

「米 线 mǐxiàn」は麺のこと。麺はどちらかと言うと細めで、日本のラーメンとそうめんを足して割ったような感じ。「三 鮮 sānxiān」は何かと言うと、具に三色の色彩を使ってるところから付けられた名前やと思う。ちなみに、ここの食堂の具は、トマト（赤）と青菜（青）と卵（黄色）やった。

「老 板，一 碗 三 鮮 米 线！」 Lǎobǎn, yìwǎn sānxiān mǐxiàn! *店長、三鮮米線ひとつ。*

「炒 面，还 是 汤 面？」 Chǎomiàn, háishì tāngmiàn? *炒めるんか、スープ麺か？*

「汤 面。」 Tāngmiàn. *スープの麺にして。*

「好。三 块 钱。」 Hǎo. Sānkuàiqián. *よっしゃ。三元や。*

「找 你 两 块。」 Zhǎo nǐ liǎngkuài. （五元札を渡すと）*おつり二元や。*

注文してから老 板 lǎobǎn が調理してくれる。その間、空いてる席に座って待ってたらいい。できたら呼んでくれるか、持ってきてくれる時もある。

「蒸 饺 zhēngjiǎo」

中国の餃子は、調理方法が三種類ある。

guōtiē
「锅 贴」… いわゆる日本の焼き餃子。でも、中国人はあまり食べない。

shuǐjiǎo
「水 饺」… 水餃子。中国人が一番よく好んで食べる調理方法。

zhēngjiǎo
「蒸 饺」… 蒸し餃子。

zhēngjiǎo
この食堂の「蒸 饺」は特別うまい。それに、確か十二個ほど入ってて、一人ではとても食べきれへん量やった。それでも値段は七元くらいでムチャクチャ安かった。

Lǎobǎn yìwǎn zhēngjiǎo
「老 板，一 碗 蒸 饺。」 *店長、蒸し餃子ひとつ。*

À bùhǎo yìsi jīntiān yǐjīng màiwán le
「啊，不 好 意思，今 天 已 经 卖 完 了。」

ああ、すまんなぁ、今日はもう完売や。

Yòu màiguāng le
「又 卖 光 了。」 *また売り切れぇ！*

Duìbuqǐ a xiǎojiě Xiàcì zài zǎoyìdiǎr lái ba
「对 不 起 啊，小 姐。下 次 再 早 一 点 儿 来 吧。」

ごめんなぁ、お譲ちゃん、今度もうちょっと早く来てや。

zhēngjiǎo yòu piányì yòu hǎochī
そのブースの「蒸 饺」は「又 便 宜 又 好 吃」(*安くてうまい*) やったから、昼頃行くといっつも売り切れとった。

5 マクドナルド

海外どこに行っても入ることに決めているレストラン、それが

マクドナルド（厳密にはレストランではないが）。各国でメニューが異なるし、味もやっぱりその国の味に合わせてちょっとずつ違う。中国のマクドナルド「麦 当 劳 Màidāngláo」は、シンガポール、香港、タイのマクドナルドとほぼ同じやと思った。

大学のすぐ近くにも「麦 当 劳 Màidāngláo」があったけど、私はほとんど利用せんかった。なんでかって言うたら、高い！「很 贵 hěnguì！」中国人用食堂やったら、三元出しておなかいっぱい麺が食べられるのに、「麦 当 劳 Màidāngláo」はハンバーガー「汉 堡 包 hànbǎobāo」、ポテト「薯 条 shǔtiáo」、飲み物「饮 料 yǐnliào」のセット「套 餐 tàocān」で十七～二十二元。それでおなかいっぱいになるかって言うたら、ならんやろ。大阪人、すぐお金のこと言うて悪いけど、どっち選ぶって聞かれたら、そりゃ三元の方選ぶで。

留学当時から「麦 当 劳 Màidāngláo」は北京市内にいっぱいあった。やっぱり外国人に人気があって、どの店にも外国人が入ってた。もちろん中国人もいっぱい入ってた。私の大学近くの「麦 当 劳 Màidāngláo」は、「汉 堡 包 hànbǎobāo」を食べながら友達と一緒に勉強してる外国人が多かった。

カウンターに並んで注文する。

「欢 迎 光 临 Huānyíng guānglín！」　*いらっしゃいませ！*

「三 号 套 餐。 能 不 能 换 饮 料？ 我 不 要 可乐，Sānhào tàocān. Néngbunéng huàn yǐnliào? Wǒ búyào Kělè

yào Xuěbì
要 雪碧。」

三番のセット、飲み物換えれる？　私、コーラいらんねん、スプライトがええねんけど。

Wǒmen méiyǒu Xuěbì　zhǐ yǒu Qīxǐ
「我 们 没 有 雪碧，只 有 七喜。」

スプライトはなくて、“七喜”（セブンアップのこと）しかないんです。

Qīxǐ

Xíng　méi wèntí
「行，没 问 题。」　*いいよ、問題ないで。*

Zài zhèr　chī　háishì dàizǒu
「在　这 儿吃，还　是　带 走？」

こちらでお召し上がり、それともお持ち帰りですか？

Zài zhèr　chī
「在　这 儿吃。」　*ここで食べるわ。*

Shōunǐ shíqī kuài　xièxie
「收 你 十 七 块，谢 谢！」

十七元になります。ありがとうございます。（それから準備をする。）

Xièxie　huānyíng zàilái
「谢 谢，欢　迎　再 来。」　*ありがとうございました。またお来し下さい。（と言ってトレーを渡す。）*

初めて「麦 当 劳」に行った時は緊張したもんや。小姐が何言うてるんか分からんし、どうやって注文したらええかも分からん。日本みたいに親切に、カウンターの上に写真付メニューを置いてくれてたら、それを指差しながら「这个、这个。」（これ、これ）って言える。でも、上の方に貼ってあるメニュー表だけやったから、最初はほんまに困った。字も読まれへんから、写真が

Màidāngláo

Zhège　zhège

あるものしか注文できへん、でも、上の方指差して「那个(Nàge)、那个(nàge)。」（あれ、あれ）って言うてもどれのことか分からへん。

　でも、たまに「麦当劳(Màidāngláo)」に行くのもいいなと思えたのは、ひとつに店員の接客マナーがいいこと（普通中国の店員はすごく態度が悪い。）もうひとつは、店内が清潔なこと。これには私もほっとするものがあった。

七　旅　行

1　切符の手配

折角中国に来たんやから、旅行「旅游(lǚyóu)」くらいしたい。

でも、ここで中国国内旅行のノウハウは述べんことにしとく。なんでかって言うたら、旅の仕方は十人十色やし、私は旅のエキスパートでもないから。当時の様子と私の経験だけ、ちょこっと紹介。

私は留学中一回しか旅行に行かんかった。他に何回も旅行に行ってる子がおったけど、私は大学の出席率を気にして（中には二回休んだだけで終業資格を失う科目もあった）行けんかった。私が行ったのは、上海と桂林だけ。上海へは北京から夜行列車で、桂林へは上海から飛行機で行った。

まず旅行の計画を立てたら切符の手配をせなあかん。エアーチケットの購入「订机票(dìng jīpiào)」は簡単や。チケット販売代理店はそこら中にあるから、近くの代理店で購入できる。今やったら、代理店や航空会社によって値段が違うから、色んな代理店に問い合わせて、一番安いエアーチケット購入に努力したりすることもある。でも、当時は国の政策で、どの代理店でどこの航空会社のチケットを買っても、値段は一律やった。

Wǒ yào dìng jīpiào
「我 要 订 机 票 。」 *チケット購入したいねんけど。*

Dào nǎr
「到哪儿？」 *どこ行きの？*

Shànghǎi dào Guìlín de shíyī yuè shíwǔ hào shànghángkōng gōngsī de
「上 海 到 桂 林 的，十 一 月 十 五 号， 上 航
（上 海 航 空 公 司）的。」

上海から桂林の、11 月 15 日、上海航空会社の。

Jǐdiǎn de fēijī
「几 点 的 飞 机？」 *何時の飛行機？*

Shàngwǔ shídiǎn de
「上 午 十 点 的。」 *午前十時の。*

Méi wèizi yǐjīng mǎn le Shíyī diǎn bàn de fēijī de huà, háiyǒu wèizi
「没 位 子，已 经 满 了。十 一 点 半 的 飞 机 的 话，
还 有 位 子。」 *もう席がないですね。既に満席ですよ。*

11 時 30 分の飛行機だったらまだ席がありますよ。

Xíng Nàme shíyī diǎn bàn de
「行 。那么，十 一 点 半 的。」

いいよ。じゃ、11 時 30 分の。

Nǐ jiào shénme míngzi
「你 叫 什 么 名 字？」 *お名前は？*

「KUME HIROMI」

（ここで中国語発音の名前は必要ない。

パスポート上のローマ字の名前を伝える。）

Hùzhào hàomǎ
「护 照 号 码。」 *パスポート番号は？*

「AB123456」

（当時エアーチケット購入の際、必ずパスポート番号を提示せなあかんかった。）

「Yàobuyào bǎoxiǎn
要不要 保 险？」　*保険はいりますか？*

「Búyào
不要。」　*いらんわ。*

「Shōu nǐ jiǔbǎi kuài
收 你 九 百 块。」　*900元になります。*

これでエアーチケットが購入できる。窓口ですぐチケットがもらえる時もあるし、しばらくしてから取りに来てくれって言われる時もある。電話予約したら、自分で取りに行ってもいいし、手数料さえ払えば、家まで宅配してくれたりする。とにかく、エアーチケット購入は簡単で便利。

問題は電車の切符「huǒchē piào
火 车 票」や。私の場合、北京人の友人に頼んで、友人の会社で切符を購入「dìngpiào
订 票」してもらった。自分でなんか、とても大変で手配できへんと思った。

中国の電車は、もちろん全部国営。そして、日本みたいに改札口に切符の自動販売機はない。なんでかと言うと、同じ目的地に行くのでも、電車の種類と座席の種類によって値段が違うし、遠距離になると、乗り換えもあって複雑になってくるから、窓口で対応するしかない。とても自動販売機で売れるもんとちゃう。

すると、個人で切符の手配をする時は、北京駅の窓口に並ばな切符は購入できへんことになる。でも、駅の窓口で長い長い列に並んで待たなあかん。国慶節「guóqìngjié
国 庆 节」とかゴールデンウィーク「huángjīnzhōu
黄 金 周」の連休の切符やったら、三日間並ばんと切

符を買われへんということも聞いたことがあった。代理店を通して購入することもできるけど、これはエアーチケット販売代理店みたいに多くない。

もし、自分で窓口に並んで購入するとしたら、こういう会話になるはず。まずは、路線（どこからどこまで）、出発日時、便名「车次」、人数を伝える。

Běijīng dào Shànghǎi shíyī yuè shísān hào chēcì qīsānyāo
「北 京 到 上 海，十 一 月 十 三 号，车次T 7 3 1，
yíwèi
一位。」

北京から上海まで、11 月 13 日 T731 号、一名。

Ruǎnwò háishì yìngwò
「软 卧 还 是 硬 卧？」

軟臥（ソフトの寝台：値段が少し高い）か硬臥（ハードの寝台：安い）かどっち？

Yìngwò
「硬 卧。」 *硬臥。*

Nǐ yào zuò nǎr Shàngmiàn zhōngjiān xiàmiàn
「你 要 坐 哪 儿？ 上 面， 中 间， 下 面？」

どこに座る？ 上の段か、真ん中の段か、下の段か。

Wǒ yào shàngmiàn de
「我 要 上 面 的。」 *上の段がいいわ。*

Sānbǎiliù
「三 百 六。」 *360 元です。*

お金を払うと切符をくれる。切符を手にしたら、正しい切符かどうか確認すること。特に、日付は注意して確認した方がいい。

チケットと切符が問題なく購入できたらホテルの予約をして旅

の準備は完了。ここにホテル予約に関する単語を少しだけ書いておく。

「dìng fángjiān 订 房 间」 *部屋の予約をする。*

「dānrén fáng 单 人 房」 *一人部屋（中国のホテルで一人部屋のあるところは少ない）*

「shuāngrén fáng 双 人 房」 *二人部屋*

「zhùfáng 住 房」 *チェックイン*

「tuìfáng 退 房」 *チェックアウト*

ちなみに、電車の種類と座席の違いについて補足説明。

電車の便名を見てると、アルファベット”T”から始まる便名がある。これは「tèkuài 特 快」の頭文字”T”を取ってるから、停車駅も少なくて早い。四桁の数字の便名（例えば 3815 号とか）は、長距離列車のことが多いし、鈍行で停車駅が多い。

電車のシートの種類は、以下の通り。

「yìngzuò 硬 座」: *ハードシート*（安い座席指定）

「ruǎnzuò 软 座」: *ソフトシート*（少し高い座席指定、車両の条件がハードよりもいい）

「wúzuò 无座」: いわゆる自由席、座席なし。すごい混雑してることが多い。座席の取り合いも激しい。

「yìngwò 硬 卧」: ハードの寝台、三段ベッド

「软卧(ruǎnwò)」：ソフトの寝台、二段ベッド、コンパートメントで鍵がかけられるから、もし女性一人旅で他の三人が男やったら……と考えると反対に危ないかも。四人組での旅に適してる。

他に、電車の種類によって、二号車、一号車とかが付いてるものもある。

あと、私の個人的な意見として、中国の電車は「软座(ruǎnzuò)」（ソフトシート）以上の車両に乗る方がいい。「硬座(yìngzuò)」やったら、電車の種類によって雲泥の差がある。例えば、値段の安い電車の「硬座(yìngzuò)」は、ムチャクチャ汚いとか、長距離列車の「硬座(yìngzuò)」は貧困層の乗客が多くて、治安も悪いとか。値段の差もそんなに大きくないから、よく知らん電車に乗る時は「软座(ruǎnzuò)」にしとくと安心や。

2　寝台列車

出発の日。夜行列車は夜七時発、6時30分頃北京駅に到着した。まずその北京駅構内を見て驚いたのは、物凄い人ごみでごったがえしてたこと。人の多さに圧倒された。それから、構内の構造が日本と全然違うこと。プラットホーム「月台(yuètái)」は勝手に入られ

へんようになってて、「候车室 hòuchēshì」っていうムチャクチャ大きい待合室がいくつもある。(「候车室 hòuchēshì」は、「软座，软卧 ruǎnzuò ruǎnwò」用と「硬座，硬卧 yìngzuò yìngwò」用に分かれてて、駅の入り口も分かれてる。)その中で「检票 jiǎnpiào」(切符切り)が始まるまで待ってなあかん。「硬座，硬卧 yìngzuò yìngwò」用の「候车室 hòuchēshì」の中には、ベンチがズラ〜っと並んでて、そこで寝てる人、カップラーメン「方便面 fāngbiànmiàn」を食べる人、「瓜子 guāzǐ」を食べる人、みかん「橘子 júzi」を食べる人、大体何か飲み食いしてる人が多い。それも食べかすは全部足元に吐き捨てるから、ごっつい汚い……。

電車が到着して準備ができたらアナウンスが入る。

「开往 Kāiwǎng 上海 Shànghǎi T7 5 6 qīwǔliù 列车 lièchē」

上海行き T756 列車、

「正在 zhèngzài 开始 kāishǐ 检票。 jiǎnpiào」

今から切符を切ります。

「乘坐 Chéngzuò T7 5 6 qīwǔliù 列车 lièchē 的 de 旅客,lǚkè」

T756 に乗車されるお客様は、

「请 qǐng 从 cóng 八号 bāhào 候车室 hòuchēshì 检票 jiǎnpiào 出口 chūkǒu 上车。shàngchē」

8 番待合室の切符切り出口からお乗り下さい。

このアナウンスが聞こえた途端、物凄い人波が狭い「检票 jiǎnpiào 出口 chūkǒu」にどっと押し寄せる。この瞬間には怖いものがある。や

っと列車に乗り込んだら、今度は自分の席（ベッド）を探す。ベッドを探し当てたらまたショックなことがいくつもあった。

一つ目はベッドの位置。切符購入時、私は友人に「何段目がいい？」って聞かれて「二段目。」って答えた。寝台列車のベッドは二段やと思い込んでたから、「一番上になる二段目がいい。」と思ってた。そしたら何とベッドは三段あった。そやから二段目っていうことは真ん中のベッドっていうことになる。しまったぁー！その時は知らんかったけど、結局、私が想像してたのは软卧(ruǎnwò)の二段ベッドで、友人が私に買ってくれたのは硬卧(yìngwò)の三段ベッドの切符やった。（でも、実際は真ん中になる二段目が一番いい。一番上は、天井が低くてベッドに座ることもできない高さ。一番下は、乗客の共同空間として利用されて、皆がそこに座って飲み食いする。二段目だけは、座れるし個人の空間にもなる。）

二つ目、ベッドにカーテンが付いてなかった。とにかく私のイメージでは、寝台電車っていうたら、ベッドは二段で、寝る時に外から見えへんようにカーテンを引いて寝れるようになってるもんやと思ってた。それがカーテンもない。これでどうやって寝るねん、と信じられへん思いやった。でも、今考えたら、治安の為にはカーテンをなくして、全部外から見えるようにしとく方がいい。

三つ目、車両の中、どこを見ても男ばっかり。女性の乗客っていうのが、一人か二人くらいおばちゃんが夫婦で乗ってきてるくらいで、他には全然おらへん。ごっつい心細くなった。男ばっかりの車両で一晩過ごさなあかんのやー！　怖いよー！

四つ目、車内で聞こえる中国語が共通語でなくなった。上海語しか聞こえへん。上海に向かう電車やから、乗客のほとんどが上海人やった。

五つ目、トイレが汚くて臭い。とても使える状態じゃない。トイレは車両に二つあったけど、ひとつは紙詰まりしてるし、もうひとつも汚すぎてとても使う気にはならん。ああ……、北京に着くまで（十二時間）トイレには行かれへん。でも、私は中国のトイレ事情は分かってたから、出かける時はいつも水は飲まんようにしてた。のどが渇いても飲まへん。この時も、学校を出てから上海に到着するまでトイレは行かんかった。

ショックだらけやった。でも、そんな私を救ってくれた乗客が一人おった。発車間際になって、むっちゃきれいな女性が乗ってきて、その人はなんと、私のベッドの向かいのベッドに入った。キャ〜！　ラッキー！　男ばっかりの車両で、お向かいさんが女性、それもベッピンさんやで。これだけですごくほっとして救われた気がした。

電車が発車してしばらくは、まだ悩み事があって、椅子に座ってベッドには入らんかった。何を悩んでたんかっていうたら、頭をどっちにして寝るかっていうことや。他の人が、どっち向きに寝るんか見てからベッドに入ろうと思ってた。電車が発車して、ポツポツ、ポツポツとベッドに入っていく人が増えていった。見てたら、大抵廊下側に頭を向けてる。「そうか、頭は廊下側や。」そう思って、八時頃私もベッドに入った。そして本を読み始めた。

しばらくして、向かいのベッピンさんが話しかけてきた。

Nǐ shì Rìběnrén ma
「你 是 日本 人 吗?」　*あなたは日本人？*

Shìde Wèishénme
「是的。为 什 么?」　*そうですけど、なんでですか？（何故そう聞くんですか、と聞きたかった。）*

Yīnwèi nǐ zài kàn Rìyǔ de shū
「因 为 你 在 看 日语 的 书。」

だって、日本の本読んでたから。

A nǐ rènshí Rìběn de zì ma
「啊，你 认 识 日 本 的 字 吗?」

あ、日本の字分かるんですか？

Wǒ yǐqián dāiguò Rìběn
「我 以 前 呆 过 日本。」

私、以前日本にいたことがあるんです。

Á Zhēnde
「啊? 真 的?」　*ええ？ ほんま？*

Dàgài yìnián zuǒyòu ba
「大 概 一 年 左 右 吧。」　*大体一年くらいかな。*

Nǐ zài Rìběn de shénme dìfāng dāiguò
「你 在 日 本 的 什 么 地 方 呆 过？」

日本のどこにいたことがあるんですか？

Shénhù
「神 户。」　*神戸。*

Zhēnde Wǒ shì Dàbǎnrén Dàbǎn lí Shénhù hěn jìn de
「真 的? 我 是 大阪 人。大 阪 离 神 户 很 近 的。」

ほんま？ 私、大阪人やで。大阪と神戸って近いやん。

Wǒ xuéle Rìyǔ dànshì hěnduō dōu yǐjīng wàngjì le
「我 学 了日语，但 是 很 多 都 已 经 忘 记了。」

私、日本語勉強したんですけど、もうかなり忘れました。

Nǐ huì Rìyǔ ma
「你 会 日语吗？」　*日本語できる？*

Yìdiǎndiǎn Wǒ hái jìde Dàbǎnhuà ne
「一 点 点 。我 还 记得大阪 话 呢。マイド、オオキニ、アカン。」

ちょっとだけ。まだ大阪弁覚えてますよ。

Zhēn lìhài Nǐ hái huìshuō Dàbǎnhuà
「真 厉害。你 还 会 说 大阪 话！」

すっごーい。大阪弁も喋れるんや。

って感じで意気投合して、私は彼女とずっと話しをしてた。夜寝るまで、朝も起きてからずっと話をしてた。旅では、こうした出会いがまた楽しい。

3　飛行機

上海で友人に会って一泊して、次の日桂林までは飛行機で行っ

た。上海―桂林間も電車で行こうと思ったけど、直行路線がなくて、何度も乗り換えするんやったら手っ取り早く飛行機にしようと思った。

飛行機「飞机(fēijī)」は、時間短縮にいいし、楽やし、清潔やし、治安もいい。電車みたいな旅情はないけど、便利は便利や。

ちょっとここで、飛行機にまつわる昔の話をしよう。

それは1995年のこと、北京―上海―広州の三都市をまわるのに国内線飛行機に乗った。それは、私が中国の国内線飛行機に乗るはじめての体験やった。その頃はまだ、飛行機に乗る中国人は少なかった。

さぁまた、カルチャーショックの連続が始まった。まず機内食、これが機内食かっていうくらい粗末なもんやった。サンドイッチケースみたいな箱が配られてきて、開けてみたら食パン一切れと鶏の手羽が一本だけ入ってる。それも見るからにムチャクチャまずそうなやつ。パカッ……と開けて、見た瞬間すぐ閉じた。とても食べられへんと思った。そしたら、何を思ったか横の中国人男性、

「你不吃了(Nǐ bùchī le)？」　*あんた食べへんの？*

と聞いてきた。私が、

「不要(Búyào)。」　*いらん。*

って言うと、

Gěiwǒ ba
「给 我 吧。」　*俺にくれや。*

と言って、さっとかっぱらって早速食べ始めた。食べ終わったら、また喋りかけてきた。

Nǐ zài bāngwǒ wèn yíxià nǐ pángbiān de nánde yàobuyào chī
「你 再 帮 我 问 一 下，你 旁 边 的 男 的 要 不 要 吃？」

ちょっと代わりに聞いてくれへんか、隣の男食べるかどうか。

隣には当時の私の上司が座っていた。上司は寝てたから、私は起こさんと

Tā zài shuì Bùchī
「他 在 睡 。不 吃 。」　*彼は寝てるから食べへん。*

と答えた。すると、

Gěiwǒ gěiwǒ
「给 我，给 我！」　*くれくれ！*

と言って上司のものまで全部たいらげてしまった。私は唖然とした。後からその状況を上司に言うと、中国慣れしてる彼は「ふぅ〜ん。」とだけ言った。こういうの中国では普通らしい。

次はスチュワーデス「kōngjiě 空 姐」（kōngzhōngxiǎojiě 空 中 小 姐 の略）や。私はのどが渇いたから「kōngjiě 空 姐」のところにお茶をもらいに行った。「kōngjiě 空 姐」二人は台にもたれながらお喋りしてた。私が来たのを見ても平気で喋り続けてる。当時私は中国語がほとんどできへんかったからドキドキしながら聞いた。

「有没有茶水？」（Yǒuméiyǒu cháshuǐ）　*お茶はありますか？*

そしたら彼女ら、一瞬喋るの止めて私を睨み付けた。私の中国語がまずかったんやろか？勇気を出してもう一回聞いてみた。一人が「有（yǒu）。」（ある。）とだけ無愛想に答えて、お茶をドボドボと荒っぽくコップに入れたかと思うと、私にコップを突き出した。しかも私にお茶を渡しながら、もう二人で喋り始めてる。

その上、彼女たちは乗客が飛行機を降りる時も、「谢谢（Xièxie），再见（zàijiàn）！」（ありがとうございました。さようなら。）も何も言わんと喋り続けてた。こんなサービス業がこの世に存在するんやと、信じられへん思いやった。

「ま、中国、こんなもんや。」

慣れてきたら、そう思えるようになる。もっと慣れてくると、当然のこととして受け入れるようになって、何も感じへんようになる。仕舞には、反対に「秩序ある日本ってすごい。」と思うようになる。

4　陽朔にて

さて、今回旅行のメイン、桂林（Guìlín）。桂林の飛行場は市内からか

なり離れてて、バスで市内まで移動した。市内に入って、またショック。中国にいると、最初の頃はショックなことが多い。

桂林っていうと、水墨画の景色で有名なところのはず。それが行ってみると、ただの中国の汚い町。汚なすぎる……。道路は整備されてなくてどこもかしこもドロドロ。山なんかどこにもないし、川はドロ川しかない。「ああ、今回の旅行は失敗か・・・。」と思った。

一日前に桂林に到着してた友人とホテルで落ち合った。先に桂林市内の観光を終えた友人が、「桂林はあかん。おもろない。」と言った。やっぱり失敗やと思った。

翌日は、現地ツアーに申し込んで友人と共に「漓江下り」に参加した。客はみんな欧米人ばっかりで、アジア人は私らとインドネシア人一組だけやった。中国人の学生ガイドがおって、案内は英語でされた。市内からバスで田んぼ道に入って、降りたら田んぼのあぜ道を歩かされた。どこに行くんやろーと思ってたら、ごっつい小さいボート乗り場があって、そこから小さいボートに分かれて乗った。しばらく行って川幅が広くなったところで大きな船に乗り換えた。

船に乗ってしばらく行くと、やっと水墨画らしい景色のところに出てきた。「これや、これや。」と思った。川に水牛がおるだけ

で「オー！」とみんな声を上げてた。

ほんまの「漓江下り」は、桂林(Guìlín)から阳朔(Yángshuò)まで一日かけて下るんやけど、私らが行った時期は乾季（11 月）で川の水が少なく、途中で船を降りなあかんかった。そこから阳朔(Yángshuò)まではポンコツバスで約一時間掛けて行った。そのバス、そんなに長時間乗っても料金はたったの五元（約七十円)。その代わり、すごく旧くてガタガタで、人はギューギュー詰め「沙丁鱼罐头(shādīngyú guàntóu)」やった。乗客は中国人の農民が半分くらいと、欧米人のバックパッカーが半分くらいおった。アジアの外国人は私らだけやった。

その日は阳朔(Yángshuò)に着いて終わり。次の日から阳朔(Yángshuò)めぐりをした。阳朔(Yángshuò)は最高や。町は小さくてきれい。欧米人のバックパッカーが多いから、お店は全部西洋式。中国人が経営してるのに、なかなかどこも趣味がいい。どことなく中国の味を残しながらも、小説に出てくるような西洋っぽさを演出してる。それに料理もおいしい。阳朔(Yángshuò)に住み着いてる欧米人とか、定期的にずっと訪れる常連の欧米人も多いみたいやった。

阳朔(Yángshuò)の景色はというと、それはもう、水墨画の世界そのもの。早速山々をまわる為に輪タクを探しに友人と出かけた。すると、あるおばちゃんが喋りかけてきた。

「要不要上车(Yàobuyào shàngchē)？」　*乗らへんかぁ？*

Duōshǎo qián
「多 少 钱？」　*いくら？*

Qīshiwǔ kuài
「七十 五 块 。」　*七十五元。*

Tài guìle　Wǔshí kuài　hǎobuhǎo
「太 贵 了。五 十　块，好 不好？」

高すぎる。五十元でどや？

Hǎo　kěyǐ　Nǐmen shàng ba
「好，可以。你 们　上　吧。」　*いいよ。乗りな。*

そのおばちゃんとはすぐ値段交渉が成立した。そのおばちゃん、ほんまにいい人やった。五十元で一日中あっちこっち連れて行ってくれて、何も言わんでも色んな観光スポットに連れて行ってくれた（いわゆる“おまかせコース”）。運転しながら山の名前とか、その謂れとか、歴史とかを話してくれた。

Yángshuò
阳　朔 の町に帰る途中で、自宅にも連れて行ってくれた。かわいい男の子が学校から帰ってきたところやった。男の子はお母さんのことが好きで好きでたまらないって感じで、すごくおばちゃんに甘えてた。ちらっと家の奥の方を見ると、だんなさんが寝転がっていた。おばちゃんいわく、以前炭鉱で働いてたけど、そこが閉鎖されて一時解雇「xiàgǎng
下　岗」、実質上仕事を失って、それ以来ずっと家で寝込んだままらしい。家の中には、テレビ、電子レンジ、ステレオ、冷蔵庫等家電製品は一式揃ってた。おばちゃん一人の稼ぎで買ったんやろうな……と思うと、おばちゃんがすごくたくましく見えた。

おばちゃんの家でしばらく喋って、それから町まで送ってもらって再见(zàijiàn)（さよなら）した。元々五十元で値段交渉してたけど、私と友人それぞれ五十元ずつ出して、百元渡した。おばちゃんが、

「要 找 你 们 五 十 块。(Yào zhǎo nǐmen wǔshí kuài)」*あんたらに五十元お釣りやな。*

と言ってお釣りを探しだした。私らは慌てて、

「不要，不要！今 天 阿姨 带 我 们 去了 许 多 地 方，而 且 时 间 也 长 得很，非 常 感谢。这 是 我们 的 心 意啊。(Búyào búyào Jīntiān āyí dài wǒmen qùle xǔduō dìfāng, érqiě shíjiān yě chángdehěn fēicháng gǎnxiè Zhè shì wǒmen de xīnyì a)」

いらん、いらん！今日はおばちゃん、私ら連れてたくさんの所に行ってくれたし、時間も長かったやん。ありがとう。これは私らの気持ちや。

そう言うと、おばちゃんは素直に喜んでくれた。

「谢 谢！谢 谢！(Xièxie Xièxie)」 *おおきに！おおきに！*

「你 们 下 次 有 机 会 到 阳 朔，一 定 要 找 我 的。反 正 你 们 知 道 我 家 在 哪里。(Nǐmen xiàcì yǒu jīhuì dào Yángshuò yídìng yào zhǎo wǒ de Fǎnzhèng nǐmen zhīdào wǒjiā zài nǎlǐ)」

あんたら今度また陽朔に来る機会があったら、きっと私を探すんやで。どっちにしろあんたら私の家がどこにあるんか知ってるんやから。

あのおばちゃん、今もまだ輪タクやってるんやろうか。また会いたいなぁ……。

八　就職活動

1　パソナ（現 Pahuma）

留学は元々母親に反対されてた。「一年留学したら日本に帰るから！」というこの一言で母親を説き伏せて中国へやってきた。それが、その約束を破って、私は中国で就職活動を始めた。七月には授業が終わってしまう。それまでに仕事を……と思って探し始めたのが五月末。

手っ取り早いのが就職斡旋会社に登録すること。当時、日本人の中国現地採用を取り扱う斡旋会社は二社しかなかったと思う。そのひとつがパソナ（現 Pahuma）で、私は早速パソナにコンタクトした。履歴書と職歴書を提出したら、すぐ回答があって、一社紹介された。それが蘇州の A 社やった。

私は蘇州と聞いて、即断った。97 年に一度旅行で蘇州を訪れたことがあって、とにかく汚い街っていうイメージしかなかったから。

Ā　Sūzhōu　Wǒ xiǎng zài Běijīng huò Shànghǎi gōngzuò ne
「啊？苏 州？我　想　在 北 京　或 上 海 工 作 呢。」

ええ、蘇州？　私は北京か上海で働きたいんですけど。

Jiǔmǐ xiǎojiě　nǐ zhème tiāotì de huà　zhǎobudào gōngzuò
「久 米 小 姐，你 这 么 挑 剔 的 话，找 不 到 工 作

de
的。」

久米さん、そんな贅沢言ってたら、仕事見つからないですよ。

そう言って怒られた。仕方なく、面接だけは受けることにした。

ひとつ失敗したことがある。若気の至りやと思ってる。パソナからアドバイスを受けた。

Nǐ de jiǎnlìshàng xiě de gōngzī yāoqiú nàgejīn'é tàigāo le
「你 的 简 历 上 写 的 工 资 要 求,那个金 额太 高 了。」

あなたの履歴書上に書いてる希望給料、あの金額高すぎるわ。

Nǐ néngbunéng xiūgǎi yíxià
「你 能不 能 修 改 一下？」

ちょっと書き変えられない？

Rénjiā kàn le hěn yǒu kěnéng búyào nǐ le
「人 家 看 了，很 有可 能 不要 你了。」

人が見たら、あなたのこといらないって言う可能性大よ。

その頃の私は素直やった。言われるがまま、希望給料を低く変えた。パソナの言うことは正しかったかもしれん。確かに日系企業の中国現地採用社員の給料は低い。その上、最近ではどんどん給料が低くなる傾向がある。でも、要望は要望で貫き通してたら、結果（実際の給料）はもうちょっとましやったかもしれん。

パソナは、私が書き変えた履歴書「jiǎnlì
简 历」をもって、A 社との面接日程を調整してくれた。元々の面接日程は私の期末テスト最終日「qīmò kǎoshì zuìhòu yìtiān
期末 考 试 最 后 一 天」やった。それを翌日に変更

してもらって、私は早速、北京―上海往復エアーチケットの手配をした。

2 面 接

北京から飛行機で上海へ、上海からはバスで蘇州に移動した。以前旅行で上海―蘇州間のバスに乗った時は高速道路を通ったのに、今回は一般道を通った。いつまでたっても田んぼばっかりで、途中ごっつい不安になってきた。バスの中は中国人ばっかり。スーツを着た私はすごい浮いてる感じがした。

蘇州の街に着くと、途中でバスが停まって降りていく人が出てきた。私はどこで降りたらいいか運転手に聞いてみた。

Xiānshēng wǒ xiǎngqù Xīnqū wǒ zài nǎr xiàchē hǎo ne
「先 生，我 想 去 新区，我 在 哪儿下 车 好 呢？」

私、新区へ行きたいんですけど、どこで降りたらいいですか？

Nǐ zài Jiāyúfáng xià hǎo le
「你 在 嘉 余 坊 下 好 了。」 *嘉余坊で降りたらええよ。*

Jiāyúfáng Wǒ búrènshi
「嘉 余 坊？我 不 认 识。」 *嘉余坊？ 私、知らないんですけど。*

Zuìhòu yízhàn de qiányízhàn a
「最 后 一 站 的 前 一 站 啊。」 *終点のひとつ手前の駅や。*

嘉余坊まで来た。でも、そこで降りた人は私だけやった。ごっつい淋しい場所で、潰れたレストランばかりが並んでる所やった。

人はポロポロ歩いてるだけ。

後ろからタクシーが一台通り過ぎていった。でも、そのタクシーはゆっくり走ってたから、後ろから声を掛けたら停まってくれた。

「到哪里？」 Dào nǎlǐ *どこまで？* （北京では「到哪儿？」Dào nǎr と巻き舌音で言うのに対し、南に下がってくると巻き舌がなくなって「到那里？」Dào nǎlǐ となる。）

「到新区。」 Dào Xīnqū *新区まで。*

タクシーは走り出した。なんとこのタクシーの運転手、後から分かったことやけど、私が将来蘇州で結婚する人の一番の親友「最要好的朋友」zuì yàohǎo de péngyǒu やった。私は中国人をまねて、タクシーの前の席に座った。そして、日本人とばれたら料金をピンハネされるかもしれんと思って黙ってた。

運転手「司机」sījī が聞いてきた。

「你要到新区的什么地方？」Nǐ yàodào Xīnqū de shénme dìfāng

新区のどこに行きますか？

「苏州假日酒店。」Sūzhōu jiàrì jiǔdiàn

蘇州暇日ホテルまで。

このホテルの名前、発音が難しかった。どもってしまった。あかん……もう日本人ってばれてもーた、と思った。仕方ないから、

下手くそな中国語で色々話し始めた。

Néngbunéng xiān dào gōngsī
「能不能 先 到A公司？」

先にA社へ行くことできる？

Hǎo
「好。」 *いいですよ。*

Wǒ míngtiān zài gōngsī miànshì xiǎng kàn yíxià shénme yàng de gōngsī
「我明天在A公司面试，想看一下什么样的公司。」

私、明日A社で面接やから、どんな会社か見ておきたいんです。

新区に入ると、料金表示のメーターが上がり始めた。それもすごいスピードで上がっていく。日本人やと思って、メーターが早く上がるボタンを押されたかと思った。でも実は、蘇州は街が小さいからタクシー料金は北京より高い。彼はピンハネはしてなかった。

次に私は、ホテルからA社まで歩いて行けるか聞こうとして、間違った中国語で聞いた。

Wǒ kěbukěyǐ cóng fàndiàn zǒudào gōngsī qù
「我可不可以 从 饭 店 走 到A公 司去？」

ホテルからA社まで歩いていけるかな？

彼は実は内心おかしくて笑ってたらしいけど（後々彼から聞いた）、まじめに答えてくれた。

Kěyǐ shì kěyǐ dànshì hěnyuǎn de
「可以是可以，但是很远的。」

いいのはいいけど、でも遠いよ。

何がおかしかったんか。日本語では「できる」という意味、中国語には三種類ある。

① 能 /可 能（néng kěnéng）　*可能である。能力がある。できる。*

② 会（huì）　*学習して習得する。できる。*

③可以（kěyǐ）　*許可を表す。できる。*

日本語にすると、どれも「できる」の意味やけど、これを使い間違えるとおかしい。

「我 可不可以 从 饭 店 走 到A 公 司去？」
（Wǒ kěbukěyǐ cóng fàndiàn zǒudào gōngsī qù）

この文章は、「可以（kěyǐ）」じゃなくて「能（néng）」を使うべき。「可以（kěyǐ）」やったら、「私はホテルからA社まで歩いて行くこと、許されてますか？」っていう意味になる。彼は心の中で、こう思ったらしい。

「那，当 然 可以 走 过 去的，能 走 的 话，到 上 海 都 可以 走 过去。」
（Nà dāngrán kěyǐ zǒuguòqù de néng zǒu de huà dào Shàng hǎi dōu kěyǐ zǒuguòqù）

そら当然歩いていってもええわ、歩けるんやったら上海までででも歩いて行ってもかまへんで。

でも彼は、外国人が間違えた中国語を使ってることを理解してくれて、遠いよと教えてくれた。

面接の前日に蘇州でこんな出会いがあって、翌日面接は無事終了した。面接はなんてことはない普通の面接やった。ちょこっと中国語を喋らされたけど、大したことなかった。そしてすぐ北京

に戻った。

この出会いも縁「yuánfèn 缘 分 」やったなぁと思う。中国にこういう諺がある。

「Yǒuyuán qiānlǐ lái xiānghuì wúyuán duìmiàn bù xiāngshí 有 缘 千 里 来 相 会，无 缘 对 面 不 相 识。」

縁があれば千里離れてたとしても出会うもんや、

反対に縁が無ければ面を向き合わせたとしても知り合いにさえもならん。

ほんまに季とは縁があったと思うわ。このエピソード以外にも他に二つ、縁があったんやと思う話がある。ひとつは、母が大学時代に住んでた寮の真向かいに“蘇州園”という大きな料亭があったそうや。よく“蘇州園”の周囲を歩いて散歩してたらしい。もうひとつは、父方の祖母は書道の先生で、昔蘇州まで筆「máobǐ 毛 笔」と硯「yàntái 砚 台」を買いに行ったことがあったらしい。季と結婚後、父のふるさとへ行った時に当時祖母が購入した筆を見せてもらうと、なんと、その筆は季の祖父の家の真ん前にある筆製造所で作られたものと分かった。

やっぱり縁ってあるんやな。

3　引越し

北京に帰った翌日、パソナから連絡があって面接結果は合格。すぐ蘇州へ来てほしいとのこと。私の計画では、六月末に期末テスト終了、その後二,三週間かけて中国国内旅行をし、七月末大学の終業式に出席、八月から出社、とこうなってた。それが、明日にも蘇州へ来てほしいっていう急ぎよう。

結局、旅行はなし。七月初旬に蘇州へ引越し、その後すぐ出社。終業式だけは出たいと会社にお願いして、その日は会社を休んで終業式に出席することになった。

さぁ、引越しや！北京から蘇州まで、どないして引越し「搬家(bānjiā)」するか。北京－上海：飛行機二時間、上海－蘇州：車一時間半の距離。日本やったら引越業者があって日本全国引越しできる。でも当時、中国全国引越し可能な業者「搬家公司(bānjiā gōngsī)」っていうのは外資系大手運送業者しかなく、そんなところは費用が高すぎて、とても利用できへんかった。

ほな、荷物は郵便で送るしかない。先に送れる荷物をダンボールに詰めて、その重いダンボールを自転車の後ろに乗せ、ヨタヨタしながら一人で郵便局まで運んだ。

「我(Wǒ) 要(yào) 寄(jì) 包裹(bāoguǒ)。」　*小包み送りたいんですけど。*

Yào jì nǎge
「要 寄 哪个？」　*どれを送るの？*

Zhèxiē xiāngzi
「这 些　箱 子。」　*これらのケース。*

À bùxíng bùxíng Nǐ yào huànge xiāngzi Nǐ yào yòng yóu jú zhǐdìng de xiāngzi
「啊，不 行，不 行 。你 要 换 个 箱 子。你 要 用 邮 局 指 定 的 箱 子。」

ああ、ダメダメ。ケース換えなあかん。郵便局指定の箱使わなあかん。

Á Wǒ yǐjīng fànghǎo le xiànzài huàn xiāngzi shì bù xíng de
「啊？我 已 经　放 好 了，现 在　换　箱 子 是 不 行 的。」

ええ？ 私もう詰めてあるやん。今から箱換えるやってあかんわ。

Búhuàn xiāngzi jiù bùnéng jì de
「不 换　箱 子 就 不 能 寄 的。」

箱、換えへんかったら、送られへんよ。

てな訳で、そこでまた詰め替え作業。全部でダンボールが六箱、寮と郵便局の間を、ヨタヨタしながら何往復もした。費用は日本円で数千円やった。重労働やった。

Yào guàhào ma
「要 挂 号 吗？」　*書留めにする？*

Yào guàhào
「要 挂 号 。」　*書留めにします。*

これで送れる物は全部送った。蘇州に持って行かへん物でまだ使える物は、北京に残る友人たちにあげた。郵送できへん荷物は手で持っていくことになった。スーツケース二つ、ダンボール箱一つ、カバン二つというすごい荷物になった。

さぁ、引越しの当日。大荷物を持って、友人たちが寮から大学の門まで見送りをしてくれた。これで北京ともお別れ、留学生活ともお別れ、友人たちともお別れ……。涙が出そうになった。でも、泣きたくなかったから、別れの言葉もろくに言わんと、私はタクシーにさっと乗った。「谢谢(Xièxie)！」と「再见(Zàijiàn)！」だけ言って、友人たちと別れた。そうして北京での留学生活ともさよならした。

すごいぞ中国人（北京編）

ここでは北京の街角で見たすごい中国人を紹介。日本人から見れば「すごい……」と思えることも、中国ではごく普通のこと。

・ 白いワンピースに腋毛ボーボー

故宮を観光し終わって、故宮北にある「景山公園」という小高い丘に登っていた時のこと。前から真っ白なワンピースを着た女性がやってきた。「わぁ、きれい！」と思った瞬間ゲンナリした。ノースリーブの下から腋毛がボーボーに生えてる！白いワンピースやから、それはもう目立つ！

中国の女性は、腋の下の毛はそのままにしてることが多い。夏は気を使ってほしい。

・観光地でパジャマ

北京の観光地に行ってよく見かけた中国人、それがパジャマを来て観光してる人。時々空港でも見かけたことがある。なんでパジャマなんか着てるんやろう……？

・観光地での写真撮影

中国人は写真撮影に命を掛ける。グラビア写真のようなポーズを取る。例えば、湖のほとりに小さい岩があれば、どんな手段を使ってでも､何としてでもその岩に這い上がろうとする｡そして、今まで必死に岩を這い上がってたくせに、カメラを向けられた途端、急にすごいポーズを作る。

・赤ちゃん丸裸、自転車の籠の中

北京の夏は暑い｡オーブンの中におるみたい｡……かといって、赤ちゃんを丸裸にしとくことはないやろう。しかも驚いたのは、自転車の籠の中に丸裸の赤ちゃんをポーンと入れたまま自転車こいでる。

・赤ちゃん股割れズボン

最近日本のテレビでも紹介されたけど、中国の赤ちゃんは股割れズボンを履いてる。大きい子なら、五歳くらいまでは股が割れたズボンを履いてる。見た目はごっついかっこ悪い。男の子やったら前から見たらおチンチン丸見えやし、後ろから見たらお尻が見えてる。でもこれが優れものと言われる訳は、用を足したくなったら､パンツを脱がんでもそこで屈むだけで用が足せるからや。

中国におったら何度も目にするのは、スーパーとかお店の出入り口でシーッとおしっこをしてる子供がおること。どこでもかしこでも用を足してる。一番最悪やと思ったのは、北京そごうの店の中で用を足してる子供がおったこと。それも、エルメスという高級ブランドのブースのまん前で！ああ……

・スカーフを頭からすっぽり被って自転車運転

北京や天津は黄砂がある。ひどい日になると、外で喋ることもできへん。いっぺんに口の中が砂だらけになってしまう。それほどひどい黄砂の中で、自転車を運転するのは大変や。そこで中国人が考えたのが、スカーフを頭からすっぽり被って首で巻き付け固定する技。スカーフは半透明やから、頭と顔をすっぽり覆っても前は見える。これはグッドアイディアや。黒っぽいスカーフやったら、一瞬銀行強盗かと思うけどな。

・公衆トイレ

昔、中国の家にはトイレがないところが多く、北京やったらみんなが日常的に公衆トイレを使ってた。そんな街中にある市民の公衆トイレに入っていくと、大抵中は壁で仕切られてブースに区切ってないし、ドアも何もなくて、溝があるだけ。それも、一時

間に一回水が流れるだけやから、前の人のものが残ったまま……。

このトイレ様式にも驚くものがあるけど、トイレ文化にもすごいものがある。既に中で用を足してる最中のおばちゃんがおるのに、後から入ってきたおばちゃん、ズボンをずり下ろしながら入ってきた。そして二人で用を足しながら会話してる（彼女たちは知り合い）。中国人は人前で用を足すのは結構平気らしい。

でも、最近の観光地とか百貨店とかのトイレは、ちゃんとブースがあるのでご安心を。（但し、鍵をかけないで用を足す人が多いので、ドアを開ける時は要注意。）

・男性のズボンまくり上げ

夏のレストランでよく目にするもの。それが、男性がズボンを太ももまでまくり上げて食事をする姿。結構エリートそうなスーツを着た男性でさえ、ズボンをまくり上げてる。あと外でよく見かけるのは、T シャツを胸まで捲り上げて、乳首が見えてる人。そんなんでええの？

・女性のパンスト

中国のパンストは質が悪いからたるんでる（フィットしてない）。あと、くるぶしまでのパンストとか、膝までのパンストとか履い

て、パンストの切れ目が見え見えや。スカート履いて、靴下的にパンスト履いてる。あれはごっつい格好悪いと思う。

・歩きながら本を読む学生

大学のキャンパス内で、よく歩きながら本を読んでる学生を見る。そんな学生、日本では見たことがない。中国の学生はほんまによく勉強する。すごいと思う。

なんで部屋とか図書館で勉強せんと、外で歩きながら勉強するんか？　最初は不思議に思ったけど、理由を知って、彼らのことをもっとすごいと思った。中国人の寮は、ものすごく狭い部屋に四人から六人がすし詰めにされてる。部屋にはベッドしかなくて、とても勉強するスペースはない。そしたら図書館はというと、席の空きがほとんどない。ほな、必然的に外で勉強するしかなくなってくる。今の日本では見られへん苦学生の姿や。

・国営百貨店、喋りながら仕事する店員

客がおるのに、台に肘をつきながら喋ってる店員の何と多いこと。百貨店だけとちゃう。中国人は喋りながら仕事するのが普通と思ってる（現在の競争社会で、上海とかの大都会の若者は変わってきてるけど）。「私語」っていう感覚がない。昔、国営企業で

は個人の能力とか仕事量に関らず給料が一律やったから「サボった者勝ち」みたいな悪い習慣が根付いてた。そのなごりを国営百貨店の服務員の態度で見ることができる。

・乗客がおるのにガソリンを入れに行くバス

バスが路線から外れたと思ったら、ガソリンを入れに行く。乗客はガソリンを入れてる間、ずっとバスの中で文句も言わんと待ってる。なんで乗客乗せる前に行っとかへんねん！でも、こんなバス、私は留学中に何回も乗った。今でもあるんやろうか……？

・よく故障するバス

街でよく故障して止まってるバスを見る。私もたまに、乗ってるバスが途中で故障するのに遭遇したことがあった。黙ってバスから降りて故障を直しに行く運ちゃんもおれば、「お〜い、みんな乗り換えてくれ〜！」と言ってくれる運ちゃんもおった。「小伙子(xiǎohuǒzi)！（兄ちゃん！）」と叫んで若者を外に出し、みんなでバスを動かす指揮を取った運ちゃんもおった。普通、客使うか？

蘇州にて

就職、結婚、転職

1998年9月 ～ 2002年6月

↑蘇州で勤務している時の出勤道（のどかぁ～）↓

↑蘇州で勤務していた時の中国人上司と乾杯

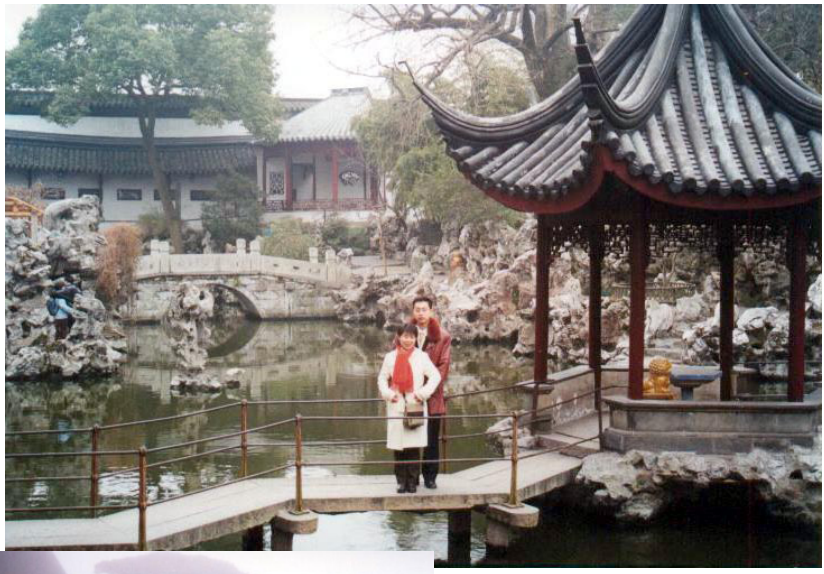
蘇州で働く

社員旅行全体写真（普陀山にて）

↑友人の結婚式（宴会）　これが花嫁です。

友人の結婚式

新郎新婦を乗せて街をねりまわる花車。カメラマンもいる。↓



蘇州庭園獅子林で、王さんの前で結婚の約束をさせられた（？）

←黄山にて／霧で覆われ、何も見えない。
雨に濡れビシャビシャになった本人。着ているのは２元のピラピラナイロンのカッパ。

黄山にて夫の季と…／この頃、まさか結婚することになるとは思っていなかった、やっぱり２元のピラピラナイロンカッパを着てます。
↓

新婚生活の新居用として→
一旦は購入したマンション

私の結婚

↑蘇州新区（マンションの
ベランダから見た景色）

←手渡されるコンクリート
壁（内装なし）の家

←お世話になった王さんと
蘇州庭園内で

お世話になったカラオケの
マスター／私の誕生日パー
ティーを開いてくれた。
一番手前は、差別を受けて
カツを入れる為刈り上げして
少し髪の毛が伸びてきた頃の
私。　↓

お世話に
なった蘇州

蘇州にある世界文化遺産、拙政園　↓

一　買い物

1 自由市場にてPart2

新しい生活が始まった。新生活といえば、やっぱり最初は買い物や。まずは食べ物の買出しで、市場に行った。屋台のおっちゃん、おばちゃんたちが私の方を注目してる。なんでやろう、とその時は思った。今思えば、当時は私もどこから見ても日本人で、それも新顔。彼らは「ええカモが来た。」と思ったに違いない。

「阿姨，西红柿一斤多少钱？」
Āyí xīhóngshì yìjīn duōshǎoqián

おばちゃん、トマト500gいくら？

「五块六。」 *五元六角。*
Wǔkuàiliù

「这么贵！能不能再便宜一点？」
Zhème guì Néngbunéng zài piányi yìdiǎn

そんなに高いん！もうちょっと安くならへん？

「不行。」 *あかん。*
Bù xíng

また別のおばちゃんの屋台で聞いてみた。やっぱり同じ五元六角。北京やったら三元くらいで買えたのに、蘇州はなんでこんなに高いんや、と思った。他の野菜も全部北京より高い、なんでやねん。結局、屋台のおばちゃんらはグルになって、私に高く売りつけてたみたいや。

蘇州人とか上海人は商売上手や。特に蘇州人は、外地人「外地
wàidì

rén
人」（蘇州以外の土地の人）に対して高く売りつけることが往々にしてある。（なんで外地人と分かるかというと、蘇州人は蘇州語を喋るから。外地人は蘇州では共通語を喋る。）相手が外国人やったらなお更や。外国人も何種類かに分けられる。「lǎowài
老 外」と呼ばれる欧米人たち（「lǎowài
老 外」は「外国人」という意味やけど、一般的にアジア人を指して言うことはほとんどなく、白人に対してのみ使われることが普通。）に対しては寛容的な態度を取ることが多い。蘇州人は「lǎowài
老 外」に対してはやさしい。日本人に対してはどうかというと、「あいつらから金をたくさん取ってやろう。」という、金目当ての対象や。韓国人は嫌われてる。なんでかと言うと、商売上手な蘇州人より上手をいってて、ごっついえげつない値切り方をするからしい。台湾人はもっと嫌われてる。それは、色々理由があるんやろうけど、ここでは述べんことにしとく。

私はしばらく、高く売りつけられた市場には行かんと、別の市場に行くことにした。

蘇州人は、食材を買うのがすごいうまい。ほうれん草「bōcài
菠 菜」は小さい葉の方が甘いとか、りんご「píngguǒ
苹 果」やみかん「júzi
橘子」のおしりはどんな形のが甘いとか、食材選びのポイントが色々ある。だから、屋台のおばちゃんたちも頑張って、これがおいしい、あれがおいしいと売り物のアピールをする。

Lái lái lái Luóbo yàobuyào mǎi
「来，来，来！萝卜，要不要买？」

いらっしゃい、いらっしゃい、大根いらんかぁ？

Zhège luóbo zěnme zhème xì
「这个萝卜怎么这么细？」

この大根、なんでこんなに細いねん！

これは蘇州人の買い物のテクニック。買いたい物が見つかったら、すぐその商品の欠点「毛病（báobìng）」を探し出す。そして、その欠点「毛病（báobìng）」をネタに値下げを迫る。

Zhège luóbo hǎochī de Suīrán xì dànshì shuǐfèn hěnduō
「这个萝卜好吃的！虽然细，但是水分很多。
Yàobuyào dǎkāi kànkan
要不要打开看看？」

この大根うまいねんで。細いけど、水分いっぱいあるで。割って開けて見てみるか？

大根を買う時は、その場で大根を割って、中を見せてもらうことがよくある。すの入った大根とか、筋の入った大根とかがすごく多い。割ってみて、悪い大根やったら、別に買わんでもええ。

Hǎo dǎkāi ba kàn yíxià
「好，打开吧，看一下。」

ええよ、ほな割って。見てみるわ。

Nǐ kàn Hěnhǎo ba Shuǐfèn hěnduō de
「你看！很好吧！水分很多的。」

ほら見てみぃ。ええやろ。水分多いで。

A shì Zěnme mài ya
「啊，是。怎么卖呀？」

ああ、せやな。いくらやねん。

Liǎngkuàibā
「两 块 八。」 *二元八角。*

Zhème xì de liǎngkuài jiù hǎole ba
「这 么 细 的， 两 块 就 好 了 吧。」

こんな細いんやから、二元にしたらええやんか。

Bùxíng bùxíng
「不 行 ，不 行 。」 *あかん、あかん。*

Zhème xìde luóbo shuí mǎi ya Nǐ zài bupiányi de huà
「这 么 细 的 萝 卜，谁 买 呀。你 再 不 便 宜 的 话，
màibudiào de
卖 不 掉 的。」

こんな細い大根、誰が買うねん。もっと安くせな売れへんで。

痛いところを突かれたら、安くせざるを得ない。

Hǎoba Liǎngkuàiwǔ hǎobuhǎo
「好 吧。 两 块 五，好 不 好？」

ええわ。二元五角、どや？

Liǎngkuàisān wǒ jiù mǎi
「两 块 三，我 就 买。」 *二元三角やったら買うわ。*

Hǎo nàme liǎngkuàisān ba
「好，那 么 两 块 三 吧。」 *ええよ。ほな二元三角や。*

値段交渉が終わってからも気を抜くことはできへん。市場では秤で重さを量るから、量り間違えてないか、故意に重く量られてへんか、チェックせなあかん。

市場は中国語を磨く絶好の場所。同時に、中国人の買い物テクニックを習える場所でもある。買い物せんと、見に行くだけでも結構おもしろい。

2　自転車を買う

北京では自転車「自行车(zìxíngchē)」を買わんかったけど、蘇州では絶対自転車がいると思った。通勤には必要やし、食材の買出しでも自転車がなかったらやっていかれへんと判断した。

蘇州で一番大きい自転車屋に行った。種類はいっぱいあった。

「你要买什么样的(Nǐ yào mǎi shénmeyàngde)?」　*どんなの買いたいんや?*

「一般的就好了(Yìbān de jiù hǎole)。」　*普通のでええねん。*

「大概多少钱的(Dàgài duōhǎoqián de)?」　*大体いくらくらいの?*

「一百块出头一点的(Yìbǎikuài chūtóu yìdiǎn de)。」　*百元ちょっと超えるくらいの。*

「那么，你看这里的好了(Nàme nǐ kàn zhèli de hǎole)。」

ほな、この辺りの見たらええわ。

自転車は勝手に見たらいい。店員もずっと着いてまわって説明することもない。商品にはいくら触っても文句言われへん。試乗もできる。

「老板，我想试试。能不能让我骑一下(Lǎobǎn wǒ xiǎng shìshi Néngbunéng ràng wǒ qíyíxià)？」

店長、私、ちょっと試してみたいんやけど。乗らせてくれへん?

「好的。我准备一下。你等一等啊(Hǎode wǒ zhǔnbèi yíxià Nǐ děngyiděng a)。」

ええよ。準備するから、ちょっと待ってや。

外で乗らせてもらって、気に入ったら買う。

Lǎobǎn wǒ juédìng mǎi zhèliàng liàng
「老 板，我 决 定 买 这 辆 。」(自転車の量詞は「 辆 」)

店長、私、これ買うことにするわ。

この自転車店は国営店やったから、値切り交渉は不可。個人のお店「sīréndiàn私人 店 」やったら値切ってもいい。

Lǎobǎn lánzi yáo de hěnlìhai Bāng wǒ kòuzhù ba
「老 板，篮 子 摇 得 很厉害。 帮 我 扣 住 吧。」

店長、籠がごっつい揺れるねんけど、固定してくれるか。

Ránhòu dèngzi de gāodī bāng wǒ tiáoyíxià ba
「然 后， 凳 子 的 高低， 帮 我 调 一 下 吧。」

それから、椅子の高さ調整してや。

中国で自転車を買ったら、まず、その場で不具合を確認せなあかん。日本と違って、売ってる自転車のねじは、至るところ緩みまくり。お店でも大体ひどい部分は直してもらわなあかんけど、乗って帰る途中、自転車の修理屋台（おっちゃんが路上で自転車の修理をしてるところ）があったら、そこで全部見てもらった方がいい。

店長が受領書「shōujù收 据」を書いてくれるから、それを受け取ったらレジ「shōuyíntái收 银 台」にお金を払いに行く。自転車は百四十元やった。「shōuyíntái收 银 台」で百四十元を払おうとすると、小姐が言った。

Xiǎojiě nǐ zài gěiwǒ èrshíkuài qián ba
「小 姐，你 再 给 我二十 块 钱 吧。」

お譲ちゃん、あんたあと二十元くれるか？

Á Èrshíkuài qián Zhè shì shénme qián a
「啊? 二十 块 钱 ? 这 是 什 么 钱 啊? 」

え？ 二十元。それ、何のお金？

Nǐ zhèlǐ kàn yíxià yǒu xiěde Zhè shì shuì nǐ fùle cái néng shàngpái
「你 这 里 看 一下，有 写的。这 是 税，你付了 才 能 上 牌。」

ここ見てみぃな。書いてあるやろ。税金や。これ払って初めてプレート付けれるんや。

おっと、それは知らんかった。中国には自転車税があって、その上、自転車にはナンバープレートを付けなあかんかった。ちなみに自転車税は各省や市で金額が違うみたいで、私の留学当時北京では確か四元やったと思う。

Nǐ yǒuméiyǒu shēnfènzhèng
「你 有 没 有 身 份 证 ？」 *身分証あるか？*

Shēnfènzhèng Méiyǒu Wǒ shì Rìběnrén
「身 份 证 ？ 没 有。我 是 日 本 人。」

身分証？ ない。私、日本人や。

Nà nǐ yǒuméiyǒu dài hùzhào
「那，你 有 没 有 带 护 照 ？」

そしたらパスポートあるか？

Jīntiān méidài
「今 天 没 带。」 *今日は持ってきてない。*

ナンバープレート付けるには、身分証も必要やった。それも知らんかった。お店と交渉して、自転車だけは乗って帰ることにして、一週間以内にもう一回パスポートを持って、プレートを付けにくることになった。

さすが自転車の国やと思った。自転車買うのでも、日本で買うようなわけにはいかんのや。

3　家電製品を買う

私が家電製品「家电(jiādiàn)」を買ったのは、今の夫と付き合いだしてから。それまでは、マンションのレンタルの家電製品を使ってた。それがムチャクチャ高くて、家電製品一個につき月二十ドル、エアコンとテレビ以外、洗濯機、冷蔵庫、電子レンジで月六十ドルも払ってた。

季（夫の苗字）がそれを知って、一緒に家電製品を買いに行ってくれることになった。最初に買いに行ったのがステレオやった。なんでかというと、ステレオだけはレンタルがなくて、ずっと音楽が聴かれへんかったから先に買いたかった。

「你不要 说 话。人 家 知 道 你不 是 中 国 人，
Nǐ búyào shuōhuà Rénjiā zhīdào nǐ búshì Zhōngguórén
会 用 高 价 卖 给 你的。」
huì yòng gāojià màigěinǐ de

おまえ喋ったらあかんで。おまえが中国人じゃないって分かったら、高く売りつけられるからな。

私はずっと黙ってることになった。私がお店で気に入ったステ

レオを見つけたら、季が店員と交渉に入った。彼らは蘇州語で交渉してたから、何て言うてるか、まったく分からんかった。しばらくして店頭でステレオの電源を入れて、音楽を聴き始めた。

Hǎobuhǎo Nǐ tīngting
「好不好？你听听。」（音の質は）*ええか？聴いとけよ。*

それからまだ色々調整したり、音楽を変えたり、ラジオにしたり、ステレオの調子をチェックしてる。問題がなさそうやと分かったら、店員がダンボール箱をどっかから持ってきて、今チェックし終わったステレオを箱に詰め始めた。

Zài zuò shénme
「在做什么？」 *何してんの？*

Bāoqǐlái ya
「包起来呀。」 *梱包してるんや。。*

Wèishénme
「为什么？」 *なんで？*

Búshì yào dàihuíqù de ma
「不是要带回去的吗？」 *持って帰るんやろ？*

Yào dàihuíqù de Dànshì búhuì shì bǎ zhètái yīnxiǎng dàihuíqù ba
「要带回去的。但是，不会是把这台音响带回去吧？」

持って帰るよ。でも、まさかこのステレオを持って帰るんとちゃうやろ？

Zěnme le Shì yào dài zhètái yīnxiǎng huíqù de
「怎么了？是要带这台音响回去的。」

なんで？ このステレオを持って帰るんやで。

Yǒuméiyǒu xīnde Wǒ búyào diànlǐ fàngzhe bèirén mōguò de
「有没有新的？我不要店里放着被人摸过的。」

新しいの、ないん？私、店に置いてて他の人が触ったことのあるのは嫌や。

［注意］ ①音响（yīnxiǎng）：ステレオ

②音像（yīnxiàng）：映像と音響に関する電気製品の総称

こう言うと、季が説明してくれた。中国は、電気製品で不良のものがよくあるから、店先で不良品じゃないかどうか確認して、商品に問題がないことを確認したものを持って帰るようにせなあかんらしい。

もちろん値段交渉もして、持って帰る準備もしてもらったら、今度はリヤカーを手配してもらった。店から家までリヤカーで運ぶらしい。リヤカーって、前でおっちゃんが自転車漕いで、後ろに車付けてるやつやで。トラックで配送とちゃう、リヤカーで配送。しかも季は、私にそのリヤカーに乗って行けと言う。リヤカーの運ちゃんは、外地人で私の家がどこにあるか分からんから、一緒に乗って道案内せなあかんって言う。

真夏やった。リヤカーの後ろにステレオと一緒に乗って、蘇州の街を走った。暑かった。リヤカーの運ちゃんはもっと暑かったと思う。一時間もかかった。家に着いて、運ちゃんには冷たいジュースを二杯あげた。

他にも家電製品買ったけど、どれも買うのに大変な思いをした。

中国での買い物、大きい買い物になると、ほんまに一筋縄ではいかんわ。

但し、最近では、電気商店「diànqìchéng 电 器 城」同士の競争も激しくなって、サービスがかなり向上してきてる。大物家電商品を買っても、店の手配で間違いなく家まで配送してくれるようになってるのでご安心を。

4　家電製品の売り場

仕事の関係もあって､家電製品売り場にはよく行った｡ここで、おもしろいと思った売り場のキャッチフレーズを紹介しよう。中国にも日本と同じような電気店があって、大きな店になると各メーカーごとに販売員（説明員）を置いてるところが多い。

冷蔵庫：ある欧米メーカー　diànbīngxiāng mǒuyíge Ōuměi chǎngjiā 电 冰 箱 ：某一个欧 美 厂 家

「Kàn yíxià zhège sùliào hěn láo de Kàn Wǒ zhànzài zhège shàngmian dōu búhuì suì yě búhuì liè 看 一下，这 个塑 料 很 牢 的。看！我 站 在 这 个 上 面 都 不 会 碎，也 不 会 裂。」

ちょっと見てや｡このプラスチックすごいしっかりしてるねん。見て！　私がこの上に立っても割れへんし、亀裂も入らへん。

冷蔵庫の中にある透明プラスチックのチルドの引き出しを出してきて、その上に乘る女性販売員。そして、その上で軽く飛んで見せてみる。プラスチックの強度を売り物にする冷蔵庫の宣伝方法は初めて見た。

中国人は生ものを食べへんし、食材を買ってきたら、大抵その日にすぐ調理してしまう。冷蔵庫に入れるのは、調味料、飲み物、残り物のおかずくらい。保冷さえされればいいだけやから、日本で要求されるような鮮度を保持する機能はそんなに重要視されてない。冷蔵庫、保冷機能があるのは当然やから、あとは何を売り物にするか。まさか、プラスチックの強度を売り物にするとは･･･。

洗濯機：日系Ｍ社『遠心力』　洗衣机：日系Ｍ公司『离心力』

xǐyījī　Rìxì gōngsī　líxīnlì

Fàng cānjīnzhǐ jìnqù dōu búhuì suì

「放 餐巾纸进去都不会碎。」

ティッシュペーパー入れても破れない。

90 年代中国の洗濯機は、とにかく服がムチャクチャ絡んだから、それを解消した製品が続々と出てきた。この「ティッシュペーパーを入れても破れない」というキャッチフレーズは画期的で、多くの売り場で、洗濯機の外側半分を透明にして、中が見えるようになったサンプルが置かれた。本当にティッシュペーパーは破れてなかった。

エアコン：日系Ｓ社　空调：日系Ｓ公司

kōngtiáo　Rìxì gōngsī

Zhōngguórén shèjì de kōngtiáo
「中 国 人 设 计 的 空 调」

中国人が設計したエアコン

外資系メーカーの製品は、本国で設計されて、中国でそのコピーが作られてることは中国人みんな知ってる。一般的に、日系メーカーの製品は“高いけど高技術で品質がいい”と認識されてるから、それを「中国人自身が設計した」と宣伝したら、そりゃ、中国人は自尊心をくすぐられて、「よし、買ってやろう」っていう気になると思う。これはうまいキャッチフレーズやったと思う。

wēibōlú
電子レンジ　微波炉

これは値段勝負だけ。今まで一番安いので、百三十八元（日本円で約 1,800 円）っていうのを見たことがある。中国人はオーブン機能をほとんど使わへん。必要なのは温める機能だけ。だから値段勝負になってくる。

shǒujī　diànnǎo　shù
最近は、携帯電話「手 机」、パソコン「电 脑」、デジカメ「数
mǎ zhàoxiàngjī　děnglízǐ xiǎnshì
码 照 相 机」、プラズマディスプレイ「等 离 子 显 示」の売り場がにぎわいを見せてる。中国に行く機会があったら、一度、電気店に入ってみてもおもしろい。

二　出　社

1　蘇州語

出社して、ごっついショックを受けたことがあった。それは、蘇州に蘇州語「苏 州 话 Sūzhōuhuà」というものがあったことや。

会社で仕事してると、まわりの中国人はみんな蘇州語を喋ってる。聞いても全然分からへん。いわゆる、中国語の方言やけど、中国これだけ広いと、方言といっても全然違う言葉になる。どのくらい違うかっていうと、中国語とスペイン語くらい違うと私は思った。何の為に一年間北京で中国語を勉強したんやろうと泣きたくなった。朝のミーティングでも、中国人は蘇州語しか喋らへん。会議やねんから、みんなが分かる言葉、共通語の「普 通 话 pǔtōnghuà」を喋ってくれてもいいのに、全然喋ってくれへん。最初はほんまに泣きそうやった。

「请 讲 普 通 话。Qǐng jiǎng pǔtōnghuà」　*共通語で喋って下さい。*

そう言うと、蘇州人はピタリと話を止める。一瞬の沈黙の後、共通語で話し始めるんやけど、二、三分もすると、また蘇州語に戻る。

蘇州人は、話してるとどうしても蘇州語になってしまう。私かて、日本語喋ったら大阪弁になるねんから、彼らが蘇州語を喋る

のは自然なことやと理解できる。でも、蘇州人が蘇州語を好んで使うのには、色々理由があると思う。

1. 自分は蘇州人やというプライド「自尊心 zìzūnxīn」がある。

蘇州は二千五百年もの歴史がある街で、昔は呉の国の首都やった。上海は反対にただの農村と漁村しかなかったから、蘇州人は今でも上海人を田舎者「乡下人 xiāngxiàrén」呼ばわりする。

2. 蘇州語は耳触りがいい。「苏州话好听 Sūzhōuhuà hǎotīng」

私には、ただの“ズーズー弁”にしか聞こえへんねんけど、中国人いわく、蘇州語は耳触りがいい「好听 hǎotīng」らしい。特に、女性が喋る蘇州語はきれいらしく、彼らは蘇州語を喋る時、すごく誇らし気に喋る。中国ではよく、「女性が蘇州語を喋ると、まるで歌っているように聞こえる。」と言われる。

3. “上有天堂，下有苏杭” “Shàng yǒu tiāntáng xià yǒu SūHáng”

これは諺で、蘇州と杭州は天国と同じくらい美しいという意味。蘇州はそのくらいいい街という誇りがある。

4. 仲間意識「自己人 zìjǐrén」

中国人は同郷の人同士で仲間意識が強いところもある。中国語で「自己人 zìjǐrén」って言うけど、日本語では「身内」とでも訳せるやろうか。蘇州人も、中国の他都市の人たちと同じように、「自己 zìjǐ

rén
人」と外地人や外国人を区別してる。その区別を蘇州語を使うことで表現してるんかもしれん。

ちなみに、共通語「普通话(pǔtōnghuà)」と蘇州語「苏州话(Sūzhōuhuà)」がどれだけ違うかの例を書くと、

共通語「普通话(pǔtōnghuà)」	蘇州語「苏州话(Sūzhōuhuà)」	日本語訳
nǐhǎo 你好	你好　ねぇは	こんにちは
zàijiàn 再见	再会　ぜぅうぇ	さようなら
xièxie 谢谢	谢谢　しゃや	ありがとう
duì 对	对的　てぇが	はい(Yes)、正しい
búduì 不对	不　ふぃえ　いいえ(No)、正しくない	
xǐliǎn 洗脸	洗面　かぁぅみ	顔を洗う
chīfàn 吃饭	吃饭　ちぇえヴぇ	ご飯を食べる

蘇州語では、ほんまに苦労させられた。北京という共通語を一般的に使う世界から、方言のある土地にやって来たら、その言葉の壁によって受けるカルチャーショックはかなり大きい。大げさな言い方じゃなくて、中国語を頑張って勉強してきたその努力が全部水の泡となって消えてしまったと思うくらい打撃が大きかった。

打撃も大きかったし、苦労もしたけど、でも不思議なことに慣れてきたら、出張とかで外地から蘇州に戻ってきて蘇州語が聞こ

えてくると、すごくほっとしたりした。おもしろいもんや。

2 食 堂

私が勤務した会社は工場やった。中国の工場には必ず食堂「食堂(shítáng)」があって、食費は会社負担。毎月会社から社員に一か月分の食券が配られる。食事はアルミプレートに山盛りで、ご飯とおかず五種類、スープに果物「饭，五 种 菜， 汤， 水 果(Fàn wǔzhǒngcài tāng shuǐguǒ)」がある。王将の定食でも、ここまで多くないと思う。私はその三分の一も食べれたらいい方やけど、中国人は女性でも全部ペロリと食べてしまう。工場の作業員になると、おなかが空くからか、山盛りおかわりしてる。

私は入社当初、同じ課の中国人女性たちと一緒に食事をした。そこで学んだこと。

1.「頂きます」

中国語には食べる前に言う「頂きます」という言葉はない。(「頂きます」という習慣は、日本人独特のもので、海外ではあまり見られない習慣やと思う。) 中国人は、食べる前に手を合わせて何か

言うような動作も何もない。強いて言うなら、

Wǒmen chī ba
「我 们 吃 吧。」　*私たち（一緒に）食べようや。*

Bùhǎoyìsi wǒ xiān chīle
「不好意思，我 先 吃了。」

悪いな、私先に頂くわ。（自分が先に食べる時）

Nǐ xiān chība
「你 先 吃吧。」

あんた先に食べや。（相手に先に食べるように促す時）

Chība chība
「吃吧，吃吧！」

食べよ、食べよ！（親しい仲間と一緒に食べる時）

このくらいかな……。

2.「ご馳走様」

この言葉も中国語にはない。「ご馳走様」っていうのは「お料理が大変おいしく、素晴らしい食事でした。」っていう意味やから、そのまま訳すと「Hǎochī 好 吃。(おいしかった)。」となるかもしれへん。

例えば、中国人の家にお呼ばれして、そこで出してもらった手料理を食べ終わった後には「Jīntiān de cài hěn hǎochī a 今 天 的 菜，很 好 吃 啊。(今日の料理、とってもおいしかった)」と言うのは大丈夫。でも、食堂で食べた後に「hǎochī 好 吃」と言うのはおかしい。

ほな、どう言うのか。

Mànmànchī
「慢 慢 吃。」　*ゆっくり食べてな。*

数人で一緒に食べてて、自分が先に食べ終わると、まだ食べてる人に対して言う言葉。これが、日本語の「ご馳走様」の代わりになる。ほな、自分が最後に食べ終わったらどう言うのか。何も言わんでもええし、強いて言うなら、

「我 吃 好 了。」　*私、食べ終わった。*

(注意：「好 吃」と「吃 好 了」は全然意味が違う。

「好 吃」は「おいしい、おいしかった」。

「吃 好 了」は「食べ終わった」。)

3. 魚の食べ方

上海、蘇州近辺の中国人は、魚を食べるのがごっついうまい。日本人のほとんどの人は、魚を食べる時、手で魚の肉と骨を分けると思う。でも、蘇州人は手は絶対に使わへん。小さい骨が多い川魚を食べることが多いけど、お箸と口（舌）だけで、魚の肉と骨を分けて、骨は口から「ペッ！」と吐き出す。

最初、見てたら「汚いな〜。」と思ったけど、蘇州人から言わせたら、私の食べ方の方が汚いらしい。手は汚いから、その汚れた手で魚を触って、その魚を食べる、不衛生と言う訳や。「ペッ！」と吐くのは下品かもしれんけど、合理にかなってると思った。

4. えびの食べ方

これは、魚の食べ方よりもっとすごい。中国では、えびの皮もそのままで調理されてることが多い。皿の上に乗ってるのは、ひげも足も皮も全部ついたままのえび。私は、そのえびの皮を手で剥がしてからやないと食べることができへん。でも、蘇州人はすごい。えびをそのまま口の中に入れて、口の中でえびの皮と肉を分けてしまう。達人になると、えびの皮が脱皮したみたいに、そのままの形で舌の上に乗って出てくる。食べるコツは、えびを口の中に入れる時、えびの背中を口に向けて入れる。つまり、えびが口の中に入った後でも、えびの足が口から出ている状態。そして、えびの皮と肉を口の中でモグモグと分けている間、口からえびの足が出たままで、口をモグモグするたびに、えびの足がぴらぴらと動く。しばらくしたら、舌の上に脱皮したようなえびの皮が乗って出てくる。ほんまにすごい！

3　名前を呼ぶ

会社に入ってすぐ気付いたことがある。それは中国人の名前の呼び方が日本と少し違うこと。

普通、日本人やったら、人の名前を呼ぶ時、「さん」付けで呼ぶ。社内で後輩を呼ぶ時「ちゃん」を付けたりもする。例えば、私やったらよく「久米ちゃん」と呼ばれたりした。

ほな、中国ではどう呼ぶんか。

1 フルネームで呼ぶ。

「さん」などの呼称は付けず、呼び捨てのまま日本人的に考えたら、ちょっと変な感じや。例えば会社で、私のことを「久米ひろみ！」と呼ぶ人はおらん。でも、中国人の名前は短いから、フルネームで呼んでもおかしくない。「さん」にあたる「先生（xiānshēng）」や「小姐（xiǎojiě）」を付けなくても、全然失礼にはあたらない。

2 「小（xiǎo）」を付けて「小～（xiǎo）」と呼ぶ

「小～（xiǎo）」は、日本語にすれば「～ちゃん」となるやろう。「小～（xiǎo）」の後ろには、呼ぶ人の苗字を付ける。例えば、李さんなら「小李（Xiǎo Lǐ）」となる。これは、若い社員に対して呼ばれることが多い。30歳を過ぎた社員に対して「小李（XiǎoLǐ）」と呼ぶのは少ないやろう。

3 「老（lǎo）」を付けて「老～（lǎo）」と呼ぶ

「老～」は、日本語にすると「○○兄貴」とでも言えるやろうか。親しい間柄で、自分より年上の人を呼ぶ時に使う（敬意も含んでる）。男性に使うことが多い。会社では、あまり使う人はおらん。

4 上司を呼ぶ

王さんという上司なら、

課長：王 课（Wáng kè）　部長：王 部 长（Wáng bùzhǎng）　経理：王 经 理（Wáng jīnglǐ）

「经 理（jīnglǐ）」というのは、日本の部長と同じポジションにあたる。

たまに、上司をフルネームで呼び捨てにしてもかまわない。これも「呼び捨て」という感覚はないから失礼にはあたらない。

こう見てみると、日本語の「さん」にあたる「先 生（xiānshēng）」や「小 姐（xiǎojiě）」を使う場面は少ない。「先 生（xiānshēng）」や「小 姐（xiǎojiě）」は、すごく丁寧な言い方になるから、お客さんを呼ぶ時に使うことが多い。

中国人社員は、私のことを本人の前で呼ぶ時は丁寧に「久 米 小 姐（Jiǔmǐ xiǎojiě）」と呼んでくれたけど、私がいないところで私のことを話題に出す時は、「小 姐（xiǎojiě）」を付けずに「久 米（Jiǔmǐ）」（蘇州語では「じゅうみぃ」と発音）と呼んでた。でも、これは別に失礼でも何でもない。日本人的な「呼び捨て」という感覚はまったくない。

そしたら、中国人は家庭ではどう呼んでるか。

1 子供が親を呼ぶ

a) 日本人的に、外で「私の父が……、私の母が……」と言う時、中国語では、「父 亲（fùqīn）」「母 亲（mǔqīn）」と言うけど、あまり使うことはな

い。「我 爸爸(wǒ bàba)」「我 妈妈(wǒ māma)」と言うことの方が多い。「我 的 爸爸(wǒ de bàba)」のように「的(de)」を入れる必要はない。所有、所属の「的(de)」は、例外はあるけど通常省略する。

b)家の中で親を呼ぶ時

お父さん:「爸(bà)」　お母さん:「妈(mā)」

「爸爸(bàba)，妈妈(māma)」とはあまり呼ばない。

2 親が子供を呼ぶ

a)フルネームで呼ぶ

これも最初は変やと思った。私の両親が私のことを「久米ひろみ！」とは絶対に呼ばへん。でも中国人は、親でも自分の子供のことをフルネームで呼ぶ。

b)名前を重ねて呼ぶ

例えば、「李 明(Lǐ Míng)」(李が苗字、明が名前) だったら「明 明(Míngming)」という風に名前を重ねて呼ぶ。「～ちゃん」という感覚。

c)幼名「小 名(xiǎomíng)」をつけて呼ぶ

小さい頃は幼名をつけることがある。いわゆる、あだ名のようなもの。幼名のつけ方は、呼びやすく覚えやすいもので、何か意味を持たせることが多い。

3 夫婦間で呼ぶ

a)夫が妻を呼ぶ

家の中では名前を呼ぶ。例えば、もともと同僚やった二人が結婚した場合、同僚時代に妻を「小王(xiǎoWáng)」と呼んでたとすれば、結婚してもそのまま同じように呼ぶこともある。フルネームで呼んだりもする。人前では、「老婆(lǎopó)」「我太太(wǒ tàitai)」などと言うことが多い。

b)妻が夫を呼ぶ

a)に同じく、名前で呼び、フルネームや「小～(xiǎo)」などと呼ぶ。

人前では、「老公(lǎogōng)」「我先生(wǒ xiānshēng)」などと言うことが多い。

「夫」は「丈夫(zhàngfu)」、「妻」は「妻子(qīzi)」とあるけど、これはかしこまった言い方で、一般の会話ではあまり使わない。(例えば、面接で家族構成などを説明する時、「丈夫(zhàngfu)」や「妻子(qīzi)」と言う。)

中国人をどう呼ぶか。これはすごく大切なこと。日本人でも、社内で誰か二人が喋っているのを聞いてたら、どっちがどっちに対してどんな言葉を使ってるか、それで上下関係、もしくは対等関係にあるとか、その二人の関係がすぐ分かる。中国人でも同じで、誰が誰に対してどの様に呼んでるか。日本人ほど厳格なルールはないけど、社内での呼び掛け、友人同士の呼び掛け、家族の呼び掛け、年上・年下・若者・小さい子などの呼び掛け、それぞれ違う。それを区別して使えるようになりたい。どう呼んでいい

か分からん場合は、中国人に聞くことや。

Wǒ yīnggāi zěnme chēnghu nín hǎo ne
「我 应 该 怎 么 称 呼 您 好 呢?」

あなたのこと、どう呼ばせてもらったらいいですか？

Wǒ yīnggāi zěnme chēnghu tā
「我 应 该 怎 么 称 呼 他?」

彼のこと、どう呼ぶべきかな？

三　仕事開始

1　単純作業

入社してすぐバリバリに仕事ができるわけじゃない。まずは単純作業から。

翻訳：Fānyì 翻译

FAXを送る：Fā chuánzhēn 发　传　真

見積書を作る：Zuò bàojiàdān 作　报 价 单

工場を見学する：Cānguān gōngchǎng 参　观　工　厂

ファイルを綴じる：Zuò wénjiànjiā 作　文　件　夹

書類を整理する：Zhěnlǐ zīliào 整　理 资 料

キャビネットを整理する：Zhěnglǐ shūguì 整　理 书 柜

まあ、その程度や。電話には出る必要はない「Bùxūyào jiē diàn huà 不需 要　接　电 话」。中国の電話は中国人が出るし、ユーザーが私に連絡してくることはまずない。「楽な仕事や～」と最初は思った。

私は営業部門に入ったけど、私の仕事は何もなかった。なんでかと言うと、元々誰もおらんかったところに、新しくできたポジションやったからや。私の前に誰かおって、その人が辞めた後に入ったら、引継ぎというものがあって、仕事もちゃんと用意されてたと思う。でも、新しいポジションやったから、誰からも「あ

れして、これして」と細かく言われることはなかった。

最初は確か、品質不良の記録をまとめて「整理品质不良的记录(zhělǐ pǐnzhì bù liáng de jìlù)」くれと上司から言われた。これがなかなか多かった。その上、品質保証課「品质保证课(pǐnzhì bǎozhèng kè)」(略して「品保课(pǐnbǎo kè)」と言うこともある)と照合のできない件名もあった。「こりゃ大変かもしれん。」と思った。

そしたら案の定、仕事は増えてきた。それでも、残業「加班(jiābān)」になることはほとんどなかった。中国の会社は大抵会社のバス「班车(bānchē)」があって、出勤「上班(shàngbān)」・退社「下班(xiàbān)」の時間に合わせて「班车(bānchē)」が発車する。だから、中国人は退社時間「下班时间(xià bān shíjiān)」をきっちり守る。残業「加班(jiābān)」する社員はほとんどいない。社内で連絡を取る相手がいなくなったら、私も仕事ができなくなるから、ほとんど残業「加班(jiābān)」することはなかった。

2　国営会社的日中合弁会社

私が入社した会社は日中合弁会社「中日合资公司(Zhōngrì hézī gōngsī)」やった。中国にあるすべての日中合弁会社がそうとは言わんけど、日中合弁会社の中では、国営会社で働く中国人の典型を垣間見るこ

とができると思う。以下は私の勝手な中国人論。

1　権力には屈しろ

中国人は権力を持つ者に対しては絶対服従。これは、会社の中だけじゃなくて、社会全般でもそう言える。

例えば、共産党員が車を運転していて、わざと交通違反したとする（結構ある）。中国の道路には、要所要所に公安が立っていて交通整理をしてる。その公安が注意しに行って、運転手が「この紋所が目に入らぬかぁ！」さながらに共産党員の証明書を見せると、交通違反も免除されてしまう。（普通、共産党の車はナンバープレートを見たらすぐに分かるから、公安もプレートを見て共産党の車やったら何も言わへん。）

2　給料を決める人間には従え

給料を決める権限を持つ者には従う。日本人上司には絶対従うけど、同じ上司でも、給料を決める（査定する）権限のない中国人上司のことは甘く見る。例えば、その中国人上司の権限範囲が広くなって、部下を査定できるようになったとしたら、その日から部下の態度も変わってくる。日本でも、どこに行ってもある程度はそうやけど、中国人ははっきり態度に表す。

3　できるだけ楽をしろ

中国語に「混（hùn）」という言葉がある。辞書には、:「混（hùn）」いい加

減に過ごす（動詞）、「混 混 儿 hùnhùner」:「ぶらぶら遊んで生活している人、不良、チンピラ」と書いてある。でも一般的に中国人が、

「他 是 很 会 混 的。Tā shì hěnhuì hùn de」 *彼は“混”がうまい奴だ。*

「他 是 混 混 的。Tā shì hùnhùn de」 *彼は“混”してるんや。“混”する奴や。*

「你 混 得 很 好 嘛！Nǐ hùn de hěnhǎo ma」 *おまえうまく“混”してるやんけ。*

と言うと少しニュアンスが違う。日本語に訳すと「楽をする。でも、まわりには“おまえ、よくやっているな！”と思われるように、自分を良く見せる」となるやろう。会社で「他 是 混 混 的 Tā shì hùnhùn de」と言えば、“彼は全然仕事してないけど、うまくやってる”という意味。「以 后 他 混 不 下 去 的。Yǐhòu tā hùnbuxiàqù de」と言えば、“これから彼は（会社で）やっていかれへんで。”という意味になる。

昔、中国に国営企業しかなかった頃、「吃 铁 饭 碗 Chī tiěfànwǎn」とよく言って（鉄のお碗は壊れない、から転じて、食いっぱぐれがないという意味）、働いても働かなくても、その会社の中にいれば給料はもらえた。一生懸命働いても、まったく仕事をしなくても給料は同じ。同じ給料をもらうんやったら、仕事はせぇへん方が得。だから、どうやったらできるだけ仕事をせずに済むか……と考える習慣がついてしまった。

4 人間関係で仕事をしろ

「中国は人治国家である」とよく言われる。法律で物事が動か

んと、人によって物事が動いていく。会社の中でもそうや。人間関係「人际关系 rénjì guānxì」がないと、仕事が進まへん。

例えば、日本で仕事をする時は、社内で仕事を進める為に、ルール、ルートっていうものがあると思う。A さんが仕事をして、その仕事を B さんに渡して、B さんから C さんに、C さんから D さんに……という風に、仕事というのは流れていくものやと思う。

それがやなぁ……。中国人の手に渡ると、A→B→C→D と流れていくはずの仕事が途中で止まってしまうことがある。A と B の間に人間関係がなかったら、仕事を渡された B は、その仕事を無視する。つまり、仕事は止まってしまう。入社したての頃は、私もそれでごっつい困ったもんや。私が人間関係で仕事ができるようになるのには一年かかったし、中国人の方から私を助けてくれるまでになるには、もうあと一年かかった。

日本から出向や駐在で来てる日本人っていうのは、権限もあるし肩書きもあるから、人間関係がなくても中国人と一緒に仕事ができる。それも結構スムーズに……。でも、私みたいに現地採用の日本人は、権限もない、肩書きもない、蘇州人から見たら外者や。仕事は止まる、客からはクレーム受ける、社内でも文句言われる、頭打ちまくりやった。もう、人間関係築いていくしかなか

った。でも、人間関係を築くにはすごい時間がかかったし、苦労もした。私が人間関係で苦労した理由のひとつは、外者やったということ。もうひとつは、この会社で私が初めての現地採用日本人社員やったから、中国人側の抵抗も強かったというのもあるようや。（当時、蘇州の中でも現地採用日本人というのは五,六人くらいしかおらんかった。）

合弁会社には、国営会社時代からの社員と、合弁会社になってから新しく採用された社員がおると思う。合弁会社で幅をきかせてるのは、大抵国営会社時代からの社員。それと、日本語ができて、日本人に重宝されてる社員。そんな中国人リーダー「头/ 领 tóu lǐng 导 dǎo」たちにも力関係はあるから、派閥とまではいかんでも、誰の下についてるか、誰の部下なのかで、平社員たちの（小さな）力関係も発生してくる。中国人同士の人間関係はすごく複雑で、特に工場なんかになると部門が多いから、その人間関係は更に複雑になる。中国人を人間関係だけで動かして仕事を進めていこうとしたら、その人間関係図を理解してなかったらやっていかれへん。誰を動かして誰を動かすか、まるで将棋みたいな世界やった。

でも、二年かかってやっと、

「久米 小姐 说了 没办法,知道了。我 来 弄一下。」
Jiǔmǐ xiǎojiě shuōle méibànfǎ zhīdào le Wǒ lái nòngyíxià

久米さんが言うんやったらしゃーない、分かった。やったるわ。

Néngbunéng mǎnzú nǐ de yāoqiú wǒ xiànzài hái bùnéng shuō
「能 不 能 满 足 你 的 要 求，我 现 在 还 不 能 说，

おまえの要求通りにできるかどうか、俺も今は約束できへん。

dànshì wǒ shìyíxià ba
但 是 我 试 一 下 吧。」 でもやってみるわ。

と中国人たちが言ってくれるようになった。私に頼ってくる女の子たちも増えてきた。

Jiǔmǐ xiǎojiě nǐ lái hé tāmen shuōyíxià
「久 米 小 姐，你 来 和 他 们 说 一 下。」

久米さん、あんたから彼らにちょっと言うてよ。

Wǒ shuō bùxíng de Nǐ shuōle tāmen huì tīng de
「我 说 不 行 的。你 说 了，他 们 会 听 的。」

私が言うてもあかん。あんたが言うたら、彼らも聞くから。

工場の中でも、私を見ると挨拶してくる中国人が増えてきた。品質レベルのチェックを頼みにくる作業員もいた。

Jiǔmǐ xiǎojiě nǐ néngbunéng xiàlái kànyíxià
「久 米 小 姐，你 能 不 能 下 来 看 一 下。

久米さん、あんたちょっと下まで来て見てくれへん？

Chūlái de chǎnpǐn dōu yǒu yìdiǎndiǎn máobìng
出 来 的 产 品 都 有 一 点 点 毛 病。

出てきた製品、全部ちょっとした不具合があるねん。

Wǒmen bùzhīdào zhèxiē néngbunéng chūhuò
我 们 不 知 道，这 些 能 不 能 出 货。」

これら出荷できるかどうか、私ら分からへんねん。

何か問題があった時の責任をなすりつけられてるんか、頼られてるんかは分からんかった。でも、最初の頃は、私が人間関係を使って人を動かすことが多かったけど、二年たった頃には、私が

中国人から動かされる人間になってた。それは、仕事をしててすごく楽しいと思える瞬間やった。

3　面子（めんつ）と肩書き

中国でビジネスしてたら、面子「面子（miànzi）」と肩書き「地位（dìwèi）」の問題は避けて通られへん。

「没面子（méi miànzi）」　*面子がない、面子を失う*

「给面子（gěi miànzi）」　*面子をたてる*

このふたつの言葉は、中国でビジネスをしてたら、耳にたこができるくらいよく聞く言葉や。

中国人は面子を重んじる「重视面子（zhòngshì miànzi）」「爱面子（ài miànzi）」。客でも上司でも部下でも友人でも、彼らの面子をつぶすようなことがあったら、それ以降彼らとはまず、うまくやっていかれへん。相手がお客さんやったら、彼らの面子をたててあげる「给面子（gěi miànzi）」ことが大切や。それが商売につながることが多い。

それから、中国は日本以上の肩書き社会。どんなに若くても、肩書きさえあれば､対内的にも対外的にも仕事はスムーズに進む。反対に肩書きがないと、特に対外的には、ほとんど仕事ができへ

んと思ってもいい。

私の場合、同じ日本人でも肩書きがなかったから、

Wǒ bùnéng hé nǐ tán zhèjiànshì
「我不能和你谈这件事。

俺、あんたとこの話はできへんねん。

Wǒ yào gěi nǐ de bùzhǎng huídá
我要给你的部长回答。」

あんたの部長さんに回答するわ。

と言われたこともあった。なんでそう言われるんかと言うと、彼らにしても、何の肩書きもない私とビジネスを決めたとなると面子がない訳や。A 社の部長と話をしてビジネスを決めたとなると、彼らも社内で面子がたてられるという訳や。

お客さんの面子をたてる為に、平社員でも決められるビジネスやのに部長がユーザーを訪問することが結構あった。部長は部下育成の為に、すべて部下に仕事を任せたいと思う。でも、肩書きがない者ができる仕事範囲は限られてる。社内で権限を与えられてても、肩書きがないと対外的に通用せぇへん。それが中国ビジネスや。

4　出張（食べ物編）

私は出張「出差(chūchāi)」が好きやった。大抵月に一度は出張した。中国の場合国が広いから、出張というと、飛行機を利用することが多い。私の担当ユーザーは沿岸部にしかなかったから、私が訪れた街は全部沿岸部の大都市「沿海地区的大城市(yánhǎi dìqū de dàchéngshì)」やった。

行くのが楽しみなんは、やっぱり食べ物がおいしいところ。私の独断と偏見で、食べ物がおいしいと思ったところは、まずは大連「大连(Dàlián)」。大連は好きやなぁ……。海があって、山があって、海の幸、山の幸、いっぱいある。街もきれいし、海風が吹いて中国ではめずらしく空気が澄んできれい。坂道が多いから自転車もないし、道も広くて、整然としてる。

大連の海鮮料理「海鲜(hǎixiān)」は最高や。中華で海鮮料理を食べるのもよし、日本料理屋で豪華で新鮮な海鮮料理を安くたくさん食べるのもよし。中国におったら刺身とか生ものに飢えるけど、大連に来ると、その飢えも一気に解消や。

次にいいと思ったんは、青島「青岛(Qīngdǎo)」。青島も街はきれいや。昔(95 年頃)は結構荒野が広がってたけど、それでも街はきれかった。今でも、ドイツ人が建てていった建物とかが残ってて、ちょ

っと中国らしくない雰囲気の場所もある。日本の松島によく似た、堤防の先に亭がある名所もあるし、砂浜もごっついきれいや。「崂山（Láoshān）」と呼ばれる有名な山もあって、あの有名な青島ビール「青岛啤酒（Qīngdǎo píjiǔ）」はその山から流れ出る水で作られてるらしい。（私は個人的に、「青岛啤酒（Qīngdǎo píjiǔ）」より北京の「燕京啤酒（Yànjīng píjiǔ）」の方が苦味が少なくておいしいと思う。）

青島も海鮮料理がおいしい。青島で食べたカニは最高やった。それに果物もおいしくて、チェリーと、特に桃はムチャクチャおいしかった。

もし、香港「香港（Xiānggǎng）」も中国に入れるとしたら、ここも外す訳にはいかん。中国の広東料理「广东菜（Guǎngdōngcài）」を食べるんやったら、やっぱり香港に行って食べたい。広州「广州（Guǎngzhōu）」とか、広東省の色んな都市をまわったけど、香港に勝る広東料理を出す店には出会ったことがない。

香港で食事するんやったら、もちろん現地の人に教えてもらって行く方がいい。私も現地の人に教えてもらって行ったけど、そのおいしさは……そやなぁ。言葉では表現できへんのやけど、4日間で4キロ太ってしまったといえば、私がどのくらい食べたか分かってもらえるやろう。（香港から帰る時、太ももがくっつくようになってしまってた。）

広東料理でおいしいのは、シャコ「虾(Xiā) / 虾蛄(Xiāgū)」。これを油で揚げたのはごっついおいしい。日本のシャコよりずっと大きいから食べ甲斐がある。あと、マンゴープリン「芒果布丁(Mángguǒ bùdīng)」も外されへん。これは、缶詰のはおいしくない。路上によくあるテイクアウトのマンゴープリンが一番おいしい。

広東料理はおいしいけど、ゲテモノ料理が多いのには困る。ローカルスタッフもおもしろがって、そういう料理をわざと頼んだりする。クワガタムシみたいなのが、黒こげになってお皿に山盛りになってるのとか、蟻を油で揚げたのとか、スープの中にヤモリが何匹も浮いてたりするのとか。あと、私も実際食べてしまったのが、広東のピザ「广东(Guǎngdōng) PIZA 饼(bǐng)」と言って騙された料理や。見た目で「お好み焼きみたいや〜。」と思って、最初パクついた。確かにおいしかった。すごい蛋白な味がした。一切れ食べ終わった時、ローカルスタッフが、

「久米小姐(Jiǔmǐ xiǎojiě)，你看(nǐkàn)！」　*久米さん、見てみ。*

と言って、そのピザを裏返した。なんと！そのピザの具は全部虫！　ミミズか蛆虫か分からんけど、細長くて黒っぽい虫が、お好み焼きで言うとキャベツのようにたんまりと入っていた。それ以来、広東省へはほとんど出張しなくなってしまった。

あと、東北地方に出張してよく食べたのが韓国料理「韩国菜(Hánguócài)」。

この辺りは朝鮮民族「朝鮮族（Cháoxiǎnzú）」（中国56民族のうちのひとつ）が多いから、韓国料理もかなり本場物に近い。それから、北京で食べておいしいと思ったのが、新疆料理「新疆菜（Xīnjiāngcài）」。民族大学の近くに「新疆街（Xīnjiāngjiē）」と呼ばれる通りがあって（今もあるかどうかは知らんけど）、新疆人が開くお店が何軒も並んでる。そこで食べた羊肉串（yángròuchuàn）（羊肉の串焼き）と「新疆大盘鸡（Xīnjiāng dàpánjī）」は、今思い出しただけでも唾が出てくるほどおいしかった。

残念なのは、内陸部には全然行く機会がなかったことや。新疆料理も好きやから、新疆に行って本場の新疆料理も食べてみたかった。新疆のような辺境にはユーザーはないから、これは旅行で行くしかないな。こんなことばっかり書いてたら、まるで仕事してなかったみたいやけど、もちろん出張というからには、第一目的はユーザー訪問、問題解決した後に、おいしいもんを食べてたんやで。

5　出張（トイレ編）

食べ物の話は終わったから、トイレ「洗手间（xǐshǒujiān）」の話をしてもいいやろう。（「厕所（cèsuǒ）」は日本語で「便所」という意味で、聞い

た感じが汚らしい。普通「トイレ」と言う時は「洗手间（xǐshǒujiān）」と言う。）

私は中国のトイレで同じ失敗を繰り返したことがある。どんな失敗かというと、男子トイレに間違えて入って行って、しかも、そこで用まで足してしまったことや。

なんで間違うんか！それは、入り口のドアにトイレマークがあるんやけど、男子トイレのマークが赤で、女子トイレのマークが青やったから。しかも間違えたのは、広州で二回、あと香港とマレーシアで合計四回も！

日本のトイレで、男子トイレが赤色っていうことはまずない。赤色と青色があったら、赤色は絶対女やっていう先入観がある。一番大変やったのが香港のレストランで。既に中に入って用を足してると、男性が入ってきた。男性が入ってきた時にやっと間違えに気付いて、その男性が出て行ったら、そっと出て行こうとブースの中で息を殺してじっとしてた。そしたら、実は私の友人も一緒におったんやけど、彼女が、

「久米ちゃん！　あかん！　ここ男子便所やで！」

と叫んだ。そして彼女はバターン！　と扉を開けて走って逃げた。男性もびっくりして、走って逃げる彼女の後ろから、

“This is for MAN!!”　（ここは男性用や！）

と叫んだ。私はずっとブースの中で隠れて、人がいなくなってから出て行った。

広州とマレーシアでも同じような失敗をした。そこはユーザーの会社の中やった。これは、香港での経験があったから、まだ用を足すまではいかんと、中に入って気付いた時にすぐ出てきた。でも出口で入ってくる男性と鉢合わせて気まずい思いをした。まだ中に人がおらんかっただけましやったけど。

他に、中国でトイレの話っていうたら、いっぱいある。出張に行って何が困るってトイレや。

例えば、蘇州から上海浦東空港まで車で二時間半くらいかかるけど、途中、トイレするところがない。冬なんかはごっついきつい。

Shīfu bùhǎoyìsi néngbunéng kāidekuài yìdiǎn hǎoma
「师傅，不好意思，能不能开得快一点，好吗？」

兄ちゃん（運転手のこと）、ちょっと悪いけど、もうちょっと早く運転してくれへん？　いいかな？

［注意］「shīfu 师傅」は女性に対しても使える。運転手やお店の店員に対して呼びかける時に使われる。

Nǐ zěnme le
「你怎么了？」　*どないしたんや？*

Wǒ hěn jí
「我很急。」*私、急いでるねん*（トイレに行きたくてたまらない）。

Hǎo
「好！」　*分かった。*

と言うてくれたかと思うと、減速し始めて、車をわきに寄せて停まった。

Wǒmen zài zhèlǐ děng nǐ Nǐ qù ba
「我 们 在 这 里 等 你。你 去 吧。」

俺らここで（車の中で）待っといたるから、（トイレに）行ってきぃや。

車が横でビュンビュン走ってるところで、ガードレールをまたいで草むらでやってこいと言う。

Bùxíng bùxíng Wǒ bú qù Wǒmen kuàiyìdiǎn zǒu ba
「不 行，不 行！我 不 去。我 们 快 一 点 走 吧。」

あかん、あかん。私、行かへん。早く出発してよ。

こんなこともよくあった。

あとは、ユーザーのところでお手洗いを借りる。ここで行っとかんと、ホテルや空港までの帰り、また大変なことになる。でも、来客用トイレが男性用しかなくて、社員用女子トイレに行くと、ムチャクチャ汚くて入られへんかったこともあった。反対に、溝トイレ（一時間に一回水が流れる、流しそうめん式トイレ）の方がまだ入れた。田舎の田舎に行くと、まだ溝トイレのままの工場も結構あった。

出張で苦労したことっていうと、やっぱりトイレかもしれん。

四 行 事

1 蘇州人の結婚式

蘇州には三年おったけど、その間に友人や同僚の結婚式に何度か呼ばれた。一番印象に残ってるのは、やっぱり蘇州で初めて参加した同僚の結婚式「婚礼(hūnlǐ)」。

蘇州人の結婚式は一日掛り。ここでは、最近の蘇州市街地の一般的な結婚式を紹介しよう。(ちなみに、中国人の結婚式の内容は、各地方によって異なるし、蘇州でも細かく言えば地域によって異なってくる。同じ蘇州でも田舎の方に行くと、三日かけて結婚式をする農村もあるらしい。)

まず、朝から夜までの行動をビデオに収める(後でDVDに編集する)為、カメラマンが朝一から出動する。新郎新婦「新郎新娘(xīnláng xīnniáng)」には、それぞれ一人ずつ未婚の友人が手伝いで側に着く。その付き添い人を「伴郎(bànláng)」(新郎の介添え)「伴娘(bànniáng)」(新婦の介添え)と呼ぶ(日本の仲人とは違う)。彼らは必ず未婚やないとあかん。一番いいのは「童男童女(tóngnán tóngnǚ)」(男の子と女の子)らしい。つまり純潔を象徴してる「象征純洁(xiàngzhēng chúnjié)」わけや。

一日の行動はこうや。朝、新郎は新居「新房(xīnfáng)」に行って、新婦を迎える準備をする(実際準備はできてるから、形式的に新郎は新居に入る)。そして、新居から新婦の実家に向かう。その時乗

る車は、「花车(huāchē)」と呼ばれて、たくさんの花できれいに飾ってある。

新郎が新婦の家に到着したら、爆竹「鞭炮(biānpào)」(縄状の連続式の爆竹) をバラバラバラ〜！と派手に鳴らして出迎える。さぁ、新郎はそこで劇的に新婦に会うんかというと、それが違う。新婦はウェディングドレスを着て、一番奥の部屋で新郎が入ってくるのを待ってる。でも、新郎はなかなか玄関までさえも辿り着くことができへん。なんでかというと、新婦の友人や親族たちが新郎の行く手を邪魔してるからや。新郎や新郎の友人たちは、とうせんぼする人たちと格闘を繰り返しながら、たくさんの「红包(hóngbāo)」(お小遣い程度のお金を入れた赤い包み) やタバコを配って、“通してくれ”とお願いする。家の中に入ってからも格闘は続いて、すぐには新婦のいる部屋にまで辿り着かれへん。これは、どれだけ新婦と結婚したいか、どれだけ障害があっても一緒になりたいという強い意志があるかを問う意味があるそうや。

やっと新婦の待つ部屋に入ったら、新郎は新婦に求婚「求婚(qiúhūn)」する。(その時新郎の髪の毛はグチャグチャになってる。)

「嫁给我吧(Jiàgěiwǒ ba)！」　*俺と結婚してくれ！*

(ここで注意)

中国語で「結婚する」は、「娶(qǔ)」「嫁(jià)」で使い分けなあかん。

「Wǒ qǔ nǐ
我 娶 你。」　俺はおまえと結婚する。（俺はおまえを娶る。）

「Wǒ jiàgěi nǐ
我 嫁 给 你。」 私はあなたと結婚する。(私はあなたに嫁ぐ。)

主語が男性か女性かで言い方が違う。でも、「qǔ
娶」「jià
嫁」と言っても、日本のように女性の苗字が変わることはない。女性の苗字は結婚してからも元の苗字のまま。たまに、男性の苗字とくっつける人もおるけど、それはごくまれな例。これは台湾や香港でたまに見られる。

（例えば、李さんに嫁いだ林さんの苗字が、“李林”となる。）

それこそドラマみたいに、花束を持って、ひざまづいて新婦に求婚する。中国人はこういうことテレずにする人が多い。その時、まわりにはいっぱい観客（親族や友人たち）がおる。新婦は、求婚の仕方が気に入らんかったら、冗談で、

「Búyào
不要！」　いやや。

と言って場を盛り上げることもある。そう言われた新郎は、もっと大げさなジェスチャーで求婚する。新婦の同意を得たら、今度は新婦の両親に結婚の承諾をもらう儀式を行う。その儀式が終わったら、新婦の家で小宴が開かれ、来た人みんなに甘いスープが配られる。そのスープの中には、白玉団子が入ってる。甘いのは、“甘い新婚生活「tiántián mìmì de xīnhūn shēnghuó
甜 甜 蜜蜜的新 婚 生 活」”の象徴、白玉団子はまるい、つまり“家庭円満「jiātíng yuánmǎn
家 庭 圆 满」”

の象徴とされる。

この後、新郎新婦が新婦の実家から出て行く。この時、また爆竹「鞭炮 biānpào」が鳴らされて、「花车 huāchē」に乗ったら、新居に向けて蘇州市内をねりまわる。「花车 huāchē」の後ろには友人たちの車が続く（普通は5,6台の車）。この時注意するのは、朝通った道（新郎が、新居から新婦の実家に来るまでに通った道）を通ったらあかんこと。必ず、朝通った道とは別の道を通って新居に向かわんとあかん。

新居に着くまでに、「花车 huāchē」は景色のいい場所で一旦停まる。そこで新郎新婦が降りてきて、ビデオ撮影が行われる。

やっと新居に到着したら、ここでも小宴が行われる。ここでせかせかと働くのが「伴郎 伴娘 bànláng bànniáng」。来客にお茶やお菓子、果物を配ったりしてもてなす。ほとんどの来客が新郎新婦の友人で、みんなはそこで結婚写真を見たり、トランプ遊びをしたり、新居の内装の良し悪しをみんなで評価したりしながらくつろぐ。（中国人の新居は自分で内装をするのが一般的。具体的には後の章で説明。）

夕方五時頃になると披露宴が行われる。披露宴と言っても、日本のような厳かな雰囲気じゃなくて、すごいにぎやかな大宴会と言ってもいい。大抵はホテルの中のレストランか、大型レストラ

ンで行われる。始まる一時間くらい前には、新郎新婦は披露宴会場に行って、入り口に立ってお客さんを出迎える。会場の中は中国式の円卓で、円卓の上に名前を書いたカードがある。出席者は自分の名前が書いてあるカードを探して、その円卓の席に着く。

披露宴が始まってしばらくすると、乾杯の嵐が吹き荒れる。新郎新婦が各テーブルをまわりながら、出席者と杯を交わす。それも必ず、

「干杯(Gānbēi)！」　*乾杯！*

と言うから、全部飲み干さんとあかん。中国の「干杯(Gānbēi)！」は、文字通り全部一気に飲み干さなあかん。でも、たまに

「随意(Suíyì)！」

と言ってくれるお客さんもおる。これは、元は「お好きなだけ」という意味で、干杯しなくても、好きなだけ飲みましょうっていう意味。ちょっと口をつける程度でもいい。

すべての客と新郎新婦が乾杯をするわけにはいかんから、その時お手伝いをするのも「伴郎伴娘(bànláng bànniáng)」や。新郎新婦の代わりに乾杯したお酒を飲んでくれる。だから、「伴郎伴娘(bànláng bànniáng)」を探す時には、未婚で、しかも酒に強い「海量(hǎiliàng)」(海水の量ほど酒を飲む) or「酒鬼(jiǔguǐ)」(酒飲み野郎の) 友人を探さなあかん。

とにかくこの間はものすごいにぎやかで、新郎新婦にゲームを

させるグループもある（テーブル毎にグループが異なって、仲のいい友人のテーブルとか、同僚のテーブルのところに来ると、ゲームをさせられる)。新郎が男性客にタバコ「喜烟 xǐyān」を一本ずつ配って、新婦が火を点けてまわらなあかんのやけど、火を点けてもらってるのに、わざと火を吹き消してみたり、タバコを高いところでくわえて､新郎に新婦を抱き上げさせようとする客もおる。

宴会もそろそろ終わるか……という頃になると、新郎新婦の親族が、タバコ「喜烟 xǐyān」と飴「喜糖 xǐtáng」を配り始める。これを配り始めたら、受け取った人は、三々五々帰っていく。

これで一日が終わるんかというと、まだ続きがある。新郎新婦と仲のいい友人や同僚たちだけが集まって「闹新房 nào xīnfáng」をする。「闹新房 nào xīnfáng」とは、友人たちが新居に押しかけ、ゲームなどをして初夜の邪魔をすること。この時のゲームは、ちょっとエッチなゲームが多い。夜中までゲームで盛り上がったら、友人たちは帰っていく。それで結婚式の一日が終了する。

お疲れ様や。「辛苦了 Xīnkǔ le！」

ちなみに、出席する側のマナーとしては、披露宴が始まるまでに（前日とかでもいい）御祝儀を渡しておくこと。「红包 hóngbāo」という赤い包みに入れて、後ろに自分の名前を書く。包む金額の相場は色々あるから、まわりの人間に聞いておいたらいい。また、

出席する時の服装は、日本みたいに形式ばった服じゃなくて、カジュアルな服装でもいいし、小奇麗な服装をしていればいい。但し、白い服はできれば避けた方がいい。中国で「白」は葬式の色（縁起が悪い色）やからな。（白いウェディングドレス「婚纱 hūnshā」が流行ってきたのも、ついここ数年のこと。）

2　社員旅行

蘇州で三年間勤めたうち、社員旅行には二回参加した。一回目は黄山 Huángshān へ、二回目は普陀山 Pǔtuóshān へ行った。どっちも大変な旅行で、覚えてるのは道中苦労したことばっかり。なんでかと言うと、どっちの旅行も天候に恵まれへんかったからや。黄山 Huángshān の時は大雨で凍えるわ、普陀山 Pǔtuóshān の時は台風通過直後で海はドロドロやわ。どっちもいい景色を見ることはほとんどなかった。こういうのを中国語で「真倒霉 Zhēn dǎoméi！」と言う。（最悪最低、運が悪い、の意味）

黄山 Huángshān と言えば、日本人もよく知る有名な山。中国にこういう諺がある。「五岳归来不看山，黄山归来不看岳 Wǔyuè guīlái búkàn shān，Huángshān guīlái búkàn yuè」。これは、「中国で有名な五大山「五岳 Wǔyuè」（东岳泰山 Dōngyuè Tàishān，

Nányuè Héngshān Xīyuè Huáshān Běiyuè Héngshān Zhōngyuè
南岳衡山，西岳华山，北岳恒山，中岳
Sōngshān Huángshān
嵩山）を見たら他の山は見なくてもいい、「黄山」を見
Wǔyuè
たら、その「五岳」さえも見る必要はない」という意味。だから、
Huángshān
「黄山」はそのくらい風光明媚な山や。

蘇州から黄山までは車で十時間。ガタガタ道を十時間耐えて黄山まで行ったのに、天気は最悪、雨は降ってるし、寒いし、霧がひどくて一メートル先も見えへん状態。黄山は、天気のいい日が一年のうち三分の一くらいしかないらしいから、よっぽど運がいいか、天気が良くなるまで待たんと、絵葉書で見るような景色は見られへんらしい。

Pǔtuóshān
普陀山はというと、台風の影響もさることながら、旅費をケチった為に道中かなりしんどい思いをした。蘇州から普陀山まで一番手っ取り早い行き方は、上海浦東地区まで行って、そこからシャトルボート（モータボートやから早い）に乗る。直行便やから、上海浦東から約二時間くらいで行けるらしい。

それが、かなり旅費を削って計画されたから、ごっつい時間をかけて、ごっつい苦労して普陀山まで行った。蘇州から寧波までバスで七時間かかり、台風で足止め、寧波で一泊（これは仕方がない）。次の日船に乗って小さな島に渡った。それが農民が乗る汚い船（多分料金一人五角くらい）で、船から下りるとまたバス

に二時間くらい乗った。そしてまた船に乗り、ようやく目的地普陀山（Pǔtuóshān）に着いた。ムチャクチャ疲れた。個人で安いツアーを手配しても、ここまでひどい旅行はないと思った。

大抵社員旅行というと、幹事がおって、何社か旅行社に問い合わせ、見積もりを取って、入札「投标（tóubiāo）」を行う。A 社が毎年使ってたのは、蘇州のある小さい旅行社。実際社員からは、この旅行社を使うのに非難ゴーゴーやった。同じ料金でも、もっといいコース、料理、ホテル等の手配ができる大手旅行社もあったのに、何故かいつも使うのは、この小さい旅行社。でも、“公正な入札の結果”で、その旅行社を使うことになってるらしいから仕方ないわなぁ……。

社員同士の交流を深めるにはいいかもしれんけど、A 社の社員旅行は体力的にかなりきついものがあった。それで三年目の社員旅行は参加せんかった。やっぱり旅行はマイペースで行く方が楽やな。

3　旧正月

中国におって、一年で一番盛大な行事といえば、やっぱり旧正

月「春节(chūnjié)」やろう。日本は戦後、西暦の正月元旦を祝うようになったけど、中国やその他多くのアジア諸国は今も旧暦の正月を祝う。

中国の旧正月は、地方から出稼ぎに来てた農民「农民工(nóngmín gōng)」とか女の子たち「外来妹(wàiláimèi)」が一斉に帰郷する。だから、電車とか長距離バスは超満員。切符は入手困難。旧正月前のこの民族大移動はほんまにすさまじい。

蘇州の旧正月はというと、「农民工(nóngmín gōng)」や「外来妹(wàiláimèi)」がいなくなって、街は閑散とする。蘇州は古都やけど、今は二つの工業区（蘇州市の西に位置し、蘇州市政府管轄の「新区(xīnqū)」と、蘇州市の東に位置し、シンガポールと中国の国家プロジェクトで作られた「新加坡工业园区(Xīnjiāpō gōngyè yuánqū)」）があって、何千という工場がある。それら工場の作業員の多くが外地人やし、外地から蘇州に来てる商売人もたくさんおる。彼らがすっかり街から姿を消すもんで、蘇州市内は急に静かになる。

新年を迎える「过年(guònián)」時は、そうやって帰郷する人が多いし、年賀状「贺卡(hèkǎ)」を送る習慣（元元郵送で年賀状を送る習慣はあまりなく、最近は携帯電話のショートメール「短消息(duǎn xiāo xi)」やメールで「贺卡(hèkǎ)」を流る）や、子供にはお年玉「压岁钱(yāsuìqián)」を贈ったりする習慣もある。その辺りは日本とよく似てる。「贺卡(hèkǎ)」に

書かれる言葉は、

「Xīnnián kuàilè 新 年 快 乐」　*新年あけましておめでとう*

「Gōngxǐ fācái 恭 喜 发 财」　*財を作って金持ちになり、おめでとう*（←拝金主義の中国人らしいお祝いの言葉）

「Wànshì rúyì 万 事 如意」　*何事もうまくいきますように*

「Chūnjié yúkuài 春 节 愉 快」　*楽しい春節をお過ごし下さい*

「Xīn de yìnián píng'ān xìngfú 新 的一 年 平 安 幸 福」　*新しい一年が平安で幸せでありますように*

などなど、色々ある。

家の門には、「duìlián 对 联」と呼ばれる赤い紙を貼り付ける。赤色は縁起がいいこと「jíxiáng 吉 祥」の象徴で、「duìlián 对 联」には春節を祝う言葉が書かれる。門の左右に一枚ずつ貼って一対とされ、右を「shànglián 上 联」（上の句）、左を「xiàlián 下 联」（下の句）と言う。ダイヤ型の赤い紙に「福」と書かれたものを、文字を逆さにして門に貼り付ける習慣もある。これは、「“fú 福” dǎole 倒 了」（福が逆さになった）と同音で、「“fú 福” dàole 到 了」（福が来た）という意味になり、その願いが込められてる。「福が天から落ちてきますように」と願い、逆さに貼るという人もおる。

また「guònián 过 年」のお決まりといえば、爆竹「biānpào 鞭 炮」！夜中十二時になると、あちこちで爆竹が一斉に鳴って、まず一時間く

らいは鳴り止まへん。それにおもしろいと思ったのが、花火「烟火 yānhuǒ」も上げられることや。日本人的感覚では、花火は夏の風物詩。でも、中国で花火は、一年中イベントがあるといつでもするもので、特に、冬を思い浮かべるものらしい。

日本では正月三が日って言われるけど、蘇州人は大体「初一 chūyī」（旧暦正月一日目）から「初七 chūqī」（旧暦正月七日目）までを祝う習慣がある。「初一 chūyī」は家族団らんで過ごして、「初二 chūèr」からは親族や友人などを訪問する。関係が深い人ほど先に訪問していく。

食べ物について言うと、北方地域では餃子「饺子 jiǎozi」を食べるけど、蘇州では「蛋饺 dànjiǎo」を食べる。「蛋饺 dànjiǎo」は、形は餃子に似てるけど、皮は溶き卵を油で焼いたもの、具は何を入れてもいい。その卵の皮で巻いて餃子のような形にするから、「蛋饺 dànjiǎo」と呼ばれる。色が黄金色やから、「元宝 yuánbǎo」（馬蹄銀、つまり昔のお金）を象徴してるとも言われる。旧暦一月十五日「元宵节 yuánxiāojié」には、家族で「汤圆 tāngyuán」を食べる。「汤圆 tāngyuán」は甘くて丸いお団子の入ったスープで、家族団らんの象徴とされる。

「过年 guònián」には先祖を奉る習慣もある。食事の前に、食卓の上に先祖の数だけ杯を出して、その杯に三度で杯いっぱいになるようお酒を注いでいく。ご先祖様にもお酒を飲んでもらおうという訳や。あと、「锡箔 xībó」という「元宝 yuánbǎo」の形をした銀色の紙を燃

やす習慣もある。これもお金の象徴で、それを燃やすことで、先祖が天国でもお金に困らないようにっていう意味がある。ほんまのお金を燃やすわけにはいかんから、その代わりとして「锡箔(xībó)」を使うわけや（これを燃やしたらお金が天国まで届けよぉ〜って感じやろうか？）。

旧正月の過ごし方は、中国各地域で異なるし、ここに紹介したのは蘇州市内のごく一部の風習。

夫の季が言うには、

「以前(Yǐqián) 我小的时候(wǒ xiǎo de shíhòu)，过年(guònián) 很热闹(hěn rènào) 的。现在(xiàn zài) 没什么(méi shénme) 热闹(rènào) 的。」

昔、俺が子供の頃は、年越しはにぎやかで楽しかった。今は何も楽しくない。

大人になったからつまらなく感じるのか、時代が変わったからか、それとも色んな風習が簡素化されてきてるからか、理由は分からん。でも、今の中国の若者には、「过年(guònián)」もそんなにワクワクするものではなくなってきてるようや。

4　年間行事

旧正月を筆頭に中国で重視されてる行事は色々ある。清明節「清明节qīngmíngjié」(日本でいう八月のお盆のようなもの)、端午の節句「端午节duānwǔjié」、夏至「夏至xiàzhì」、中秋節「中秋节zhōngqiūjié」、冬至「冬至dōngzhì」、などなど。

「清明节qīngmíngjié」は毎年四月初旬（旧暦三月の節句)、この頃蘇州ではいつも雨が降って少し肌寒くなる。日本と同じように、家族揃って墓参り「扫墓sǎomù」に出かけるのが習慣。蘇州の凤凰Fènghuángshān山に大きな墓地があって、上海人も大抵ここに先祖の墓があるから、この時期、電車と長距離バスは超満員。上海―蘇州間の高速道路もごっつい渋滞になる。

「清明节qīngmíngjié」の「清明qīngmíng」は、中国の農暦を二十四の「节jiéqì气」（季節の節目）に分けたうちのひとつ。名前の由来は、「万物が成長するこの時期は、すべてが清くて明るい」という意味から取ったものらしい。起源は古くて周の時代から始まり、秦の時代に「旧暦正月一日目と十五日目、及び二十四の节气jiéqìにはお墓に参り、先祖を供養すること」と制定された。唐の時代、「玄宗Xuánzōnghuángdì皇帝」（またの名を「唐明皇Tángmínghuáng」：楊貴妃を愛した皇帝、楊貴妃は元々彼の息子の嫁だった）が寒食節（清明節の前日）以

外の墓参りや先祖供養の行事を禁止したけど、宋の時代に解禁。もともと寒食節と清明節は一日違いやったから、今ではほとんど区別されずに、清明節にお墓参り「扫墓(sǎomù)」をする慣しとなった。

「端午节(duānwǔjié)」は旧暦の五月五日を祝う。日本で粽（ちまき）を食べるのと同じように、中国でも「粽子(zòngzi)」を食べる。でも、日本の粽とは違う。地域によって色んな種類があるけど、「粽叶(zòngyè)」と呼ばれる葉っぱ二枚をサイコロ状に硬く折り、その中に生のもち米と豚肉（鶏肉や蝦を使う地域もある、具は様々）を入れ、味付けして(醤油や砂糖、酒などを入れ)、それをゆでたものが主流。浙江省(Zhèjiāngshěng)嘉兴(Jiāxīng)という都市の「粽子(zòngzi)」は中国で有名。私も食べたことがあるけど、すごく大きくて、おいしかったのを覚えてる。

なんで「端午节(duānwǔjié)」に「粽子(zòngzi)」を食べるようになったかには由来がある。戦国時代楚の国に、王の側近で詩人でもある「屈原(Qūyuán)」という人がいた。彼は王に忠義を尽くすけど、彼をねたむ政敵に陥れられて、失脚、国を追われた。(屈原は、ずっと秦に脅威を感じ、斉と手を組み秦を攻めるよう王に進言するが、結局楚王はそれを無視して秦に攻められることになり、楚王は秦に囚われ、最後は病死。）屈原は、長い年月をかけて放浪しながら、楚の国境近くまで辿り着き、そこで楚が秦に敗れたことを聞いた。祖国の行

く末に失望した彼は「汨罗江（Mìluójiāng）」（今の湖南省、つまり楚の国にある川）で、「ここはまだ秦の兵士たちが足を踏み入れたことのない清い土地だ。」と思い、そこにあった石を体にくくりつけ、“祖国の清い石”と共に身を投げて自殺した。それが旧暦の五月五日。

屈原の死を聞いた楚の多くの民は川までやってきて、彼の死体を捜したけど、死体は見つからんかった。そこで、民たちが「魚が屈原の死体を食べてしまわないように」と願い、太鼓の音で魚が驚いて逃げていくよう太鼓を敲きながらドラゴンボート「龙舟（lóngzhōu）」で川を旋回した。また更に、魚が屈原の死体を食べる代わりに「粽子（zòngzi）」を食べるようにと、川に「粽子（zòngzi）」を投げた。以降、屈原の命日に「粽子（zòngzi）」を食べ、またこの時期にドラゴンボート（龍のボートの競技）「赛龙舟（sàilóngzhōu）」が開催されるようになった。

ちなみに、なんで龍の舟「龙舟（lóngzhōu）」やったんかという理由に、あるひとつの説がある。旧暦の五月五日といえば、初夏。この時期は、昔から疫病などが流行り、「恶月（è yuè）」と呼ばれた。屈原の時代以前から「龍の恐れをもってすべての災難、疫病を駆除する」と言われてきた為に、「龙舟（lóngzhōu）」を使ったとされる。

また、「端午节（duānwǔjié）」には、家の門にヨモギ「艾草（àicǎo）」やショウブ「菖蒲（chāngpú）」を掛けたり、「雄黄酒（xiónghuángjiǔ）」というお酒で子供の額

に「王」の字を書いたりする習慣もある。これらはすべて、“お祓い”「避邪(bìxié)」の意味があり、農耕社会時代の疫病や天災への恐れが反映されている。

さて、「冬至(dōngzhì)」といえば、何よりも蘇州人が重視する行事。この日は家族団らんで過ごすのが蘇州人の風習（恐らく中国どこに行っても、冬至は家族だんらんで過ごす大切な行事と認識されてる)。夜ご飯を家族みんなで一緒に食べて、これで一歳年をとったとされる。つまり、「冬至(dōngzhì)」は蘇州人にとって「过年的(guònián de)开始(kāishǐ)」（旧正月を迎える始まり）や。

冬至の起源については謂れが様々で、各地域によっても風習が異なる。ある説によれば、農耕社会時代、一年頑張って農業を営んできたことをお互いに労い、来年も天災などのない良い年になりますようにと願い、家族集まって明るく過ごし、その明るさで不幸や災いを追い払おうという意味があるとか……。

中国の年間行事は、すべて旧暦に基づき、「节气(jiéqì)」と関係してる。日本も、今は太陽暦に基づいて生活しているものの、中には「节气(jiéqì)」に関係するものもある。ここに、二十四の「节气(jiéqì)」を紹介しておく。

立春(lìchūn)，雨水(yǔshuǐ)，惊蛰(jīngzhé)，
春分(chūnfēn)，清明(qīngmíng)，谷雨(gǔyǔ)，

lìxià xiǎomǎn mángzhòng
立夏，小满，芒种，
xiàzhì xiǎoshǔ dàshǔ
夏至，小暑，大暑，
lìqiū chǔshǔ hánlù
立秋，处暑，寒露，
qiūfēn báilù shuāngjiàng
秋分，白露，霜降，
lìdōng xiǎoxuě dàxuě
立冬，小雪，大雪，
dōngzhì xiǎohán dàhán
冬至，小寒，大寒

各行最初の「节气(jiéqì)」は、今でも日本で使われてる。他に中国から伝わってきたものに、干支「生肖(shēngxiāo)」もある。やっぱり日本文化は、中国文化から大きな影響を受けてるんやなぁ。

5　中秋節

以前から、私にとって中国で一番重要な（楽しみな）行事といえば、中秋節「中秋节(zhōngqiūjié)」(旧暦八月十五日)や。なんでかと言うと、「中秋节(zhōngqiūjié)」の時にはたくさんの「月饼(yuèbǐng)」というお饅頭を食べることができるからや。

私は基本的に甘い「月饼(yuèbǐng)」しか食べへんのやけど、実際は色んな種類がある。大きく分類すると、四つに分けることができる（他にも種類はあるけど、ここでは省略させてもらう)。

1) 广式月饼（Guǎngshì yuèbǐng）：広東及びその周辺地区が発祥地。

最もポピュラーで中国各地で見られる種類。皮と餡の比は、二対八くらいで皮が薄いのが特徴。他の種類より油分が多い。表面には光沢がある。

2) 京式月饼（Jīngshì yuèbǐng）：北京天津及びその周辺地区が発祥地。

普通、北方（běifāng）地区でしか見られない。皮と餡の比は、四対六くらい。

3)苏式月饼（Sūshì yuèbǐng）：上海、江浙及びその周辺地区が発祥地。

甘くて、パイのような脆い皮が特徴。殷、周時代からあった「太师饼（tàishībǐng）」と呼ばれる「太师闻仲（Tàishī wénzhòng）」（「封神演义（Fēngshén yǎnyì）」という古典小説に登場する人物）を奉るお菓子が原型で、これが中国月餅の起源とも言われてる。

4) 滇式月饼（Diānshì yuèbǐng）：雲南、貴州及びその周辺地区が発祥地。

滇式（「滇（Diān）」：雲南省の別称）の「火腿（huǒtuǐ）」（ハム：くん製塩漬けのブタもも肉）を餡に使っている。

餡は、甘いもの、塩味（おかずのような味付け）のもの、辛いものまで色々ある。種類が多すぎて、ここには書ききれへん。一般的に、甘い月餅を食べる時は花茶「花茶（huāchá）」を、塩味の月餅を食べる時はウーロン茶「乌龙茶（wūlóngchá）」を一緒に飲むといいと言われてる。一に、油分を溶かし消化を助ける、二に、月餅のおいしさ

を引き立てるというわけや。

「月饼(yuèbǐng)」の起源はこれまた古い。周の時代からもう既に、中秋には満月を愛でる習慣があった。唐の時代には色んな伝説や神話が伝えられて、中秋を過ごす習慣が根付いていき、北宋の時代になって、旧暦八月十五日が正式に中秋節とされたらしい。その頃から“満月の形に似せ、中には甘いものが入ったサクサクしたお菓子「酥(sū)」”「小饼如嚼月，中有酥和饴(Xiǎobǐng rú jiáoyuè zhōng yǒu sū hé yí)」(詩人「苏东坡(SūDōngpō)」の有名な言葉) を食べる習慣が見られるようになって、これが「月饼(yuèbǐng)」の原型となったわけや。

中国人は、中秋節の前になると、お世話になってる人や友人たちに、「月饼(yuèbǐng)」を贈る習慣がある。これは、トルファンの商人「吐鲁番的经商(Tǔlǔfān de jīngshāng)」が唐の王朝を起こした「唐高祖(TángGāozǔ)」皇帝に月餅を献上し、それを皇帝が家臣たちに分けて一緒に食べたのが始まりとされてる。将軍「李靖(LǐJìng)」が匈奴「匈奴(xiōngnú)」を打ち破って帰還したのが八月十五日で、それを祝う為に献上されたものやった。

また、元朝末期の農民一揆「农民起义(nóngmín qǐyì)」で月餅が利用された逸話も残ってる。蒙古貴族が人民を統治し、漢族がそれに反抗して一揆を起こした。その時、反蒙古のリーダー張士诚(ZhāngShìchéng)が、中秋節に月餅を友人に贈る習慣を利用して、月餅の中に一揆の通

知を隠し、各地に散らばっていた同志を Jiāngsū Gāoyóu 江 苏 高 邮（地名）に集結させて、一揆を起こした。それ以来、友人に月餅を贈る習慣が根付いていったとも言われてる。満月を形取った饅頭を「yuè bǐng 月 饼」と呼ぶようになったのは、その後の明の時代になってからのようやけど、もともとは楊貴妃が「yuèbǐng 月 饼」と名付けたとも言われてる。

「yuèbǐng 月 饼」を見てたら、表面に色んな絵が書いてあるのに気がつく。大抵の絵は、中秋節に関係する伝説とか神話のものが多い。例えばこんなもの。

Cháng'é bènyuè 嫦 娥 奔 月：中国版“かぐや姫”（Cháng'é 嫦 娥というのが、天に昇っていった女性の名前）

yuègōng chántù 月 宫 蟾 兔：月にうさぎが住んでいる

yínhé yèyuè 银 河，夜 月

Xī Shī zuìyuè 西 施 醉 月：西施（中国四大美女のひとり）が月に酔う

「yuèbǐng 月 饼」もピンキリで、高いのもあれば、安いのもある。中国語で「Yìfēnqián yìfēnhuò 一 分 钱 一 分 货」（一分のものは、一分の値打ち。良いものは高いし、悪いものは安いっていう意味）ってよく言われるけど、私が食べてきた中では、高いのとかブランド物のはおいしいのが多い。私が中国におる間に食べて、一番おいしいと思ったのは、蘇州新区にある Xīnchéng huāyuán jiǔdiàn 新 城 花 园 酒 店 というホテル

の「月饼(yuèbǐng)」や。(ちなみに、これは宣伝でもなければ、私はこのホテルの回し者でもない。)ああ、また食べたいなぁ〜。

でも、中国の中秋節は、「月饼(yuèbǐng)」を食べるだけじゃない。一番大切なことは、家族団らんを過ごすこと。この時期の満月は一年の中で最も丸く、月は丸い「圆(yuán)」から文字って、「团圆(tuántuán yuányuán)」「家庭圆满(jiātíng yuánmǎn)」(家族円満)。これが中秋節を祝う大義や。

月もきれいし、月餅もおいしいし、家族団らんで楽しいし。中秋節は年に二回くらいあってもいいのになぁ、と思う。新城(Xīnchéng)花园酒店(huāyuán jiǔdiàn)の月餅なんか、年に二回は食べたいと思うもん。もちろん、年中あるんやったらずっと食べたいくらいやけどな。

五　レストラン

1　火　鍋

蘇州に来て「これ、うまいなぁ～！」と舌を巻いたのが四川鍋「四 川 火 锅 Sìchuān huǒguō」。実は、北京で一度食べたことがあって、その時はまずいと思った。でも、蘇州で食べてごっついうまいと思い、それからは虜になってしまった。ほんまは、四川省に行って本場の「四 川 火 锅 Sìchuān huǒguō」を食べたいと思ったけど、その夢はまだ果たしてない。(「火 锅 huǒguō」とは、鍋料理の総称)

中国には四大料理「四 大 菜 系 sìdà càixì」と呼ばれるものがある。東西南北「东 南 西 北 dōngnánxīběi」で味付けに特徴があって、東は甘い江蘇料理「甜 的 江 苏 菜 tián de Jiāngsūcài」、南はあっさり広東料理「清 淡 的 广 东 菜 qīngdàn de Guǎngdōngcài」、西はしびれる辛さの四川料理「麻 辣 的 四 川 菜 málà de Sìchuān cài」、北は塩辛い山東料理「咸 的 山 东 菜 xián de Shāndōngcài」。(八大料理に分ける場合もある)

だから、「四 川 火 锅 Sìchuān huǒguō」と言えば辛い鍋になる。蘇州で四川火鍋を食べる時は、おだし「锅 底 guōdǐ」の辛さを選ぶことができる。

1. **麻 辣** málà má：「麻」は「しびれる」という意味。舌がしびれるほど辛いだし。
2. **中 辣** zhōnglà：日本語的に言えば「中辛」とでも言えるか？ これで

もかなり辛い。

3. **微辣**（wēilà）：「少し辛い」という意味。ちなみに私はいつもこれで注文してた。それでも、食事の最後の方には舌がしびれてきた。

4. **白 汤**（báitāng）：白いおだし。まったく辛くない。でも、日本のお鍋と違って、魚などでだしをとって香辛料を入れて煮たもので、おだしは透き通ってない。辛くないけど、味はしっかりついてる。

5. **鸳 鸯**（yuānyāng）：直訳すれば「(オシドリ夫婦の) オシドリ」。お鍋の真ん中に仕切りがあって、辛いおだしと白いおだし、両方が楽しめる。もともとは、食べているうちに辛いおだしが煮詰まって、どんどん辛くなっていく、最後には食べられなくなってくるから、辛くない白いおだしも一緒に出す、という意義がある。また、火鍋は普通、数人で食べに行くと思うけど、辛いおだしが好きな人もいれば苦手な人もおる。それでもみんなひとつの鍋で一緒に食べることができるという便利さもある。

さて、おだしを選んだところで、次はたれ。たれは店によって色々あると思うけど、スタンダードのは、ごま油に薬味を入れたもの。薬味はニンニクのすりおろしが普通、その他に別の薬味（香菜等）を付け加えて入れることもある。最初、たれがごま油っていうので、「ええ？ 油？」ってごっつい引いてしまった。でも、このごま油で食べるのがおいしい！それに、ごま油に漬けると辛

みがやわらぐ。

具は色々ある。肉類、魚類、野菜類、練り物、乾物。すべての具が載ってる紙（メニュー「菜单(càidān)」）をもらったら、食べたい物にチェック印をつける「打勾(dǎgōu)」（日本人は、〇で囲むけど、中国人はチェックが〇の意味）。

初めて蘇州で四川火鍋を食べに行った時、具の中に、私が生まれて初めて食べたものがあった。それは「猪脑(zhūnǎo)」と呼ばれるものや。「猪(zhū)」は「ブタ」、「脑(nǎo)」は「脳みそ」。そう、ブタの脳みそや。食べてしまった、食べてしまった。それが、ブタさんごめん、むっちゃおいしいねん。（注意：よぉ〜く煮込んでから食べること！）ごっつい抵抗あったけど、食べたらおいしい。二つも食べてしまった。でも、自分で思い出してもやっぱり怖い。これは、初めての時だけ食べて、おいしかったけど、それ以降は食べへんかった。やっぱりブタの脳みそは、食べるには抵抗がありすぎる。

「猪脑(zhūnǎo)」も初めて食べて、ごっついインパクトがあったけど、他にも初めて食べた具がある。

「粉条(fěntiáo)」：乾物で、形はきし麺みたい、色は半透明の緑とか灰色。原材料はさつまいもで、結構長い時間煮込まんと硬くて食べられへん。煮込むと、ムチャクチャこしのある麺になる。

どんなに長く煮込んでも、ふやけることがないのがいい。

「泥鳅(níqiū)」：田うなぎ、ドジョウ。これは好きになれんかった。

「鸭舌(yāshé)」：中華料理店に行くと、前菜の中によくある。これは字の通り、カモの舌。形はグロテスクやけどコリコリしてておいしい。酒のつまみにいい。

「凤爪(fèngzhuǎ)」：これも前菜でよく出てくる。「凤(fèng)」は鳳、鶏のこと。「爪(zhuǎ)」は、爪で、足のこと。つまり、鶏の足「鸡脚(jījiǎo)」のこと。三本足そのままの形で、足の皮がプヨプヨに調理されて出てくる。味はいいけど、やっぱりそのままの形っていうのが……ん〜、何とも言えん。

ここで余談。中国語で「脚(jiǎo)」と言えば、くるぶしより下の地面に着く部分の足のことを言う。「腿(tuǐ)」は、太ももからくるぶしまでの部分の足のこと。中国では言い分ける。例えば、「あんた足、長いなぁ。」と言おうとして、「你的脚很长(Nǐ de jiǎo hěncháng)。」と言ってしまうとごっついおかしい。

それは、「あんたの(靴を履いてる部分の)足、ごっつい長いなぁ。」という意味になって、40cmも50cmもの靴を履く人の足を想像してしまう。「你的腿很长(Nǐ de tuǐ hěncháng)。」と言えば、ちゃんと通じる。

一般的な四川火鍋もおいしいけど、それに勝るとも劣らないチ

ェーン店ができた。いや、勝るかもしれん。（先に言っとくけど、私はこのチェーン店の回し者ではない。）「小肥羊火锅店（Xiǎoféiyáng huǒguō diàn）」というお店。日本語にするなら「太っちょ羊のお鍋屋さん」とでも言えるやろうか。このお店の羊マークもかわいい。

この店の売りは内モンゴル「内蒙古（Nèiměnggǔ）」の羊肉。本店が「内蒙古（Nèiměnggǔ）」にあって、そこの有名な羊肉を出してる。確かに牛肉と食べ比べたら、やっぱり羊肉の方がおいしい。

でも、その羊肉より私がすごいと思うのは、この店のおだしや。おだしの種類は、先に書いたのと内容は同じやけど、味が四川火鍋のとは違う。辛くてもただ辛いだけと違って、味がある、香りがある、こくがある。白いおだしは、更にこの味、香り、こくが際立って最高の味をかもし出してる。（「美味しんぼ」的に表現するなら、「最高のハーモニーをかもし出している。」と言える。）

中国では、レストランで食べた物が余ったら「打包（dǎbāo）」して持って帰ってもいいって前に書いた。火鍋も同じで、注文した具が余ったら持って帰ってもええ。でも、この店で私が見つけた注意書きの張り紙には、

「锅底不能打包（Guōdǐ bùnéng dǎbāo）」　*だしは持って帰れません。*

と書いてあった。そっか〜、これだけおいしいと、だしを持って帰る人もおるんや。だしを持って帰って研究してやろうとする

ライバルもおるかもしれんしな（これは日本人的発想)。だしをたんまり持って帰ったら、お金払ってお店で食べんでも、家で火鍋できるしな（これは蘇州人的発想)。こりゃ経営に影響するわ。

そのくらい、ほんまにおいしい。蘇州に里帰り（夫が蘇州人だから）したら何が食べたいって、そりゃ、絶対「小肥羊火锅(Xiǎoféiyáng huǒguō)」や。

追記：「小肥羊火锅(Xiǎoféiyáng huǒguō)」の日本進出が決定！

第１号店は東京に出展されるとのこと。

2　頂鼎鶏

私が初めて顶鼎鸡(Dǐngdǐngjī)に行ったのは、夫との初デートの時や。

「你想吃牛肉还是鸡肉？(Nǐ xiǎng chī niúròu háishì jīròu)」

おまえ、牛肉食べたいか、鶏肉食べたいか？

って聞かれて、牛肉やったらハンバーグか何かやと思って（ちなみに、ハンバーグの店じゃなくて、ステーキ「铁板牛肉(tiěbǎn niúròu)」の店に行こうとしてたらしい。当時にしては斬新な店やった。)、

「鸡肉(Jīròu)。」　*鶏肉*

って答えた。その時夫は、

Tàihǎole Jīròu bǐ niúròu piányi
「太 好了! 鸡 肉 比 牛 肉 便 宜! 」

ラッキー！ 鶏肉やったら牛肉より安いで！

と安上がりにつくことに内心喜んでたらしい。

Jǐngjǐngjī
顶 鼎 鸡は、上海に本店を置くチェーン店。鶏肉料理の庶民の店で、安くて新鮮な鶏肉を食べることができる。上海、江蘇一帯の中国人は好んでよく鶏肉を食べるんで、この地方にしかない特産料理「特色菜 tèsècài」や。ここのメニューはごくシンプルで、鶏肉とお粥と麺くらいしかない。

ここの鶏肉は何故おいしいか。そりゃやっぱり新鮮さ「新鲜 xīnxiān」やろう。中国人的に表現するなら、「很 嫩 hěnnèn」と言える。「嫩 nèn」とは、新鮮で柔らかくておいしいという意味。(特に柔らかさを強調して言う時に使う。) 顶 鼎 鸡 Jǐngjǐngjī の鶏肉の柔らかさというと、ちょっとそん所そこらじゃぁ口にできへん。日本でもこんな柔らかい鶏肉は食べたことがないし、これが庶民の味として気軽に味わえるっていうんやから嬉しい。

鶏の種類は、上海浦東の鶏とフランスの「红 宝 鸡 Hóngbǎojī」という鶏（フランス語で何と言うかは知らん)を掛け合わせたものらしい。生きた鶏をすぐに調理するから、この新鮮さが保てる。でも調理方法は誰に聞いても分からん。企業秘密「公 司 机密 gōngsī jīmì」らしい。

他にも街の至る所で顶 鼎 鸡 Dǐngdǐngjī に似たお店を見かける。でも、

私はやっぱり Dǐngdǐngjī 顶 鼎 鸡が一番おいしいと思う。たまに、名の知られていない個人の店で食べると、すごいパサパサして、水分がすっかり抜けてしまっておいしくないのもあった。ただ、一軒だけおいしいと思ったことがあるのは、上海交通大学の食堂で食べた鶏肉や。これはおいしかった。でも、それも 97 年の話やから、今はどうなってるか分からん。

注文の仕方は「北京ダック」と同じ要領。「zhī 只」(羽) 単位で注文する。二人で食べるなら bànzhī 半 只 で十分。特製のたれ (しょうゆ味) に刻み生姜を入れて、それに漬けて食べる。好みで xiāngcài 香 菜 を入れてもいい (私はいっつも xiāngcài 香 菜 は山盛り)。たれや生姜はおかわり自由。鶏肉には骨がついたままやから、食べる時は中国人風に、一旦口の中に全部入れて、骨だけをテーブルの上かトレーの上にペッ……と吐き出したらいい。ちなみに私は、知人いわく「Shétou hěnbèn 舌 头 很 笨」(舌がおバカさん、口の中で骨と肉を分けることができない、魚やえびを食べる時も同様) なんで、骨が少ない部分の肉を中心に食べて、骨が多いのはいつも夫に食べてもらってる。

3　上海蟹

蘇州の食べ物を語る時に、上海蟹ははずされへん。上海蟹といえば、香港やシンガポールでは超高級料理！でも実は、この上海蟹、蘇州にある阳　澄　湖(Yángchénghú)というところで捕れるもの。上海蟹と呼ばれるようになったのは、上海から輸出してるからで、産地は蘇州。だから、中国では「苏　州　大闸　蟹(Sūzhōu dàzháxiè)」と呼ばれる。（最近では、阳　澄　湖(Yángchénghú)以外に太湖など蘇州近辺の湖で捕れるものが多い。）

苏　州　大闸　蟹(Sūzhōu dàzháxiè)は淡水の蟹「螃　蟹(pángxiè)」。(「螃　蟹(pángxiè)」は「淡水カニ」の総称。「大闸　蟹(Dàzháxiè)」は蘇州近郊で採れるのカニの固有名詞)。日本の蟹と違って、そんなに大きくないし、足も細い。足の肉も食べるけど、主に蟹みそ「蟹　黄(xièhuáng)」を味わって食べる。みそは、日本の蟹みそと違ってオレンジ色。油がのってる時期は、みそのまわりに透明の油（ゼラチンみたいにぷよぷよで甘い）がついていて、その味は絶品！

大抵の場合、蒸して食べる。（家庭料理では、小さい蟹やったら炒めたり、お酒に漬けて生で食べる「醉　蟹(zuìxiè)」こともある。）蘇州人は普通、市場で買ってきて家で食べる。でも、ほとんどの外国人は、中国に来て苏　州　大闸　蟹(Sūzhōu dàzháxiè)を食べるといえばレストランで

食べることが多いと思う。その場合は、注文する時の注意点がある。

1. 蟹のサイズで値段が違う

一杯 58 元、68 元、78 元、150 元、170 元等、お店にもよるけど、蟹のサイズで値段が違う。

Pángxiè de dàxiǎo gěi wǒ kàn yíxià hǎoma
「螃 蟹 的大 小 给 我 看 一下，好吗?」

蟹のサイズ見せてくれへんか？

と言って、蟹のサイズと値段を確認したらいい。紐で縛りつけた蟹を持ってきて見せてくれる。

2. 季節によって、オスメスで値段が違う

オスメスで、一杯 10 元くらいの値差がある。おいしい方が高い。(Sūzhōu dàzháxiè
苏 州 大闸 蟹は、9 月下旬～2 月初旬頃までが食べ頃。一般的に、旧暦の 9 月はメスがおいしい、旧暦の 10 月はオスがおいしいと言われている。)

Sūzhōu dàzháxiè
でも、苏 州 大闸 蟹はやっぱり市場で買って家で食べるのが一番。その方が安くておいしいものを手に入れることができる。ほな、市場ではどうやって蟹を買うか。買う時のチェックポイントを書き出すと、

1. 大きくて重くて太ってるカニがいい (ただ大きいだけで軽いのはまずい)

2. 足の毛が黄金色で、おなかは真っ白のがいい

中にはおなかが灰色のカニとかあるけど、これはまずいカニらしい。

3. 上からカニの甲羅を押して動かないのがいい

つまりそのカニ足に力がある。力があるカニの肉はしまっていておいしい。

4. 成熟したカニの方がおいしい

Sūzhōu dàzháxiè nèn
苏 州 大闸 蟹は「嫩」(若くて肉が柔らか) なものより、成熟して身の引き締まったカニの方がおいしい。

5. カニの重さによって値段のランクが分かれてる。重いほど単価は高い。

注意：カニの重さを言う時は、「liǎng 两」の単位を使う。「liǎng 两」は「jīn 斤」の 10 分の 1。つまり、「yìliǎng 一 两」は 50g。「èrliǎng 二 两」は 100g。ちなみに、「二 liǎng 两」は「liǎngliǎng 两 两」とは言わず「èr liǎng 二 两」と言う。

例えば、値段のランクの分け方がこうなってるとする。

a) Èrliǎng zuǒyòu de shì èrshiwǔ yuán yìjīn
二 两 左 右 的 是 二十五 元 一斤

100gくらいの（カニ）は500g 25元

b) Sānliǎngzuǒyòu de shì sìshíyuán yìjīn
三 两 左 右 的 是 四十 元 一斤

150gくらいの（カニ）は500g 40元

c) 四 两 左 右 的 是 六 十 元 一斤 Sìliǎng zuǒyòu de shì liùshíyuán yìjīn

200gくらいの（カニ）は500g 60元

買ったカニの合計金額の計算方法は、

a)が一杯110g、b)が三杯460g、c)が六杯1300gを買う場合、

【25元 ×（110g/500g)】+ 【40元 ×（460g/500g)】 + 【60元 ×（1300g/500g)】 =198元3角

今はデジタル秤があるから、自動的に値段は計算される。

さて、家に持って帰ったら、早速調理する。大抵蒸すけど、蒸す前に、カニのお尻あたりにある急所の筋を切って殺すらしい。じゃないと、お鍋の中で大暴れして大変なことになる。ちなみに、私は生きてるカニはよー触らんので、自分で苏 州 大闸 蟹 Sūzhōu dàzháxiè を調理したことはない。

さ、出来上がったら熱いうちに食べなあかん「趁 热 吃 chèn rè chī」。苏 州 大闸 蟹 Sū zhōu dàzháxiè は冷めてから食べると、おいしさと香りがかなり失われてしまう。食べる時は一般的に、中国のお酢（日本で今流行りの黒酢）に刻み生姜を入れて、それにつけて食べる。でも、私は食材そのものの味を楽しむ為に、いつも何もつけず、そのまま食べる。蒸したカニは、ごっつい香りがいいし、カニそのものの味が素晴らしい。何のだしに漬けたわけでもなく、ただ蒸しただけやのに、この香りとこくのある味は、日本のカニではなかなか

味わうことができへんのとちゃうやろうか？

蘇州へ行く機会がある人は、是非、この苏 州 大闸 蟹(Sūzhōu dàzháxiè)の季節に訪れて、味わってみてほしい。

4　水晶麺

中華料理といえばラーメンを想像する人も多いと思う。でも、日本のラーメンを想像して中国で麺を食べたらおいしくないかもしれん。なんでかというと、日本のラーメンとは麺もスープも違うからや。中国にはいっぱい麺の種類があって、調理方法で分けると、スープ麺「汤 面(tāngmiàn)」、炒めた麺「炒 面(chǎomiàn)」、混ぜた麺「拌 面(bànmiàn)」などがある。麺の種類といえば、いっぱいあって、それぞれ説明するのも大変。

蘇州のラーメンは小麦粉を練って細長く切ったもので、スープ麺「汤 面(tāngmiàn)」がほとんど。麺は、日本のうどんとそばとそうめんを掛け合わせたような感じ。

2000 年だったか、TBS の番組「世界ウルルン滞在記」で蘇州のあるラーメン屋が紹介された。日本から出張者が来た時、その番組で紹介された “水晶麺”を食べに行きたいと言うもんで、私も

上司と一緒に食べに行った。

お店は狭ぁ〜い路地の中にあった。会社のイヴィコバス（二十人乗りくらいのバス）で、その狭い路地の中に入っていき、店の前に乗りつけた。お店は現地の人が普通に食べに行く小さなお店で、どこが入り口かも分からんようなところやった。でも、確かに客は多くて、ひっきりなしに人が出入りしてた。

中に入っていくと、注文台があって、その後ろの壁にメニュー札が掛かってる。でも、「水 晶 面（shuǐjīngmiàn）」と書いた札はどこにも掛かってない。それで、私が老 板（lǎobǎn）（店主）に聞いてみた。

「有 没 有 水 晶 面（Yǒuméiyǒu shuǐjīngmiàn）？」　*水晶麺はある？*

すると、老 板（lǎobǎn）は私の質問に答えず、いきなり大声で叫んだ。

「TBS ジャパーン！！」

この事態に私はどうしたらいいか分からず、うろたえていると、老 板（lǎobǎn）の方から質問してくれた。

「你 要 几 份（Nǐ yào jǐfèn）？」　*何人分いるねん？*

「五 份。一 碗 多 少 钱（Wǔfèn Yìwǎn duōshǎoqián）？」　*五人分。一碗いくら？*

「七 块 钱（Qīkuàiqián）。」　*七元。*

メニュー札を見てみると、他の麺は三元か四元しかしてないのに、メニューにない水晶麺は七元もする。それだけおいしいんやろうか、それとも日本人から金をせしめる為に高くしてるだけや

ろうか？

さて、しばらく待ってたら麺が運ばれてきた。ん……これは……。やっぱり、日本人の金を取る為の値段やった。隣で食べてる中国人の麺の方が、具がいっぱい入ってる（これは大阪人的な感想やろうか)。確かにスープはおいしい。でも、麺は日本のラーメンの方がおいしいと私は思った。そや、ラーメンと思って食べるからあかんのや、「中国麺や」と思って食べなあかん。

店内のコンクリート壁には、「ウルルン」の撮影現場の写真がたくさん飾られてた。

それから何ヶ月かして、また日本から出張者が来た。また同じ店に水晶麺を食べに行った。今度は老板(lǎobǎn)は注文台に立ってなかった。雇い人が注文を受けてた(人を雇う余裕が出てきたな･･･)。やっぱり水晶麺はメニューになかったけど、水晶麺を注文すると、一碗九元と言われた。高くなってる……。

それからまた何ヶ月かして、“水晶麺御殿”ができたと聞いた。別のところに二号店ができたらしい。早速上司と一緒に行ってみた。あのさびれた狭い路地のコンクリート壁のお店とはまったく違う。レストラン街に中国御殿風内装で、大きなお店ができていた。

中に入って水晶麺を注文してみると、なんと、今度は十二元と

言われた。どんどん高くなってる！　店内で老板(lǎobǎn)を見かけたから、料金が高くなってるぞとケチをつけてみた。

「老板(Lǎobǎn)，为什么现在水晶面要十二块钱呢(wèishénme xiànzài shuǐjīngmiàn yào shíèr kuài qián ne)，」

店長、今なんで水晶麺十二元になってるねん、

「以前不是七块钱吗(Yǐqián búshì qīkuàiqián ma)？」　*前は七元やったやんか。*

「是的(Shìde)。不好意思，这里地段比较好(Bùhǎoyìsi zhèlǐ dìduàn bǐjiào hǎo)，房租费很贵(fángzūfèi hěn guì)。」

そうやねん。すんまへんなぁ、ここは地理的条件いいし、テナント料ごっつい高いねん。

「而且(Érqiě)，为了开这个店(wèile kāi zhège diàn)，我也花了很多装修费(wǒ yě huā le hěnduō zhuāngxiūfèi)。」

それに、この店開く為に、内装費用ごっついかかったんや。

「所以没有办法呀(Suǒyǐ méiyǒu bànfǎ ya)。」　*そやから仕方ないねん。*

あれからその店には足を運んだことがない。三回食べたからもういいと思った。それに、もしタクシーで行ったら、家からお店まで、タクシー料金が麺の二倍も三倍もする。バスやったら一元で行けるかもしれんけど、そこまでして食べに行くこともないやろう。

あの御殿は今でもまだあるんやろうか？　また確認しに見に行

ってみなあかんな。

ここで、老板(lǎobǎn)のセリフにもあった「高い」という意味の中国語について余談をさせてもらう。

「この値段高いなー。」「あんたの給料高いなー。」日本語では、どちらも「高い」と言う。でも、中国語では使い分けせなあかん。「贵(guì)」と「高(gāo)」。同じお金のことを言ってても、「贵(guì)」を使うとおかしいことがある。私の失敗例で言うと、「給料高いなー。」と言おうとして、「工资很贵(Gòngzī hěnguì)」と言ってしまったけど、これは間違い。「工资很高(Gòngzī hěngāo)」が正しい。

一般的に、「贵(guì)」は、その物の値（価値）について高価かどうかを述べる時に使う。「高(gāo)」は、程度が高いという時、また、実物（商品や物）ではなく、それらを含むある概念の対象が高いと述べる時に使う。例を上げると、

「贵(guì)」

东西贵(dōngxi guì)　*物（の値段）が高い*

费用贵(fèiyòng guì)　*費用が高い*

（水费，电费，煤气费，运输费，交通费等）(shuǐfèi, diànfèi, méiqìfèi, yùnshūfèi, jiāotōngfèi děng)

水代、電気代、ガス代、運送費用、交通費など

房租费贵(fángzūfèi guì)　*家賃が高い*

shuìguì
税 贵　*税金が高い*

「gāo高」

jiàgé gāo
价 格 高　　*価格が高い*

jiàqián gāo
价 钱 高　　*値段が高い*

wùjià gāo
物 价 高　　*物価が高い*

gōngzī gāo
工 资 高　　*給料が高い*

shuìlǜ gāo
税 率 高　　*税率が高い*

この「guì贵」と「gāo高」の使い分けの定義を言うのは難しい。辞書にも載ってないし、中国人に聞いても、彼らは習慣的に使い分けてるから、どうやって使い分けるか答えることはできへんやろう。それに、たまに「guì贵」と「gāo高」、両方使えるものもある。例えば、「jiàqián价 钱」は「jiàqián guì价 钱 贵」とも「jiàqián gāo价 钱 高」とも言うことがある。

私の語学感覚で使い分けの定義を言うなら、「guì贵」は物の価値や具体的な値段の高さを述べる時に使う、「gāo高」は程度やある概念の対象の高低を述べる時に使う。日本人は間違って使いやすいから気をつけておきたいな。

5　五つ星ホテルのレストラン

蘇州には二つの五つ星ホテルがある。私はごくたまぁ～に、家から近い方の五つ星ホテルに行って、日本人の友人と食事をしたりしてた。これが、中国生活の中で、私にとって一番の贅沢やった。

五つ星ホテルに行くと、特に気をつけてたことがある。それは、“自己の使い分け”や。どういうことかと言うと、市場とかで、普段の買い物をする時とかは中国人になりきる。外国人と見破られると、高く売りつけられるから。でも、五つ星ホテルとか高級な場所に行くと、日本人らしく振舞う。もし、中国人やと思われたら、軽くあしらわれて、折角楽しみにしていた貴重で贅沢な時間が、台無しになってしまうからや。そういう場所では、外国人やと認識してもらうと丁寧な扱いを受けるから、たまに、わざと中国語が分からんフリして、英語で喋ったりすることもあった。（中国人はおかしな民族で、中華思想を持ちながらも、外国のもの、特に欧米のものや人に対して一目置く「崇洋迷外（chóngyáng míwài）」ような矛盾した心を持つ。）←「崇洋媚外（chóngyáng mèiwài）」は少し意味が異なり、外国にへつらうこと。

何が中国人らしくて、何が日本人らしいか、これは、言葉で説

明するのは難しい。とにかく、長く中国におると使い分けができるようになるもんや。

一度、ある五つ星ホテルのレストランで食べたもので失敗したと思ったものがある。それは、スパゲティー「意大利面（yìdàlìmiàn）」や。友達もスパゲティーでボンゴレを頼んだ。同じ問題はあったものの、まだこれは許せた。私のは最悪やった。

何が問題やったんかというと、まず、麺はゆで上がって柔らかくて太くなったものが出てきた。これはきっと中国人が作ったんやと思う。中華料理では、麺をしっかりゆでて食べるから、その先入観でスパゲティーもしっかりゆでたんやと思う。それでもボンゴレはまだいけた。私のは、海鮮スパゲティー「海鲜意大利面（hǎixiān yìdàlìmiàn）」やった。蘇州で海鮮料理はなかなか食べられへんから、海の幸でも食べたいと思って頼んだ品やった。出てきた品は、ゆで上がった麺に、醤油味のあんかけがのってるものやった。具は確かに海の幸や。でも、スパゲティーに醤油味のあんかけはないやろ～。

他の料理はそこそこいけてたのに、これだけは失敗やった。それ以来、スパゲティーは必ず上海に行って食べるようにしたのは言うまでもない。

6　ケンタッキー

北京編では「マクドナルド」「麦 当 劳(Màidāngláo)」について述べた。蘇州にも「麦 当 劳(Màidāngláo)」はあるけど、私の知る限り蘇州市内には二軒しかない。それに比べて、蘇州に多いのはケンタッキー「肯德基(Kěndéjī)」の方や。「顶 鼎 鸡(Dǐngdǐngjī)」の項にも書いたけど、上海、蘇州近辺の中国人は、牛肉より豚肉より何より鶏肉が好き。だから、マクドナルドよりケンタッキーの方がよく流行る「流 行(liúxíng)」。

蘇州に行ったばかり頃（当時 99 年)、おもろいなーと思ったのが、ケンタッキー「肯德基(Kěndéjī)」が若者のデートスポット「约 会 地 点(yuēhuì dìdiǎn)」になってたことや。「肯德基(Kěndéjī)」といえば、蘇州人若者の中では“いけてる”「时 尚(shíshàng)」ところで、女の子を喜ばすには絶好の場所やった。(「时 髦(shímáo)」は人を指して“あの人はいけてる”とか“あの人の着てる服はいけてる”と言う時に使う。)

私ら日本人にしてみれば、ケンタッキーでセット 500 円前後っていうと、まぁまぁお手軽な値段と思う（それでもすごく安いとは思わへんけど)。例えば、月給 20 万円の人が 500 円のセットを食べるということは、給料に対して 1/400 ということになる。ほな、中国ではどうか。中国でケンタッキーのセットは 20 元前後。月給が 2000 元とすると、給料に対して 1/100 ということになる。

つまり、感覚的には日本の４倍も高いということになる。

蘇州人たちにとって「肯德基(Kěndéjī)」で食事をするっていうことは、やっぱり高いし、そういつでも手軽に利用するっていう訳にはいかん。だからこそ、デートスポットにもなるわけで、最近じゃ、家族サービスで子供の為に利用する場所になってきてる。お子様セットがよく売れてて、セットのおもちゃは、なぜか日本アニメのマスコットがよく使われてる。ピカチュー「皮卡丘(Píkǎqiū)」とか名探偵コナン「侦探柯南(Zhēntàn Kēnán)」とか色々ある。

注文の仕方は、北京編「マクドナルド」と同じ要領。でも、ここに私の失敗談を紹介するから、ケンタッキーの鶏のから揚げに思い入れのある人は、これを参考にしてもらったらいい。

「欢迎光临！(Huānyíng guānglín)」　*いらっしゃいませ。*

「一块炸鸡块。(Yíkuài zhájīkuài)」　*鶏のから揚げひとつ。*

「在这儿吃吗？(Zài zhèr chī ma)」　*ここで食べますか？*

「是的。(Shìde)」　*そうです。*

「收你十块钱。(Shōu nǐ shíkuàiqián)」　*十元になります。*

「谢谢。(Xièxie)」　*ありがとうございました。*

……とまぁ、いつもの感じで注文して、から揚げをトレーに乗せて席まで戻ってきた。から揚げは、白い油の吸い取り紙に包まれてた。開けてみると、から揚げはほそ〜くって小さい手羽肉や

った。これには、席取りをして待ってた夫の季も怒った。

Nǐ dìng le shénme dōngxi ya
「你 订 了 什 么 东 西呀!」

おまえ、何を注文してきたんや！

Zhème xiǎode jīkuài yào shíkuàiqián gòu guì de
「这 么 小 的鸡 块 要 十 块 钱，够 贵 的!」

こんな小さい鶏が十元、高すぎるやろ！

Nǐ qù fúwùtái jiào xiǎojiě huàn yíxià ba
「你去服务台 叫 小 姐 换 一下吧。」

おまえカウンターに行って小姐に交換してもらってこい。

季にそう言われて、交換してもらいに行った。

Xiǎojiě wǒ gāng mǎi le jītuǐ
「小 姐，我 刚 买 了鸡腿，」

小姐、私さっき鶏の足（から揚げ）買ったけど、

dànshì wǒ yào de búshì zhèzhǒng
「但 是 我 要 的不 是 这 种，」

ほしかったのはこんな種類とちゃうで。

wǒ búshì shuō le ma Wǒ yào yíkuài jīròu
「我不 是 说 了吗? 我 要 “一 块”鸡肉。」

私言うたやろ？　私がいるのは“一塊の”鶏肉やって。

Kuài jiùshì fāng de jī ya
「“块”就 是 方 的鸡呀，」

“块”って言うたら四角の鶏肉の塊や。

ér búshì zhème xiǎode jītuǐ
「而不 是 这 么 小 的鸡腿。」

こんな小さい鶏の足とちゃう。

Zhème xiǎo de bújiào “yíkuài”, jiù jiào “yíge” ya
「这 么 小 的不 叫 “一 块”, 就 叫 “一个”呀。」

こんな小さいのは“一块”って言わへんねん。“一个”って言う

んや。

と訳の分からん理由を敲きつけて、交換してもらおうとした。小姐も譲らへん。

Zhème xiǎo de yě jiào “yíkuài” ya
「这 么 小 的 也 叫 “一 块” 呀！」

こんな小さいのかって“一块”って言うわ。(小姐の方が正しい)

Ér qiě nǐ mǎi de shíhòu méi tíguò
「而 且，你 买 的 时 候 没 提过，」

それに、あんた買った時は何も言わんかったやんか。

nǐ yǐjīng bǎ jīkuài dàidào zìjǐ wèizi shàng le
「你 已 经 把 鸡 块 带 到 自 己 位 子 上 了。」

もう、から揚げを自分の席まで持って行ってしまったやんか。

Yídàn cóng fúwùtái názǒu de shíwù bùkěyǐ náhuílái huàn xīnde
「一 旦 从 服务 台 拿 走 的 食 物，不 可 以 拿 回 来 换 新 的。」

一旦カウンターから離れたものは、持ってきて新しいのに交換することはできへんのや。

彼女と少し言い合いもしたけど、彼女はマニュアル通りのサービスをしてた訳やし、一旦カウンターから離れた物を新品と交換することはできへんっていう理由も分かる。もしかしたら、少しでも客が口にしてしまってるかもしれんしな。それで、私がスゴスゴと引き下がってくると、季はまた怒った。

Nǐ zài gàn shénme ya
「你 在 干 什 么 呀！」 *おまえ何やってんねん！*

そう言って、彼はカウンターでマネージャーを呼びつけ、蘇州

弁でまくしたててた。結局、大きいから揚げに交換してもらって戻ってきた。

たかが一個の鶏肉で……と思うやろう。でも、中国におったら、やたらと自己主張が激しくなってしまう。こんな些細なことで、結構ムキになってしまったりする。中国のケンタッキーのから揚げは、確かに大きさがまちまちで、このことがあって以来、鶏のから揚げを注文する時、

Wǒ yào dàyìdiǎn de
「我 要 大一 点 的。」　*ちょっと大き目の頂戴。*

と言うようになってしまった。(でも、それで大きいのをくれるかどうかの保証はない。) もちろん日本では、そんなことよー言わんけどな。せこいかもしれんけど、同じ十元出して食べるのに、あまりに小さい鶏肉を出されたんでは悲しい。私はやっぱり、これからも言い続ける。

Wǒ yào dàyìdiǎn de
「我 要 大一 点 的。」　*ちょっと大き目の頂戴。*

7　羊肉のおいしい店

蘇州市には、六つの管轄市がある。Kūnshān Wújiāng Wúxiàn
昆 山，吴 江 ，吴 县，
Tàicāng Chángshú Zhāngjiāgǎng
太 仓， 常 熟， 张 家 港。これらはすべて「市 shì」やけ

ど、「县 xiàn」等級の「市 shì」や。だから、これらの市は行政的に見れば、蘇州市管轄になって、蘇州市の中に含まれることになる。私は、その中の吴县藏书镇 Wúxiàn Zàngshūzhèn というところに羊肉を食べに行ったことがあった。蘇州市の中心から車で行くと、一時間弱くらいかかるところやった。(最近、吴县 Wúxiàn が“市”から蘇州市の中の“区”に変わったとも聞いてる。)

中国の行政管理についての補足説明

日本にも、県があって、その下に市があり、またその下に町や村があるように、中国にも行政管理区分がある。大きいものから並べると、

省 shěng，市 shì，县 xiàn，乡 xiāng，镇 zhèn，村 cūn

となっている。

(北京市 Běijīngshì，天津市 Tiānjīnshì，上海市 Shànghǎishì，重庆市 Chóngqìngshì は“直辖市 Zhíxiáshì”と呼ばれ、省と等級)

この時、季の学生時代の友人たち五、六人と一緒に食べに行った。その中の一人が「面包车 miànbāochē」(小さいワゴン車) を持ってたから、彼の車に便乗して行った。既に夜7時を過ぎてた頃で、外は真っ暗、街灯のないガタガタ道を三十分くらい走った。私はどこに連れて行かれるんやろうか、ほんまにおいしいレストランはあるんやろうかと、ごっつい不安になってきた。

到着した時、私はそこが一体どこなんか分からんかった。真っ暗な道を走ってきたから、方向感覚はまったくなかった。見渡してみると、その辺り一帯に羊肉レストランが並んでた。ここは羊肉料理で有名な地域らしい。

お店の中に入っていくと、店主たちがやたらと腰が低い。中国人らしくなく、私らにヘコヘコしてる。なんでや？私らただの客やで。案内された部屋に行くと、季の別の友人一人とその奥さんが既に席に着いてた。もう、料理もいっぱい机の上に並んでて、その友人「Guō xiānshēng 郭 先 生」(以後、彼のことを“郭さん”と書く)はかなりお酒が入ってる様子やった。

「Nǐmen zài gànmá ya 你 们 在 干 嘛 呀！」 *おまえら何やってんや！*

「Zěnme zhème wǎn cáilái ya 怎 么 这 么 晚 才 来 呀！」

なんでこんな遅くなってから来るんや！

あ〜、お酒入ってる、入ってる。友人の中の一人が答えた。

「Nǐshuō qīdiǎn ya xiànzài cái qīdiǎnbàn ne 你 说 七 点 呀，现 在 才 七 点 半 呢。」

おまえが七時って言うたんや。今まだ七時半やろ。

「Búsuàn tàiwǎn ba 不 算 太 晚 吧。」 *そんなに遅くないで。*

(この友人の感覚では、待ち合わせに半時間くらい遅れても、そんなに遅れたことにならんと思ったみたいや。だから、「cái qī diǎnbàn ne 才 七 点 半 呢」と「cái 才」を使って、「まだやっと七時半になったと

ころや」というニュアンスを表現してる。もし、「こんなに遅くなってしまった。」という気持ちがあったら、「已经(yǐjīng)七点半了(qīdiǎnbàn le)」という風に「已经(yǐjīng)」を使う。もともと、日本と韓国以外のアジア人は時間にルーズなのが一般的やけど、三十分遅刻はやっぱり遅いと思う。)

郭さんは彼の言葉には答えんと、部屋の入り口で立ってた私らに、座るように促した。

「不要(Búyào)愣着(lèngzhe)，快(kuài)一点儿(yìdiǎner)坐下(zuòxià)，」

ぼぉーっとせんと、早く座れよ。

「来(Lái)！坐(Zuò)，坐(zuò)，坐(zuò)！」　*おい、座れ、座れ、座れ！*

「哦哦(Ò ò)！久米(Jiǔmǐ)！你(Nǐ)来(lái)了(le)！」　*おお〜、久米か！来たかぁ！*

「你坐(Nǐzuò)，你坐(nǐzuò)！你坐在(Nǐ zuòzài)我太太(wǒ tàitài)的旁边(de pángbiān)吧(ba)。」

座って、座って！　俺の妻の横に座っとき。

なんで一人でそんなにお酒が飲めるかな〜。郭さんの奥さんは一滴もお酒を飲まへんから、これだけのお酒、一人で先に飲んだんや……。

「老板(Lǎobǎn)，你(nǐ)再(zài)拿(ná)几个(jǐgecài)菜过来(guòlái)吧(ba)！」

店長、あといくつか料理持ってこいや。

「久米(Jiǔmǐ)，你(nǐ)喜欢(xǐhuān)羊肉(yángròu)吗(ma)？」

久米、おまえ羊肉好きか？

私はうなずいた。

Ò ò ò Nà kuàiyìdiǎn chī duōchī yìdiǎn Chība chība
「哦哦哦! 那，快 一 点 吃，多 吃 一 点 。吃吧，吃吧。」

おおお！ ほな、早く食べ！ たくさん食べろよ。食べよ、食べよ。

郭さんは、私が日本人やから、私によくしてくれる。他の友人たちは「しゃーないな〜」という感じで席に着いた。しばらくすると、店長と店員たちが、またいっぱい料理を持ってきた。既に料理はいっぱいあって、テーブルの上にはもう乗りきれへんほどやった。また来た料理を、皿と皿の上にどんどん重ねていく。人数分以上の料理がこれでもかこれでもかというくらい出てきた。なんでこんなにいっぱい料理が出るんやろ〜？

その時私は状況が飲み込めんかった。一体これはどういうことやったんかと説明すると、郭さんは蘇州市工商局の職員で、この日はこのお店の監査に来てた。中国でも日本と同じように、飲食店は、市政府から営業許可をもらわんと営業できへん。郭さんは、その営業許可を認定する仕事に携わってるわけや。

でも、中国の工商局の監査っていうと、その店でただで飲み食いすること。そこの店主が、工商局職員にごまをすって「拍马屁(pāimǎpì)」、お店の中で彼らのやりたい放題、好き勝手に飲み食いさせる。そうすると、それから一年は安泰でお店の開業ができるというわけや。

工商局職員が市内飲食店の“監査”に回るのは決まった時期があって、年一回、大抵旧正月前に行われる。私もこの日を皮切りに、郭さんに色んなお店に連れていってもらった。でも、見てたら郭さんも、あんまりこの仕事が好きっていう訳でもなさそうやった。それに、奥さんがかわいそう。郭さんにも上司がおって、上司に呼ばれたら絶対行かなあかんし、行ったら、お酒を浴びるほど飲んで、それが毎日続くわけや。ムチャクチャ体に悪いのは言うまでもない。時々、奥さんがいくら携帯電話を鳴らしても誰も電話に出ぇへんから、外に出て探しに行くと、お酒に酔いつぶれて、道端で寝てしまってたことも何度かあったらしい。ただ食いも楽じゃない、かわいそうなくらいや。

この羊肉のお店、確かに料理はどれもおいしかった。羊肉で、これだけのレパートリーの料理ができるっていうことも知らんかったし、羊肉料理で有名な新疆料理ともまた違って、すごく“やさしい”味の料理やと思った。そこで初めて食べたものもあった。羊のおチ〇チ〇や。ま、日本人がふぐの白子を食べるのとよく似てるやろう。

最後、店を出る時、郭さんが私に聞いてきた。

「Jiǔmǐ jīntiān chī de cài lǐmiàn nǐ zuì xǐhuān de shì nǎge cài
久米，今 天 吃 的 菜 里 面，你 最 喜 欢 的 是 哪个 菜？」

久米、今日食べた料理の中で、おまえが一番好きな料理はどれや?

そう聞かれて、私は「これ」と指を指した。すると郭さんが店長に何か指示した様子で、二、三分もするとその羊肉料理がたんまりと「打包(dǎbāo)」されて、私に渡された。私は驚いて、

「我不是这个意思(Wǒ búshì zhège yìsi)。」 *私、そういう意味で言うたんとちゃう。*

と言ったけど、郭さんは、

「没关系(Méi guānxi)，没关系(méi guānxi)。」 *ええねん、ええねん。*

と言って、その土産を私に持たせた。

ただ飯食らいをした上に、手土産までもらってしまった。さすが人治国家の中国、権力者にはとにかくヘコヘコしとかなあかんのや。でも、こういうの（ただ飯食らいに手土産）はまだかわいい方かもしれん。飲食店の店長たちにとっては、恐るべき工商局なんやろうな。

六 生 活

1 テレビ

中国のテレビ「电视(diànshì)」の話をし始めたらきりがない「没完(méiwán)没了(méiliǎo)」。どっから話を始めようかと思う。

まず、中国のチャンネル「频道(píndào)」数はものすごく多い。どのくらい多いかっていうと、何局あるかは数えたことがないから知らんけど、各省ごとにテレビ局「电视台(diànshìtái)」があって、そこのテレビ局が各々複数のチャンネルを持ってるから（中国は四つの直轄市、香港・マカオの二つの特別行政区及び台湾を含む二十八の省と自治区がある)、全部っていうと百局は軽く超えてる。

もちろん、それだけのチャンネルを全部見れる訳じゃなくて、各都市のテレビ局が、テレビチューナー許容範囲内のチャンネル数を選定して、各家庭にケーブルで配信してる。一台のテレビが映せるチャンネル数は三十局前後やから、そのくらいのチャンネルは見ることができる。でも、香港と台湾のテレビだけは、中国大陸のどこに行っても普通は見られへん。(自分で勝手に設備を入れて受信したら、違法行為となる。)

ここでは私が普段見てて、おもしろいと思った番組を紹介する。

1 ニュース「新 闻 报 道 xīnwén bàodào」

まず、中国におったらニュースは見とかなあかん。毎晩七時に中央テレビ「中 央 电 视 台 Zhōngyāng diànshìtái」が放送するニュースがある。これはおもろない。トップニュースは必ず「今日は共産党の○○が、××の国の△△と面談した。」という内容。その面談の様子が十分から二十分くらい流れる。その後も、共産党系のニュースばっかり。全然おもろない。(中 央 电 视 台 Zhōngyāng diànshìtái は、中国政府が管理するテレビ局で、略して CCTV と呼ばれ、CCTV1～CCTV12 まである。)

北京におった時は、香港の「凤 凰 台 Fènghuángtái」というテレビ局の番組が見れた。そのテレビ局の中に、吴 小 丽 Wú Xiǎolì という有名な女性アナウンサーがおって、私は彼女のニュースを見るのが大好きやった。吴 小 丽 Wú Xiǎolì は中国大陸でも超有名で、あの朱 镕 基 Zhū Róngjī も彼女のニュースは欠かさず見ていたというほど。彼女は台湾人で、中国人としての自分のルーツを辿るうちに、香港でアナウンサーとして活躍するようになったらしい。時々、中国の女性雑誌にも載ってる。でも、普通は中国国内で香港のテレビ番組は見られへんから、蘇州に来てからは見られへんようになってしまった。

中 央 电 视 台 Zhōngyāng diànshìtái のニュースもおもろないし、香港のニュースも見られへんかったから、蘇州では上海のテレビ局のニュー

スを見てた。中国のニュースのいいところは、色んな国の出来事を見れることや。日本のメディア「媒体(méitǐ)」は、アメリカ「美国(Měiguó)」とかヨーロッパ「欧洲(Ōuzhōu)」以外の海外ニュースはあんまり放送せぇへんけど、中国はアフリカ「非洲(Fēizhōu)」、中東「中东(Zhōngdōng)」、東南アジア「东南亚(Dōngnányà)」のことまでよくニュースにする。反対に、中国のテレビの悪いところは、どんなニュースでも全部映像に映し出してしまうところ。例えば、経済犯（不当に利益を得たり、脱税したりした人）の裁判を全部放送したり、死刑執行の場面を映したり、事故で死亡した人の死体を映像に映しだしたり……。そういうのは、とても見ることができへんから、私はいつもチャンネルを換えてた。

あと、中国のニュースでどうしても多いのは、共産党を讃える「表扬(biǎoyáng) 共产党(gòngchǎndǎng)」もの。美談ばっかり作り上げて、見てる方は苦しくなってくる。でも、仕方ないわな〜。

2 連続ドラマ「连续剧(liánxùjù)」

中国でも連続ドラマは多い。現代もの「现代连续剧(xiàndài liánxùjù)」から時代劇「古装连续剧(gǔzhuāng liánxùjù)」まで色々ある。現代ドラマで私がはまってしまったのが、「黑冰(Hēibīng)」という超有名なドラマ。色んなチャンネルで再放送されてる。

内容は、麻薬取引をめぐる男女の話。主人公の男性「男主角(nánzhǔjiǎo)」

は、王志文（Wáng Zhìwén）という俳優「演员（yǎnyuán）」が演じ、薬品会社の社長の役。でも実はこの社長、大掛かりな麻薬取引に関係している（薬品会社の名の下に、工場で「冰毒（Bīngdú）」という麻薬を製造、販売）。主人公の女性「女主角（nǚzhǔjiǎo）」は、蒋雯丽（Jiǎng Wénlì）という俳優で、公安部から特別に派遣された秘密警察官の役。蒋雯丽（Jiǎng Wénlì）といえば、日本でもNHKドラマ「大地の子」で月梅役を演じて有名になった女優。

「海州（Hǎizhōu）」という架空の地名を作って、そこで麻薬取引追跡劇が繰り広げられる。市公安局もずっと張り込みしたりして追い続けてるけど、実は、公安部（おそらく中央公安局という設定か？）の麻薬取締班も、アジア全域にまたがる麻薬取引として追跡中。蒋雯丽（Jiǎng Wénlì）は、そこから派遣されて、王志文（Wáng Zhìwén）の会社に副社長として潜り込む。市公安局も蒋雯丽（Jiǎng Wénlì）が秘密警察官で、スパイとして潜り込んでることは知らない。すごい信憑性があって、見てる方はハラハラドキドキする。

紆余曲折があって、色んな人が死んでいく。その中で、王志文（Wáng Zhìwén）は蒋雯丽（Jiǎng Wénlì）を好きになってくけど、最後は蒋雯丽（Jiǎng Wénlì）に騙されるような形で王志文（Wáng Zhìwén）が捕まって、死刑「死刑（sǐxíng）」となる。ああ〜、最後は悲しかった。

他にも、麻薬「毒品（dúpǐn）」や密輸取締り「打击走私（dǎjī zǒusī）」のドラマは

いくつもあった。どこの国でもそうやと思うけど、ドラマというのは、その当時の社会情勢を反映してる。中国では、麻薬の裏取引「贩毒(fàndú)」だけじゃなくて、密輸「走私(zǒusī)」がすごく多いから、こういうドラマが生まれる。主人公であっても、密輸した人間は最後は絶対捕まって死刑になる。これが中国のドラマ。

他に見てたのは、日本でも最近やっと流行りだした韓国ドラマ「韩国连续剧(Hánguó liánxùjù)」。これは、私が北京におる頃(99年)から中国で流行りだした。中国で「韩流(Hánliú)」と言われ、その言葉が日本でもそのまま「韓流」と使われるようになった。韓国ドラマはやっぱり恋愛もの「恋爱剧(liàn'àijù)」がいい。コメディー「滑稽剧(huájījù)」もあって、「我的野蛮女友(Wǒ de yěmán nǚyǒu)」(僕の猟奇的な彼女)っていう映画は大ヒットしたけど、私はやっぱり恋愛ものが好き。一番はまったのは「蓝色生死恋(Lánsè shēngsǐ liàn)」という、女の子が病気で(韓国の恋愛ドラマに主人公の病気は付き物!)死んでしまい、彼とは結ばれないけど、命を懸けて恋愛するっていう物語。これも胸にグッときたなぁ〜。

その他に私が好きやったのが、中国の近代を背景にしたドラマ。はまったドラマは「梧桐雨(Wútóngyǔ)」という、これも2002年から2003年にかけてかなり流行したドラマ。民朝初期、上海にあった著名な銀行「“富康(Fùkāng)”钱庄(qiánzhuāng)」(昔、銀行のことを「钱庄(qiánzhuāng)」

と呼んだ）を経営する家族の話。（「梧桐（Wútóng）」は木の種類の名前（アオギリ）。）時代の荒波に揉まれながら、最後は一文無し「一贫如洗（yìpín rúxǐ）」になって、それでも家族揃って「梧桐树（Wútóngshù）」の下に立ち、みんなで明日に向かって生きて行くことを誓うという物語。

このドラマの中で好演していたのが、潘虹（Pān Hóng）という中国を代表する女優。夫を亡くし、一人で「钱庄（qiánzhuāng）」を切り盛りする敏腕の女性。長男と事業の為なら人殺しでも何でもやってしまう怖い性格で、長男に嫁いだ献身的な嫁をいびりまくる母親の役。でも、最後には狂ってしまい、十歳くらいの子供のようになってしまう。とても演技をしてるようには見えへんかった。

このドラマでは、男性は唐装（tángzhuāng）（チャイナ服）を、女性は旗袍（qípáo）（チャイナドレス）を身にまとい、中国チックな雰囲気を味わえるのもよかった。このドラマも色んなチャンネルで再放送が見れたから、私は何度も繰り返し見た。この時代の中国語やったら私でも分かるけど、これ以上古い時代の中国語は、私には難しくて理解できへんかったから、時代劇も近代を背景にしたものが見やすかった。

中国のドラマは、毎日見れるからいい。日本みたいに一週間待たんでも、続きは次の日に見れる。それも、一日に二、三本続けて放送してくれるから、見応えがある。

3 アニメ「动画片(dònghuàpiàn)」

アニメで多いのは、日本のもの。これがダントツ多い。それからアメリカのものと中国のものがある。日本のアニメは中国でも評判が良くて、十代の女の子の中にはアニメファン（アニメおたく）も多い。「セーラームーン」「美少女战士(Měishào'nǚ zhànshì)」は大流行で、コスチュームも自分で作って、それを着て街を歩く子もいてるほど。宮崎駿シリーズも有名で、映画の VCD や DVD は中国各地で販売されてる。子供に人気なのが、「名探偵コナン」「侦探柯南(Zhēntàn Kēnán)」、「ピカチュー」「皮卡丘(Píkǎqiū)」、「ドラゴンボール」「七龙珠(Qīlóngzhū)」など。子供用のお菓子を買うと、おまけにこれらのカードやマスコットなどがついている。

昔、中国で有名な日本のアニメというと、「一休さん」「一休(Yīxiū)」、「竜の子太郎」「龙子太郎(Lóngzǐtàiláng)」などで、一休さんだと、その主題歌は今の五十代、六十代の人でも歌えるほど。

昔も今も、ずっと人気があるアニメといえば、「ドラえもん」「哆啦A梦(Duōlā mèng)」。昔は、意味から訳して「机器猫(Jīqìmāo)」（ロボット猫）と呼ばれてたけど、最近になって当て字で「哆啦A梦(Duōlā mèng)」と呼ばれるようになった。

4 娯楽（バラエティー）「娱乐节目(yúlè jiémù)」

「超级变变变！(Chāojí biàn biàn biàn)」という番組。これは実は、「欽ち

ゃんの仮装大賞」という番組。すっごい昔のものも放映されてて、欽ちゃんがすごく若い。声は全部吹き替え「配音（pèiyīn）」で、欽ちゃんの生の声が聞けないのがちょっと残念。

「相约星期六（Xiāngyuē xīngqīliù）」は、毎週土曜日の夜に放送される、恋人探しの番組。上海で公開録画されてて、恋人を探したいと思えば誰でも応募「报名（bàomíng）」できる。最初、女の子がお面を被って出てきて、顔は見せずに自己紹介をする。この時、彼女たちは自分のことをかなり良く言う。まぁ、こういう場では、短い時間にできるだけ自分をアピールする為に、大げさに自己紹介せなあかんのやろうけど、日本人的感覚で見てたら、「そんなに良かったら、ここに来んでも恋人くらいできるやろ。」と思ってしまう。

上海のお笑い番組「搞笑节目（Gǎoxiào jiémù）」もかなりいけてる。これは上海語で喋られるけど、画面下に字幕が出るから私らでも理解できる（ただ、上海語が理解できへんと分からん“笑いのツボ”っていうのもある）。もし、これが共通語「普通话（pǔtōnghuà）」で喋られると、この味は出ぇへんと思う。吉本が関西弁で喋るから味があるのと同じや。吉本新喜劇みたいに、いつも同じ設定と人物で演じられる。何種類かの舞台設定があるうち、私は「奶茶店滑稽戏（Nǎichádiàn huájīxì）」（ミルクティー屋が舞台の喜劇）が一番お気に入りや。夫婦で経営してるんやけど、だんなさんはいっつも奥さんに頭が上が

らへん「妻管严(qīguǎnyán)」っていう、上海近辺の典型的な夫婦をおもしろおかしく描いてる。

「气管炎(qìguǎnyán)」と「妻管严(qīguǎnyán)」について

「气管炎(qìguǎnyán)」は、「気管支炎」のこと。「妻管严(qīguǎnyán)」は、「妻の管理が厳しい」、つまり「妻の尻に敷かれてる」という意味。气(qì)(第四声)と妻(qī)(第一声)の声調が違うだけで、あとの発音は同じなので、よく冗談で、奥さんに頭の上がらない人のことを指して「妻管严(qīguǎnyán)」と言う。文法的には「妻子管得严(Qīzi guǎn de yán)」と言うのが正しい。

クイズ番組「智力竞赛节目(Zhìlì jìngsài jiémù)」も多い。何故か私が見てたクイズ番組の司会者「主持人(zhǔchírén)」たちは、みんなヘッドフォン式マイクをしてて、問題が出される前に決まったしぐさをする。南京の「幸运智多星(Xìngyùn zhì duōxīng)」は、司会者の女性が「请出题!(Qǐng chūtí)」(問題をどうぞ!)と言いながら、手を紅衛兵が敬礼するように(敬礼と反対の動きで)腕を伸ばす。これが、とても軽快で見ているものを楽しませる。上海の「财富大考场(Cáifù dàkǎochǎng)」の男性二人組司会者は、軽快な音楽に合わせて手を動かす。このしぐさをマネする若者も多い。

5 スポーツ「体育(tǐyù)」

中国には「体育台(tǐyùtái)」という、スポーツだけを放送するチャンネルがある。NBAや、オープンテニス「网球公开赛(Wǎngqiú gōngkāisài)」や、卓球「乒乓球(pīngpāngqiú)」、水泳「游泳(yóuyǒng)」、飛び込み「跳水(tiàoshuǐ)」、サッカー「足球(zúqiú)」、バレーボール「排球(páiqiú)」まで色々ある。ただ、野球「棒球(bàngqiú)」だけは見たことがなかったな。

6 映画「电影(diànyǐng)」

海外の古い映画がよく放送されてる。おもしろいと思ったのが、欧米の映画で、俳優はみんな欧米人やのに、吹き替え「配音(pèiyīn)」されてるから、欧米人が中国語を喋ってるように見えることや。外国人が日本に来て、日本の吹き替えされた洋画を見たら、同じように思うんやろうなと思った。

中国のテレビを見てて便利と思うのは、95%くらいの番組は、画面下に字幕が出ること。時代劇とかやったら、古語を喋るから、字幕を見ても分からんことも多いけど、普通の番組は、聞き取りができなくても字幕があるからかなり助けられる。中国語の勉強にもなるし、中国のことも色々勉強できるし、テレビはほんまにいい先生でもあるし友達でもあるで。

2　節約家の蘇州人

蘇州人は、とにかくすごい節約家や。良く言えば節約家「节约(jiéyuē)」、悪く言えばドケチ「小气鬼(xiǎoqìguǐ)」や。

節約その一

流し水は使わない。

例えば、顔を洗う時、蛇口「水龙头(shuǐlóngtóu)」から出る水で顔を洗わんと、一旦洗面器「面盆(miànpén)」に水を入れて、それも洗面器の底に二、三センチくらいの深さだけ水を入れて、その中にタオル「毛巾(máojīn)」を浸し、その濡れタオルで顔を洗う。洗顔に使ったタオルも、洗面器の中でバシャバシャとすすいで、絞って終わり。流し水でタオルを洗うことはせぇへん。(最近の若い女性は、洗顔フォームを使って洗うみたいやけどな。)

食器を洗う時も、お鍋か樽に溜めた水で洗う。最後にチョロチョロと流す水で少し水をかけて終わり。

節約その二

トイレの水は流さない。

蘇州人の一般家庭にお邪魔すると、たまに、トイレの水が流されてないのを見ることがある。蘇州人は、水洗トイレの流し水がもったいないと思ってるから、小の時は水を流さへん。大をした

時だけ水を流す。だから、トイレの水は大抵いつも黄色く濁ってる。

たまに、会社の女子トイレでも、黄色く濁ったまま流されてないトイレがある。ついくせで水を流さず出てきてしまうんやろう。（ちなみに中国では、トイレで使ったトイレットペーパーは便器の中に流さず、便器の横に設置されてるゴミ箱に入れるようになっている。これは、排水管の詰りを防ぐ為。だから便器の中に残っているのは、“小”だけで、トイレットペーパーは残っていない。）

節約その三

エアコンはつけない。

すっごい暑い夏、すっごい寒い冬でも、エアコンをつけへん家庭が多い。電気代が高い（蘇州の電気代はほんまにすごく高い。大阪とあまり変わらんくらいやから、収入の比で見ると、かなり高いことになる。）から、電気代節約の為にエアコンはつけへんのや。

でも大抵友達の家に行くと、お客さんが来たからと、エアコンをちゃんとつけてくれる家庭が多い。蘇州人同士やったら、客側が遠慮「客气(kèqì)」して、

「不要(Búyào) 开(kāi) 空调(kōngtiáo)。」　*エアコン付けんでもええよ。*

と言うことが多い。お互いの生活習慣は分かってるからな。

真冬に友人の家に行った時、彼女は新婚で新居を作ったばかりで、お金はあまりなかったから、私はやっぱり遠慮してエアコンは付けてもらわへんかった。そしたら寒いこと、寒いこと。ついさっき入れたばっかりの熱いお茶も、ボォ〜って湯気が立ってたかと思うと、すぐに冷たくなるくらい寒い。足をガタガタいわせて、凍える手をさすりながら一緒にトランプをした「打扑克牌(dǎ pūkèpái)」のを覚えてる。

もっと親しい友人の家に行くと、寒い冬の日は、

「你不要开空调了(Nǐ búyào kāi kōngtiáo le)。」　*エアコン付けんでもええで。*

「不好意思，能不能给我冲一下热水袋(Bùhǎoyìsi, néngbunéng gěi wǒ chōng yíxià rèshuǐdài)？」

悪いけど、私に湯たんぽ作ってくれへん？

と言って、ゴム製の湯たんぽ「热水袋(rèshuǐdài)」を準備してもらう。友達の家にいる間中、湯たんぽを服の中に入れて、抱きしめたまま過ごす。エアコンがなくても、この湯たんぽでかなり体は温まる。

実は、そういう私自身も蘇州で暮らしてる時、冬、家の中ではエアコンを付けず、湯たんぽで過ごしてた。これが結構いけるんや。「入乡随俗(rùxiāng suísú)」(郷に入らば郷に従え)って言うし、昔の人の知恵は見習うべきや。この湯たんぽ、ほんま合理的やったで。

3　原付バイク

蘇州で生活してる時に大変お世話になった“物”がある。それは、原付バイク「助动车(zhùdòngchē)」や。

日本語で原付バイクは「原動機付き自転車」と言われるように、中国で 50cc 以下の原付バイクは自転車の類として扱われてる。だから、運転免許「驾驶执照/驾照(jiàshǐ zhízhào/jiàzhào)」もいらんし、ヘルメット「头盔(tóukuī)」もいらん。主要道路は、自動車走行道路と自転車走行道路と歩道とが区切られてて、原付バイクは自転車走行道路を走ることになってる。（でも、容量が 50cc を超えるバイクは、免許もヘルメットもいるし、自動車と同じ道を走らなあかん。）

原付バイクは、税金も払わなあかん「上税(shàngshuì)」し、ナンバープレートも付けなあかん「上车牌(shàng chēpái)」のやけど、このナンバープレートがくせものや。

日本も、ナンバープレートには地域の名前が入ってる。中国も同じで、車番に地域の名前が入ってる。自動車は簡単で、上海やったら「沪(hù)」、蘇州やったら「苏(sū) E」、南京は「苏(sū)A」、無錫は「苏(sū) B」となってる。バイクのナンバープレートは地域でもっと細かく分かれてて、バイクの種類（容量の大小）ごとにプレートや字の色まで異なる。それに、バイクはナンバープレートを取得した

地域から出て運転したら警察に捕まえられて、罰金「罚款(fákuǎn)」か、免許取り上げ「驾照吊销(jiàzhào diàoxiāo)」か、バイク没収「助动车没收(zhùdòngchē mòshōu)」となってしまう。警察がどんな罰則を科すかは、その時の運か、警察官の機嫌による（これはほんまで、ちゃんとした罰則規定はない)。でも、ある一定の取締り期間内に違反すると、決められた罰則規定通りに裁かれる（中国の警察は適当なもんや)。

だから、このナンバープレートはすごくやっかいで、私もこれには迷惑してた。実は私が乗ってたバイクは正式なナンバープレートのないもので、違法バイクやった。なんでナンバープレートを付けへんかったんかと言うと、それを取得できへんへんかったからや。蘇州市政府は、市内の走行バイクの数があまりに多くて空気汚染の原因にもなるし、より良い交通の妨げにもなるから、99 年くらいからナンバープレートを発行せぇへんようになってしまった。

でも矛盾してるのが、街ではそこらじゅうにいっぱいバイクを売ってるお店があることや。今後ナンバープレートは発行せぇへんのやったら、実質上バイクの新規購入はできへんっていうことやのに、バイクの販売は許されてる。これって、ごっつい矛盾とちゃうか？

ま、それはさておき、それで私が考えたのが、パッと見た目、

ナンバープレートが付いてるように見えるように、知人が廃車したバイクのプレートを外してもらって、それを自分のバイクに付けること。それでも警察には気を付けて、警察のおらんところとか、家のまわりを中心に運転してた。ほんまはこういう違法行為はしたらあかんのやけど、便利やから、とついついそのバイクを使って生活してた。買い物にも行かなあかんし、友人の家や、季の家族の家、蘇州市内をあちこち移動するのに、いつもバスを使うんでは時間が足りへんかったからな。

今では、ナンバープレートの問題と、2008 年までに原付バイクは蘇州市内から一掃するという蘇州市政府の政策の為に、原付バイクを買う人はいなくなって、それに代わって電動自転車「电瓶车（diànpíngchē）」が流行りだした。2000 元前後で買えるし、スピードもそこそこ出るし、これもなかなか便利でいい。ただ、充電池がたったの一年くらいの寿命しかなくて、すぐに買い替えが必要。この充電池も捨てると環境汚染につながるのに、まだこの充電池の処理方法が検討されてない。バイクにしても電動自転車にしても、どっちにしろ環境汚染につながる。便利なものには代償が付き物なんやろうか。

4　修理屋

蘇州市内には、バイクの修理屋「助动车修理店（zhùdòngchē xiūlǐ diàn）」が至るところに店を構えてる（大抵「门面房（ménmiànfáng）」と呼ばれる、道端に面した店舗を持ってる。但し、今では電動自転車の修理屋になっている）。

北京におる時でも、こんなにたくさんの修理屋を見たことはなかった。蘇州に来て、なんでこんなに修理屋が多いんやろうと思った。私の観察の結果、北京ではほとんど見ぃへんかったバイクが蘇州ではごっつい多いし、それも品質の悪いバイクが多いから、修理屋も多いんやろうという結論に至った。(蘇州のバイクだけが品質が悪いわけじゃないけど。)

まず、バイクは偽物「假货（jiǎhuò）」が多い。ホンダ(Honda)に似せたバイクで、”Hongda”（洪达（Hóngdá））っていうブランドのバイクもよく売られてる。”Hongda”のバイクの品質はよく知らんけど、蘇州でよく見たどこのメーカーのバイクかも分からんやつは、色んな部品を色んなところから寄せ集めて組み立てただけやから、部品同士の相性とか、組み合わせた時のバランスとか全然考えられてない。その上、一つ一つの部品かって品質はイマイチやから、バイクはすぐに故障する。

それで必要になってくるのが、バイクの修理屋や。そこでなおしてもらったら、しばらくは維持できる。でも、また別のところの具合がすぐ悪くなってくる。こっちをなおしたら、今度はあっち、そこもなおしたのに、今度はまたここ……って感じで、永遠に修理をし続けなあかん（バイクでも自転車でも同じこと）。

もともとバイクの品質が悪いから、修理屋も、その時欠陥がある部分だけを（適当に）なおしたらええだけ。（適当に修理する修理屋が多かったから、季はよく、丁寧に修理してもらえるよう、たばこを一本あげて、色々喋ったりしながら、修理屋のご機嫌伺いをするようなこともしたりした。中国の男性は、友人同士でたばこの上げ合いをする習慣がある。）一時的に修理するだけでも商売になるし、また悪くなったら修理に来てくれる。品質が悪いと、修理屋が儲かるわけや。

一回修理しても安いもんで、大抵は部品を交換するんやけど、交換する部品によって値段は違う。安かったら、二十元くらいでいけるし、高くても二百元くらいで大抵の修理はできてしまう。

自転車の修理夫も道端でよく商売してるのを見かける（自転車の修理夫は普通店舗はなくて、道端で道具を出して修理してる）。これもまたよく儲かる（と思う）。修理代はめっちゃ安いけど、客は多い。中国の自転車はタイヤの交換とか、空気がよく抜けるか

らタイヤの穴を埋めるような修理が多い。タイヤを交換しても、修理代は大体十元足らずで、これまた安い。

それから、ねじの緩みも多い。特に新車はねじが緩みまくってるから、買ったらすぐ道端の修理屋に行って、あらゆる部分のねじを硬く締めてもらわなあかん。中国の自転車は、実は中古車の方が優れもので、新車の方がよく壊れる。中古は、色んなところをなおし切ってるから、すごく頑丈「牢(láo)」なんや。

私もよく利用したのが、道端におる修理夫の側にある空気入れ「气筒(qìtǒng)」。

「师傅(Shīfu)，我(wǒ)用(yòng)一下(yíxià)。」　*おっちゃーん、ちょっと使うで。*

と言えばただで貸してもらえる。私が蘇州で使ってた自転車は、修理してもらった後でも、二週間に一回は空気入れに行ってたからな。（バイクの空気入れは、電気で空気入れる「打气(dǎqì)」から五角必要。）

私も修理屋にはよくお世話になったもんや。

5　美容室

髪の毛って伸びるものやから、絶対に美容室「美容美发(měiróng měifà)

diàn
店」に行かんとやってられへん。もちろん蘇州にも、美容室「美
měi
róng měifà diàn
容 美发 店」もあれば散髪屋「理发 店」もある。(上海の
lǐfàdiàn
美容室やったら、料金は日本と同じくらいするところも多いし、日本人が経営してるとか、日本人の理容師がおるところもたくさんある。蘇州はまだそこまでいかず、中国らしい美容室が多い。)

実は私は美容室へは行かず、散髪屋に行ってた。なんでかと言うと、美容室はいちいち面倒くさかったからや。何が面倒くさいんかと言うと、まず、不特定多数の店員が毎回色々話しかけてくるのが面倒くさい。話しかけられると、共通語で喋るわけやから、

Nǐ shì nǎli de
「你 是 哪里的?」 *あんたどこの人?*(つまり、出身地を聞かれてる。)

って聞かれる。彼らは、私が中国人やと思って聞いてるんやけど、私が、

Wǒ shì cóng Rìběn lái de
「我 是 从 日 本 来 的。」 *日本から来たんや。*

って答えると、そっから質問攻めや。日本の芸能人の話とか、

Zài Rìběn xiànzài liúxíng de fàxíng shì zěnmeyàng de
「在 日 本 现 在 流 行 的发 型 是 怎么 样 的?」

今、日本で流行ってる髪形はどんなんや。

Wèishénme lái Zhōngguó
「为 什 么 来 中 国?」 *なんで中国に来たんや。*

Xuéshēng háishì shàngbān de
「学 生 还 是 上 班 的?」 *学生か働いてるんか?*

Wǒ shuōle shàngbān de
「我 说 了 上 班 的,」 *働いてるって言うたら、*

Nàme yòu wèn gōngzī duōshǎoqián
「那么 又 问 工 资 多 少 钱？」

給料はいくら？　って聞くし、

（中国人は、他人に平気で給料はいくらかと聞く）

Yǒuméiyǒu jiéhūn　děngděng
「有 没 有 结 婚？　等 等。」 *結婚してるんか？　とか。*

Tàimáfan le
「太 麻 烦 了！」　*とにかく、めんどくさい！*

次に、そこの理容師もプライドを持って髪を切ってるから、あまりこっちの要求を聞いてくれへんのが困るんや。最初の頃はカット「jiǎn tóufà
剪 头发」二十元の美容室に行ってて、腕はそこそこあった。でも彼らの好みで切られてしまうから、出来上がった髪型はどっから見ても中国人になってしまう。ただでさえ、中国人と間違われることが多いのに、髪型まで中国人と同じになってしまったら、どっから見ても中国人やんか。それは困る！

それで、店を換えて行ったところが、季の友人が営む小さな小さな散髪屋。カット五元や。でも、髪の毛を洗う時は、洗面台の前に座って顔を下に向け、上からお湯をかけられる。つまり、家のお風呂で自分で髪の毛を洗う時と同じ格好になるわけや。普通、女性は化粧してるから、そんなお店に行ったら、化粧は崩れてぐちゃぐちゃになってしまう。（中国人女性は、化粧をしていない人が多いから大丈夫なようや。）

その店でよく見たのは、髪の毛だけ洗いに来る客や。特に冬は

多い。中国の古い家（マンション）は、シャワー室がものすごい狭いし、冬は家の中がものすごい寒いから、家でシャワーを浴びたり、髪の毛を洗うのがすごく不便。それで、近所の散髪屋で髪の毛を洗ってもらうんや。シャンプーの時は普通に座ったまま、頭のてっぺんにシャンプーと水をかけながら、どんどん泡を増やしていく。マッサージを兼ねて、五分間くらい髪の毛をゴシゴシ洗ってくれる。最後に泡を流して終わり。タオルを渡されて、髪の毛は自分で拭いて、もし必要やったら自分でドライヤー「吹风机 chuīfēngjī」をかける。それで五元や。

季の友人が、散髪屋では儲からんからと、美容マッサージ店（エステ）「美容院 měiróngyuàn」を開いてからは、季と一緒に新しい散髪屋を開拓した。いいお店があった。そこの店主「老板 lǎobǎn」はすごくまじめで、仕事は丁寧すぎるほどやったし、口数もあんまり多くなかった（喋ると、南京語のなまりがきつくて、時々彼の共通語が分からんこともあった）。それに良かったのが、私の好き勝手にさせてくれたこと。

まず、私はいつも、タオル「毛巾 máojīn」と櫛「梳子 shūzi」を持参した（お店のは、なんとなく不衛生な感じがしたから）。タオルも櫛も、私が持参したものを使ってくれた。髪形も、日本の雑誌を切り取って、これと同じにしてくれ、と言うとすごい頑張って、それに

よく似た髪型を作ってくれた。

だから客はどんどん増えて、最初はくっさいゴミ収集所の前に小さい店舗があったんやけど、そこから二，三軒隣の、以前より倍広い店舗に移った。移ってからは、弟子も入れた。弟子も、最初は二人やったのが三人になった。背もたれが倒れる椅子も入って、髪の毛を洗う時は俯きにならんでも、上を向いて洗えるようにもなった。その代わり、料金はちょっと上がっていった。でも、まぁええやろ。

やっぱり、ええ店に客は集まるんやな。

ここに、美容室や散髪屋で使う単語を書いておく。

カット　jiǎn tóufa 剪 头发

パーマ　tàng tóufa 烫 头发

ストレートパーマ　tàng zhífà 烫 直发

巻き毛パーマ　tàng juǎnfà 烫 卷 发

縮毛矯正　lízǐ tàng 离子 烫

カラーリング　rǎn tóufà 染 头发

シャンプーする　xǐ tóufa 洗 头发

シャンプー　xǐfàshuǐ 洗发 水

ドライヤーをかける　chuī tóufa 吹 头发

ドライヤー　吹风机 chuīfēngjī

トリートメント　护理 hùlǐ

前髪　刘海 liúhǎi

6　銭　湯

冬は、私も中国人と同じように、時々銭湯に行った。銭湯にも種類があって、単純にシャワーを浴びるだけの簡易銭湯「浴室 yùshì」と、娯楽施設も一緒になった大型銭湯「娱乐浴室 yúlè yùshì」がある。私はそのどちらにも行ったことがある。

大型銭湯は、大抵五，六階建てのビルになってて、一階がロビー、二階が銭湯、三階以上が娯楽施設っていうパターンが多い。日本と違うのは、ロビーでお金を払うと、貴重品以外の荷物と靴をフロントに預けて、専用サンダル「专用拖鞋 zhuānyòng tuōxié」と浴衣「浴衣 yùyī」とロッカーの鍵「保险箱的钥匙 bǎoxiǎnxiāng de yàoshi」が渡される。まず入浴して、その後はその建物から出るまで、専用サンダルと浴衣で過ごさなあかんのや。

ロビーから階段を上がっていくと、脱衣室がある。でも、床はすごい汚い。日本と違って、サンダルのまま入浴するから、脱衣

室の床はビチョビチョ、髪の毛もいっぱい落ちてて汚い。

浴場に入ると、そこは結構きれい。座って浴びる低いシャワーもあれば、高いシャワーもあって、シャンプーや石鹸は備え付けのものがある。蘇州には何軒か大浴場があるけど（何軒か行ってみたけど)、内装が凝ってて、ギリシャ風の浴場とか、御影石っぽい石をしきつめた石の浴場とか、それぞれ色々工夫されてておもしろい。

でも、ひとつ残念なのは、男性用浴場には湯船があるのに、どの大浴場に行っても、女性用浴場には湯船がないことや。何かの感染を防ぐ為なんやろうか？　理由は分からん。でも、どこに行ってもシャワーしかない。(中国におった時、どうしても湯船に浸かりたくて､友達と三人でゴルフ場の風呂に行ったことがあった。これが最悪で、お湯の温度が多分四十五度くらいあったんとちゃうやろか。やけどしそうになって、結局風呂に浸かれんと帰ってきたことがあった。)

入浴が終わると、配られた浴衣を着て、階段を上がっていく。そしたら、レストラン「餐厅(cāntīng)」や卓球台「乒乓球桌(pīngpāngqiúzhuō)」、ビリヤード「桌球(zhuōqiú)」、ゲームセンター「游戏中心(yóuxìzhōngxīn)」、パソコン室「电脑室(diànnǎoshì)」、映画鑑賞室「电影室(diànyǐngshì)」などがある。追加料金を出したら、そこで泊まることもできる。お風呂に入っ

た後は、そのビルの中でめい一杯遊ぶことができるんや。

でも、私が大型銭湯に行くのは年に二，三回のことやった。時々利用してたのは、街中にある簡易銭湯や。中国人が普段使ってて、近所の人だけが行く銭湯や。冬になると、私は義母とよく一緒に行った。

入り口でお金を払うと、ロッカーの鍵がもらえる。脱衣室前で、グチャグチャに履き捨てられてるサンダルに履き替えて、靴は持って入って、自分のロッカーに入れる。着替えたら（大浴場と同じくサンダルのまま）浴室に入る。浴室はそんなに広くない。天井にパイプが張りめぐらされてて、パイプの口が開いたところから、チョロチョロ、ボトボトとお湯が流れ落ちてる。その下で人がお湯を浴びてる。人が多いから、一筋のお湯を二，三人で分けながら、髪の毛を洗ったり体を洗ったりしてる。

そこは普通、蘇州人しか行かへんから、義母と一緒に行くようにしてた。その方が心強い。私一人で行くと、私は共通語を喋るから、「あ、外地人や。」と思われて（「あ、日本人や。」とは思われへんのがいいんか悪いんか……）、私のまわりに和やかな雰囲気があまり感じられへんようになってしまう。蘇州人同士の場合、（上からチョロチョロ落ちてくる）お湯を気持ちよく譲り合う“譲り合いの精神”が見られて（普段生活してる分には、中国人に“譲

り合いの精神”があるとはとても思われへんのやけど)、お母さんは蘇州語を喋るから、スムーズにお湯の譲り合いができる。

大型浴場と簡易浴場、どっちも日本ほど清潔さはないんやけど、冬は暖かくていい。

7　カラオケ小姐

蘇州の A 社で勤務している時、自称「いい人（好人 hǎorén）」の上司がよくカラオケ「卡拉OK kǎlā」に連れて行ってくれた。(いや、“自称”だけじゃなくて、この上司はほんまにいい人やったんやで。)

蘇州には「商业街 shāngyèjiē」と呼ばれる一本の通りがあって、そこには日本料理屋やカラオケスナックがズラリと立ち並んでる。99年、私が蘇州に来たばかりの頃は、まだ五軒のカラオケスナックがあるだけやったのに、今ではたったの数百メートルくらいの筋に、日本料理屋とカラオケスナックがそれぞれ何十軒も軒を連ねてて、日本人駐在員や出張者の憩いの場となってる。

カラオケスナック「卡拉OK酒吧 kǎlā jiǔbā」といっても、いかがわしい所とちゃう。健全なところがほとんど。だから、女の私でもお店に入るのは全然問題ない。初めて行くお店やったら、「ええ？女？」

っていう目で見られることも多かったけど、最近ではそういう店も少なくなってきた。お客さんも接待でスナックを使うようになってきたから、女性客が増えてきたようや。上司行き付けのお店に私が行くと、カラオケ小姐たちは喜んでくれる。なんでかと言うと、

1. 日本人女性が喋る日本語が勉強できる

彼女たちも、それなりにプロ意識を持ってカラオケ小姐をやってるから、日本人客を相手にするなら日本語は覚えなあかんと思って、日本語の勉強をしてる子がほとんど。でも、日本語は男性と女性で喋る言葉が違うから、いつも男性客とばっかり一緒におると、「このメシ、うまいなぁ」というような男性言葉を喋ってしまったりする。意味は通じても、女性が喋る言葉とちゃうから、彼女らは困るわけや。

2. 日本人女性が歌う日本語の歌を覚えることができる

客を喜ばす為に、やっぱり日本の歌を歌いたい。でも男性客が歌うのはデュエットか、演歌か、ポップスでも男性の歌ばっかり。女性の歌を歌いたいよな、やっぱり。

私が出会ったカラオケ小姐たちは、みんな真面目な子ばっかりやった。特に、行き付けのお店の小姐たちは、サービス業として

のプロ意識がものすごい強い。日本語を勉強してる子は、日本語検定まで受けて、二級を取得してる子もおった。礼儀も正しいし、こんな私でもそこに行けばほんまに楽しいと思えたくらい、客を楽しませることを知ってる。

彼女らは、大抵蘇州の地元の子じゃなくて、地方から出てきた子たちや。近いところで蘇州市管轄内の吴江（Wújiāng）というところから来てる子、他には江苏省（Jiāngsūshěng）の他都市、安徽省（Ānhuīshěng）、江西省（Jiāngxīshěng）から来てる子など様々。年齢は十代後半から二十代前半で、みんなすごく若い。給料は、店や小姐のキャリアにもよるけど、月に二，三千元はもらってるから、その辺の合弁会社で勤めるより給料が高いこともある。最近では自分で蘇州市内に家（分譲マンション）を買ってしまうような、お金持ちの小姐まで出てきた。

結婚して辞める子もおれば、ラッキーな子は（ラッキーなんかどうかは知らんけど）、お店で知り合った日本人客と恋愛して、結婚する子もおった。彼氏と結婚してからも、自分でカラオケスナックを開いて経営するというたくましい子もおった。日本に行く為に、日本語勉強の場としてカラオケで勤め、日本に留学するっていう子もおった。

そりゃこの商売、綺麗事ばっかりでは済まへんし、店同士、小姐同士の競争とか、客との関係でこじれるとか、大変なこともあ

る。でも私が見てきたカラオケ小姐たちは、そんなことにも負けず、自分の思う道を突っ走るエネルギーを持った、私も見習うべき女の子たちが多かった。

ここに、日本人（男性）がよくカラオケスナックで歌う中国の歌の題名を書いておく。(誰でも簡単に歌えるようになる中国語の歌)

Yuèliàng dàibiǎo wǒ de xīn Dèng Lìjūn
月亮代表我的心／テレサ・テン「邓丽君」の歌。「月は私の心を表している」という意味。

Wǒ zhǐ zàihū nǐ Dèng Lìjūn
我只在乎你／テレサ・テン「邓丽君」の歌。「時の流れに身をまかせ」の中国語版。中国語のタイトルの意味は、「あなただけを思っているのよ」。

Xīnyǔ
心雨／デュエット曲。

Wèidào Xīn Xiǎoqí
味道／辛晓琪という女性が歌うバラード

Dōngfāng míngzhū Luó Dàyòu
东方明珠／罗大佑の歌やけど、色んな歌手がカバーしてる。中国の古い歌で中国人なら誰でも知ってる歌。

Yǔ yìzhí xià Zhāng Yú
雨一直下／张宇の歌。私の上司が、この歌をよく歌ってた。(ちなみに、その上司は中国語の歌を六百曲ほども歌えるというツワモノやった。)

Xīntàiruǎn Rèn Xiánqí
心太软／任贤齐の歌。この曲は、私が北京留学中にごっつい流行った曲。どこに行ってもこの曲ばっかりかかってて、頭

の中でずっと鳴り響いてたこと覚えてるわ。

中国の歌謡界は、大陸、台湾、香港と境界がない。中国大陸でも、台湾や香港の歌が流行って、みんなに聞かれてる。台湾や香港の歌手が、大陸でコンサート「演唱会(yǎnchànghuì)」を開くこともよくある。90 年代に、香港や中国大陸で大ヒットした四人の男性歌手がおる。彼らは「香港的四大天王(Xiānggǎng de sìdà tiānwáng)」と呼ばれて、未だに中国の老若男女に親しまれてる「老少皆宜(lǎoshào jiēyí)」。

「香港的四大天王(Xiānggǎng de sìdà tiānwáng)」

張学友(Zhāng Xuéyǒu)　ジャッキー・チュン

刘德华(Liú Déhuá)　アンディ・ラウ

黎明(Lí Míng)　レオン・ライ

郭富城(Guō Fúchéng)　アーロン・クォック

彼らの歌もヒット曲が多いから、カラオケでよく歌われてる。

女性歌手は、四大皇后とかいうのはないけど、カラオケでよく歌われる歌手を少しだけここに挙げておく。

張惠妹(Zhāng Huìmèi)／台湾の歌手。「a-mei」というあだなで呼ばれることもある。台湾の安室奈美恵とも言われてる。

一度、台湾の国歌を公の場で歌って、中国政府から厳しく批判されて、一年間、中国大陸での活動を禁止された。その間、今まで彼女が出てたテレビ CM とかも放映されなくなった。

Lín Yìlián
林忆莲／香港の歌手。バラードが多い。透き通るような声が特徴。今はママさん歌手として活躍中。

Xǔ Rúyún
许茹芸／台湾の歌手。女性らしさがにじみ出たような曲が多い。彼女は親日派。理想の男性は高橋克典で、チビまる子が好きならしい。

Liáng Yǒngqí
梁　咏琪／香港の歌手。「GiGi」というあだなで呼ばれることもある。

Chén Huìlín
陈　慧琳／香港の歌手。「Kelly Chen」という英語名では、日本でも有名。

8　王さん夫婦の存在

蘇州で、私を自分の妹のようにかわいがってくれた人がおった。それは王さん夫婦で、私より十歳くらい年上の夫婦やった。彼らには、本当にお世話になって、どんなに感謝しても感謝しきれへん。私が苦しい時、一緒に泣いてくれた。私が疲れて、家で一人きりではとてもおられへんかった時、一週間も家に泊めてくれた。悩みがある時、いつも相談にのってくれた。何か問題が起きた時、いつも家まで駆けつけてくれた。誕生日の時、毎年一緒に祝って

くれた。家族以上やったかもしれへん。

仕事の悩み「工 作 上 的 烦 恼」(gōngzuòshàng de fánnǎo)、恋愛の悩み「谈 恋 爱 的 苦 恼」(tánliàn ài de kǔnǎo)、生活の悩み「生 活 上 的 苦 恼」(shēnghuóshàng de kǔnǎo)、健康に関する問題「健 康 上 的 问 题」(jiànkāngshàng de wèntí)、何でも相談できた。親にも相談できへんかったことを王さん夫婦に相談して、乗り越えてきた。蘇州でおる時、私は二十代の半ばで、海外におるからという理由だけじゃなく、人生の中の大きな節目があったり、色んな出来事が私を襲い、私にとっては波乱万丈「坎 坷 不 平」(kǎnkě bùpíng)の三年間やった。これを乗り越えられたのも、やっぱり王さん夫婦の存在があったからやと思う。

「当 你 自 己 家 好 了 啊!」(Dāng nǐ zìjǐjiā hǎole a)

自分のうちと思ったらええんやで。

蘇州人は、本当に身内のように思った友人に対してよくこう言う。「自分の家と思って、いつでもうちに遊びにおいでや。」という意味。これが社交辞令「客气」(kèqi)の時もあるけど、それでもよっぽど深く長い付き合いをしていこうと思った相手じゃないと、こういう言葉は使わへん。王さん夫婦は、私にこう言って、ほんまに妹のようにいつでも家に呼んでくれた。季と結婚するとなった時には、蘇州人の結婚に関するあらゆる習慣、風習なども教えてくれ、

Nǐ jiéhūn de shíhòu yào cóng wǒmenjiā jiàchūqù de a
「你 结 婚 的 时 候，要 从 我们 家 嫁 出 去 的啊。」

結婚する時は、この家から嫁いでいけよ。

とまで言ってくれた。

今もずっと、王さん夫婦の恩徳に感謝「gǎn'ēn dàidé
感 恩 戴德」してる。

彼らと出会えたっていうことは、私の財産、宝物や。

七　病　院

1　風　邪

海外におって困るのは、病気になった「生病 shēngbìng」時や。私も年に一回は風邪ひいた「感冒 gǎnmào」けど、初めての風邪の時、一人で蘇州のある総合病院に行った。それ以後は、日本から持参した風邪薬で治すようになった。

その総合病院は外国人用窓口（VIP 窓口）が以前からあったらしいけど、私はそうとは知らず、中国人と同じ窓口に並んだ。その時は夜で、救急診療「急诊 jízhěn」の窓口やった。まず、登録費「挂号费 guàhàofèi」を二十元くらい払って、名前を登録「挂号 guàhào」して、カルテ「病历卡 bìnglìkǎ」をもらった。（中国の病院では、カルテは本人に渡されて、その病院に来る度に、そのカルテを持参せなあかん。）そして、窓口のおばちゃんに体温計「体温表 tǐwēnbiǎo」を渡され、熱を測ったらまた戻ってくるように言われた。

体温を測ったら、三十七度五分。微熱やった。でも窓口に戻ると、おばちゃんに、

「啊，三十七点五度，没有发烧。」 Ā sānshíqī diǎn wǔ dù méiyǒu fāshāo　*ああ、三十七度五分、熱ないな。*

と言われて、唖然とした。ええ？　熱ないって？　微熱あるやん、と思った。実は、中国人は三十七度代は平熱らしい。日本人

の平均的な平熱より、体温が少し高いみたいや。

その後診察室に入って、お医者さん「医生(yīshēng)」に診てもらった。

「是感冒。你要打针还是要挂水？(Shì gǎnmào. Nǐ yào dǎzhēn háishì yào guàshuǐ)」

風邪や。あんた、注射打つか、それとも点滴打つか？

ええ？　注射する？　点滴する？ そんなことして治すん？

「打针？是不是在屁股上打的?(Dǎzhēn? Shìbushì zài pìgushàng dǎ de)」

注射？ もしかして、おしりに打つん？

「是的。(Shìde)」　*そうや。*

おお、それは困る。お尻を出して注射やって、絶対イヤや。

「那就挂水吧。(Nà jiù guàshuǐ ba)」　*点滴にするわ。*

そう言うと、ある部屋に通された。その部屋の中には、椅子がずら〜っと並んでて、点滴をしてる人がいっぱい座ってた。病人は点滴をしながら、色々物を食べてて、床は、その食べかすでごっつい汚い。みかんの皮とか、お菓子の袋とかが散らばってる。点滴する部屋がこんな不衛生でええんかと思った。(多分、夜やったから、掃除婦のおばちゃんがおらんかったんやろう。)

点滴の準備を終えた看護婦が来て、私に点滴の針を刺してくれた。点滴のビンを見ると、ブドウ糖「葡萄糖(pútáotáng)」と書いてた。あとから知ったことやけど、蘇州で風邪をひいたら大抵はブドウ糖の点滴をするらしい。

日本で点滴をするっていうたら、よっぽどの重病の時くらいやっていう印象があったし、生まれてこのかた点滴なんかしたことなかったから、ちょっと恐怖感があった。点滴の針は手の甲に刺された。そしたら、皮膚がピクピクして痛いし、冷たいブドウ糖がチョロチョロチョロ〜って手の血管に入っていってる感触もすごい気持ち悪いし、二時間も点滴せなあかんって言われて、この状態で二時間はきついと思った。それに、もともとフラフラしてたのも、点滴をする緊張感のせいでどっかに吹っ飛んでしまったから、もう点滴する必要はないって自己判断して、点滴を始めて十分くらいで看護婦さんを呼んで、点滴を外してもらった。看護婦さんは、何にも言わんとすぐに外してくれた。(医者に確認してたかどうかは知らん。多分してないやろう。) そして、私は家に帰って寝た。

海外に行ったら、風邪に対する対処の仕方が日本と違うことが多いと思う。こういう時は、やっぱりすごい不安になるもんや。結局それ以来、私は蘇州におる間、風邪で医者にかかることはなかった。だって点滴はイヤやもん。

2　歯医者

歯医者「yákēyī
牙科医」に行く時は、普通の医者にかかるより慎重になった。なんでかと言うと、以前から聞いてた話で、季の知人の親が、抜歯せんでもいい歯を抜かれて、出血多量で死んだことがあるらしい。それに、中国人の季でさえ、生まれてこのかた歯医者には行ったことがないって言う。すごい不安やったんで、会社の医務室の先生に紹介状を書いてもらって、紹介された病院に行った。

やっぱり紹介されたところだけあって、ごっついきれい（といっても、日本人から見れば普通）なところやった。窓口に座ってる女性も、総合病院の窓口のおばちゃんと違って、ちゃんと白衣を着た若いお姉ちゃんやった。愛想はおばちゃんの方が良かったけど、まだ病院らしい感じがした。

紹介状と（身分証明書として）パスポートを提出して少し待ったら、そこの医院長が診てくれた。私の歯のどこが悪かったんかと言うと、元々詰めてたものが割れて、外れてしまったんや。

Sāizi diào le bǔyíxià jiù hǎole
「塞 子　掉　了，补一 下　就 好了。」

詰め物が取れたんです。ちょっと埋めてくれるだけでええんです。

私がそう言うと、

Zhīdào le
「知 道 了。」　*分かりました。*

と言って、渡した詰め物を捨てようとした。

Búyào rēng　búyào rēng
「不 要　扔，不 要　扔 。」　*捨てんといて、捨てんといて。*

Bǎ zhège sāizi zài sāijìnqù　hǎoma
「把 这 个 塞 子　再　塞 进 去，好 吗？」

この詰め物をもう一回埋めてくれへん？

私は慌ててそう言った。なんでかと言うと、まだ中国の歯医者を信用してなかったから、中国で歯を埋めることはしたくなかったからや。

Bùxíng　bùxíng　Yào chóngxīn nòng
「不 行，不 行 。 要　重　新　弄 。」

あかん、あかん。もう一回やり直さなあかん。

ええ～、そうなん～*!!*　ああ、ここまで来たらもう仕方が無かった。「まな板の上の鯉」ってこういうことやと思った。

それが、この医院長、なかなか腕が良かった。椅子も日本のと同じで、足で踏んだらブーンと上がって背もたれが倒れるようになってた。同じように丸い電灯を口の中に向けられて、まずはどの歯の詰め物が外れたんかチェックされた。それから、やっぱり日本と同じように、ギューンって歯を削る研磨機で少し歯を削られた。

その後から日本と違う。日本やったらまず歯型を取って、二,三日後に詰め物が出来上がるから、その間仮の詰め物をしとかな

あかん。ここではまず歯型を取ったら、医院長がギューンと詰め物を削り始めた。日本では、それは仕上げの時（最後詰め物を埋める時）にする作業や。私の椅子の後ろで、ギューンと削っては私の歯に当てる作業を何度か繰り返した。そして最後に、ネズミ捕りみたいな金属の道具を私に噛ませて、その詰め物を歯の中に埋めた（石灰が付いてたかどうかは知らん）。それで終わりや。歯を詰めるのは一日で、それも二，三十分で終わった。すごい。

これは便利やと思った。歯を詰めるのに、何回も歯医者に通わんでもええ。一回で済むし、早い。紹介してもらった医者だけあって、腕も良かった。もうあれから四年以上たってるけど、まだその詰め物はしっかりしてる。

3　婦人科

蘇州に来て一年たった時、私は急性胃腸炎「急性肠胃炎（Jíxìng chángwèiyán）」になった。うがいもできへんし、口にちょっと水を含むことさえできへんようになって、飲まず食わず三日間おったことがあった。会社は一週間休んだ。

その時行った病院が、蘇州市内にある「妇女儿童保健医（Fùnǚ értóng bǎojiàn yī

yuàn
院」略して「妇保医院(Fùbǎo yīyuàn)」というところやった。そこは、蘇州市で婦人科「妇科(fùkē)」を専門に見る病院で、妊娠「怀孕(huáiyùn)」した時や出産「出产(chūchǎn)」する時には、みんなそこに行くという婦人科総合病院や。なんでそこに行ったんかと言うと、以前風邪ひいた時に行った総合病院で、あんまりいい思いをせんかったから、季の知り合いの夫婦が医師「医生(yīshēng)」をしてるその病院の内科「内科(nèikē)」で診てもらうことにしたんや。季にもついてきてもらった。

その医師は、とてもいい人で、急性胃腸炎で飲み食いができへんかったら普通は点滴するんやけど、私が点滴を拒んだら、家で安生してなさい、とそのまま帰してくれた。それで、漢方薬を調合「配中药(pèi zhōngyào)」してくれた。会社に対する説明で、「急性胃腸炎の為一週間休むように」という内容の診断書「诊断书(zhěnduànshū)」も書いてくれた。

それはさておき、私がここに来て驚いたことがあった。さすが、一人っ子政策「计划生育(jìhuà shēngyù)」をしてる国やと思った。それは、どんなことやったんかと言うと……。

「妇保医院(fùbǎo yīyuàn)」に入っていくと、一階はロビー「大厅(dàtīng)」になってる。ロビーの両サイドに円弧型に、二階へ上がる階段「楼梯(lóutī)」があって、ロビーから二階の廊下「走廊(zǒuláng)」が見えてる。ロビーから、その二階の廊下で足踏みしたり、競歩をしてる女性た

ちが十人くらい見えた。二階に上がると、もっと多くの女性たちが、足踏みや競歩やスクワットをやってる。この女性たちは一体何をやってるんやろうか。

実は、彼女たちは人工中絶「打胎(dǎtāi)」の薬を飲んだ後で、胎児が早く落ちてくるようにと運動をしてたんや。ああ……怖いと思った。一人っ子政策の裏には、こういう現実があったんやと思った。私は、その日行っただけで、何十人もの人工中絶をしてる女性を見た。これが毎日あるわけやろ？　ほんまに怖いと思った。

中国では、妊娠しても、初期の胎児「胎儿(tāiér)」はまだ“命”と思ってないようなところがある。それに、一人っ子政策をしてるのに、学校で性教育はされてない。中国で性教育をするのは、結婚前に行く健康診断（結婚前に健康診断を受けるのは法律で決められてる、詳しくは後の項で述べる）の後に見る二、三時間のビデオだけ。これは驚いた。だから人工中絶は多いし、悪いとか、悲しいとか、日本人ほどそういう思いは彼女たちにはないようにに見えた。

ある日本人の友人が、中国で妊娠して（だんなさんは中国人、望んだ妊娠だった）病院に行ったら、そこの医者に

「要不要(Yàobuyào)？」*(おなかの中の赤ちゃんは)いるんか、いらんか？*

「不要的话，去那个房间处理一下(Búyào de huà, qù nàge fángjiān chǔlǐ yíxià)。」

いらんのやったら、あっちの部屋に行って処理しなさい。

と言われて驚いたことがあると言ってた。日本やったら、妊娠してると分かったら、まずは

「おめでとうございます。」

って言われるのが普通やのにな。望んで出来た赤ちゃんやっただけに、医者にそう言われてすごく悲しかった、と友人は言ってた。

一人っ子政策の裏に存在する現実を垣間見た気がした。

4　動物病院

ある友人が、蘇州でチワワ「吉娃娃（Jíwáwa）」を飼ってた。そのチワワがものすごくかわいくて、私も欲しくなってペット市場「花鸟市场（huāniǎo shìchǎng）」に買いに行ったことがあった。

何からどう話していいんか……。私は病気の子犬を買ってしまった。中国のペット市場は、日本では考えられへんほど劣悪な環境に動物が置かれてる。そして、病気の動物もいっぱい売られてて、店主たちは、その子たちが客の前では健康に見えるように、興奮剤を打って店に並べてることもあるほど。年齢が小さいほど、

病気の確率が高くて、大体生後半年以上の犬や猫やったら、健康に問題はないみたいや。(病気の子はそれまでに死んでしまう。だから中国は、生後一，二ヶ月の子より五，六ヶ月を過ぎた子の方が高い。日本とは逆。)

私も最初はそんな現状を知らずに、ヨチヨチと私の方に向かって歩いてきたかわいいチワワを買って帰ってきた。なんか、おなかが膨れてるなぁ……とは思ってた。それが、興奮剤のせいとは知らんかった。買ってきた次の日に、もうおかしくなった。またすぐ、買った店に連れて行って店主にどうしたらいいか聞いた。そしたら、注射を打ってくれた。これが、興奮剤「兴奋剂(xìngfènjì)」やったとは知らんかった。確かに、チチ（その子を“チチ”と名付けた）はその後元気になった。でも、また家に帰ってきたらクタ～となってきた。

その次の日、店主に電話しても、店主は電話に出えへん。いくら電話しても逃げてるみたいやった。それで、別のペット市場にある、小さな動物診療所「动物诊疗所(dòngwù zhěnliáosuǒ)」に行った。何の病気か、何が原因か、まったく何も言うてくれへんかった。そして、風邪用の注射を打たれた。

チチの病状「病状(bìngzhuàng)」は日に日に悪くなっていった。四日目、五日目続けて、蘇州にある一番大きな動物病院「动物医(dòngwù yī)

yuàn
院」に連れていった。そこでも、何の病状か聞いても、医者は何も答えてくれへん。そして、私が総合病院に行った時と同じように、ブドウ糖をチチに点滴した。翌日もまた来なさいって言われた。

翌日、チチの病状はもっと悪くなってた。また同じ病院に行って、点滴をされた。症状が悪くなってると言うと、前日の三倍くらいの量を点滴した。家に帰ってから、チチは一瞬死にそうにクラッとして、目が飛び出した。その瞬間、私はチチが死ぬと思った。でも、チチはまだ息をしてくれていた。

このままではチチが殺されると思った。次の日会社も休んで、タクシーを飛ばして上海の動物病院へ行った。そこはオーストラリア人の医者が経営してる、小さな動物病院やった。そこで診てもらうと医者はすぐ、「ジフテリアだ。」と診断した。即入院となって、注射を打ってもらった。生死の確率は、半分半分だと言われた。もし、この注射をして良くならないようならもう諦めてくれ、と言われた。

次の日電話をすると、午前中はまだ良かったのに、午後電話すると、安楽死「安乐死ānlèsǐ」させたと言われた。もっと早くに気付いて、買った日に上海に連れて行って、その病院で診てもらっていたら助かったかも……、と思った。そこの病院でも、中国のペッ

ト屋で売られている犬は病気を持ってることが多いから、ペット屋で動物を買ったら、まず病院で診察してもらわなあかんと言ってた。そんなこととは知らず……。

蘇州にある一番大きい動物病院だって、病院の中はまるでゴミ箱みたいやった。暗くて、汚くて、病気のペットたちが、何の病気かも診断されんと、治療方法といえば、猫も杓子もブドウ糖の点滴ばっかり。それ以外に薬はないんかと思う。そういう病院に対して、中国人たちは文句も言わへん。

「元々家畜を診てた医者たちが、最近のペットブームで犬や猫を診断し始めたところやから、専門とちゃうねん。」

そんなんで済まされるんやろうか？これは、動物虐待「虐待 nüèdài 动物 dòngwù」に近いと私は思う。でも、私も反省せなあかん。そんな中国の現状を知らんと犬を買って帰ってきて、一匹の犬を死なせてしまった。チチには、本当に申し訳ないことをしたと思ってる。

義母はチチの為に、死体を包むきれいなシルクの袋を作ってくれた。チチをそこに入れて、私たちは蘇州のあるところにチチを埋葬「埋葬 máizàng」した。チチ、もう苦しくないよ。ごめんね、チチ。

八　恋　愛

1　初デート

季は、蘇州A社の同僚やった。だから、私らはいわゆる社内恋愛っていうやつや。季は隣の部に所属してて、座席が私と近かった。それで、時々目が合うことがあったけど、

Tākàn wǒde yǎnshén hěn bùhǎo
「他 看 我的 眼 神 很 不好。」 *目つきの悪いやっちゃな〜。*

これが、私の季に対する第一印象やった。私は（季の目つきが悪いから）にらまれてると思って、結構気分を悪くしてた。

季の方はと言うと、「あ、日本人の女の子や。」と思っただけで、特に何の意識もしてなかったみたいや。（社内には、日本人男性は今までおったけど、日本人女性というのは初めてやったから、めずらしさはあったようや。）

当時、A社には二つの営業部があって、営業一部，二部の部員たちはみんな年齢が若くて、仲が良かった。時々、みんなで一緒に食事に行ったり、遊びに行ったり、部員の家に集まったりすることがあった。私もそんな集まりに一緒に参加しているうちに、季とも話しをするようになった。

私が入社したのは99年7月。季と初デート「dìyīcì yuēhuì
第一次 约 会」をしたのは、その年の中秋の名月の日「zhōngqiūjié
中 秋 节」やった。

Nǐ jīntiān zěnme guò zhōngqiūjié
「你 今 天 怎 么 过 中 秋 节？」

おまえ、今日はどうやって中秋の名月を過ごすんや？

Yǒuméiyǒu jìhuà
「有 没 有 计 划？」 *計画はあるんか？*

Méiyǒu
「没 有。」 *ない。*

Zhōngqiūjié méiyǒu huódòng bùxíng de
「中 秋 节 没 有 活 动 不 行 的。」

中秋節に予定がないのはあかんで。

Yàobuyào hé wǒ yìqǐ chūqù
「要 不 要 和 我 一 起 出 去？」 *オレと一緒に出かけるか？*

そう聞かれて、二人で一緒に出かけることになった。まだ、その時は付き合うという意識はなくて、部員たちと一緒に遊びに行くような感覚やった。ただ、二人だけで一緒に出かけたのが初めてっていうだけやった。後から聞いた話やけど、季も本当は、中秋節やから家族と一緒に過ごしたかったらしい。でも、一緒に出かけるかと聞いて、予想外に私が「うん。」と答えてしまったから、仕方なく付き合って食事を一緒にしてくれただけらしい。初デートとは言っても、お互いそういうつもりはまったくなかったわけや。

食事はどこでしたんかと言うと、以前の項でも書いた Dǐngdǐng 顶 鼎 jī 鸡や。牛肉か鶏肉、どちらが食べたいかと聞かれて、私が鶏肉と答えたところ、「安上がりや。ラッキー。」と喜んだっていう話や。全然ロマンチックとちゃうやろ？

食事した後、观 前 街(Guānqiánjiē)という蘇州一の繁華街に行った。たまたまその日、观 前 街(Guānqiánjiē)全体が新装されてオープンしたところやった。行ってみると、ごっつい人。人、人、人。人の頭しか見えへん状態やった。こりゃ息が詰まるということで、新 加 坡 工 业 园 区(Xīnjiāpō gōngyè yuánqū)（シンガポール工業園区）というところに行った。そこは、93 年にシンガポールと中国が合作して国家プロジェクトとして作られた工業団地や。欧米系の会社が多くて、当時蘇州の若者たちは園区（新 加 坡 工 业 园 区(Xīnjiāpō gōngyè yuánqū)を略して「園区」と言う）の欧米系企業で働くことが憧れやった（今の若者にとっても多分そうやろう）。季は、園区の中をまわりながら、一社一社、会社の名前と何を製造しているかを教えてくれた。

「如 果 可 能 的 话，希 望 找 到 一 份 工 作，」(Rúguǒ kěnéng de huà xīwàng zhǎodào yífèn gōngzuò)

できたら、仕事が見つかったらええなぁって思う。

「在 园 区 上 班。」(zài yuánqū shàngbān) *園区で勤務する仕事な。*

「为 什 么？」(Wèishénme) *なんで？*

「园 区 好，工 资 又 高，福 利 又 好。」(Yuánqū hǎo gōngzī yòugāo fúlì yòuhǎo)

園区はええよ。給料は高いし、福利厚生はいいし。

蘇州人若者にとって、新区より園区の方が憧れの的となってることを、この時初めて知った。新区と園区で、ある制度の違いがあることによって、給料の手取り金額が大きく変わってくるらし

い。

新区の「四金（Sìjīn）」と園区の「一金（Yìjīn）」

新区

新区は中国の他地域と同じ制度。「四金（Sìjīn）」とは、四つの「金（jīn）」で、その内容は以下の通り。どれも、給料の中から差し引かれて、個人の財産としてプールされる（管理される）。掛け率は、各市や地域によって異なる。

Yǎnglǎo bǎoxiǎnjīn
养 老 保 险 金 ：養老保険

いわゆる日本の年金と似てる。給料の多い人ほど、たくさん払わなあかんけど、年老いてもらえるお金はみんなと同じ。平等分配式。

Shīyè bǎoxiǎnjīn
失业保 险 金：失業保険

失業したら一年間だけもらえる。

Yīliáo bǎoxiǎnjīn
医 疗 保 险 金：医療保険

日本人が普通、保険会社で掛ける保険と似てる。でも、この給料から引かれる医療保険は、中国国家が管理してるらしい。

Gèrén zhùfáng gōngjījīn
个 人 住 房 公 积金 ：住宅積み立て金

蘇州新区では、給料に対して、個人負担が 5%、会社負担が 5%らしい。今はどうか知らんけど。毎月積み立てられて、住宅購入の際、その積立金から必要金額を引き落として使うことができる。

会社によっては、引き落としできる権利を得る、ある一定の勤続年数を設定しているところもある。(例えば、勤続二年以上の社員のみ、積み立て金を引き落とすことができるなど。)

園区

園区は、シンガポール側が管理してるから、シンガポールと同じ制度を導入してる。これは、中国でもすごくめずらしいんやけど、「园区公积金(Yuánqū gōngjījīn)」と呼ばれる。

园区公积金(Yuánqū gōngjījīn)

掛け率：園区規定では、給料の 40%～60%、企業によって異なり、個人と企業が半々負担。例えば、掛け率が 60%の会社なら、個人負担 30%、会社負担 30%となる。

掛け金：掛けた分の 100%の金額が、その人の財産となる。

使用目的：住宅購入時、自分が掛けた分（個人負担分及び会社負担分の金額）すべてを引き落とすことが可能。但し、園区内の住宅を購入した場合のみに適応。また、退職時には残額を引き落とすことも可能。

園区は、この园区公积金(Yuánqū gōngjījīn)がいいんや。四金(Sìjīn)のうちの三つの保険金は、掛けても自分の手元に 100%戻ってくるっていう確証がない。でも、园区公积金(Yuánqū gōngjījīn)は 100%自分のものや。その

上、会社負担率も大きい。だから、例えば額面上同じ二千元の給料でも、新区と園区では、実質の手取り金額がかなり変わってくるわけや。

それから、中国では一般的に、欧米企業は日系企業より給料が高いことも教えてもらった。中国の若者の中では一般的な認識として、外資系企業は国別によって平均給料に差があると言われてる。給料の高い順に並べると、欧米、日本、韓国、台湾、香港、国営となる。中でも、欧米企業は、他と大差をつけて給料が高い。（一般的に中国人の中でそう認識されてるだけで、すべてがそうというわけではない。それに、最近では日系企業が横の連携を強くして、どの会社も中国人社員の給料を上げないせいで、台湾企業の方が日系企業より給料が良くなってきてるという現象も起きてる。）

また、欧米企業でトップレベルの会社になると、社員旅行も海外へ行くらしい。これはすごい！なかなか海外へ行くビザを取得できへん中国人にとっては、すごい魅力的な話やと思う。（私でも、ええなぁと思うもんな。）

だから、園区の欧米企業で働くっていうことは、蘇州の若者にとっては憧れの的なんや。

ま、私らの初デートっていうと、安上がりの鶏肉食べて、園区

に行って蘇州の若者の憧れについて話しを聞いた。こんなもんや。

2　自由市場にて Part3

日本にいる友達に、蘇州人男性と付き合ってるって言うたら、よく「蘇州でデートするって言うたら、どこに行くん？」って聞かれて私はいつも回答に困った。なんでかと言うと、私らはデートらしいデートなんかしたことないからや。最初から友達感覚でおったから、その延長で付き合うと、ロマンチックなムード「浪漫的气氛（làng màn de qìfēn）」もなかったし、デートの度に何か特別なプログラム「特别的活动（tèbié de huódòng）」があるわけでもなかった。

ほな、一緒におる時は何をしてたんかと言うと、市場に買い物に行ってた。強いて言えば、それが私らのデートやろう。中国の市場っていうたら、魚売り場は床が水浸しやし、肉売り場は蝿が飛んでるし、野菜売り場には野菜のカスがいっぱい落ちてるし、そんなところでデートって……。ちょっと友達には言われへんかった。

季と一緒に市場へ行ってもらうと、都合のいいことが多かった。まず、季は値切るのがうまいから食材が安く買えた。

「这个怎么卖(Zhège zěnme mài)？」　*これいくらや？*

と聞きながら、何軒かの屋台をまわる。安くしてくれそうな店があると、そこで値切り交渉「还价(huánjià)」。季の場合、その屋台のおっちゃん、もしくはおばちゃんと気が合うか合わんかで、そこで買うか買わんかを決めてた「决定买不买(juéjìng mǎibumǎi)」みたいや。(気が合うってことは、値切り交渉がうまくいくってことやからな。)

私らがよく野菜を買う屋台があって、そこはあんまり新鮮でない野菜を置いてることがよくあった。でも、そこのおじいちゃん「老爷爷(lǎoyéye)」がすごいいい人で、私らにいつもおまけをくれたから、よくそこを利用した。

例えばたまねぎ「洋葱(yángcōng)」。蘇州人はたまねぎをあまり料理に使わんようで、どこの屋台にもあるもんじゃなかった。でも、老爷爷(lǎoyéye)の屋台にはいつもあった。(でもあるのは大小マチマチ、形はデコボコ、虫に食われてるみたいに黒い穴があるものがほとんど。中国の市場でたまねぎを買う時、きれいなたまねぎに出会うことは少ない。それに赤たまねぎが多く、白いたまねぎはめったに見ることがなかった)。そこでたまねぎや他の野菜を一緒にまとめて買うと、いつも老爷爷(lǎoyéye)が小声で、

「你拿去吧(Nǐnáqùba)。」　*持っていき。*

と言って、もうひとつたまねぎをくれたり、きゅうり「黄瓜(huángguā)」

をくれたりした。それも、その屋台を切り盛りしてるおばちゃん（おじいちゃんの娘かな？）の目を盗んでこっそりと「偷 偷 地(tōutōude)」……。

他に、季と一緒に市場へ行って良かったことといえば、自分一人ではよー買わん食材（調理方法が分からんとか、自分で調理できへんような生の魚や肉）を買ったりして、中国特有の食材に挑戦することができたことや。中国特有というよりは、北京にはなくて、蘇州に来たらあったという、この地域に特有な食材かもしれん。(私が北京で見たことがなかっただけで、もしかすると、北京にも売ってる物が含まれてるかもしれんけど）例えば、

臭 豆 腐(chòudòufu)：臭豆腐。豆腐を食塩，酒などを含む液体に漬け発行させたもの。においに癖があって、黒く変色してる部分があって、生の状態で見ると白黒まだらの豆腐。揚げて食べるとおいしい。辛いたれに漬けて食べるともっとおいしい。

黑 鱼(hēiyú)：ブラックバス？　でも、日本のブラックバスとは種類が違う。普通、スープにして食べる。これを食べると精が付くと言われてる。確かに、この魚の生命力は強くて、うろこ「鱼 鳞(yúlín)」を取って、エラ「鳃(sāi)」を取って、はらわた「内 脏(nèizàng)」を取った後でも生きてて、スープを作る鍋に入れた瞬間もまだ生きてるというすごい生き物。

鲫鱼（jìyú）：フナ。これもスープにして食べる。季の大好物。

甲鱼（jiǎyú）：スッポン。中国人の友人が家に来た時は、これを蒸して出すと喜ばれた。でも、買いに行くのは怖いから、買い物も調理も季の役目やった。（店先で買ったら、店主が店の裏で殺してくれる。死んだスッポンを家に持って帰って、袋から出すだけでもかなり怖いものがある。）

空心菜（kōngxīncài）：空心菜。茎の中が空洞になってる菜っ葉。最近日本でも売り始められた。炒めて食べる。

茭白（jiāobái）：マコモダケ。たけのこを細くして、葉の色を緑にした感じ。中身は、たけのこよりやわらかくてもう少しカスカスした感じ。炒めて食べると甘みがあっておいしい。

莴笋（wōsǔn）：チシャの根茎。わさびみたいな形で、中身はキュウリと大根を足して二で割ったような感じ。生であえて食べる。

丝瓜（sīguā）：ヘチマ。炒めて食べたり、スープに入れて食べたりする。

荸荠（bíqí）：果物のような、野菜のような食べ物。栗のような形で、外側はこげ茶色の硬い皮で覆われ、中は白い。生で食べてもいいし、スープに入れて食べてもいい。地域によっては「马蹄（mǎtí）」とか「地梨（dìlí）」とも呼ばれる。中身の白い部分は、梨のように水分があるから「地梨（dìlí）」とも呼ばれるんかもしれん。でも梨とは違って、水の中で育つ植物。

cígū
慈姑：クワイ。こいも（里芋）のような食べ物。

xiàncài
苋　菜：ヒユナ。緑色の菜っ葉やのに、炒めると真っ赤な汁がいっぱい出てくる野菜。

biǎnjiān
扁　尖：細いたけのこを塩漬けして乾燥させたもの、スープに入れるとおいしい。

xiándàn
咸　蛋：鶏・アヒル・ガチョウなどの卵の塩漬け。お茶漬けと一緒に食べるとおいしい。

他にもあったと思うけど、思い出せるのはこのくらいや。

野菜類は、私も大抵食べることができたけど、魚類はあかんかった。蘇州近辺（「Jiāngnán dìqū
江　南 地区」：長江より南側の地区、江蘇省や上海、浙江省あたりのことを指す。）の中国人は、川魚を好んで食べる。それをスープにして食べるのが主流。

これらの魚で作ったスープはおいしいねんけど、魚はやっぱりちょっと臭みがあって（泥臭いというんか、川魚特有の臭みがある）、私は苦手やった。最初、油で表面をよく焼いたら（中までよく火を通すこと）紹興酒（「shàoxīngjiǔ
绍　兴 酒」、一般的には「huángjiǔ
黄　酒」と呼ばれる）と生姜を入れ、ジュッと言わせて蓋をして少し蒸す。それから水を入れると、なんとなんと、不思議なことに、その水がミルク色に変わる。でも、ほんまに不思議やねんけど、下手な人が作ると、その水が灰色に変わるねん。なんでやろ～？

魚スープ「鱼 汤(yútāng)」を作るのは、季のお母さんがすごく上手で、お母さんが作ると、スープがすごく濃厚な味になった。私も習い始めた頃、同じ作り方してるのに、何故か私が作ると灰色で薄いスープになった。ほんまに不思議やった。何度か作るうちに、私もミルク色のスープを作ることができるようになったけど、やっぱりお母さんが作ったスープが最高やった。

季と私のデートといえば、市場に行って、その後、季のおばあちゃんの家や私の家に行って、蘇州人の家庭料理「家 常 菜(jiāchángcài)」を一緒に作るというもんやった。でも、私はそれがすごく楽しかった。季も、そうすると私が喜ぶことを知ってて、そんなデートしかせんかったんやろうな。

3　彼の友人

季と私が一緒に出掛ける場所が、もう“一つ”あった。それは、友人の家「朋友家 péngyoujiā」や。季は、友人の家に行って、そこで夜ご飯を頂くのが趣味の人やった。友人っていうても、一人とちゃうで。だから、一箇所とちゃうねん。ほとんど毎日に近いくらい、今日は王さんち、今日は柏さんち、今日は郭さんち、今日は徐さんち……と毎日伺う家を換えては、そこで夜ご飯を頂く。食事が済んだ後も、ず……っと夜中まで友達と喋り続けるっていうパターンやった。

最初、私はそれに付き合うのにごっつい疲れた。季にとっては仲のいい友人「要好的朋友 yàohǎo de péngyou」でも、私にとっては初めて会う人や。私は少なからず緊張するし、共通語を喋ってくれたらいいけど、蘇州人同士は蘇州語を喋るから、季に着いて行っても、そこで人形のようにジッ……としてるしかない。まわりで蘇州語だけで喋られても、何の話題なんかも分からへんかったからな(当時は分からんかったけど、今じゃぁ、80%くらいは聞いて分かるようになった)。

それは結構辛いもんがあったで。付き合ってる相方の友達とコミュニケーションがとられへん「不能沟通 bùnéng gōutōng」っていうのが

どれだけ辛いことか想像できるかな？　そりゃ、コミュニケーションとろうと思ったら、できへんことはないねんで。彼らが共通語を喋ってくれたら済むだけのことやからな。でも、彼らは蘇州語で一時間も二時間もずっと喋り続けるわけやろ？その横で、じっと座って仲間に入っとかなあかんっていうのは、精神的拷問「饱 受 精 神 的 折磨（bǎoshòu jīngshén de zhémó）」と言うてもええかもしれん。例えば、彼氏「男 朋 友（nánpéngyou）」と遊びに行って、自分以外の人間がみんなタガログ語（でも何でも、とにかくチンプンカンプンな言語）を喋って、楽しそうにしてるとしたらどうやろ？　ごっつい孤独感「特 别 孤 独 的 感 觉（tèbié gūdú de gǎnjué）」と疎外感「被 人 冷 落 的 感 觉（bèi rén lěngluò de gǎnjué）」を感じるはずや。もちろん、相手の友人たちはまったくその気はないんやけどな。

一度、この私もキレてしまった事件があった。今までやったら、友人の家に行ってたから、まだ相手は友人とその家族だけやった。季が時々共通語に訳してくれることもあった。でも、友人たち数人で集まる食事会に呼ばれて行った時、食事中も蘇州語、その後に行ったお茶屋さんでも蘇州語、合計四時間も疎外感を味わった。季も、まわりの人間に気を使って、私に共通語で訳してくれることがまったくなかった。

相方と一緒に遊びに行って、四時間もまったく分からん言語で

話をされるってことが、どういう気分か……。私は、辛くて辛くて、もう涙が溢れてきて、トイレに駆け込んで大泣きした。まわりで蘇州語をずっと喋られたことも辛かったけど、蘇州人である彼の世界をまったく共有できないことに、すごいショックを感じたんや。これで“付き合ってる「谈朋友(tán péngyou)」”って言えるんやろうかってな。

トイレから出てきても、シャックリ「打嗝(dǎgé)」が止まらんくらい泣いてしまった。それ以来、季は、友人が複数集まる場所に、私を連れていくことをしなくなった。そして、私が蘇州語に慣れて、蘇州語が分かるようになってくると、私に行くか行かんかを確認してから、一緒にそういう場所に出掛けるようになった。

こういうことは、日本人男性と付き合ってたら、経験せぇへんことやと思う。

4　蘇州人の食卓

週末になると、決まって季のおばあさん「外婆(wàipó)」の家に行った。

（中国の家族について）

日本では、父方のおじいさん、母方のおじいさん、どちらも「お

じいさん」と呼ぶ。でも、中国では、家族の呼称が全部、父方、母方で異なる。

	父方	母方
おじいさん	yéye 爷爷	wàigōng 外公
おばあさん	nǎinai 奶奶	wàipó 外婆
叔父さん（両親の兄）	bóbo 伯伯	jiùjiu 舅舅
叔父さん（両親の弟）	shūshu 叔叔	jiùjiu 舅舅
叔母さん（両親の姉妹）	gūgu 姑姑	āyí 阿姨

但し、中国の地域によっては、呼び方が違う場合もある。

wàipó
外婆と私は、なかなか意思疎通が難しかった。なんでかと言うと、wàipó Shàoxīng
外婆は绍兴出身で、Shàoxīnghuà
绍兴话（紹興語）しか喋られへんかったからや。私が喋る共通語も、簡単なことしか理解できへんから、いつも季や家族に通訳してもらってた。

wàipó
外婆は一人暮らしやけど、もうかなりお年を召してはるから、お父さんやお母さんが毎日wàipó
外婆の家に行って、食事を作ったりしてた。季と私は、週末だけwàipó
外婆の家に一緒に行ってた。

私はwàipó
外婆をすごく尊敬してる。wàipó
外婆が若かった頃は、中国にまだChánzú
缠足「缠足」があった時代（wàipó
外婆は纏足をせんかったらしいけど）。抗日戦争「Kàngrì zhànzhēng
抗日战争」も経験し、文革「Wéngé
文革」も経験し、その間に子供を何人も産んだ。昔やったから、産んで

も幼少に死んでしまった子供もおったらしい。すごい時代を生きてきた人や。

これは外婆(wàipó)から聞いたこととちゃうけど、抗日戦争で蘇州に日本軍が攻めてきた時、外婆(wàipó)は真冬やったにも関らず橋の下に逃げて、日本軍が去るまで氷の張った川の中で水に浸かって隠れてたらしい。そんな経験をしてきたにも関らず、季と付き合い始めた私を気持ちよく受け入れてくれた。私のことをすごく大切にしてくれた。

食事をする時も、外婆(wàipó)の方がいい物を食べなあかんのに、いつも私に譲ろうとした。例えば、鲫鱼汤(jìyútāng)（フナのスープ）を食べてる時、

「久米，你吃！」(Jiǔmǐ nǐ chī)　*じぅみぃ、あんた食べや。*

と言って、魚の肉でも、おなかの方の骨が少ない部分を取って私のお皿の中に入れようとした。

「不行，不行。外婆，您吃吧。」(Bùxíng bùxíng Wàipó nín chī ba)

あかん、あかん。おばあちゃん食べや。

と私が言っても、

「久米不会吃有骨头的地方。」(Jiǔmǐ búhuì chī yǒu gǔtóu de dìfāng)

じぅみぃは骨のあるところ食べられへんやろ。

そう言って、いつも私に食べやすい部分をくれようとした。食

事以外の時間でも、

「Jiǔmǐ 久米，nǐ chī 你吃！」　*じぅみぃ、食べや。*

と言って、果物やらクッキーやら牛乳やら、色々食べ物を持ってきてくれる。暑い夏の日は、

「Jiǔmǐ 久米，nǐ cā liǎn ba 你擦脸吧。」　*じぅみぃ、顔拭きや。*

と言って、冷たくしぼったタオルを持ってきてくれる。寒い冬の日は、

「Jiǔmǐ 久米，nǐ názhe 你拿着。」　*じぅみぃ、持っときや。*

と言って、ゴム製湯たんぽ「rèshuǐdài 热水袋」を準備して私に渡してくれる。

ほんまは私がwàipó外婆のお世話をせなあかんくらいやのに、いつも私が世話してもらってた。wàipó外婆はほんまにごっついやさしい人やった。

そんなwàipó外婆のことを、季の家族はみんなすごく大切にしてる。週末になると、誰も言い合わせてないのに、家族みんながwàipó外婆の家に集まって一緒に夕食を食べる。bàba爸爸（お父さん），māma妈妈（お母さん），jiùjiu舅舅（叔父さん），jiùmā舅妈（叔父さんの奥さん），gēge哥哥（お兄さん），sǎozi嫂子（お兄さんの奥さん）。家族みんなが集まる、にぎやかで楽しい時間になる。私も結婚前から、週末の家族団らんの夕食に参加させてもらってた。そこで、蘇州人の食事の習慣を色々

学ばせてもらった。

食卓の上には、お箸「筷子(kuàizi)」が縦に並べられて（中国では、日本と違って縦にお箸を置く）、おかずが真ん中に置かれる。蘇州人の食事は、必ず肉か魚の料理「荤菜(hūncài)」と野菜類の料理「素菜(sùcài)」があって、スープ「汤(tāng)」がつく。家族が多いとおかずの種類も増えて、七，八人の食事やったら、八種類前後のおかずが準備される。お碗型の取り皿が一人ひとつずつあって、それにご飯を盛って、おかずをつつきながら食べる。自分が好きなおかずを好きなだけ取って食べたらいい。

蘇州人は食べながら、よく家族同士でおかずを取ってあげる（中国の他の地域でも、この習慣が見られる所はあると思う）。遠慮せんと食べやという気持ちと、家族に対する愛情の表れかもしれん。蘇州人は少し日本人に似たところがあって、神経が細やかで、人に対して配慮や遠慮をするところがあると思う。相手が家族や友人，自分にとって大切な人，身近な人やったら尚更、きめ細やかな心配りをする。それは、食事中の彼らの様子を見てたら感じられる。

例えば食事中、家族みんなが交互に外婆(wàipó)のお皿におかずを入れる。それも、歯の悪い外婆(wàipó)が食べやすいものとか、栄養のあるものを選んで入れてあげる。外婆(wàipó)は、自分でおかずを取る必要がな

いくらいや。私も外婆(wàipó)に何かおかずを取ってあげようと思って、外婆(wàipó)のお皿におかずを入れて、季に怒られたことがあった。なんでかと言うと、外婆(wàipó)が食べにくい魚（骨が多い部分）を入れてしまったからや。私は、栄養があるからと思って入れてあげたけど、骨が多くて食べにくいということには気付かんかった。蘇州の食材の特徴をちゃんと理解してなかったから、してしまった失敗やった。

おかずを人に取ってあげるのでも、ただ普通に取ってあげたらいいだけとちゃう。

1. 了解对方的习惯(Liǎojiě duìfāng de xíguàn)

その相手のことをよく理解していること

相手の好物や食べられへん物は何か、その人の食事中の習慣は何かを知っていること。例えば、スープはおかずを食べながら飲むか、ご飯に掛けて食べるか、ご飯を食べた後、最後に飲むとか。

2. 精通食物的特征(Jīngtōng shíwù de tèzhēng)　*食材に通じていること*

中国では漢方の知恵が生活に根付いてて、天候や体調によって食べる物を選ぶ。体を温める食材は、寒い日に食べる。体を冷やすものは、暑い日に食べる。できもの（口内炎とか、吹き出物）ができた時は、「解热(jiěrè)」（体の中の熱を解く）の食材を食べる。外婆(wàipó)は高血圧「高血压(gāoxuěyā)」やから、「补血(bǔxuě)」（血を補う、つまり血

流を良くし、血液を増やすような効能)の食材は食べたらあかん。どの魚のどの部分に骨が多いか。消化しやすいか、しにくいか。他にもいっぱい食材と健康に関する特徴がある。だから、食材に関する知識を持つことはほんまに大変で、それを知らんかったら、私の失敗例のように、その人が食べられへん物、食べたらあかん物をあげてしまいかねへん。

Kànhǎo shénme shíhòu jiā cài zuìhǎo
3.看 好 什 么 时 候 夹 菜 最 好

おかずを入れてあげるタイミングを見計らう

相手の食べるスピードを見ながら、食べれる量だけ取ってあげる。

おかずを取ってもらった方は、必ず、

Búyào búyào Nǐ chī ba
「不要，不要。你 吃 吧。」

いらんで、いらんで。あんた食べや。

と言う。これはお決まりなんやろうか。「Xièxie
谢 谢 ！」とはあまり言わへん。あと、もしお客さんとして中国人の家庭にお呼ばれした時は、自分からおかずを取ってあげるのはおかしい。主人がもてなしの一環として、客人におかずを取ってあげるのが普通。

さすが中国、家庭の食文化も奥が深い。勉強させてもらった「Zhǎng zhīshi le
长 知 识 了」。

九　結　婚

1　蘇州の両親

季と私が、将来結婚しようと決めたのは早かった。季が、初めて私を家に連れて行ってくれた日に、

Nǐ yào qù wǒjiā de huà　búyào yǒu yìbān de xiǎngfǎ
「你 要 去 我 家 的 话，不 要 有 一 般 的 想 法。」

おまえ、俺のうちに行くんやったら、普通に考えて行ったらあかんで。

と言われたことを覚えてる。つまり、単に友達の家に遊びに行くようなつもりで俺のうちに来るなという意味やったと思う。プロポーズ「求婚（qiúhūn）」はされたことがないから、強いて言うなら、これがプロポーズに近いセリフやったんかもしれん。

初めて季の家に行ったのは、2000 年の旧正月を迎える二日前の夜やった。会社の帰りに連れて行かれて、そこで初めて季のお母さんとおばあさんに会った。家の中に入って行くと、まず、お母さんが迎えてくれた。私は、日本人の癖で、頭を下げながら挨拶した。

Nínhǎo
「您 好！」　こんにちは。

これが結構、お母さんには好印象を与えたみたいで、礼儀正しい子やと思ってくれたようや。お母さんは、笑顔で「你好（Nǐhǎo）！（こ

んにちは)」と私に答えてくれた。おばあさんにも、頭を下げて挨拶すると、おばあさんも同じく私を暖かく迎えてくれた。

二回目に季のうちに行ったのは、旧暦の大晦日「大年夜(dàniányè)」やった。家族全員がおばあさんの家に集まって、私は季の家族みんなに挨拶した。私は日本人やから、季の家族たちに受け入れてもらえるやろうか、と心配やったけど、そんな心配は全然不要やった。特に、季のおばさん「舅妈(jiùmā)」はものすごいお喋り好き「很(hěn) 爱说话(àishuōhuà)」で、ペラペラペラァ～と私にいっぱい喋りかけてきた。そんなに早い中国語で喋られるのは初めてやったから、私はちょっと面食らった。

それ以来、季の両親は、私にすごくよくしてくれた。

Jiǔmǐ nǐ hěn xīnkǔ de Yígerén líkāi jiā
「久米，你很辛苦的。一个人离开家，」

じぃみぃ、あんたは大変や。一人家を離れて、

láidào zhème yuǎn de dìfāng bù róngyì de
「来到这么远的地方，不容易的。」

こんな遠い所まで来て、ほんま簡単なこととちゃうで。

Zhèlǐ méiyǒu bàba māma yígerén dúlì shēnghuó
「这里没有爸爸妈妈，一个人独立生活，」

ここじゃお父さんもお母さんもおらん、一人で独立して生活してる。

yǒu shénme shì dōu yào hé wǒmen shuō de a
「有什么事，都要和我们说的啊。」

何かあったら、何でも私らに言うんやで。

よく私にこう言ってくれた。季の両親は、私のことをすごく気に入ってくれて、季が私と付き合ってるということに、とても安心していた。なんでかと言うと、以前季は、ちょっとした放蕩息子「浪子 làngzi」で、毎日どこに行ってるんか、どこで食事をしてるんか、いつ家に帰ってきてるんか分からんというところがあったからや。でも私と付き合い始めたら、毎日彼の居場所は分かるし、ちゃんと家にも帰ってくるようになったと、特にお母さんがすごく喜んでくれた。

季と付き合っている間（結婚前）から、季の両親には何かとお世話になった。私が蘇州で住んでた家は、会社から与えられたマンションの一室で、家具つきの部屋やったけど、家具以外の生活用品（家電製品も含む）は全部自分で揃えなあかんかった。何か足りへんものがあると、すぐ季の両親が家にあるものを持ってきてくれた。また、家の中で壊れたものがあると、季のお父さんがいつも直しに来てくれた。（中国の家は、何でもすぐ壊れる。例えば、水道管が破裂「水管 破裂 shuǐguǎn pòliè」するとか、雨漏り「漏水 lòushuǐ」するとか、シャワーの頭が取れた「淋浴头 掉了 línyùtóu diào le」とか、シャワーのホースが切れた「管子 裂了 guǎnzi liè le」とか、インターホーンが壊れた「门铃 坏了 ménlíng huài le」とか、トイレの水が流れへんようになった「马桶的水不能冲 mǎtǒng de shuǐ bùnéng chōng」とか。）

また、時々私の家に来ては、ご馳走をたくさん作ってくれたりもした。来てくれる時はいつも、これ以上持ちきれへんっていうほどの食材や果物を持ってきてくれた。それで、お父さんとお母さんが二人で料理をしてくれた。私が風邪をひいたり熱を出したりした時も、家に来て看病してくれた。

だから、季の両親は、私らが結婚することには全然反対じゃなかった。私の父はというと、「それはおまえの人生、おまえが決めることや。子供であっても、親は束縛できへん。」と言ってくれた。でも、私の母は猛烈に反対した。とにかく、母は私に日本へ帰ってきてほしかったんや。北京に留学する時、私は反対する母を振り切って、「一年留学したら帰ってくるから。一年だけ、お願い！」と何とか説き伏せて北京に行った。それが、一年たった時、日本に帰ることなく、勝手に中国に残って就職することを決めて、「三年働いたら帰る。」と言って蘇州に行った。今度は「中国で結婚する。」や。母はごっついショックやったと思う。母を説得する為に、一旦日本に帰って一緒に国内旅行もした。母が季との結婚に同意してくれるまで三ヶ月かかった。でも、母は最後には私の気持ちを受け入れてくれた。そんな母に、ほんまにありがとうという思いや。

季と付き合って一年たった時、私の両親と兄が、季に会う為に

蘇州へ来てくれた。そこで、私の家族もこの結婚には同意してくれて、それから私たちの結婚に向けての準備が始まった。

2　家探し～内装

中国で結婚するってほんまに大変やで。私は日本人と結婚せんかったから、日本での結婚の大変さは知らんのやけど、中国はきっと、日本より大変やと思う。

結婚するっていうたら、まず、二人が住む家を決めなあかん。日本でも、新居を探す人、夫の社宅に入る人、親と同居する人、色々あると思う。最近の中国の都市部では、大抵新居を購入する。新居っていうても、平屋とちゃうで。中国は、平屋に住むっていうたら、農村の農民か、都市部やったら大金稼ぎのごく一部の人間だけや。普通はマンションの一室を購入することになる。（中国の不動産に土地代は含まれへん。土地は国のものやから、平屋であれ、マンションであれ、土地は国から借りてることになってる。借用期限は、民間の家やったら購入から七十年間、店舗やったら五十年間と法律で決められてる。）

季と私は、蘇州市の東部に位置する「工业园区（Gōngyè yuánqū）」（園区）

というところで家を探し始めた。季が将来は園区で仕事をしたいって言うてたし、園区の方が住む環境（緑化や景観など）が他の地域より良かったからや。私らにとって、園区で住んで園区で働くっていうのは夢「梦想 mèngxiǎng」やった。

園区の色んなマンションをまわって家を探して、見つけたのは「期房 qīfáng」と言われる不動産やった。「期房 qīfáng」とは、まだマンションが建ってない物件のこと（そこは、まだ土地ならしを始めたばかりやった)。それでも、「售楼处 shòulóuchù」と呼ばれる販売事務所に入ると、ものすごい人でごった返してた。そして、見る見るうちに、空き部屋がなくなっていってる。どんどん売れていってる。私らが来たのは、「售楼处 shòulóuchù」が開かれてからまだ四日目やったのに、もう第一期目の家は売り切れ寸前「差不多卖光 chàbuduō màiguāng」やった。私らは、何とか東南向きの家を押さえることができた。

家が決まったら、今度は内装「装修 zhuāngxiū」の準備や。この内装がほんま大変やねん。何が大変って、全部自分でせなあかんねん。どういうことかと言うと、マンションを購入した時は、コンクリートの壁だけの、空っぽの状態で手渡されるから、床を敷き「铺地板 pū dìbǎn」、壁紙を張り「贴墙纸 tiē qiángzhǐ」、浴室のタイルを張り「装浴室的地砖 zhuāng yùshì de dìzhuān」、浴槽を入れ「装水槽 zhuāng shuǐcáo」、トイレの便器を設置し「装马桶 zhuāng mǎtǒng」、水道の蛇口を付け「装水龙 zhuāng shuǐlóng」

头(tóu)」、部屋と部屋を仕切るドアを付け「装门(zhuāng mén)」、キッチンを作り「装修厨房(zhuāngxiū chúfáng)」、何から何まで全部自分で手配せなあかんねん。

中国の都市部でよく、「装修公司(Zhuāngxiū gōngsī)」と書いた看板を付けたお店を見かけると思う。これは、家の内装材料を販売するお店で、その中には、フローリングの板「地板(dìbǎn)」や、蛇口「水龙头(shuǐlóng tóu)」や、タイル「地砖(dìzhuān)」とかのサンプル「样品(yàngpǐn)」がいっぱい並んでる。こういうお店を色々まわって、どれがいいか自分で選ぶ。選ぶまでが大変やで。見なあかん材料は、ごっついいっぱいあるからな（家の中のすべての内装材料、小さいパーツまで含むとなると、ものすごく多い種類になる)。そして、マンションを買って鍵を入手したら、家の内装を始めてもいい。選んでおいた材料を購入して、新居まで運び入れてもらう。そして、内装をする大工「木工(mùgōng)」を自分で探してきて（大抵、知人が内装を依頼していい仕事をした大工を紹介してもらう)、内装をしてもらう。彼らに内装してもらうのも、ずっと監督しとかなあかんのやで。日本みたいに、〇〇ハウスとかの大企業が請け負ってする仕事とちゃうし、中国人は仕事を「混(hùn)」する（適当に仕事する）性質があるから、ずっと見張っとかな手抜き工事「偷工减料(tōugōng jiǎnliào)」されるんや。

大変やろ？　マンション選び、内装材料選び、大工探し、内装の監督。それが面倒やったら、全部一貫して（内装の監督まで）引き受けてくれる会社もあるんやで。でも、ずっと住む家やから、後から「ここが不具合。」っていうところが出てきても嫌やろ？それに、家が出来た後からじゃ文句も言われへん（中国では、後から文句を言うても、事は解決できへん。諦めるしかない）。それやったら自分で監督しろって言われるだけやからな。だから、中国人はみんな自分で内装の監督までするねん。

季と私は、家を選んで（購入して）、内装材料を選ぶところまで準備してた。でも、私らの身の回りで色んなことが起きて、私らの考え方も変わってきた。色んな要素が重なって、家は売却してしまうことにした。気に入ってた物件やからすごい残念やったけど、仕方なかった。季も私のことを中国人と同じように扱って（中国人の彼女と同じように）付き合ってきたけど、どうもそうはいかん、ということを感じ始めた。私らの結婚は、やっぱり国際結婚で、他の人と同じ道を普通に辿っていくことはできへんのやということを悟り始めた。

3　結婚写真

もともと結婚写真「婚照 hūnzhào」を撮るつもりはなかった。なんでかと言うと、中国で撮る結婚写真はあまりにもオーバー「太夸张 tài kuāzhāng」やったからや。

中国人の結婚写真（昔のとちゃうで、最近のやで）を見たことあるやろうか？　ハリウッド「好莱坞 Hǎoláiwū」の映画スター「电影明星 diànyǐngmíngxīng」が撮る撮影技術を導入して撮ったものやから、ほんまに映画のポスターみたいな写真になるねん。華僑のルートで、この技術がハリウッドから台湾に流れて、まず台湾で結婚写真撮影のビジネスに取り入れられた。そして、中国に流れてきた。最近の若い夫婦の新居にお邪魔すると、リビングやベッドルームに、ものすごく大きく引き伸ばして額縁に入れた結婚写真が貼ってある。日本人的感覚やと、「恥ずかしくないんかなぁ～？」と思ってしまう。

日本みたいな、ぬぼぉ～っと突っ立ったままの結婚写真もあまり撮りたくなかったけど(いや、日本式の結婚写真もええねんで。友達の結婚写真見せてもらっても、ほんまにええと思うしな。でも、自分には何か不釣合いな気がするねん、あの雰囲気が……)、でも、中国のあの大げさな写真も嫌やと思った。なんか、自分に

Zìwǒ táozuìzhě
陶酔しきってるナルシスト「自我陶醉者」みたいなんやもん。

だから、結婚写真はなしと決めてた。それが、季の友人からある写真館を紹介されて、

Pāibupāi shì wúsuǒwèi de
「拍不拍 是无所 谓的。」

撮るか撮らんかはどうでもええねん。

Nǐmen xiān qù kàn yíxià hǎole ma
「你们 先 去 看一下 好了嘛。」

あんたらまず見に行ってみたらええやんか。

と言われて、季と二人である写真館をのぞきに行った。大抵、どこでも写真館の一階はガラス張りになってて、撮影用メイクをしてる女性が鏡の前に座ってる。美容室みたいな場所で、カットしてるんじゃなくて、ごっついドレスを着てメイクをしてるっていう状態や。

店の中に入っていくと、店員が喋りかけてきた。

Nǐmen yào pāi ma
「你们 要 拍吗？」 *撮影するの？*

Búshì wǒmen guòlái kàn yíxià de
「不是，我们 过来 看一下 的。」

いや、ちょっと見に来ただけ。

Hǎo nǐmen jìnlái zuò yíxià ba
「好，你们 进来， 坐一下 吧。」

ええよ。こっちに来てちょっと座って。

そう言って店の奥に通されて、サンプル写真や貸衣装を色々見せてもらった。その後、色んなコース（撮影の種類やアルバムの

種類、撮影写真の枚数の違いなど）の説明と、その値段について説明してもらった。それから、どういう話の展開になったか忘れたけど、何故かそのまま撮影に入ることになってしまった。

Nǐmen xiànzài jiù pāi ba
「你 们 现 在 就 拍 吧。」 *おたくら今からすぐ撮影しぃや。*

Á Xiànzài ya Bùxíng
「啊? 现 在 呀? 不 行 。」 *ええ？ 今？ あかんわ。*

Wǒmen jīntiān chuān de yīfu shì zhège yàngzi de
「我 们 今 天 穿 的 衣 服 是 这 个 样 子 的。」

私ら今日着てきた服こんなんやし……。

私らはその時、ほんまにちょっと見に行くだけのつもりやったから、二人ともTシャツにジーパン、サンダル姿で、私なんかノーメイク、スッピンのままやった。ちょっと近所のコンビニでも行こか……っていう感じの服装やった。

Búyàojǐn búyàojǐn Yīfu yào huàn de
「不 要 紧，不 要 紧。衣 服 要 换 的，」

大丈夫、大丈夫、服は着替えるから。

érqiě hái gěi nǐ huàzhuāng
「而 且 还 给 你 化 妆 。」

それに化粧もしてあげるから。

Xiànzài zhènghǎo yǒu kòng
「现 在 正 好 有 空，」

今ちょうど空き（時間）があるねん。

Mǎshàng kěyǐ pāi le
「马 上 可 以 拍 了。」 *すぐに撮影できるで。*

Píngshí de huà yào děng jǐge xiǎoshí ne
「平 时 的 话，要 等 几 个 小 时 呢。」

普段やったら、何時間も待たなあかんねんで。

その店員にのせられたような感じで、すぐに衣装室に連れて行かれた。私が衣装を選ぶと、その衣装に合わせて季の衣装も選んだ。衣装を選ぶと、私は上半身裸に近い状態になって、白粉（おしろい）を上半身に塗られた。肩を出す服が多いから、写真写りを良くする為に肌に塗っておくらしい。そして、衣装を着たらメイクが始まった。眉毛は勝手に細く剃られて、ファンデーションを塗って、目のメイクをした。目には長い睫毛も付けられた。睫毛の種類はたくさんあって、どれにするか聞かれた。

Nǐ yào dài nǎge jiémáo
「你 要 戴 哪个 睫 毛？」 *どの睫毛付ける？*

Jiémáo Wǒ búyào le
「睫 毛？我不 要 了。」 *睫毛？私いらんで。*

Wǒ yào pāi de zìrán yìdiǎn
「我 要 拍 得自 然 一 点 。」 *私、自然に撮ってほしいねん。*

Búdài jiémáo bùxíng de Pāi de xiàoguǒ hěn bùhǎo
「不 戴 睫 毛 不 行 的。拍 的 效 果 很 不好 。」

睫毛付けへんのはあかんで。きれいに撮られへんもん。

Nǐ yào zìrán yìdiǎn de huà dài zhège jiémáo hǎo le
「你 要 自 然 一 点 的 话， 戴 这 个 睫 毛 好 了。」

自然にしたいんやったら、この睫毛付けたらいいわ。

Zhège jiémáo pāichūlái de xiàoguǒ hěn zìrán de
「这 个 睫 毛 拍 出 来 的 效 果 很 自 然 的。」

この睫毛やったら撮ってもすごい自然やから。

言われるままに、睫毛もつけることになってしまった。メイクはできるだけ……できるだけ自然にしてくれとお願いした。メイクが終わると髪の毛のセットをした。当時の私の髪型は、ショー

トカットからショートボブに伸びてきてる頃で、結構短い髪の毛やった。それが、彼女たちの手にかかると、ヅラ（かつらのようなもの。最近の若者の間じゃ「エクステンション」とか「エクステ」とか呼ばれてるらしいけど）を付けて、ロングヘアーの人がアップにしたようなきれいな髪形になった。すごい自然やった。最後に爪にマネキュアを塗って完成。

メイクが終わると撮影に入った。衣装は三回換えた。衣装を換える度に髪型も変えた。撮影中もずっと、

Zìrán yìdiǎn zìrán yìdiǎn
「自 然 一 点 ，自 然 一 点 。」 *自然やで、自然に。*

とカメラマン「shèyǐngshī
摄 影 师」にお願いした。なんでかと言うと、普通、中国人たちが撮ってる結婚写真って、ポーズとか表情がごっつい大げさで、私らの写真もそうなるのを極力避けたかったからや。（ほんまに、「おまえらロミオとジュリエットかぁー！」って突っ込みたくなるような写真やで。）

撮影中、カメラマンは私のポーズにこと細かく指示した。

Nǐ xiào yíxià Nǐ de zuǐchún kāi yìdiǎn
「你 笑 一下。你 的 嘴 唇 开 一 点 。」

笑ってぇ～！唇ちょっと開けてぇ。

Nǐ de zuǐchún bìzhe xiào yíxià
「你 的 嘴 唇 闭 着 笑 一下。」

唇閉じて笑ってぇ！

Nǐ de yǎnjīng méiyǒu xiào Qīngsōng yìdiǎn
「你 的 眼 睛 没 有 笑 。 轻 松 一 点 。」

目笑ってないで。力抜いてぇ。

Nǐde liǎn zài wǎngxià kàn yǎnjing kàn jìngtóu
「你的 脸 再 往 下 看，眼 睛 看 镜 头。」

顔は下向いて、目はレンズ見て。

Nǐ de yòushǒu qīngqīng de názhe zhèshùhuā
「你的右 手 轻 轻 地拿着 这束 花，」

右手は軽く、この花束持って、

nǐ de zuǒshǒu mōzhe yòushǒu
「你的左 手 摸着 右 手。」

左手は右手に触れといて。

メイク開始から撮影完了まで、たったの二時間やった。一週間後に、出来上がった写真を見に行った。そこで、どの写真をアルバムに入れるか、どの写真を引き伸ばして大きな額縁に入れるかを選んだ。大きな額縁はいらんかってんけど、どのコースにも付いてるから作ってもらうしか仕方ない。選んでからまた一週間待ったら、アルバムと額縁に入った拡大写真ができてきた。

写真はすごくきれいにできてた。結婚パーティーの時、その大きい写真を入り口に飾ったんやけど、その写真を見た自称“いい人”の上司が、

「これ、パソコンで修正してるやろ？」

と言った。失礼なっ！　いや、でも、ほんまにそのくらいきれいになるねん。化粧と写真の技術ってすごいわ。(私の名誉の為にも言うとくけど、パソコンで修正はしてないで。)

そうそう、写真撮影した後、家まで帰る道やけど、ごっつい恥ずかしかってん。なんでかって言うたら、私ら、もともと着てきた服はTシャツにジーパンやろ？　でも、化粧は店で落としてもらわれへんかったから、ゴテゴテの化粧のまま（睫毛だけお店に返して）、そんなカジュアルな服装で帰って行ってん。それも、髪の毛かってヅラを付ける為にいっぱいグリース塗りたくってて、トサカ状態やったんやから。想像したら、ごっつい怖いやろ？　中国で結婚写真撮りに行く人（女性）は、帰る時のことも考えて、お出かけ用のドレスっぽい服を着て行った方がいいかもしれん。

4　結婚手続き

日本人同士が日本で結婚する時の入籍手続きは、市役所に行って婚姻届を出すだけでいいと思う。ごっつい簡単や。でも、私が季と結婚の手続きをするのには、ものすごい労力と時間とお金がかかった。

中国人と結婚する時は、まず、中国で結婚手続きを完了させてから、日本で婚姻届を出す。中国での手続きは、結婚相手の出身地（中国のどこの市か）によって手続き内容は変わってくるから、

いちいちその市の関係機関へ赴いて調べなあかん。調べるのもまた一苦労で、日本やったら市役所に電話するか、窓口に行けば丁寧に教えてもらえるけど、中国のお役所はそんな簡単にはいかへん。

中国の市役所って言うと、「市 政 府（shìzhèngfǔ）」と呼ばれて、市政府の建物は普通役人しか入っていかれへんようになってる。どの街の市政府の門にも、江沢民の筆跡を模したもので、「为 人 民 服 务（Wèi rénmín fú wù）」（人民の為に奉仕します！）と大きな字で書かれてる。でも、門はしっかりと閉ざされてて、市民はその中に一歩たりとも入っていかれへんようになってる。

市民が何か役所関係で出向く必要がある場合は、別に市内のビルの中とかにある窓口に行く。でも、開門時間は一日のうち、午前中二時間、午後二時間くらいで、休み時間が多い。それに、行っても担当者不在なことも往々にしてあって、担当者が帰ってくるまで待つか、その日は諦めて帰るしかない。日本の市役所でそんなことがあったら大問題やけど、中国でこんなことは普通。私もこの結婚手続きの為に、何度も民生局に足を運んで、そのうち二回も担当者不在で、諦めて帰ったことがあった。（電話してもあかんで。何も答えてくれへんし、大抵電話には誰も出てこーへん。）

民生局の中に、中国人と外国人の結婚を取り扱う事務所がある。

そこで手続きの方法を確認したら、まず、二人揃って上海にある日本総領事館に行った。その時準備した書類が、お互いの戸籍謄本「户口本(hùkǒuběn)」(中国も戸籍制度がある)と、私のパスポートと無犯罪証明書。この無犯罪証明書を入手するのが面倒やった。日本の警察に行ったら出してくれるらしいけど、結構手続きがめんどくさいらしい。だから、大阪で働いてた会社の人事にお願いして、その証明書を作ってもらった(会社が発行したものも有効とされる)。そしてここで、二人が独身であるという「独身証明書」を発行してもらう申請をした。

申請して一週間後に、また総領事館へ行って二人の「独身証明書」を入手。その次は、「妇保医院(fùbǎo yīyuàn)」(蘇州にある婦人科総合病院)に二人で行って、健康診断を受けた。この病院で発行される「健康診断書」がなかったら、結婚できへんねん。ここで何を調べるかっていうたら、健康かどうかの診断じゃなくて、男女共に性病はないか「有没有性病(yǒuméiyǒu xìngbìng)」、それから女性は妊娠してないかどうか「有没有怀孕(yǒuméiyǒu huáiyùn)」。中国の法律で、性病のある人、それから妊娠してる女性は結婚できへんことになってる(上海市やその他の都市で、最近、結婚するのにこの健康診断は任意となって、そんな都市が増えてきてるようや)。だから、日本みたいに「できちゃった結婚」っていうのは許されてない。

この健康診断は、ごっつい精神的苦痛を伴った。なんでかと言うと、妊娠判定のやり方が、すごい原始的な方法やったから。科学的にも調べたくせに、もう一回、念には念を入れて原始的方法でも確認される。ここには、その原始的方法がどんなものかはとても書かれへんねんけど、それも、まわりに健康診断に来た他の女の子たちが何人かいる前で行われる。ごっつい嫌やったで。それで、問題なかったら、診断書の上に

「可以结婚（kěyǐ jiéhūn）」　*結婚してもよろしい！*

という大きなハンコがバァーン！と押される。その後、みんな性教育のビデオを見させられる（中国での性教育は、学校では行われずに、この時に見るビデオだけらしい）。大体二、三時間くらいあるらしいけど、私らはそのビデオを見る必要はないって言われた。その理由は多分、中国人同士では一人っ子政策「计划生育（Jìhuà shēngyù）」が義務付けられてるけど、夫婦のうち片方でも外国人の場合は、子供を何人産んでもいいとされてるからやと思う。

後で、季に「あんたはどんな診察されたん？」って聞いたけど、教えてもらわれへんかった。男性の診察も、女性のと同じように、あまり人には言われへんような診察をされたんやろうと思った。

この病院で、健康診断書を作ってもらうのに費用がかかるんやけど、中国人同士の結婚の場合は、四十元くらいでいいらしい。

でも、私らはその十倍の四百元も払った。やっぱり外国人からお金をせしめることだけは、こんなところでも忘れへんねんなー。

そんな思いをして、やっと結婚許可をもらって（なんてったって「可以结婚（kěyǐjiéhūn）」やもんな……）、民生局に行って、他にも揃えた書類を一緒に提出し、結婚の申請をした。申請してから三週間後に、また同じ窓口に行くと、赤い「结婚证（jiéhūnzhèng）」がもらえた。これが私らの結婚証書やった。この「结婚证（jiéhūnzhèng）」を取得する為に、上海―蘇州間を二往復し、会社を早退して何度も蘇州市民生局にも通った。全部で費用は二千元くらいかかったし、時間は二ヶ月もかかった。ほんまに大変やった。

結婚証書を取りに行った時、民生局の事務所で、もう一組のカップルが結婚の申請をしてた。それは、男性が日本人で、女性が中国人の二人やった。男性は、もう四十代後半くらいの人で、恐らくどこかの会社の駐在員（出向者）やと思った。中国語はまったくできへん様子やった。女性の方は、二十代前半くらいの若い子で、日本語はカタコトやった。多分どこかのカラオケの小姐やろうなと思った。二人は言葉があんまり通じへんようで、お互いカタコトで何とか意思疎通をしてて、女性の方が男性を丸め込んでるような感じがした。ま、人の恋愛のことをどーこー言うことはできへんけど、彼らも先は大変やろうなと思った。

彼女の方は、きっと日本に行きたい一心で、この男性と結婚したんやろうけど（という私の推測）、でも、彼女は日本で“日本人の妻”はきっとできへんやろうなと思った。蘇州近辺の家庭では、家事は男女分担やし、女性の方が男性より強くて、主導権を握ってる。女性は結婚しても、出産後でも仕事を持つのが普通で、家庭婦人っていうのはめったにない。それが、日本に行ったら家庭婦人になって、家の中のこと全部せなあかん。それに、だんなは家事はせぇへんし、だんなの両親の前では“嫁”を演じなあかん。彼女はそれに耐えれるんやろうか……と、私は彼らを見ながら勝手に考えてた。

「结婚证（jiéhūnzhèng）」を取得して一週間後、タイミング良く日本出張があったから、その時市役所に行って、日本側での入籍手続きを済ませた。色んな中国の書類を中国政府が「本物である」と証明する「公证书（gōngzhèngshū）」というものを持って（これを発行してもらうのにも、かなりのお金がかかった）、赤い「结婚证（jiéhūnzhèng）」と一緒に提出して、婚姻届を出すと、その一週間後、戸籍に夫の名前が載った。

他の国の人と結婚した場合はどうか知らんけど、中国人と結婚した場合、私の戸籍の夫の欄は空白になってる。備考などを書く文章記載の欄に、「誰といつ中国で入籍し、いつ日本で入籍した。」

と書かれてるだけや。

国際結婚は、こういう手続きが大変や。

5 差 別

中国人と結婚すると決めた時、差別を受けることはあるやろうなとは覚悟はしてたんやで。日本社会には、まだまだ中国人や韓国人、その他アジア地域の外国人を差別する社会風土があることは否定できへんと思うからな（私はそう認識してる）。でも、まさか中国で中国人と結婚して、中国で差別を受けるとは思いもせんかった。

結婚前、友人や知人に「中国人と結婚する」って言うて「おめでとう！」と言ってくれたのは、誰一人としておらんかった。大抵は反対されて、「あんたが決めたんやったら、そうしたら。私はもう何も言わへん。」と言われることが多かった。お世話になった方に報告した時、その方に「中国人の彼氏と付き合うっていうのは反対せぇへん。でも、結婚となると別や。結婚はやめとき。反対や。」とはっきり言われたこともあった。でも、今から思うに、その人は、中国人と結婚して受ける色んな差別のことを予測して

はったんやと思う。それもあって、反対されたんやと思う。

ほとんど誰からも「おめでとう！」って言葉を掛けてもらうことがなくて、ほんまに悲しかった。私にとっての結婚って、めでたいこととちゃうんや……と思い込んだ。

ある日会社に「蘇州人と結婚します」と言うた。ほんまは結婚間際まで会社には言いたくなかったんやけど、ある喋りの同僚が自称“いい人”の上司に告げ口してしもーたから、仕方なく言うたんや。そしたら会社から信じられへん返事が返ってきた。

「中国人と結婚したら中国人になるんやから､給料は半分に減らす。そして（今まではアメリカドルでの支給やったけど）人民元で支給する（もともと安月給で雇われてたから、給料の半分で中国人と同レベルの給料になる。ちなみに、日本人が中国人と結婚して中国国籍を取得することは法律上不可能。だから私が“中国人になる”ってことは有り得へん)。」

人民元を自由に外貨に換金することができへんっていうことを知らん人は結構多い。どうしても換金するんやったら、闇換金商「黄牛（huángniú）」を通してしかできへん。これは中国政府が外貨準備高を保持（上がってもいいけど下がるのだけは阻止）する為、また国民が人民元を外貨に換金して、人民元の価値を下げんようにする為、外貨管理局の下で管理してるからなんや。例えば、旅行

客でも一万円（日本円）を人民元に換金したら、例えたくさん人民元が余ったとしても最初に換金した半分以上の金額は、もとの貨幣に換金できへんようになってる。だから、この場合五千円分以上の人民元が残ったとしても、五千円分以上は日本円に戻すことができへんわけや。他にも、物を買った代金以外の外貨を海外に送金するのに制限がある。例えば、海外に輸出した製品に不良が発生して、その保証金を支払おうと外貨送金を行おうと思っても色んな書類提出を求められて、外貨管理局の審査を通過せん限りは送金できへん。結局、日本人が中国で働いて人民元で給料をもらうということは、日本にお金を持って帰ることができへんっていうことになる。日本には家族もおる、年金も払ってる。日本にお金持って帰られへんっていうことは、ほんまに日本人として生きて行く糧を無くしたも同じやで。

もうひとつ会社から言われたこと。

「中国人に与えられている福利厚生は、中国国家が国民に保障してる制度やから、日本人である君には適用されへん。でも、君は中国人と結婚するから、日本人としての福利厚生は取り消しや。」

これ聞いて、何のこっちゃと思わへんか？　一方では私を中国人扱いして、一方では私を日本人扱いや。誰が聞いてもおかしいと思うで（つまり、「辞めてくれ」ということやねんけどな）。

私は当時の総経理（社長）を社外で呼び出し、一時間話しをした。いくら何を言うても「社内のバランスが……」という訳の分からん言い訳の一点張りやった。

最近では、カラオケスナックの小姐と恋愛結婚する日本人駐在員も増えてきた。ほな、駐在員も小姐と結婚したら中国人並みに減給されるんか？　そんな訳ないやろ！　駐在員が中国人と結婚するのは“社内のバランスの問題”にならへんのか？

ほな、私が契約社員やったからか？　そりゃ人権侵害やろぉ～。パソナにも問い合わせてみた。「中国人と結婚するから減給ということは有り得るんか？」と……。そしたらパソナも、「それはおかしい。中国人と結婚してる日本人は、中国で現地採用されても皆、日本人としての待遇を受けてる。」という回答やった。

それを総経理に言うと、「入社時に既に結婚してるのと、勤務途中に結婚するのとでは意味が大きく違う」と言われた。ほななにか？　会社で仕事してる間は結婚できへんのか？　サラリーマンは結婚したら減給されるんか？　アメリカ人と結婚したら？　フィリピン人と結婚したら？　国際結婚したら給料半減されるんか？　現代社会でそんな理屈が通るもんなんや……。ある知人（五十代の男性）に話したら、「個人の理屈と会社の理論は往々にして異なるもんや」と言われて、その人は会社の肩を持った。驚いた。

今のこの世の中、違法行為も会社の理念の中では正義とされるんや……。

「久米が日本人経営者からいじめられて、爪弾きにされてる。」というううわさは光のごとく社内全体に広まった。それからというもの、中国人たちも、今まで日本人経営者達に向けたくて向けられへんかったうっぷんを私に向けてきた。そりゃもう、辛い日々やったで。日本人からも爪弾き、中国人にはいじめられる。中国人は、自分らの何十倍もの給料をもらってる日本人駐在員のことを、やっぱり好ましくは思ってないからな。でも、駐在員は権力者やから楯突く訳にはいかん、自分らは搾取されてるも同じやと思ってるから、その腹いせを私に向けてきたわけや。

会社側は、結婚後も私がずっと会社に居座っては困ると、早速私の後任を見つけてきた。それも超ベッピンで日本語ペラペラの有能な中国人女性や。もちろん私はその時点でまだ辞めるとは言うてないんやで。

ほんま辛かったわぁ〜。こんなん違法やん！って思ったけど、中国でおったら治外法権やし、私は中国人でもないから中国の法律で訴えることもできへん。法は自分を守ってくれへん、自分を守るのは自分しかないと思った。「私は負けへんで！」っていう気合を入れる為に、髪型を変えて、金髪のスポーツ刈りにした。こ

れには、みんなも驚いてたわ。

そこまでするんやったら、蘇州を去って別の街に行ったら良かったやんか、と言われるかもしれん。でも、私はどうしても蘇州に残らなあかん理由があった。季が、働きながら週末は大学に通ってたから、季が大学を卒業するまでは、何としても蘇州に残らなあかんと思ってたんや。会社を移ろうか、と他の会社も探したけど、すぐに適当な会社が見つからんかった。そんな中で、私の心の支えとなったのが、出張者の人が持ってきてくれるお土産やった。これは結構私を蘇州に引き止める力があったんや。蘇州では手に入れることができへん日本のお菓子とかもらったら、「ここにおるのもええかもな……」と思えることがよくあったんや。(ま、これはちょっと冗談の意味も含んでるけど。食いしん坊の私ならではの……！)

そこで私も考えた。会社に「おまえはどうしても必要な人材や」と思ってもらえるようにしたら、蘇州に残れる。会社にそう思ってもらうようにするには、どうしたらいいか。私は営業やったから、お客さんに「久米さんがおらな、この仕事やっていかれへん。久米さんがおるから注文出すんや」と言ってもらえるようにしたらええと考えた。(ここまで会社に出て行けと言わんばかりにいじめられてるのに、私ってしぶといねん。ずっと居残ってやったわ。

出て行ってほしい人に反対に居座られて、会社も当時は困ったやろうなぁ……。）

それから、以前にも増して仕事を一生懸命するようになった。私の“後任”という中国人女性も入社したけど、結局お客さんは私の方を必要としてくれた（その女性は本当によく仕事をする優秀な人やったけど、お客さんにとっては、やっぱり日本人の私の方が一緒に仕事がしやすかったみたいや）。お客さんも段々私の存在を認めてくれるようになってきて、自称“いい人”の上司も、ユーザーのその反応をわざわざレポートに記載してくれたりするようになった。

上司のその心遣いもあって、会社も段々私を必要とし始めてきた。辞める数ヶ月前には、会社の新規事業の為に、引っ張り凧になるくらいになった。それでも季と私は、結婚後も蘇州で暮らしていくことの難しさを感じ、機会があれば、どこか他の土地へ行くことを決めていた。それは日本も含んでた。

6　結婚パーティー

そんなこんな色々あったけど、私らは何とか結婚することがで

きた。2001 年 9 月 15 日、季と私はささやかな結婚パーティーを開くことになった。

どんなパーティーにするかは、全部私が考えて指揮を取った。なんでかと言うと、私が考えた方が都合が良かったからや。私らは中国人と日本人やから、“和中折衷” のパーティーをしようと考えた。それには、日本と中国の両方の結婚式を知ってる私が考えた方がいい。季はそれに従って色々動いてくれ、季の家族や友人も助けてくれた。

私は、完全な中国式の結婚式はしたくなかった。まず第一にめんどくさい (「花车(huāchē)」に乗って蘇州市内をねりまわるというような、面倒な習慣は私には不要やと思った)。第二に、日本人のお客さんも来てくれはるから、その人たちにもいい印象を与えるパーティーにしたかった。第三に、折角祖国の違う二人が結婚するんやから、それぞれの国の習慣を取り入れて、他では見られへんようなパーティーにしたかった。

パーティーに両方の親は呼ばず、カジュアルなものにした。特に、他の結婚パーティーで見られへんことをしたのは、来場してくれたお客さん一人一人に、手作りカード（二人のなれ染めや自己紹介、メッセージなどを書いた簡単な冊子）を渡して、そのカードの下に書いた番号で、くじ引き（粗品贈呈）をしたことや。

くじは私が引くようにして、そのカード番号にある細工をした。粗品は、出席者の 80%くらいの人に当たるように準備して、日本人用と中国人用の粗品を準備した。手作りカードも、日本人には日本語のもの、中国人には中国語のものを渡したから、日本人の番号と中国人の番号は分かれてた。くじを引く時は、箱の中で日本人の番号札と中国人の番号札の間に仕切りをして、粗品の種類によってくじを区別しながら引いた。例えば、ゴルフボールなんかやったら、中国人はもらっても仕方が無いから、日本人に当たるように日本人用番号札を引いた。そんな工夫をしておいた。このくじ引きは、パーティーの最後にやったんやけど、結構盛り上がって楽しかった（と思う）。

食事はバイキング「自助餐（zìzhùcān）」で、和食、洋食、中華を取り混ぜてもらった。ひとつ失敗したのは、コーヒーと紅茶を準備してたのに（これも全部自分たちで準備、ホテルは出してくれへんかった）、ホテル側が出すのを忘れて、折角ケーキを出したのに、ケーキを食べながら飲むものがなかった。これは失敗やった。

他に、私らが“和中折衷”で工夫したことは、こんなこと。

日本の習慣を取り入れたもの（中国でこんな習慣はない）

1. 男女の司会者（進行役）：男性は中国人、女性は日本人。それぞれ私たちの友人になってもらった。

中国式パーティーの司会者は、最初の開会の時だけちょろっと話をする程度。パーティーの進行はしない。(進行なんかせんでも、パーティーは勝手に進んでいってしまう。)

2. キャンドルサービス : 新郎新婦入場で、各テーブルのろうそくに点灯する。でも、全部やってたら時間が足りへんから、主賓席にだけ点灯した。

3. ケーキカット : 笑えたのが、日本やったら、ケーキにちょこっとだけナイフを入れるのに、季は知らんから（中国にケーキカットの習慣はない)、ケーキ全体にザックリとナイフを入れてしまった。それも、写真撮影の為にもう一回ナイフを入れてと要求されて、またもや二度目もザックリと…… 。

4. 伴郎伴娘(bànláng bànniáng)はなしにした。

5. 会社関係の人に祝辞をお願いした。

6. 音楽をかけた。普通、中国の結婚パーティーで音楽はかけへん。でも、私はわざわざ日本から、好きな音楽とか、結婚式でかける音楽、今流行りの結婚式でよく歌われる曲とかを集めて、それを会場の BGM として流してもらった。

中国の習慣を取り入れたもの

1. 新郎新婦は主賓席に座って、友人たちとお喋りする時間を設けた。(日本やったら、新郎新婦は高砂に座るけど、高砂は作らん

かった。）

2. 各テーブルをまわって、来て頂いた人たちと乾杯をし、彼らのたばこの火をつける。

この習慣だけは、なくすことはできへんやろう。来てくれた人たちみんなに挨拶はせんとな。これは礼儀や。

3. 喜烟(xǐyān)を配る。

普通は、各テーブルに箱ごと（結構乱暴に放り投げながら）配っていくんやけど、ちょっとオシャレにバイキングの料理の横に、シガレットケースを並べて、その中にたばこを入れておき、好きな人が好きなだけ取っていけるようにした。

4. 喜糖(xǐtáng)を配る。

普通、蘇州人が配る喜糖(xǐtáng)は、正直言ってごっついダサイケースに入ってる。私はこのダサイケースが嫌やったから、わざわざ上海にオシャレなリボン付きのケースに入った喜糖(xǐtáng)を買いに行った。出席してくれた蘇州人たちは、こんな喜糖(xǐtáng)を見るのは初めてやったみたいで、結婚パーティーの後、出社すると「あの喜糖(xǐtáng)はどこで買ったん？」とよく聞かれた。

このパーティーをしてほんまに良かったと思う。会社の人もみんな出席してくれはったし、みんなからやっと「おめでとう！」

っていう声を掛けてもらえた。ほんまに嬉しかった。こんな“和中折衷”のパーティーを成功させてくれたホテルにもありがとうという思いや。

この場を借りて、遠路はるばる私たちの結婚パーティーに出席して下さった方々や、祝辞を述べて下さった方、出席して下さった会社関係の方や友人たち、パーティーを成功させる為に色々手伝ってくれた友人たちみんなにお礼を言いたい。ありがとうございました。

7　新婚旅行

最近の人の新婚旅行（ハネムーン）「蜜月（mìyuè）」って、どこに行くんやろう？ やっぱり海外？ ヨーロッパとかアメリカとか？ 海がきれいなタヒチとかグアムとか、色々あると思う。

私らの新婚旅行はどこに行ったかというと、私の実家に帰った。これが私らの新婚旅行や。でも、これは私らにとって念願のことやった。

中国人が日本に行くビザを取得するのは大変なことや、というのを知っている人は案外少ない。中国人留学生は今どんどん増え

てるけど、彼らが就学ビザ「学　生　签　证　(xuéshēng qiānzhèng)」を取得するには、ものすごく複雑な手続きとかなりの経済力が必要や。日本語学校に大金を払った上に、まだ銀行に日本円で何百万円という預金が残っている証明と、そのお金が正常かつ規則的な収入によって作られた預金であることの証明の為に、預金通帳の写し（預金の履歴）を提出せなあかん。でも、手続きが大変すぎるから、却って偽造ビザが増えるという悪循環を招いてる。それ以外の商用ビザ「短　期　商　务　签　证　(duǎnqī shāngwù qiānzhèng)」でも手続きはかなり面倒くさい。

旅行ビザ「观　光　签　证　(guānguāng qiānzhèng)」もあるけど、現在、旅行ビザを取得できるのは、北京・上海・広州の三都市の戸籍を有する中国人だけで、それも旅行社が企画するツアーに参加する人のみ（但し、日本政府は 2004 年 7 月下旬に、旅行ビザ取得可能な都市に、天津市と江蘇、浙江、山東、遼寧各省の五地域を加えることを決めた。いつから可能になるかはまだはっきりしてない。）しかも、日本円にして数十万円という大金を保証金として旅行社に納めんとあかん。この保証金は、もし日本に到着してから行方をくらました（不法滞在者となった）時、全額を旅行社が取上げる為のもの。ちゃんと中国へ帰ってきたら、その保証金は全額返金される。例えば、もしある旅行社が企画したツアーで、一人でも行方をく

らまして帰国せぇへんかった人が出たとしたら、今後、その旅行社では日本へのツアーを企画する権利は剥奪される。

季の場合は、“配偶者ビザ”「同伴签证 tóngbàn qiānzhèng」になるけど、これも取得するのに、お金と手間と時間がかかった。日本で入籍した後、すぐに“配偶者ビザ”の手続きを始めた。他のビザと同じく、季が日本で生活した場合、彼を経済的に支えるだけの経済力が私にあるということを証明する書類も色々提出させられた。二ヶ月後にやっとビザを取得して、季が日本に行けることになった。

私は季に、私の生まれ育った街を見てほしかった。なんでかと言うと、日本と中国、これだけ国の文化や習慣、社会風土などが違うと二人の生活習慣や考え方が違う部分がかなりある。彼に、なんで私はこう思うのか、こうするのかを説明しても、なかなか理解してもらわれへんかった。それは、私がどういう環境で育ち、どういう社会の中で生活してきたかを季が知らんかったからや。

だからこそ、結婚して季と一緒に日本に行くというのは、私の強い強い希望やった。それが実現した時は、ほんまに嬉しかった。結婚して、まわりからも「おめでとう！」と声を掛けてもらえるようになって、大変な手続きも何とかクリアして、やっとやっと二人で日本に行けた。一つ不服やったのは、契約社員やった為に

結婚休暇をもらえず、年休を取って日本に帰ったから、滞在日数が少なかったことや。でも、贅沢は言わへん。季と一緒に日本に来られただけで、私は最高に幸せやった。

十　転　職

1　パソナPart2

蘇州ではやっていかれへんとは分かってたものの、なかなか私の新しい仕事が見つからんかった。探し始めて一年以上たったある日、パソナから連絡が入った。

Jiǔmǐ xiǎojiě nǐ xiànzài háizài zhǎo gōngzuò ma
「久 米 小 姐，你 现 在 还 在 找 工 作 吗？」

久米さん、あなた今もまだ仕事探してる？

Wǒ zài zhǎo
「我 在 找 。」　*探してますよ。*

Xiànzài yǒu yìjiā Měiguó gōngsī zhǎo xiāoshòu
「现 在 有 一 家 美 国 公 司 找 销 售，」

今あるアメリカの会社が営業を探してるんやけど、

nǐ yàobuyào shì yíxià
「你 要 不 要 试 一 下？」　*試してみぃへん？*

そう言って、その会社の条件などをいろいろ説明してくれた。私は早速英文履歴書を作成した。

Nǐ zuò jiǎnlì de shíhòu
「你 作 简 历 的 时 候，」　*履歴書作る時、*

yìbān jiǎnlì hé gōngzuò jiǎnlì fēnkāi zuò yíxià
「一 般 简 历 和 工 作 简 历 分 开 作 一 下。」

普通の履歴書と職歴書と分けて作りなさいよ。

パソナは私にそう指示した。作成した履歴書に目を通してもらうと、また所々修正するように指導してくれた。

今回パソナはかなり熱心に私を指導した。面接に行く時の細か

い注意事項まで指導してくれた。

Nǐ miànshì de shíhòu huàzhuāng nòng de bǐpíngshí
「你 面 试 的 时 候，化 妆 弄 得 比 平 时
nóng yìdiǎn
浓 一 点，」

面接の時、化粧はいつもより濃くしいや。

Chuān de yīfu yào xiānyàn yìdiǎn
「穿 的衣服 要 鲜 艳 一 点 。 」

着て行く服も派手にせなあかんで。

Měiguó gōngsī hé Rìběn gōngsī bù yíyàng
「美 国 公 司 和日 本 公 司 不一 样，」

米系企業と日系企業は違うねん。

yào dǎbàn de xiānyàn yìdiǎn
「要 打 扮 得 鲜 艳 一 点，」

身なりを派手気味にせなあかん。

yào kànqilái hěn huópo
「要 看起 来 很 活泼。 」

見た目が活発そうじゃないとあかんねん。

パソナはやる気満々やった。なんでかと言うと、パソナの報酬はその人材の契約給料に対する比率で払われるらしく、この会社の給料水準は他社よりかなり高かったからや。

これは私の個人的意見やけど、中国の日系企業で契約社員として働くのは、キャリアアップ「shēngjí 升 级」につながることも少ないし、雇用条件「lùyòng tiáojiàn 录 用 条 件」(給料も含む) も満足できるところは少ない。日系企業が現地で日本人を採用するのは、人件費を抑える為「wèile jiǎnshǎo rénshìfèi 为 了 减 少 人 事 费」やから、その辺ははっ

きりしてる。それに、日系企業の横の連携は素晴らしくて、大抵どこの日系会社に入っても、給料やその他条件は似たようなもんや「半斤八两(bànjīn bāliǎng)」(ある程度言い合わせをしてるとか、他社に習って同じ条件にしてることが多い)。

それに比べ、欧米企業が日本人を雇用する目的は違う。人件費削減の為じゃなくて、日本人という人材が必要で、その日本人の能力や技能を必要としてる「需要技能(xūyào jìnéng)」。だから、その会社が見込んだ人材やったら、雇用条件についてかなりハードに交渉できる。

パソナの担当者は、ほとんど毎日私に電話してきて、少し躊躇してた私を強くプッシュしてきた。担当者は自宅に帰ってからも、私に電話をかけてくるほどやった。私が躊躇してた理由のひとつは、米系企業でやっていけるかどうか不安やったこと。やっぱり、日系と米系じゃ、社内の雰囲気から仕事の進め方まで全然違うやろうしな。もうひとつの理由は、上海やったら単身赴任になってしまうことや。折角結婚したのに、夫は蘇州、私は上海って別居になってしまう。上海―蘇州間は約百キロくらいの距離やから、日本的感覚やったら通勤圏内やけど、中国は日本とは比べものにならんくらい交通のインフラが遅れてるから、とてもじゃないけど毎日通勤できる距離じゃないねん。

でも、パソナの担当者の熱意に押されるような形で、その米系企業の面接を受けることになった。

2 面 接

面接は、B 社（その米系会社）の蘇州販売事務所で行われた。事務所「办 公 室 bàngōngshì」はオフィスビル「写 字 楼 xiězìlóu / 办 公 楼 bàngōnglóu」の中にあって、ベルを鳴らす「按 门 铃 ànménlíng」と、中国人スタッフが出てきた。

「我 来 面 试 的 Wǒ lái miànshì de。」 *面接に来たんですけど。*

と言うと、会議室に通された。そこで十分くらい待っていると、二人の男性がやってきた。一人は台湾人の人事部長、もう一人は香港生まれシンガポール国籍の営業部長やった。お互いの自己紹介が終わると、早速質問攻めに合った。蘇州 A 社のような簡単完結な面接じゃなくて、今回は特に、営業課長ポスト「销 售 经 理 的 职 位 xiāoshòu jīng lǐ de zhíwèi」の面接やったから、今までの実績から営業の進め方まで事細かく質問された。

「你 现 在 负 责 的 客 户 都 是 日 本 公 司 吗？ Nǐ xiànzài fùzé de kèhù dōushì Rìběn gōngsī ma」

君が今担当してる客はみんな日系会社か？

Shìde
「是的。」　*そうです。*

Nǐ xiànzài yígòng fùzé duōshǎo kèhù
「你 现 在 一 共 负责 多 少 客户？」

今全部でどれだけのお客さんみてるの？

Bāokuò xiǎode yígòng yǒu sānshíjiā zuǒyòu ba
「包 括 小 的，一 共 有 三 十 家 左 右 吧。」

小さいのも含めると、全部で三十社くらいですね。

Nǐ de kèhù zài Zhōngguó de shénme dìfāng
「你 的 客户 在 中 国 的 什 么 地 方？」

君のお客さんは中国のどの辺りにあるの？

Yìbān dōu shì yánhǎi dìqū de Huáběi Huádōng Huánán dì
「一 般 都 是 沿 海 地区的。华 北，华 东，华 南 地 qū
区。」

一般的にみんな沿海地区です。華北、華東、華南地区です。

Nǐ yígeyuè de xiāoshòué yǒu duōshǎo
「你一个 月 的 销 售 额 有 多 少？」

君、一ヶ月の売上金額はどのくらいあるの？

Dàgài píngjūn yǒu
「大 概 平 均 有。。。。。」

大体平均したら……くらいあります。

Nàme nǐ de xiāoshòu jīné zhàn xiāoshòu zǒngé de duō
「那么，你 的 销 售 金额 占 销 售 总 额的 多 shǎo
少？」

そしたら、君の売上金額って売上総額のどのくらいを占めてるの？

Bǎifēnzhī liùshí zuǒyòu ba
「百 分 之 六 十 左 右 吧。」 *六十パーセントくらいです。*

Nà zhèyàng de huà nǐ de bùzhǎng gàn shénme ne
「那，这 样 的话，你的部 长 干 什 么呢？」

そしたら、そんなんやったら、君の部長は何してんの？

A wǒ de bùzhǎng zhǔyào shì kāifā xīnkèhù de
「啊，我的部 长 主 要 是 开发新客户的。」

ああ、私の部長は主に新規顧客を開発してるんです。

Wǒ fùzé xiànyǒu de kèhù
「我负责 现 有 的客户。」 *私は既存顧客をみてるんです。*

Nàme qítā zhōngguórén ne
「那么，其他 中 国 人 呢？」 *そしたら、他の中国人は？*

Wǒmen Rìběnrén de zuòyòng hé Zhōngguórén de zuòyòng
「我们日本 人 的作 用 和 中 国 人 的作 用
shì bùyíyàng de
是 不一 样 的。」

私たち日本人の役目と中国人の役目は違うんです。

Wǒ fǎngwèn kèhù shì wèile bàifǎng duìfāng de Rìběnrén
「我 访 问客户 是 为了拜 访 对 方 的日本 人
bùzhǎng
部 长 。」

私がお客さんを訪問するのはあちらの日本人部長を訪問する為です。

Yào juédìng zhòngyào de wèntí de huà
「要 决 定 重 要的问 题的话，」

重要な問題について決めるのであれば、

yídìng yào hé Rìběnrén tán
「一 定 要 和日本 人 谈 。」

日本人と話をしなければなりません。

Wǒmen de kèhù chàbuduō dōu shì Rìběn gōngsī
「我 们 的客户 差不多 都 是日本 公 司，」

私たちのお客さんはほとんど全部日本の会社です。

zài Rìběn gōngsī zhòngyào de wèntí dōu shì yóu Rìběn
「在日本 公 司， 重 要 的问 题 都 是 由日本

rén lái juédìng de
人 来 决 定 的。」

日本の会社が重要な問題を決定するのは、すべて日本人によって決定されるんです。

Zhèzhǒng shíhòu rúguǒ duìfāng chūlái Rìběnrén bùzhǎng
「这 种 时候，如 果 对 方 出 来 日本 人 部 长，」

この時、あちらは日本人部長が出てきたのに、

ér wǒmen zhǐyǒu Zhōngguórén qù tánpàn de huà
「而 我 们 只 有 中 国 人 去 谈 判 的 话，」

私たちは中国人だけが行って交渉ようとしても、

shì gēnběn shuōbushàng shénmehuà de
「是 根 本 说 不 上 什 么 话 的。」

まったく何も話をすることができません。

Yídìng yào Rìběnrén chūmiàn tán
「一 定 要 日本 人 出 面 谈。」

必ず日本人が顔を出して話をしなければなりません。

Suǒyǐ yào wǒqù de
「所 以 要 我去 的。」 *だから私が行くんです。*

Zhōngguórén de xiāoshòu zhǔyào fùzé yìbān de liánluò
「中 国 人 的 销 售 主 要 负责一 般 的 联 络，」

中国人営業担当者は、主に通常のやり取りをし、

tāmen bàifǎng de kèhù shì Zhōngguórén dāndāng
「他 们 拜 访 的客户 是 中 国 人 担 当。」

お客さんの中国人担当者を訪問するんです。

Nàme zài xiànzài de gōngsī lǐ nǐ de zhíwèi shì shén
「那么，在 现 在 的 公 司里，你 的 职 位 是 什
me
么？」 *それじゃ、今の会社の中で、君の役職は何？*

Wǒ zuò xiāoshòu zhǔguǎn
「我 做 销 售 主 管。」 *私はスーパーバイザーです。*

（ほんまは役職も何もついてない、ただの現地採用社員やった

けど、こう言うておいた。）

Nǐ yǒu Rìběnrén bùzhǎng háiyǒu Zhōngguórén kèzhǎng
「你 有 日本 人 部 长，还 有 中 国 人 课 长，」

君には日本人部長がいて、それに中国人課長もいて、

háiyǒu qítā zhōngguórén dāndāng hé hòuqín
「还 有 其他 中 国 人 担 当 和后勤，」

それに他の中国人営業担当と営業事務がいる。

nàme nǐ de wèizhi zài nǎli
「那么，你 的 位 置 在 哪里？」

じゃあ、君のポジションはどこになるの？（つまり、上下関係を聞いてる）

Wǒ shì hěn dúlì de yíge wèizhi
「我 是 很 独立 的一个 位 置，」

私は独立したポジションです。

Wǒ zài Rìběnrén bùzhǎng xiàmiàn de dànshì
「我 在 日本 人 部 长 下 面 的，但 是，」

私は日本人部長の下に位置しますが、

yòu búshì zài Zhōngguórén kèzhǎng xiàmiàn de
「又 不 是 在 中 国 人 课 长 下 面 的，」

中国人課長の下でもないし、

yěbúshì zài Zhōngguórén xiāoshòu hé hòuqín de shàng miàn de
「也不 是 在 中 国 人 销 售 和 后 勤 的 上 面 的。」 *中国人営業担当や営業事務の上にも位置しません。*

Néngbunéng gěi wǒmen huàyíxià rénshì jiégòutú
「能 不 能 给 我 们 画一 下 人 事 结 构图？」

私たちに人事構成図を描いてもらえないかな？

Nàme nǐ néngbunéng juédìng Zhōngguórén de gōngzī
「那么，你 能不 能 决 定 中 国 人 的 工 资？」

じゃあ、君は中国人の給料を査定することはできるの？

Bùnéng
「不 能 。」　できません。

Nín yě yīnggāi zhīdào de wǒ shì zài Zhōngguó zhāopìn de
「您 也 应 该 知 道 的，我 是 在 中 国 招 聘 的，」　*あなたもご存知の通り、私は中国で採用されたんです。*

búshì cóng Rìběn pàiguòlái de
「不 是 从 日 本 派 过 来 的，」

日本から派遣されて来たのではありません。

Rìběn gōngsī a tāmen fēn yuángōng
「日 本 公 司 啊，他 们 分 员 工 。」

日本の会社はですね、彼らは社員を区別してるんです。

Wǒ hé tāmen dōu shì yíyàng de Rìběnrén
「我 和 他 们 都 是 一 样 的 日 本 人 ，」

同じ日本人ですが、

dànshì tāmen shì cóng Rìběn pàiguòlái de zìjǐrén
「但 是，他 们 是 从 日 本 派 过 来 的 自 己 人，」

彼らは日本から派遣された身内、

ér xiàngwǒ zhèyàng zài Zhōngguó zhāopìn de shì shǔyú wàibù de rén
「而 像 我 这 样 在 中 国 招 聘 的 是 属 于 外 部 的 人 。」　*私のように中国で採用された者は外部の者。*

Yě jiùshì shuō wǒ bìng búshì zhèngshì yuángōng
「也 就 是 说 ，我 并 不 是 正 式 员 工 。」

つまり、私は正社員にはならないわけです。

Suǒyǐ wǒ de quánlì shì búdà de
「所 以，我 的 权 力 是 不 大 的。」

だから私の権限は大きくないんです。

Hǎo zhīdàole
「好，知 道 了。」　*分かりました。*

Nàme xiànzài wènyíxià yǒuguān xiāoshòu jìqiǎo
「那么，现 在 问 一 下 有 关 销 售 技 巧 。」

じゃ、今質問するのは、営業手段についてのこと。

Kèhù yāoqiú jiàngjià
「客户 要 求 降 价,」 *お客さんが値下げを要求してきて、*

érqiě yāoqiú hěn qiángliè
「而 且 要 求 很 强 烈,」

その上、要求が大変激しかったら

zhèzhǒng shíhòu nǐ huì zěnme zuò
「这 种 时 候 你 会 怎 么 做？」

この時君はどうする？

Yǐjīng zài yě bùnéng jiàngjià de shíhòu nǐ zěnme bàn
「已 经 再 也不 能 降 价 的 时 候，你 怎 么 办？」

もうこれ以上値下げができないっていうときはどうする？

Nǐ kāifā xīnkèhù de huà shì zěnme kāifā de
「你 开 发 新客户 的 话， 是 怎 么 开 发 的?」

君が新規顧客を開発するのなら、どうやって開発する？

Nǐ de jìqiǎo qǐng jiāoyíxià
「你 的技 巧 请 教 一 下。」

君のテクニック（やり方）を教えて下さい。

こんな感じで、面接は約二時間に渡った。途中、英語の会話もあった。米系会社やったから英語は必須やった。面接の結果は問題なかったみたいで、数日後に上海まで二次面接に来るように言われた。二次面接では、香港・台湾を含む中国全体の営業責任者に会い、少し話しをしただけで終わった。そして、二次面接も問題なくパスし、またその数日後、雇用条件についての話し合いをする為に上海パソナへ赴くことになった。

3　給料交渉

二次面接が終わると、給料交渉に入った。交渉は上海パソナの事務所で、B 社台湾人人事部長と会議室に二人っきりになって行われた。

一次面接の前、B 社を紹介された時からパソナには、

Nǐ qiánrèn de gōngzī shì　　měijīn
「你 前　任 的 工 资 是○○美 金。」

あんたの前任者の給料は○○US ドルやで。

と、およそのターゲット金額を教えてもらってた。でも、後から分かったことやけど、これはパソナが私をたきつけてただけやったみたいや。実際、私の前任者はそんなにもらってなかったみたいや。給料交渉前にも、パソナの担当者は確認するように、

Bāokuò fángfèi dàgài　　měijīn Jiāyóu a
包 括　房 费，大 概○○美 金。加 油 啊！　*住居費を含めて大体○○US ドルや、（交渉）頑張りや！*

と繰り返し私に言った。

そして、交渉に入り、私から人事部長に給料はいくらか聞いた。ここは中国やったし、相手は米系会社やったから、はっきりとズバズバ話を進めることにした。

Nǐmen gěi wǒ zhǔnbèi de gōngzī shì duōshǎo
「你 们 给 我 准　备 的 工 资 是 多 少？」

そちらで準備されてる私の給料っていくらですか？

△△美金(měijīn)。　*△△ドルや。*

そう言われた瞬間、開いた口がふさがらんかった。金魚のように、口がパクパクとなってしまった。低い、低すぎる。最初にパソナに聞いてた話と全然違うやんか！（それでもA社の給料よりは高かったけど。）

「△△美金(měijīn)？ 不行(Bùxíng)！ 太低了(Tàidīle)。」

△△ドル？ あかん！ 低すぎる！

「那么(Nàme)，你(nǐ) 要(yào) 多少(duōshǎo)？」

そしたら、あんたはいくら欲しいねん。

「我要(Wǒyào) ○○美金(měijīn)。」　*○○ドルや。*

向こうは驚いたようなそぶりしたけど、実際は慣れた感じで、予想はしてたみたいやった。日本での給料交渉ってどんなんかは知らんけど、彼との交渉は、中国での野菜の値切り方と一緒やと思った。お互い「この辺で落ち着くやろうな……」という見込み金額があって、最初はその金額に大きな幅をもたせて金額提示する。企業側は、見込み金額よりずっと低く、こっちは見込み金額よりずっと高く提示する。大体、その真ん中くらいの金額で収まるのが普通や。

私は、ネチネチ話を続けるのが嫌やった。給料の話なんか、とっとと決めてしまいたかったから、スパッと言うた。

Zhèyàng de huà wǒmen qǔ zhōngjiān ba
「这 样 的 话，我 们 取 中 间 吧。」

それやったら、真ん中（の金額）を取りましょう。

měijīn zěnmeyàng
「××美 金，怎么 样？」 *××ドルでどうですか？*

そこから始まって、私は××ドルから一歩も引かへんかった。

台湾人部長はせこくて、ジリジリ金額を上げてきてくれたものの、

まだまだ私の要求額には満たへんかった。

Nǐmen zhèyàng de huà
「你 们 这 样 的 话，」 *あなた方がそんなんだったら、*

wǒ bùnéng dào guìgōngsī qù shàngbān de
「我 不 能 到 贵 公 司 去 上 班 的。」

私は御社に行くことはできませんよ。

Méiyǒu xīyǐn wǒ de hǎotiáojiàn de huà wǒ shì búhuì guò lái le
「没 有 吸 引 我 的 好 条 件 的 话，我 是 不 会 过 来 了。」

私を引きつけるいい条件がなければ、私は行きません。

Yīnwèi xiànzài wǒ duì wǒde gōngzuò hěn mǎnyì
「因 为，现 在 我 对 我 的 工 作 很 满 意。」

何故って、今私の仕事にはとても満足してますからね。

érqiě wǒmen gāng jiéhūn wǒ xiānshēng zài Sūzhōu
「而 且，我 们 刚 结 婚，我 先 生 在 苏 州，」

それに、私は結婚したばかりで、夫は蘇州にいます。

wǒ wèishénme hái yào dào Shànghǎi qù shàngbān ne
「我 为 什 么 还 要 到 上 海 去 上 班 呢？」

どうして上海まで行って働かないといけないんですか？

Duìbuduì
「对 不 对？」 *そうでしょ？*

Wǒ qù Shànghǎi de huà hái yào líkāi wǒxiānshēng
「我 去 上 海 的 话，还 要 离 开 我 先 生，」

私が上海に行くとなったら、夫から離れなければならないし、

zài shànghǎi yígerén shēnghuó zhège shíhòu
「在 上 海 一个 人 生 活，这 个 时 候，」

上海で一人暮らしすることになるんですよ。それで、

guìgōngsī de tiáojiàn bǐ xiànzài de gōngsī hái yào dī
「贵 公 司 的 条 件 比 现 在 的 公 司 还 要 低，」

御社の条件が今の会社よりも低いとか、

huòzhě chàbuduō de huà
「或 者 差 不 多 的 话，」

もしくはほぼ同じっていうのなら、

wǒ wèishénme hái yào qù Shànghǎi ne
「我 为 什 么 还 要 去 上 海 呢？」

どうしてまた上海にまで行かなければならないんですか？

Wǒ hái bùrú zài Sūzhōu zài xiànzài de gōngsī shàngbān
「我 还 不如 在 苏 州，在 现 在 的 公 司 上 班。」

それならまだしも蘇州にいて、今の会社で働く方がいいですよ。

Wǒ shuō de duìbuduì
「我 说 的 对 不 对？」

私が言っていることは間違っていないでしょう？

Nǐ tíchū de jīné
「你 提 出 的 金 额，」 *あなたの提案する金額だったら、*

wǒ shì gēnběn méiyǒu lǐyóu qù guìgōngsī shàngbān de
「我 是 根 本 没 有 理 由 去 贵 公 司 上 班 的。」

私は御社に行く理由がまったくないんですよ。

そう言って、提示金額をもう少し上げさせようとした。大体一時間くらい話をしたところで、彼は奥の手を使ってきた。私も経験が足りへんかったんやけど、こういう給料交渉をする時は、年棒で交渉するべきや。それが、私は一ヶ月ごとの給料で交渉して

た。だから、彼はこう言い出した。

Nǐ xiànzài shuō de gōngzī shì měigeyuè suàn de
「你 现 在 说 的 工 资 是 每个月 算 的。」

君が今言ってる給料って月ごとに計算したものや。

Nàme wǒmen gōngsī shì yìnián gěi shísān ge yuè de gōng
「那么,我 们 公 司 是 一 年 给 十 三 个 月 的 工
zī
资。」

そしたら、うちの会社は一年に十三ヶ月分の給料を渡すから、

Nǐ shuō de jīné yǐ yìnián de shōurù láisuàn de huà
「你 说 的 金额 以 一 年 的 收 入 来 算 的 话,」

君が言ってる金額を一年の収入で計算してみたら、

měijīn chéngyú shíèrgeyuè chúyú shísāngeyuè
「××美 金 乘 于 十二个月 除于 十 三个 月
shì měijīn
是◇◇美 金。」

××ドル×12ヶ月÷13ヶ月 ＝ ◇◇ドル

Yígeyuè měijīna
「一个月◇◇美 金啊。」 *一ヶ月◇◇ドルや。*

しまったぁー！と思った。やられたと思った。一年十三ヶ月は少なすぎるって抵抗してみたけど、会社の決まりやし、営業には他にもうひとつボーナス制度があるから、それで考えてほしいと言われた。米系会社らしく、営業にはもうひとつ、売上実績に対して評価されたボーナスが与えられるということやった。でも、これは入社一年後から適応されて、一年目は十三ヶ月分の給料だけということやった。それで私は、給料とは別に住居費を追加するように要望して、それでお互い折り合いが付いた。給料交渉は

全部で一時間半もかかった。計算機をたたきながらの激しいバトルやった。

決まった金額がパソナにとって喜ばしい金額やったかどうかは分からへん。パソナの報酬は、一ヶ月ごとの給料に対する割合で支払われるみたいやけど、この月給がある一定金額を超えると、その割合が高くなるそうや。私の月給が、その一定金額を超えてたかどうかは分からんかった。パソナの担当者からは、笑顔で

「辛苦了(Xīnkǔle)！」　*お疲れ様！*

と言われただけやった。

給料交渉の後は、台湾人人事部長からの契約書が送られてくるのを待ってた。もし、ここで海外で働くことを考えてる人がおったら、注意してほしい。こんな風に給料交渉して双方合意に至った後でも、安心して、今の会社を退職する準備を進めたらあかん。きっちり、相手側から条件を記した書類（サイン入り契約書）を入手せん限りは次の行動に走ったらあかん。これは私も経験したことあったんやけど、入社してから契約書を渡すと言われて行ってみたら、「あなたの能力を見てから、もう一度給料を決めます。」と言って、約束した金額よりずっと低い給料を渡す会社もある。こういう会社は、例え日系であろうと、海外に出ると結構あるみたいや。だから、その会社に入社する前にきっちり書面に記して、

相手側がサインしてあるものを必ず入手せなあかん。じゃないと、後で泣きを見るのは自分やで。私は以前の経験があったから、退社日を今の会社と話する前に、相手側から契約書を送ってくるのを待った。台湾人人事部長は、

Nǐ yào kuàidiǎn hé gōngsī tán shénme shíhòu cízhí a
「你 要 快 点 和 公 司 谈 什 么 时 候 辞 职 啊!」

君、いつ辞めるんか、早く会社と話し合ってよ！

と私を急かしてきた。

Nǐ hái méiyǒu gěi wǒ hétóng
「你 还 没 有 给 我合 同,」

あなたがまだ私に契約書くれてないのに、

wǒ zěnme néng hé gōngsī tán cízhí ne
「我 怎 么 能 和 公 司 谈 辞 职 呢? 」

私はどうやって会社と退職の話をするっていうんですか？

Nǐ bù gěi wǒ hétóng de huà
「你 不 给 我合 同 的 话,」

あなたが私に契約書くれないんだったら、

wǒ bùnéng qù nǐgōngsī de
「我不 能 去你 公 司的。」

あなたの会社には行きませんよ。

私はそう言って、何度も彼に先に契約書を送ってくるように要求した。彼はしぶって、何度も私に先に退職日を決めるように言ってきた。でも、私は絶対に契約書が先やと言って譲らんかった。彼のあの様子じゃ、そのまま私が退職日を決めて、入社日まで決めてしまったら、彼は入社してから私の給料を削るつもりやって

見え見えやった。最後には、彼は私の頑固さに負けて、契約書を送ってきた。

海外で働こうと思ってる人、最後まで気は抜いたらあかんで。

4　引越し、上海へ

B 社との契約がやっと成立し、私は上海へ移ることになった。その時、本当にラッキーやったんが、夫の季も一緒に上海に行けることになったことや。

季は、実は結婚一年前に、A 社からスイス系会社に転職してた。その会社の蘇州販売事務所で勤務してたんやけど、会社に事情を話して、その会社の上海にある中国を総括する本社で勤務させてほしいと異動願いを出してみた。そしたら、その会社の社長さんがよく承知してくれたもんで、季を上海に異動させてくれた。実はその社長、ドイツ人やねんけど、奥さんが日本人やったらしい。それでちょっと同情してくれたんやろうか？

さぁ、上海に移るとなったら住む家を探さなあかん。台湾人人事部長は、

Zhǎo fángzi rúguǒ xūyào de huà
「找 房子，如果需要的话，」

家探しやけど、もし必要やったら、

gōngsī kěyǐ bāng nǐ zhǎo de
「公 司 可 以 帮 你 找 的。」

会社が代わりに探してあげてもええで。

と言ってくれた。でも、私は彼をほとんど信用してなかったから（給料交渉と契約書サインまでの彼の態度から、あまりちゃんと仕事をしてくれそうにない人やと思った)、

Xièxie Wǒ huì zìjǐ zhǎo de
「谢 谢。我 会 自 己 找 的。」

ありがとうございます。でも私、自分で探せます。

と言って、自分たちで探すことにした。

普通、中国で外国人が住む家（マンション）というのは市政府から指定されてる。その指定された外国人用マンションに住まんかったら、「居留证（jūliúzhèng）」という緑色の居留証を発行してもらうことができへん。でも、上海だけは、外国人はどこに住んでもいいことになってる。「外国人用マンション」と一般的に言われるマンションでも、外国人を対象に売っているというだけで、法律で指定されてる場所じゃない。だから、どこに住んでも居留証を発行する手続きはできる（住むことになったマンションで居留証申請用紙をもらったら、それとパスポートを持って近くの派出所「派出所（pàichūsuǒ）」に行けば、発行してもらえる)。

今の中国（都市部）は便利やでぇ。何でもインターネット「因（yīn

特网(tèwǎng)」で事が片付く。私らも、上海の家を探すのにインターネットで探した。家探し「找房子(zhǎo fángzi)」のサイト「网页(wǎngyè)」を開けて、自分が探してる物件の条件を選択してエンターを押すと、その条件に満たされる物件がずらぁ〜っと出てくる。

[インターネットでの探し方]

中国には、各地域の検索サイト（yahoo や goo のようなサイト）があるから、そこから入っていけばいい。

「房产(fángchǎn)」と書かれてあるページを開くと、大抵探したい家の条件を選択するようになってる。

「新房(xīnfáng)」: 新居

「二手房(èrshǒufáng)」: 中古物件

「租房(zūfáng)」: 賃貸

「二室一厅(èrshì yìtīng)」: 2LDK（「室(shì)」: ベッドルーム/「厅(tīng)」: リビング）

「三室一厅两卫(sānshì yìtīng liǎngwèi)」: 3LDK + 2 つのトイレ付き浴室（「卫生间(wèishēngjiān)」）

（中国の家は、普通キッチンは必ず付いてるし、ダイニングはリビングとつながってる構造が一般的やから、特にキッチンとダイニングを言うことはせぇへん。浴室は、トイレと手洗い場とシャ

ワーがセットになってる。日本のようにトイレだけ別の部屋にあることはほとんどない。）

これらの条件を選んで、あとは賃貸料などの金額と住む地域を設定すればいい。色んな不動産屋「中介公司（zhōngjiè gōngsī）」が登録してる物件の中から、条件とマッチングした物件が出てくる仕組みになってる（個人が自分の物件を貸し出すか、売り出す為に登録してるものもある）。私らはその中から数件選んで、いくつかの不動産屋とコンタクトした。そういうところに載ってる不動産屋は、個人規模の会社が多い（社員二，三人だけとか、自分一人だけでやってるとか）。だから、連絡先電話番号も携帯電話のものが多い。（日本では、物件を紹介してくれる会社を「不動産会社」っていうけど、中国語に直訳した「房地产公司（fángdìchǎn gōngsī）」っていうのは、日本でいう「建設会社」を指す。不動産を紹介してくれる会社のことは、「中介公司（zhōngjiè gōngsī）」と言う。意味的には不動産の仲介をしてくれる会社やから、中国語の方が分かりやすい。）

私らが家を探す時に注意した条件は、

1. 二人の会社に近いところ（偶然にも、私たちが出勤する会社は同じ地区にあった）

会社の通勤バス「班车（bānchē）」でも、会社から家が遠い人は二時間も乗ってるという人がおる。通勤に往復四時間はかなりきつい。

できるだけ会社から近いところがよかった。（上海は広い！）

2.　二人の会社の通勤バス「班车(bānchē)」が停車するポイントに歩いて行けること

　上海の通勤は大変。道路は渋滞だらけ、公共バスは超満員、地下鉄は東京都心部のラッシュ時と同じくらい人が多い。だから、直接歩いて「班车(bānchē)」の停車駅に行けるところがよかった。

3.　買い物に便利なこと

自由市場まで歩いて行けるところ。大型スーパーまでも比較的近いところ。

4.　交通が便利なこと

バス停に近く、バスの路線が多くて、地下鉄まで行くのに便利なところ。私らは自家用車「私车(sīchē)」を持ってなかったから、交通の便が良いところがよかった。

5.　マンションの十階前後の部屋であること

階の低い部屋は夏、蚊「蚊子(wénzi)」が多い。中国の蚊は日本のより大きくて、刺されると強烈に痒い。

6.　広さが百平米前後であること

　まぁ、こんなもんやろう。私らは、二，三の不動産屋とコンタクトを取って、一日で全部の物件を見てまわれるようスケジュールを組んだ。そして、当日朝六時頃の電車に乗って、蘇州から上

海に向かい、一件目の不動産屋と朝八時に現地で待ち合わせをした。

不動産屋も、私らが要望したスケジュールに合わせて家主「房东 fáng dōng」を呼んでくれていた。一軒目の家は全然良くなかった。お世辞にも「いい物件ですねぇ〜。」と言われへんような家を見せといて、家主は「ここがいい、あそこがいい。」と説明する。家はボロボロで、家の中全体が暗いし、なんでか知らんけどマッサージ室にマッサージ用ベッド(顔を埋める穴が開いてる細長いベッド)まであって……。どう転んでみても、この物件は全然良くない。彼も私らが受けた印象を感じ取ったみたいで、

「我 还 有 七 套 房 子。」 Wǒ háiyǒu qītào fángzi

俺、まだあと七軒家持ってるねんけど。

「你 们 要 不 要 去 看 一 下？」 Nǐmen yàobuyào qù kàn yíxià

君らちょっと見に行ってみぃへんか？

と言って、他の持ち家を紹介し始めた。私らは即断った。

「不 好 意 思，我 们 还 有 其 它 房 子 要 去 看 的。」 Bùhǎoyìsi wǒmen háiyǒu qítā fángzi yào qù kàn de

すんません。私らまだ他に見に行く家あるんですよ。

「已 经 安 排 好 了，人 家 在 等 我 们。」 Yǐjīng ānpái hǎo le rénjiā zài děng wǒmen

もう手配済みで、人も私らのこと待ってるんですよ。

そう言って別れると、彼は、日本円にしたら一千万円くらいす

るごっついええ車に乗って帰っていってしまった。中国、特に北京や上海なんかの大都会になると、金持ちっていうと桁外れに金持ちや。

だから、前にも書いたけど、「中国人は貧乏」とか、「日本人は中国人より金持ち」っていう概念はもう遅れてる。遅れすぎてる。今、ちょっと金を持ってる中国人やったら、一般の日本人よりずっと金持ちや。日本円で億単位のお金を持ってる中国人なんかゴロゴロおる。これはオーバーに言うてるんとちゃう、事実や。この家主「房东(fángdōng)」かって、上海で七軒も家を持ってて、自分の家もまだもう一軒あって、車も日本円にして一千万円やろ？　総資産っていうたら、日本円で一億円は越えてるやろうなぁ〜。

さてさて、私らは二軒目，三軒目と続けて見に行った。三軒目はすごく気に入った。三軒目を見ると、もうお昼ご飯の時間になったから、そこから歩いて十分ほどで行ける距離にあった、季のいとこ「表妹(biǎomèi)」の家に行って昼食を取った。そこで、みんなで家のことを色々相談した。午後からは、いとこのおばちゃんも一緒について見に行ってくれた。四軒目と五軒目を見た。どっちも三軒目には及ばんかった「比不上(bǐbushàng)」。あと二軒残ってたけど、三軒目よりいい物件はなさそうに思えて、あとの二軒はキャンセルした。

私らが決めたマンションは「金茂花园(Jīnmào huāyuán)」という名前で、上海で有名な「金茂大厦(Jīnmào dàshà)」という、五つ星ホテル“ハイアット「凯悦(Kǎiyuè)」”の入ったオフィスビル（1階から52階がオフィス、53～87階がホテル、88階が展望台）で働く人が住むマンションや。「金茂大厦(Jīnmào dàshà)」といえば、上海のテレビ塔「东方明珠(Dōngfāng míngzhū)」の向かい側にあって、高さ420.5メートル、中国第一位、アジア第二位、世界第三位の高さを誇る、有名なビルや。上海はよく雨が降ったり曇ったりして、雲が低くなることが多い。そうなると、このビルの半分から上は雲の中に隠れてしまうくらい高い。

そのビルに入ってる会社の社員が、分譲住宅として購入してるマンションで、私らの部屋は八階の808号室やった。その家主は、金茂大厦(Jīnmào dàshà)のある貿易会社に勤務する女性やったけど、彼女はこの部屋をすごく気に入ってた。なんでかと言うと、中国人にとってみればこの部屋はすごく縁起の良い家「很吉祥的房子(hěn jíxiáng de fángzi)」やったからや。ここは彼女が新婚生活を過ごした部屋やったし、ここに住んでる時に息子さんを出産し、その息子さんも出産時の体重が「八斤八两(bājīn bāliǎng)」（約4400g）やった。彼女は、その出産時の証明書まで見せてくれた。この“808”っていう部屋番号と「八斤八两(bājīn bāliǎng)」という数字は、中国人にとってはすごく縁起のいい数字やった。中国で「八」という数字は縁起がいいねん。

「八」がなんで縁起がええんかというと、「八(bā)」の発音は「ba」、中国人が好きな言葉「发财(fācái)」(金持ちになる、財が富む)の「发(fā)」という発音に似てるからや(もともとは広東語の発音から派生した)。つまり、「八」という数字は金持ちになるという意味を持つから、中国人にとっては縁起のいい数字ということになる。

季のいとこのおばちゃんもそれ以来、私らの家のことを「八零(bālíng)八(bā)，八零(bālíngbā)八(bā)。」(ハチゼロハチ、ハチゼロハチ)と呼んだ。

部屋の中には、まだ新婚家庭の家の中に貼られる赤い張り紙「喜帖(xǐtiē)」が、各部屋の門やドアに貼られたままやった。中国では新居「新房(xīnfáng)」には、文字や絵が切り抜きされてる赤い紙を門やドアに貼り付ける習慣がある。一般的に「喜(xǐ)」という文字を二つ重ねた字を切り抜いてあるから、「喜帖(xǐtiē)」と呼ばれる。これも嬉しかった。私らも、上海に移ってやっと新婚らしい生活ができそうやった。(なんでかというと、私らは蘇州で新居を持たんかったから、蘇州では新婚生活らしいものがなかったんや。)

借りることが決まったら、不動産屋と家主と私ら三者で契約書を交わす。そして、不動産屋には家賃一ヶ月分の半分を手数料「手续费(shǒuxùfèi)」として渡す。家主には、家賃一ヶ月分を敷金「押金(yājīn)」として、家賃三ヶ月分を賃貸料頭金「租金(zūjīn)」として渡す。それで手続きは完了や。(「押金(yājīn)」は、家を出る時に全額返してもらえる。)

そこまでを一日でやってしまった。上海を出るのは夜になってしまった。この日最悪やったんが、蘇州に帰ろうと上海駅まで行ったところ、上海駅が停電「停电（tíngdiàn）」で大変な状態になってたことや。駅の中は真っ暗で、「発券できないから、電車の中で各々切符を買うように」と放送案内されてた。中国での切符販売は、窓口の中の人がパソコンを打って発券されるけど、停電っていうことは発券システムが全部ダウンしてるから発券できへん。駅の中はものすごい人でごった返して、ムチャクチャな状態やった。それでも私らは、何とかして蘇州に帰らなあかん。人が人の上に乗るような感じで、蘇州行きの電車に何とか乗り込んだ。でもとにかくすごい人で、東京都心部のラッシュ時の状態なんか軽く超えてしまうようなひどい状態。夏やったから、暑いしムシムシしてるし、電車に乗ってから五分もせんうちに私は呼吸困難になって、顔面蒼白状態で口をパクパクさせ始めた。いくら吸っても吸っても、酸素が入ってこーへん！苦しい！ぶっ倒れた（といっても、人と人の間に挟まって、地面には倒れへんねんけど）私を、季が引きずって人を掻き分けて、何とか窓際の呼吸ができるところに連れていってくれた。そんな状態で蘇州へ帰った。蘇州の家に着いたのは、夜中十二時頃やった。

さて、引越し当日はというと、荷物は季の会社の配送車を使っ

て運んだ。ほんまはこんなこと（公私混同）「公 作 私 用 gōngzuò sīyòng」（「公 私 不 分 gōngsī bùfēn」は人をなじる意味を含む）したらあかんねんけど、季は配送者の運転手と仲が良かったし、配送車も上海で製品を積んで江蘇省のユーザーをまわった後は、製品を卸してしまって、上海への帰り道は空っぽ状態や。だから、そこに私らの荷物を入れて運んでもらうことにした。

蘇州を引き払う日（引越し当日）はあっけないもんやった。もっと感傷的になるかと思ったけど、荷物を自分たちで運んだり、家の中の後片付けを季の両親に任せなあかんとか、ゴタゴタしたことに負われて、車に乗ってさっさと上海へ向かった。ま、上海と蘇州やったら、近いからいつでも会いに来れる。あんまり“別れ”っていう感じがなかったのは事実やな。またいつでも来るで、蘇州！

すごいぞ中国人（蘇州編）

ここでは蘇州の街角で見たすごい中国人を紹介。大分中国に慣れてきたのか、ちょっとしたことではあんまり「すごい……」と思わんようになってきた。それでもやっぱり、すごいで中国人！

・ マンション建築現場に泊まる労働者

中国都市部のマンション建築現場に行ったことがある人はおるやろうか？大抵は、農村地区からの出稼ぎ労働者が工事してる。彼らは寝る場所がないから、寝泊りするのは作りかけのマンションの中。建築中のマンションやのに、ベランダから荷物が見えたり、洗濯した服を干したりしてるのが見えるのは、彼らがそこで生活してるから。日本じゃちょっと考えられへんよな…… 。

・ マンション建築現場にう〇こがそのまま…

建築中のマンションの中に入っていくと、時々すごいものを見てしまう。それは、人のう〇こや。中国のマンションは、出来上がりでも内装はされてないから、中は空っぽのコンクリートの壁と床。つまり、出稼ぎ労働者が用を足したいのに、便器がないから床にそのまま用が足されてるんや。中国人に聞くと、「どうせ内装する時取ってしまうんやからええやん。」やって。内装し終わっ

ても、もともとそこにう〇こが落ちてたと思ったら、そこで住みたくないで！やっぱり、中国人とは感覚が違うわ。（最近北京や上海では、内装まで完成させて売り出されるマンションも多く出てきた。）

・　**マンション建築現場の唾と痰**

労働者は、建築現場で平気で唾と痰を吐く。う〇こと同じ感覚なんやろう。あれを見てたら、中国の家に住みたくないと思うで。自分の部屋になるところに、唾や痰をペッ・・・ペッ・・・って何回も吐かれてみぃな。「私は唾と痰の上に住んでる。」と思うで。う〇こは取り除けても、唾と痰は染み込んでいくからな。

・　**出稼ぎ労働者の携帯電話**

そんな出稼ぎ労働者たちも、最近では携帯電話を持つようになった。どっかで落ちてたのを拾ったんか、自分で買ったんかは知らん。彼らも大変やで。一台の携帯電話を買おうとしたら、一ヶ月分の給料は吹っ飛んでいくはずやからな。その上、まだ実家に仕送りせなあかんのやろ？　それでも携帯電話は持ってる。すごいなー。

・　**共産党の悪口を言うタクシーの運ちゃん**

文革時代は、共産党の悪口なんか死ぬまで言われへんかった。でも、今は政治的行動に出んと、普通に巷で言う分には、いくら

共産党の悪口を言うても平気な時代になった。一度、蘇州でタクシーに乗ってた時、ラジオから共産党を讃える歌（中国人なら誰でも知ってて、学校で習う歌）が聴こえてきた。その途端タクシーの運ちゃんが、

「他 妈 的！」 *このくそったれが！*

から始まって、ものすごい早口で共産党の悪口を言い始めた。それも、すごいユーモアを交えて漫才師みたいに喋るから、聞いてるこっちは笑わされた。あそこまで普通に、平気で共産党の文句言えるもんなんや。

・ 金持ち中国人

今の中国人（都市部）は、ほんまにごっつい金持ちが多い。銀行でお金を下ろそうと窓口で並んでた時、私の前に二人のかわいい女の子がおった。年の頃は二十代前半くらいとちゃうやろうか。彼女らもお金を下ろしてるんやけど、驚いたことに、ものすごい札束のアメリカドルを下ろしてる。百ドル札で、高さにして五センチくらいあったんとちゃうか。私はほんまに、目ん玉が飛び出るかと思った。「なんでこんなに金持ってるねん！それもアメリカドルやで！」

中国には得体の知れん金持ちがいっぱいおる。（ほんまにいっぱいおるねんで。）

・ **スーツを着て長靴を履く**

最近では、もうこんな人はほとんど見られへんようになったけど、雨がよく降る蘇州では昔（90 年代)、スーツを着て長靴を履いてるサラリーマンをよく見かけた。スーツ着て自転車出勤するのに、靴じゃ濡れるから長靴を履いて自転車に乗るらしい。今の若者で、そんなことする中国人はおらんと思うけど、50 代くらいの人に聞いたら、「え？　普通やん」って言う人が多いんとちゃうかな。

・ **自転車・バイク用のカッパ**

蘇州はよく雨が降る。蘇州人は雨が降っても、どんなに大雨でも、自転車・バイクに乗っている（多分出勤とか、買い物とかに行くんやろう)。その時に使うカッパがすっごい合理的。形はマント型で、帽子があって、首から下は自転車・バイクの前後も全部すっぽりと覆うことができるようになってる。日本のカッパは洋服型やから、着てたら蒸れるしベタつくし、雨水もカッパの中に入ってきたりする。でも、中国の自転車・バイク用カッパは、人と乗り物が一体となって全部を覆ってしまうから、手も足も全然濡れへん。(自転車はどうしても足元がちょっと濡れてしまうけどな。）その上、そのカッパも黄色、紫、赤、青とすごいカラフル。どんよりとした雨空の日でも、行き交う自転車やバイクのカッパ

の波を見てたら、道路は明るく彩られて見える。中国ならではの光景や。

・ **共産党のお通りやで！**

共産党員や外国の要人が来る時は、突然その一帯が通行止めになる。それも、(北京国際マラソンの時と同じように) 事前通知はまったくなし。警察がいっぱい現れたなーと思ってると、突然道路封鎖。バスでも何でも通ることは許されへん。

これがまた、結構よくあるんや。生活してる人の都合や便利っていうのはまったく考えられてない。こういうのが、中国は人権がまだまだ無視されてるなぁと思う。

上海にて

転職、妊娠、帰国

2002 年 6 月 ～ 2003 年 4 月

↑建てかけの金茂大厦（97 年頃、貴重な写真だ！）

上海外灘前大通り　↓

↑東方明珠（上海テレビ塔）から見た、建てかけの金茂大厦
（今や大都会の浦東陸家嘴も、たったの数年前まではただの古い民家があるだけだった）

今の上海南京路　↓

上海交通大学内で、ここで食べた鶏肉がおいしかった

一　出　社

1　品質問題

どこの会社でも物作りをしてたら品質不良って問題はあると思う。私がＢ社に出社してみると、いきなり品質問題でバタバタした。それも入社三日目、まだ会社のことも自社製品のことも全然知らん時や。補償問題「赔　偿　问题（péicháng wèntí）」にまで発展しそうなまずいケースで、この問題を解決するのには結局一年という時間がかかったくらいやった。

入社二週間目には、大口顧客のある責任者が「上海製モデルに不具合があった。」と突然訪問してきた。なんちゅー会社やと思った。品質問題があるのはしゃーないけど、それをほったらかしにしてる気があるのには、「ほんまにこの会社いけるんかいな。」と正直心の中で思った。

この時私がしたことは、中国人と日本人の“意識の差”を埋めることやった。中国人とビジネスをやったことがある人は多かれ少なかれ経験があると思うけど、中国人と日本人の文化の違い（仕事の進め方や考え方の違いなど）から起こる誤解がビジネスに大きい影響を与えることが往々にしてある。それは、社内でもあるし、対外的にも起こり得る。

今回の場合は、B 社中国人品質保証スタッフが「一，二，三，四，五っていう順序で進むんやから、それを証明するだけでいい。」と思ったのに対して、顧客の日本人側は「それじゃ足りん。一，二，三だけじゃなくて、その一，二，三、ひとつひとつの工程の細部までを検証してほしい。もっと深く掘り下げて原因を追究して、その対策を練ってほしい。」と思った。中国人はそれを「不要で無駄な仕事。」と思い、日本人は「そこまでせんと信用できへん。そこまでして初めて本当の原因が証明される。」と思った。

私は、B 社製造部門の責任者たちに、その考え方の違いを説明した上でこう話した。(ちょっと私の本心とは違う部分があるけど、手っ取り早く彼らを説得させる為に言った言葉。)

Wǒmen juéde bù xūyào dànshì tāmen shuō yào
「我 们 觉 得 不 需 要，但 是 他 们 说 要。」

私らはいらんと思うことでも、彼らはいるって言うてるねん。

Kèhù shuō yào nà jiù yào le
「客 户 说 要，那 就 要 了。」

客がいるって言うたら、そしたらいるんや。

Kèhù shì juéduì de
「客 户 是 绝 对 的。」 *お客さんっていうのは絶対や。*

Méiyǒu kèhù wǒmen méiyǒu dìngdān
「没 有 客 户，我 们 没 有 订 单。」

お客さんがなかったら、私ら注文ないんやで。

Wǒ méi shuō nǐ shuō de búduì
「我 没 说，你 说 的 不 对。」

私は、あんたが言うのが正しくないとは言うてない。

（↑面子を汚さんように、相手の面子を立てながら言う時によく使うセリフ。）

Àn zhào kèhù yāoqiú de chéngxù chóngxīn jiǎnchá
「按 照 客户 要 求 的 程 序 重 新 检 查，」

お客さんが要望する順序でもう一回検査してみて、

jiéguǒ méiyǒu wèntí de huà nà jiù zhèyàng jiějué le
「结 果 没 有 问 题 的 话，那 就 这 样 解 决 了。」

それで問題ないんやったら、そしたらそれで解決や。

Nǐshuō wǒmén méiyǒu wèntí duì ma
「你 说，我 们 没 有 问 题，对 吗？」

あんた、自分らに問題はなかったって言うたやろ？

Nà jiù ànzhào tāmén de yāoqiú lái zuò
「那 就 按 照 他 们 的 要 求 来 做，」

そしたら、彼らの要求に従って、

gěi tāmen zhèngmíng yíxià jiù hǎo le ba
「给 他 们 证 明 一 下 就 好 了 吧。」

それを証明してあげたらええやんか。

こう言うと彼らは納得して、お客さんの要求を呑んでくれた。そして、その問題はいい方向に解決していった。

中国でビジネスをするんやったら、ただ中国語が喋れるっていうんじゃやっていかれへん。なんで中国人はそう言うんか、そう思うんか、そうやるんか。こういう“意識の差”や“文化の差”の存在を認識して、なんでその差があるんかを理解したら、どうやったらお互いに理解し合えるかが自ずとわかってくるんとちゃうやろうか。

2　部下との確執

私の B 社での役職は「Sales Manager」（営業課長）「销 售 xiāoshòu 经 理 jīnglǐ」。当時まだ二十代後半、この若さで Manager（マネージャー）をやって、ほんまに社内の人間は受け入れてくれるんやろうか、という心配はあった。

ま、年齢に限らず、外国人が社内に新しく入ってくると、中国人っていうのはすごい注意して観察してるもんや。最初の頃同僚はみんな、私を遠目で見てた。

「这 个 女 孩 子 到 底 有 多 少 能 力?」 Zhège nǚháizi dàodǐ yǒu duōshǎo nénglì

この子、どれだけ能力あるんやろか？

そう思いながら、私の仕事ぶりを観察してた。中国人の観察力はすごい。その上、能力ない外国人に対しては例え彼らに高い役職が付いてたとしても、影ではアホ呼ばわりしてる。

「他 是 很 笨 的。」 Tā shì hěn bèn de　*あいつむっちゃアホや。*

「他 是 傻 瓜 呀。」 Tā shì shǎguā ya　*あいつアホやで。*

反対に仕事ができると、

「他 是 很 能 干 的。」 Tā shì hěn nénggàn de　*あいつは仕事できるでぇ。*

と言われてる。私も蘇州 A 社でおる時は、中国人が蘇州語で日本人をあほ呼ばわりしてるのをよく聞いたもんや。その人の前で

はヘコヘコしてるのに、影ではアホアホ言うてる。中国人でも江南地区の人間は、裏表があるので有名や。（日本の“本音と建前”っていうのともまた違うんや。）

Dùzilǐ zuò wénzhāng
「肚子里 作 文 章 。」　*（直訳）腹の中で文章を作る。*

と言うて、顔ではニコニコしてても実際心の中で何を考えてるんか分からんっていう意味や。

実際私がB社でどう思われてたんかは知らんけど、私に表面から思いっきり反抗してきた部下もおった。例えば、私より年齢が上の社員とか、B社設立当初からおった古株の社員「lǎoyuángōng
老 员 工」とか……。中でもS君はすごかった。でも、私も負けへんで。別に、やり返すわけとちゃうけど、

Wǒ juéduì bù qūfú nǐmen
「我 绝 对 不屈服你们！」

絶対にあんたらには屈さへんで！

Wǒ yǒu wǒ de zuòfǎ　yào guànchè xiàqù
「我 有 我 的 做法、要 贯 彻 下去。」

私は私のやり方で貫き通すんや。

という態度をしっかりと見せてた。香港人上司の仲介やその他色々あって、段々S君との心の距離も縮まってきた。一緒に出張も行くようになったし、人生の相談を受けるようにもなった（でも彼は私より五つも年上）。

ある日、私はS君にこう言ったことを今でも覚えてる。

Nǐ shì Zhōngguórén wǒ shì Rìběnrén
「你 是 中 国 人，我 是 日 本 人。」

あんたは中国人、私は日本人や。

Nǐ néngzuò de shìhé wǒ néngzuò de shì shì bùyíyàng de
「你 能 做 的 事 和 我 能 做 的 事 是 不一 样 的。」

あんたができる事と私ができる事は違うんや。

Nǐ bùnéng zuò de shì wǒlái zuò
「你 不 能 做 的 事，我 来 做。」

あんたができへん事は私がする。

Wǒ bùnéng zuò de shì nǐlái zuò hǎo le
「我 不 能 做 的 事，你 来 做 好 了。」

私ができへん事はあんたがする。

Nǐ gōngzuòshàng yǒu shénme bù fāngbiàn de
「你 工 作 上 有 什 么 不 方 便 的,」

あんた仕事上で何か不便なことがあったら、

bǐrú hé Rìběn zǒnggōngsī liánxì
「比如，和 日 本 总 公 司 联 系,」

例えば、日本の本部と連絡して、

yàotán jiàgé wèntí jiāohuòqī de wèntí děngděng
「要 谈 价 格 问 题，交 货 期 的 问 题 等 等，」

価格問題とか納期問題を話さなあかんとか、

zhèzhǒng wèntí wǒlái bàn hǎole
「这 种 问 题我 来 办 好了。」

こんな問題は私がやったらええねん。

Rìběnrén hé Rìběnrén shuōhuà gōutōng róngyì yìxiē
「日 本 人 和日 本 人 说 话，沟 通 容 易一 些。」

日本人と日本人が話す方が、通じやすいやろ。

Jiùshìshuō nǐ zài gōngzuòshàng lìyòng wǒ hǎole
「就 是 说，你 在 工 作 上 利 用 我好了。」

つまりやな、あんたは仕事上で私を利用したらええねん。

Qǔchángbǔduǎn tóngzhōugòngjì ma
「取 长 补 短，同 舟 共 济嘛!」

お互いの利点を生かして欠点を補いあって、一緒に乗り越えていこうや。

若かっただけに、年上の部下たちと一緒に仕事をするのは難しい部分もあったけど、それを乗り越えた時に他にはないもっといい関係を築けたことは、ほんまに嬉しいことやった。

二　交　通

1 タクシーの運ちゃん

上海でおる時はよくタクシーに乗った。それで“固定利用タクシー”を持つことにした。B 社の営業まわりでタクシー使うことが多く、同じ顧客を何回も訪問するのにいつも違うタクシーやったら、毎回道順を説明せなあかんのが大変やったからや。道を知らん運ちゃんもおるから、自分でもそんなに細かく道を覚えてらへんし、出発しようと思った時にすぐタクシーが捉まるとも限らへんしな。

私が固定利用してたタクシー運ちゃんは、夏さんと陳さんの二人やった。彼ら二人は一日交代で一台のタクシーを運転してた。真面目で「很 老 实 hěn lǎoshí」気さくで「明 朗 直 爽 mínglǎng zhíshuǎng」、上海の道をよく知ってて「对 上 海 的 路 很 熟 识 duì Shànghǎi de lù hěn shúshí」、安全運転「开 车 很 安 全 kāichē hěn'ānquán」する運ちゃんはどっかにおらんやろうか……と探して見つけたのが彼ら二人やった。

上海・蘇州地域のタクシー運ちゃんは、大抵タクシー会社と契約して、タクシー会社から一台の車を請け負って「承 包 chéngbāo」商売してる。車の修理「修 车 xiūchē」やメンテ費用「维 修（保 养） wéixiū bǎoyǎng 费 用 fèiyòng」、ガソリン代「汽 油 费 qìyóufèi」は全部個人負担で、一ヶ月に

定額の管理費「guǎnlǐfèi 管 理 费」を会社に支払って、残りの稼いだ分が自分の利益になる仕組みや。私も驚いたんやけど「chūhūyìliào 出 乎意 料」、彼らは有効時間を存分に使う為に、二十四時間走りっぱなしで運転してる。だから大抵二人一組で一台のタクシーを運転してるんや。例えば、一人は朝から夕方まで運転、もう一人は夕方から明け方まで運転するとか、他には一日交代で、一人が二十四時間ずつ運転したりとか。人は交代できるけど車は一台だけやから、車はちっとも休まれへんやんか、かわいそうに……と思うのは私だけやろか？

夏さんと陳さん、二人ともええ人やった。夏さんは真面目で、いつも約束した時間をきっちり守る人やった。陳さんはよく遅刻したけど、それでもなんか憎まれへん人やった。ごっつい天然ボケやったからかもしれん。待ち合わせ時間にこーへん時、こっちも急いでるから、

「Nǐ xiànzài zài shénme dìfāng 你 现 在 在 什 么地 方？」 *今どこや？*

「Shénme dìfāng ya 什 么地 方 呀？」 *どこやねん？*

って何回も電話で早く来るようにプッシュするけど、あかん、いっつも遅刻するねん。それも、理由聞いてもその言い訳がまた、何ていうか……。

「Nǐ wèishénme chídào le 你 为 什 么 迟 到 了？」 *あんた、なんで遅れたんよ。*

Nǐ dǎ diànhuà guòlái de shíhòu wǒ hái zài Yángpǔ dà
「你 打 电 话 过 来 的 时 候，我 还 在 杨 浦 大
qiáo de shàngmiàn ne
桥 的 上 面 呢。」

君が電話してきた時、僕まだ楊浦大橋の上におったんや。

Wǒ méiyǒu wèn nǐ nǐ zài nǎli
「我 没 有 问 你，你 在 哪里。」

私は、どこにおったかを聞いてるんとちゃう。

Wǒ wènnǐ wèishénme chídào le zhège lǐyóu
「我 问 你 为 什 么 迟 到 了，这 个 理 由。」

私は、なんで遅れたんか、その理由を聞いてるねん。

Wǒ cóng Yángpǔ dàqiáo kāiguòlái kāi de hěnkuài le
「我 从 杨 浦 大 桥 开 过 来，开 得 很 快 了，」

僕、楊浦大橋から来る時、速く運転してきてんで。

dànshì méi gǎnshàng
「但 是 没 赶 上 。」

でも、間に合わんかってん。

彼はそれでちゃんとした理由になってると思ってる。そういう意味とちゃうやん。別に渋滞でもなかったんやから、間に合うように時間調整せなあかんやん。何か意味がかみ合わへん。他にも、

XiǎoChén yǔzhòngbùtóng
「小 陈 与 众 不 同 。」

陳さん、普通の人とちょっとずれてるでぇ。

と思わせるエピソードがあった。タクシーの助手席の前に、運転手の社員番号と写真が貼り付けられたカードが立てられてる。陳さんはいつも眼鏡掛けてるのに、その写真は眼鏡を掛けてなかった。運転手で眼鏡掛ける人は、写真も眼鏡を掛けとかなあかん。

もし警察見つかったら捕まってしまう。それで陳さんに、

Pāizhào de shíhòu nǐ wèishénme méi dài yǎnjìng
「拍 照 的 时 候，你 为 什 么 没 戴 眼 镜？」

なんで写真撮影の時眼鏡外したん？

って聞いたら、

À Yīnwèi búdài yǎnjìng kànqǐlái gèng niánqīng
「啊? 因 为 不 戴 眼 镜，看 起 来 更 年 轻 。」

え？ だって、その方が若く見えるやん。

やって。

Búguò bèi jǐngchá fāxiàn de huà jiù bùxíng le
「不 过，被 警 察 发 现 的 话，就 不 行 了。」

でも、警察に見つかったらあかんやんか。

Shìde hā hā hā
「是 的。哈，哈，哈,,,。」 *そうやなぁ……。ハハハ……。*

一部始終がそんな感じや。運ちゃんが“若く見えるから”っていう理由だけで、警察に捕まるようなことするか？ 生活に掛かってくる問題やで、ほんま。

陳さんと夏さんは二人共、上海沖にある小さな島「Chóngmíng dǎo 崇 明 岛」の出身で、そこから出てきて上海のタクシー運ちゃんをするようになったらしい。陳さんは上海でタクシーの運ちゃんをする前は、香港に出稼ぎに行ってたらしい。それも密入境で……。（普通、中国人は香港に入ることができへん。出張とかで中国人が香港に入るには、今でも半日くらいの手続きをして、入境証を取得してからやないと入られへん。）生活環境は劣悪やったらしい。近

くに上海っていう大都会があるのに、なんで危ない目してまでわざわざ香港に行くねん。この辺も、陳さんは普通の人とちょっと感覚がずれてる「与众不同(yǔzhòngbùtóng)」と思った。

陳さんと夏さん以外のタクシーに乗ることも多かった。その中でも一番印象に残ってる運ちゃんが、「日本に行ったことがある。」と言うて色んな話をしてきた運ちゃんや。

「小姐，你是什么地方的？」(Xiǎojiě nǐ shì shénme dìfāng de)

お嬢ちゃん、あんたどこの人？

「我是日本的。」(Wǒ shì Rìběn de) *私、日本の人やで。*

「啊，我有这个感觉。」(À wǒ yǒu zhège gǎnjué) *ああ、そんな感じしたわ。*

「为什么？」(Wèishénme) *なんで？*

「你不讲上海话。」(Nǐ bùjiǎng Shànghǎihuà) *あんた上海語喋らへんやろ。*

「而且，你穿的衣服也和这里的人不太一样。」(Érqiě nǐ chuān de yīfu yě hé zhèlǐ de rén bútài yíyàng)

それに、あんたの着てる服、この辺の人とちょっと違うからな。

「那，和这里的人不一样的话，」(Nà hé zhèlǐ de rén bùyíyàng de huà)

ほな、この辺の人と違うんやったら、

「你怎么会想到了我是从日本来的。」(nǐ zěnme huì xiǎngdào le wǒ shì cóng Rìběn lái de)

なんで私が日本から来たって思ったん？

「你的发音有一点带了日本人的口音，」(Nǐ de fāyīn yǒuyìdiǎn dàile Rìběnrén de kǒuyīn)

あんたの発音、ちょっと日本人のなまりがあったし、

érqiě wǒ qùguò Rìběn de suǒyǐ yǒu gǎnjué de
「而且我去过日本的，所以有感觉的。」

それにオレ、日本に行ったことあるから、だからなんとなく分かるんや。

À Nǐ shuō nǐ qùguò Rìběn
「啊？你说，你去过日本？」

ええ？日本に行ったことあるって言うた？

Nǐ qù le Rìběn de shénme dìfāng
「你去了日本的什么地方？」

日本のどこに行ったん？

Wǒ bù zhīdào
「我不知道。」 *知らん。*

Zěnme kěnéng nǐ bù zhīdào ne Nǐ zìjǐ qù de dì fāng ya
「怎么可能你不知道呢。你自己去的地方呀。」 *知らんはずないやん。自分が行った場所やで。*

Wǒ shì tōudù de
「我是偷渡的。」 *オレ、密航したんや。*

Zhēnde
「真的!?」 *ほんまに!?*

ほんまに驚いた。そのおっちゃんは、日本に密航したことある人やった。

Nàme nǐ xiànzài zài zhèlǐ de huà zhè yìwèizhe nǐ huí lái le
「那么，你现在在这里的话，这意味着你回来了。」

ほな、今ここにおるっていうことは、あんた帰ってきたんや。

Shìde
「是的。」 *そうや。*

Wèishénme huílái de
「为什么回来的？」 *なんで帰ってきたん？*

Yīnwéi wǒ dāibuxià le
「因为我呆不下了。」 *おられへんようになったからや。*

Wèishénme
「为 什 么？」 *なんで？*

Dàole Rìběn hòu guòle liǎng sāntiān de shíhòu
「到 了 日 本 后，过 了 两 、三 天 的 时 候，」

日本に着いて二，三日した時、

Rìběn de jǐngchá jiào wǒ qiānzì Wǒ bù zhīchí Zhōng
「日 本 的 警 察 叫 我 签 字，“我 不 支 持 中
guó gòngchǎndǎng
国 共 产 党。”」

日本の警察に“私は中国共産党を支持しません”っていうのにサインするように言われたんや。

Rúguǒ wǒ qiānlezì jiù kěyǐ liú zài Rìběn le
「如 果 我 签 了字，就 可 以 留 在 日 本 了。」

もしオレがサインしたら、日本に残ってもよかったんや。

Dànshì wǒ bùnéng qiānzì de
「但 是，我 不 能 签 字 的。」

でも、オレはサインできへんかった。

Wèishénme bùnéng ne
「为 什 么 不 能 呢？」 *なんでできへんかったん？*

Yīnwèi rúguǒ qiānlezì suīrán wǒ kěyǐ liú zài Rìběn
「因 为，如 果 签 了字，虽 然 我 可 以 留 在 日 本，」

だって、もしサインしたら、オレは日本に残れるけど、

dànshì yǐhòu yǒngyuǎn bùnéng huíguó le
「但 是 以 后 永 远 不 能 回 国 了。」

でもそれ以後は永遠に帰国することができへんのや。

Shuōde yě shì
「说 的 也 是。」 *それもそうやなぁ。*

Nǐ shìbushì cóng Fújiàn dào Rìběn qù de
「你 是 不 是 从 福 建 到 日 本 去 的？」

あんたもしかして福建から日本に行ったん？

Nǐ wèishénme zhīdào
「你 为 什 么 知 道？」 *なんで知ってんの？*

Yīnwèi zài Rìběn jīngcháng yǒu bàodào
「因 为 在 日 本 经 常 有 报 道，」

だって日本でよく報道してるもん。

Zhōngguórén yìbān dōu shì cóng Fújiàn tōudù guòlái de
「中 国 人 一 般 都 是 从 福 建 偷 渡 过 来 的。」

中国人は一般的に福建から密航してくるって。

Shìde
「是的。」 *そうや。*

Rìběn de jǐngchá yīkāishǐ bù xiāngxìn wǒ shì Shànghǎi rén
「日 本 的 警 察 一 开 始 不 相 信 我 是 上 海 人。」

日本の警察は最初、オレが上海人やって信じてくれへんかった。

Yīnwèi wǒ de zhōuwéi hěnduō dōu shì Fújiànrén
「因 为，我 的 周 围 很 多 都 是 福 建 人。」

だって、オレのまわりの人は多くが福建人やったからな。

話はずっと続いた。彼は、日本で拘束された後独房にも入って、そこの待遇がすごく良かったって言うてた。それに、与えられたご飯（白いお米）もすごくおいしかったし、各人に新しいシャツとタオルが用意されたり、寝床のシーツも新しくて、いつも新しいのと取り替えてくれて清潔やったり、ほんまに待遇がすごく良かったって言うてた。日本の独房が、当時の自分の家よりも条件が良かったらしい。

Xiànzài zhège shèhuì zhēn qíguài
「现 在 这 个 社 会 真 奇 怪 。」

今のこの社会はほんまにおかしい。

Hěnduō Zhōngguórén xiǎng dào guówài qù shēnghuó
「很 多 中 国 人 想 到 国 外 去 生 活，」

多くの中国人が海外に行って生活したいと思ってるのに、

xiànzài ne hěnduō wàiguórén xiǎng dào Zhōngguó lái
「现 在 呢，很 多 外 国 人 想 到 中 国 来
shēnghuó
生 活。」

今や、多くの外国人が中国に来て生活したいと思うんやからな。

Shì a Nǐkàn xiànzài de Zhōngguó zhème hǎo
「是啊。你看， 现 在 的 中 国 这 么 好，」

そうやで。見てみぃな、今の中国こんなに良くなってる。

Suīrán shèhuì hái yǒu hěnduō máodùn
「虽 然 社 会 还 有 很 多 矛 盾，」

社会には色んな矛盾があるけど、

dànshì měige guójiā dōu yǒu shèhuì máodùn
「但 是 每 个 国 家 都 有 社 会 矛 盾。」

どこの国にも社会に問題は抱えてるもんや。

Zhōngguó yǒu yí jùhuà
「 中 国 有 一句话，」*中国にある諺に、*

Jiājiā dōu yǒu nánniàn de jīng ma
「《家 家 都 有 难 念 的 经》嘛。」

「どこの家庭にも言うに言われへん問題を抱えてる」ってあるやん。

このタクシー運ちゃんのことは忘れられへん。

2　長距離バス

仕事で長距離バス「 chángtú bāshì 长 途 巴 士」にもよく乗った。上海から

Jiāngsūshěng Zhèjiāngshěng
江苏省や浙江省の顧客を訪問する時、いつも行きは電車、帰りは長距離バスやった。なんでかと言うと、行きは出発時間が分かってるから、予め切符の手配がしやすい。でも、帰りはいつになるか分からんから、先に切符の手配をすることができへん。それに、出張帰りに駅で切符を買うのは大変やで。押し合いへし合いして、窓口まで人ごみを掻き分けて切符を買ったり、まだ列になってて並ぶのはいいけど、一時間も並んでやっと窓口にまで辿りつくよーじゃぁ、ほんま、たまらんからな。その点、長距離バスやったら切符売り場の窓口は二，三人しか並んでないからすぐに買えるし、切符購入してから大抵一時間以内には出発できる。運がいい時やったら、すぐ出発するバスに乗れることもある。だから、帰りはいつも長距離バスや。

ほな、なんで行き帰り両方とも長距離バスを使わへんねん、って聞く人もおるやろう。電車のいいところは、到着時間がはっきりしてること（顧客訪問やったら訪問時間が決まってるから、到着時間が確定してることは大切や。バスやったら、道路状況によって到着時間が変わってくるからな）。それから、長距離バスよりずっと安全や。長距離バスは高速道路を走る。中国の高速道路は、実は交通事故がむちゃ多い。それに、バスが故障することもある。だから行きはやっぱり電車がいい。

顧客訪問が終わって上海への帰路に着く。大抵夕方出発のバスに乗るから、上海に到着するのは夜になる。バスが上海に近付いてくると、いつも車内でかかる音楽があった。大抵どの長距離バスに乗っても、夜到着する便やったらかかるやろう。それは、陈 Chén 红 Hóng という女性歌手が歌う「常 Cháng 回 huí 家 jiā 看 kàn 看 kan」という歌や。これがまた泣かせる歌やねん。題名の意味は「しげく家に帰り（両親に）会おう」。あんまりにもいい歌詞「歌词 gēcí」やと思うから、ここに紹介しとこう。故郷を遠く離れて暮らしてる者にとっては、心に響く歌詞や。

「找 Zhǎodiǎn 点 kòngxián 空 闲，找 zhǎodiǎn 点 shíjiān 时 间，」

暇を見つけて、時間を見つけて、

「领 lǐngzhe 着 háizi 孩子，常 cháng 回 huíjiā 家 kànkan 看 kan 看。」

子供を連れて、しげく家に帰ろう。

「带 Dàishàng 上 xiàoróng 笑 容，带 dàishàng 上 zhùyuàn 祝 愿，」

笑顔を浮かべて、お祝いの祈りを抱いて、

「陪 péitóng 同 àirén 爱人，常 cháng 回 huíjiā 家 kànkan 看 kan 看。」

妻（夫）と共に、しげく家に帰ろう。

「妈妈 Māma 准 zhǔnbèi 备 le 了一 yìxiē 些 lāodao 唠叨，」

お母さんが小言を準備しているよ、

Bàba zhāngluo le yìzhuō hǎofàn
「爸爸 张 罗 了一 桌 好 饭。」

お父さんがおいしい料理をテーブルいっぱいに準備してくれてるよ。

Shēnghuó de fánnǎo gēn māma shuōshuo
「 生 活 的 烦 恼 跟 妈妈 说 说 ,」

生活の悩みをお母さんに話そう、

gōngzuò de shìqíng xiàng bàba tántán
「工 作 的 事 情 向 爸爸 谈 谈。」

仕事のことをお父さんに話そう。

Cháng huíjiā kànkan huíjiā kànkan
「 常 回 家 看 看, 回 家 看 看,」

しげく家に帰ろう、家に帰ろう、

nǎpà bāng māma shuāshuā kuàizi xǐxǐ wǎn
「哪 怕 帮 妈妈 刷 刷 筷 子洗 洗 碗 ,」

お母さんを手伝ってお箸を洗い、お碗を洗おうとしても、

lǎorén bù tú érnǚ wèi jiā zuò duōdà gòngxiàn ya
「老 人 不 图 儿 女 为 家 做 多 大 贡 献 呀,」

年老いた者は子供が家の為にと頑張ることは望まないもの、

yíbèizi bùróngyì jiù tú ge tuántuán yuányuán
「一 辈 子 不 容 易 就 图 个 团 团 圆 圆 。」

一生ずっと家族団らんを望むのは難しいこと

Cháng huíjiā kànkan huíjiā kànkan
「 常 回 家 看 看, 回 家 看 看,」

しげく家に帰ろう、家に帰ろう、

nǎpà gěi māma chuíchuí hòubèi róuróu jiān
「哪 怕 给 妈妈 捶 捶 后 背 揉 揉 肩 ,」

お母さんの背中をさすって肩を揉んであげようとも、

lǎorén bù tú érnǚ wèi jiā zuò duōdà gòngxiàn ya
「老 人 不 图 儿 女 为 家 做 多 大 贡 献 呀,」

年老いた者は子供が家の為にと頑張ることは望まないもの、

「一辈子 总 操 心 就 奔 个 平 平 安安。」
yíbèizi zǒng cāoxīn jiù bēn ge píngpíng ānān

一生ずっと平安にやっていってほしいといつも気を揉むもの。

この歌はミュージック TV（画像付き音楽）でかけられるから、車内テレビでビデオも流される。子供たちの為に料理を一生懸命作ってるお父さんとお母さん。テーブルに料理が並べられたまま、今か今かとテーブル上の料理を眺めながら子供たちが到着するのを待っている両親。子供たちの写真を眺めるお父さん、孫の服を作るお母さん、実家に帰る準備をする子供たち、そんなシーンがどんどん映される。海外におって、なかなか思うように家（日本）に帰ることができへんかった私にとって、故郷や故郷にいる家族というのはすごく恋しい存在やった。そんな私が、この歌を聞きながらその映像を見てると、いつもグッ……とくるもんがあって、思わず涙がこぼれそうになってた。泣いたらあかん、と思ってその映像をいつも正視することができへんくらいやった。長距離バスはいつも私にふるさとを思い出させて、ホームシック「想 jiǎng 家 jiā」にさせた。

3　地下鉄

上海へ旅行に行ったことがある人やったら、上海の地下鉄「地铁(dìtiě)」に乗ったことがある人は多いやろう。今は、一号線・二号線・三号線・五号線の四本の地下鉄が通ってる。地下鉄って言うても、大阪の地下鉄と同じように外の高架を走ってる部分もあって、それを中国語では「轻轨(qīngguǐ)」って言う。上海市の計画では「轻轨(qīngguǐ)」も含めて全部で地下鉄を九本にまで増やす予定や。今は、四号線・八号線・九号線・一号線の延長・三号線の延長の工事を進めてる。

あれだけの大都会で、交通のインフラがまだまだ追いついてない。このまま上海の経済が発展していって、地下鉄の路線が今みたいに少なかったら、地上の交通は麻痺してしまうで、ほんま。今でももう、上海市内の交通渋滞は深刻な問題や。特に、浦西と浦東を分ける黄浦江(Huángpǔjiāng)を車で超えるのはすごくしんどい。私が上海におった頃、二本のトンネル「两条隧道(Liǎngtiáo suìdào)」と三本の橋「三座大桥(Sānzuò dàqiáo)」しかなかった。あれだけの車が毎日、浦西と浦東を行き来するのに、これだけのトンネルと橋だけやったら絶対に足りへん。浦西と浦東の連絡橋やトンネルはいっつも渋滞「堵车(dǔchē)」で、ひどかった時は「南浦大桥(Nánpǔ dàqiáo)」を超えるだけで一時間もかかったことがあった。

でも今はかなり改善されてきてる。

完成してるトンネル：

「延安 东 路隧道」,「大连路隧道」,「打浦路隧道」(貨物車専用トンネル)，「外环路隧道」，

Yán'ān dōnglù suìdào　Dàliánlù suìdào　Dǎpǔlù suìdào　Wàihuánlù suìdào

建設中のトンネル：

「上 中 路隧道」,「翔殷路隧道」,「复兴 东路隧道」

Shàngzhōnglù suìdào　Xiángyīnlù suìdào　Fùxīng dōnglù suìdào

完成してる橋：

「徐浦大桥」「南浦大桥」,「杨浦大桥」,「卢浦大桥」

Xúpǔ dàqiáo　Nánpǔ dàqiáo　Yángpǔ dàqiáo　Lúpǔ dàqiáo

これだけトンネルや橋があっても、やっぱり地下鉄で浦西と浦東を行き来するのが一番便利や。地下鉄は渋滞とは無縁やからな(地下鉄で浦西と浦東を往来することができる)。

上海の地下鉄、乗ってみたら結構おもしろい。まずは、切符を買わなあかん。切符は自動販売機「自动 售票机」と窓口「窗口」の両方があるけど、自動販売機は一元コイン「硬币」しか使われへんから、コインがない時は窓口に並ぶしかない。でも、人の多い駅やったら窓口はごっつい混雑してる。窓口に向かってわれ先に押し合いへし合いしてる。窓口までたどり着いたら、自分がどこで降りるか言う。そしたら中に座ってるおばちゃ

zìdòng shòupiào jī　chuāngkǒu　yìngbì

んが切符の値段を教えてくれる。自動販売機で購入する時は、自分で先に料金表を見て料金確認せなあかん。それから、二元・三元・四元の料金ボタンがあるから、日本と違って先に料金ボタンを押して、その後から料金分だけお金を入れる。そしたら切符が落ちてくる。

切符を手にしたら改札口を通って、ホームに下りていく。ほな、おもしろい光景を目にするんや。まず驚くのが、ホームでは誰一人として並んで待ってる人がおらんことや。一応電車が止まる位置が決まってて、ドアが開く位置も地面に標してあるんやけど、そこで縦に並んでる「排队(páiduì)」人はおらん。そしたら、人はどこでどうやって電車を待ってるんか……。

地下鉄での中国人の行動パターンが一番顕著に見られる場所は、「人民广场(Rénmín guǎngchǎng)」という駅や。ここは一号線と二号線（と建設中の八号線）の乗り換えの駅やから、人がものすごく多い。ホームでは電車を乗り換える人がわんさか待ってるし、電車が着いた後も人がいっぱい降りてくる。もし、上海に行くことがあって時間があったら、是非この「人民广场(Rénmín guǎngchǎng)」駅で電車の乗り換えを体験してみてほしい。

まず、ホームで待ってる人は、縦に並ばんと横に並んでる。どういうことかというと、電車に対して平行に人の列がある状態

や。それももちろんグチャグチャの状態や。そして電車が到着したら、横に並んでた人たちがドアを目掛けてブワァー！っと集まってくる。集まってきたら、そこで押し合いが始まる。ドアが開いたら、まだ人が降りてきてないのに、降りてくる人を押し分けて人が中に入っていく。すごいで……。ほんまにすごい状態になるねん。乗る人と降りる人が押し合いながら乗降するねんからな。

これには上海市政府も問題視したんやろう。そりゃ、上海は国際都市やからな。外国人に対する印象を良くせなあかん。だから、よく駅員が拡声器を使って怒鳴ってる。

Xiānxià hòushàng
「先 下 后 上！」

降りる人がさきぃ、乗る人はあとぉ！

それに、ホームにはスローガン「口 号（kǒuhào）」の弾幕までかかげられるようになった。

Wénmíng shìmín wénmíng xíngwéi
「文 明 市 民，文 明 行 为。」

モラルある市民、モラルある行為を！

はっきりとは覚えてないけど、確かこういう内容のスローガンやったと思う。中国は対面（対外国に対する面子）をすごく気にする国やからな。市民の行動、態度が悪いと諸外国に与える印象が悪くなって、国の面子にかかってくる。中国は特に今、2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博博覧会に向けて、都市

整備やインフラ整備、国民の教育（世界に対して恥ずかしくない国際レベルのモラルを持った国民になるよう教育する）にすごい力を入れてるからな。

駅とか路線によって客層も変わってくるんやで（旅行で上海にちょっと行っただけの人は、客層の違いが分かりにくいかもしれんけど)。例えば、一号線の真ん中あたりやったら、ショッピングに出掛けるセンスのいい若者とか、身なりが清潔な人、生活水準が普通より高い人が多い。同じ一号線でも、終点の駅まで行ったら、田舎者っぽい人が多い。「莘　庄（Xīnzhuāng）」っていう一号線の終点で降りたら、駅前で外地人が羊肉の串焼き「羊　肉　串（yángròuchuàn）」を売ってたり、色んな出店がある。それらの飲食物を買って歩きながら食べる、身なりがあまりきれくない中国人も多い。二号線やったら、生活水準が結構高い人が乗ってることが多い。二号線は浦西から浦東に行く線で、浦西は市街地しか通ってないし、浦東でも新しく作られた街しか通ってない。そういうところで暮らしたり働いたりできる人っていうのは､そこそこのレベルの人やから、二号線の地下鉄は比較的落ち着いた雰囲気がある。その二号線の「陆家嘴（Lùjiāzuǐ）」という駅だけは、テレビ塔「东　方　明　珠（Dōngfāng míngzhū）」とか世界第三位の高さを誇る「金　茂　大　厦（Jīnmào dàshà）」とかがあるから、観光スポット且つ高級オフィス街っていうことで色んな人が乗降す

る。三号線は乗客が比較的少ないんや。なんでかっていうたら、上海市街地の外れを走るルートやし、一号線や二号線に乗り換えられるんやけど、乗り換えが超めんどくさい（距離が遠い。それやったらバスで行く方がええ。）から、利用する人が少ないんやと思う。

その他にも地下鉄の路線はまだあるし、これからどんどん新しい駅も路線も作られていく。もし、時間に余裕があったら、上海地下鉄の色んな路線に乗って色んな駅で降りて、駅前を散策してみるのもおもしろいかもしれんな。路線によって、色んな上海の顔が見られるやろう。

4　車窓から見えるもの

上海の街でタクシーやバスに乗ってて、よく見た光景がある。

a)　jiāotōng shìgù
交　通　事故　*交通事故*

中国の交通事情を見てたら、

Zhèzhǒng qíngkuàng xià rúguǒ méiyǒu jiāotōng shìgù de huà jiù qíguài le
「这　种　情　况　下,如 果 没 有　交　通　事 故 的　话　就 奇　怪　了。」

これで交通事故が起きへん方がおかしいで。

と思うくらい乱れて見える。実際、中国で交通事故は多い。あれだけ車と人と自転車が多くて、人も平気で赤信号を渡ったり、横断歩道のないところで大きい道路を渡ったりしてたら、絶対事故は起きるで。

私が思うに、歩行者が交通規則を無視してどこでもかしこでも飛び出したり、道路を横切ったりするのは、精神文化がまだ物質文化に追いついてないからやと思う。つい十年くらい前までは人と自転車と馬しか通ってなかった道に、たったの数年で急に車がたくさん通るようになった。だから物質文化の急速な発展に、人の精神面での発展、発達がまだ追いついてないんやと思う。

上海でよく見るのは、車の追突事故や。特に雨の日は多い。それも雨天が続いてる日はまだいいけど、ずっと天気が良かったのに急に雨天になった時は、運転手の勘が狂うんか、交通事故が多発する。私が今まで一番多く見たのは、雨天の高架で起こった六件の玉突き事故や。タクシーで高架を走ってた時、六台とちゃうで、六件の玉突き事故を見た。二，三台の玉突きもあれば、多いのは六台も追突してた。タクシーはあんまり事故起こさへん。運転慣れてるからな。多いのは自家用車や。下手な運転手もおるからな。

b) 七不(qībù)　*七つのやってはいけないこと*

上海の市街地で車に乗ってたら、「七不(qībù)」って書かれた看板を目にすることがあると思う。

「这是什么玩意儿呀!(Zhèshì shénme wányìer ya)」　*これ、何やねん？*

と私も最初は思った。“七つの”「不可以(bùkěyǐ)」(やってはいけないこと)、何やそれ？　これは、上海市が特別に制定した“七つのやってはいけない”モラルに関する公約やねん「上海市特别制定的“七不”文明公约(Shànghǎishì tèbié zhìdìng de qībù wénmíng gōngyuē)」。

1) 「不随地吐痰(Bù suídì tùtán)」　*道端に痰を吐かない*
2) 「不乱穿马路(Bú luàn chuān mǎlù)」　*適当に道を横切らない*
3) 「不乱扔杂物(Bú luàn rēng záwù)」　*物を放り投げない*
4) 「不损坏公物(Bù sǔnhuài gōngwù)」　*公共物を破損しない*
5) 「不破坏绿化(Bú pòhuài lǜhuà)」　*緑を破壊しない*
6) 「不说粗话脏话(Bù shuō cūhuà zānghuà)」　*汚い言葉を話さない*
7) 「不在公共场所吸烟(Bú zài gōnggòng chǎngsuǒ xīyān)」

公共の場所でたばこを吸わない

日本人がこれを見た時どう思うやろう？「なんでこんなこと、わざわざ市の公約として制定せなあかんねやろー？」「こんなことする人おるん？」「これって、小学生に言うようなこととちゃう

の？」とか、色々思うやろう。

上海市がこうしてわざわざ公約を制定してるのに、それでもこれを守ってない人はいっぱいおる。痰に至っては問題が深刻や。上海のバス停でバスを待ってたら、必ず一人か二人は地面に痰を吐いてる人がおる。人が多い時は、痰を吐く人は一人や二人じゃ済まへんし、大抵痰を吐く人は、バスを待ってる間に何回も痰を吐く。上海のバス停に行くことがあったら、そこの地面、一回見てみたらいいわ。地面に痰の痕型がいっぱい残ってる。

SARS（中国では「非 典 型 肺 炎 Fēi diǎnxíng fèiyán」を略して「非 典 Fēidiǎn」と言う）が流行した時は、唾液や痰の中にある SARS 菌が空気中にばら撒かれて、それが感染源になるって言われた。それで上海市は、この公約の第一項目に関して、これに違反した者には罰金百元「罚 款 一百 元 fákuǎn yìbǎiyuán」を課す法令を出したほどや。

c) 修路 xiūlù，做 高 架 zuò gāojià，做 地铁 zuò dìtiě *工事現場*

上海は 90 年代からずっと、ここかしこ工事ばっかりやってる。道路の修理「修路 xiūlù」（道幅を広くするとか、新しく道を作るとか）とか、高架の延長工事「做 高 架 zuò gāojià」とか、地下鉄の工事「做 地铁 zuò dìtiě」とか……。浦東地区や上海市街地の近郊なんかは、マンションの建築ラッシュや。あっちこっちでマンションが建築されてる。

こんなにマンション建てて買う人はおるんやろうかと思うほどや（それがおるねん、ちょっとバブってるんかもしれんけど）。それにしても、いつまで続くんやろうな、この工事。きっと、2010年世界博覧会（中国では「世界博览会」を略して「世博会」と言う）まではずっと続くんやろうな……。

d) 洗车 xǐchē *洗車屋*

最近現れたのが、洗車屋「洗车 xǐchē」。自家用車「私车 sīchē」を購入する人が増えてきたけど、大抵がマンション住まいやから、洗車する場所がない。そこで現れたのが道端で洗車をする人たち。「洗车 xǐchē」と手書きの看板を出してあるところで、一般道路の端に駐車したらそのままそこで洗ってくれる。一台十元くらいや。

ただ、実はこの行為（洗車）は上海市政府からは禁止されてるらしい。なんでかと言うと、洗車した時に流れる洗剤が環境汚染につながるからということや。でも、その理由はあんまりピンとこーへんなー（他にももっと環境汚染するものはあると思う）。道路脇に駐車して洗車するのは、交通の妨げになるから……って言うんやったらまだ分かるけどな……。

三　レストラン

1　屋　台

この間ある雑誌に、上海の屋台「大排档(Dàpáidàng)」についてのコメントと写真が載っているのを見つけた。なんで写真に撮ったら、あんなにかっこよく写るんやろう。実際はそんなええもんとちゃう。コメントに、「汚いけど温もりのある屋台でのディナーは格別。」という内容も書かれてたけど、ちょっとちょっと……屋台で普通“ディナー”って言うか？　確かに“汚いけど”っていう表現は当たってるけど、このライター（記者）、ここの屋台で食事してへんのとちゃうやろうか。“格別”は言いすぎやろう。

私は上海に行ってから、二, 三回だけ屋台で食べたことがある。最近じゃあ、上海人でも屋台であんまり食べへんようになってきた。理由はやっぱり不衛生やから。車がひっきりなしに通ってる横で料理してるから、埃まみれの中で調理されて出てきた料理は、やっぱり衛生的とは言われへんやろう。それに、使ったお皿は樽に溜めた水の中でしか洗われへん（流し水で洗ってない）から、お皿もそんなにきれくないやろうし、食材も溜め水の中でしか洗ってないやろうから、きっちり洗えてるかどうかは疑問や（洗った後は埃がかからんように、ちゃんとサランラップ「保鲜膜(bǎoxiānmó)」

をかけてるけどな)。でも、確かに味はいい。これは否定できへんねん。

上海の屋台は日本の屋台とは全然違う。注文の仕方が違うねん。既に洗ってすぐ調理できるように準備された食材が、机の上にいくつも並んでる。値段は食材ごとにいくらか決まってて、値段を聞きながら食材を選ぶ。選んだら、どうやって調理してくれって注文できるねん。例えば、自分でほうれん草「菠菜(bōcài)」と卵「鸡蛋(jīdàn)」を選んで、

「Bōcaì hé jīdàn yìqǐ chǎo yíxià ba
菠 菜 和 鸡 蛋 一 起 炒 一 下 吧。」

ほうれん草と卵、一緒に炒めてや。

って言うたら、その通りに炒めてくれる。

「Fàng yìdiǎn jiàngyóu ba
放 一 点 酱 油 吧。」

それにちょっと醤油をたらしてぇな。

って注文したら、その通りに醤油味をつけてくれる。他にも、最初に出てきた料理を食べて味が濃いと思ったら、

「Wèidào zài dàn yìdiǎn hǎo ma Tài xián le
味 道 再 淡 一 点 , 好 吗? 太 咸 了。」

もうちょっと薄味にしてぇや。味、濃すぎるわ。

と頼むことができる。調理人「厨师(chúshī)」が料理をしてる目の前で食べるから、そんなことが言えるんや。

つまり、屋台には決まったメニューはないんや。ただ食材が並

んでるだけで、そこにある食材を使ってどう調理してほしいかを客が注文するんや。だから屋台の調理人はすごいなぁ「厉害(lìhài)」と思う。あるだけの食材を使っての料理やから、制限はあるにしても、それにしても客から何と何の食材を使ってどのように調理してくれって注文された通りに作らなあかんねんで。大変やで。

屋台を営む人は、大抵が外地人や。時々客が、出てきた料理を一口食べて、

「师傅，你 是 山 东 的吧？」(Shīfu nǐ shì Shāndōng de ba)

兄ちゃん、あんた山東省の人やろ？

とか言うて、調理人の出身地を聞く人もおる。中国は地域によって料理の味に特徴があるから、屋台で食べた料理の味で、その調理人の出身地を推測したりできるんや。

屋台はほんまに衛生的とちゃうから、あんまりお勧めはできへんねんけど、胃腸が丈夫な人とか、冒険家の人には試してもらってもええで。ま、普通のレストランにはない雰囲気を楽しめるのは確かや。

2　咸亨酒店

上海には、ありとあらゆる郷土料理や外国料理のレストランがいっぱいある。その中でもよく目に付いたのは、紹興料理のレストラン「绍兴菜的餐厅(Shàoxīngcài de cāntīng)」や。私が気にかけてたからなんか、それともほんまに比較的多いんかは分からんけど、上海で紹興料理のレストランはよく見かけた。

中国人が「咸亨酒店(Xián hēng jiǔ diàn)」と聞いて、まず思い出すのが魯迅「鲁迅(Lǔxùn)」の書いた「孔乙己(Kǒngyǐjǐ)」という小説「小说(xiǎoshuō)」やろう。この小説は、学校の教科書の中に必ず出てくるから、中国人やったら誰でも知ってる。どんな話かというと……。

これは、“封建科举制度の腐朽と病的なまでの社会の冷酷さに対する批判”「批判封建科举制度的腐朽和病态社会的冷酷(Pīpàn fēngjiàn kējǔ zhìdù de fǔxiǔ hé bìngtài shèhuì de lěngkù)」を、魯迅が小説にしたものや。鲁镇(Lǔzhèn)という架空の村「镇(Zhèn)」が舞台として描かれてるけど、その舞台は魯迅の“父親のふるさと(绍兴城内都昌坊口(Shàoxīng chéngnèi Dūchāngfángkǒu))と母親のふるさと(绍兴东皋乡安桥头(Shàoxīng Dōnggāoxiāng Ānqiáotóu))の混合体”「父亲故乡(绍兴城内都昌坊口)和母亲故乡(绍兴东皋乡安桥头)的混合体(fùqīn gùxiāng Shàoxīng chéngnèi Dūchāngfángkǒu hé mǔqīn gùxiāng Shàoxīng Dōnggāoxiāng Ānqiáotóu de hùnhétǐ)」とちゃうかと言われてる。

主人公は、科挙を目指し毎年科挙を受験しながらも受からない「Kǒngyǐjǐ 孔乙己」という名前の男性で、実在した人物やと魯迅は告白してる（モデルとなった人の苗字は「Mèng 孟」という）。ほな、この「Kǒngyǐjǐ 孔乙己」という人はどんな人やったんかと言うと、（以下、本文より）

Tā shēncái hěn gāodà qīngbái liǎnsè
「他 身 材 很 高大; 青 白 脸 色,」

背は大変高く、青白い顔をして、

zhòuwénjiān shícháng jiā xiē shānghén
「皱 纹 间 时 常 夹 些 伤 痕; 」

皺の間によく傷痕がある

yíbù luànpéngpéng de huābái de húzi
「一部 乱 蓬 蓬 的花 白 的胡子。」

ごましおのあごひげをぼうぼうに生やしている。

Chuānde suīrán shì chángshān
「穿 的虽 然 是 长 衫,」

着ている服は“长衫”(知識分子）には違いないが、

kěshì yòuzāng yòupò
「可 是 又 脏 又破,」 *汚れてボロボロになり、*

sìhū shíduōnián méiyǒu bǔ yě méiyǒu xǐ
「似乎 十 多 年 没 有 补, 也 没 有 洗。」

まるで十何年もずっと縫い合わせたり洗ったりしていないようだ。

Kǒngyǐjǐ
孔乙己は、封建科挙制度が残した（作り出した）下層知識分子で、一生悩み苦しみ落ちぶれ、進学もできず、また生活していくこともできへん人やった「Kǒngyǐjǐ shì yíge shēnshòu fēng
孔乙己 是 一个 深 受 封
jiàn kējǔ zhìdù cánhài de xiàcéng zhīshí fènzǐ yìshēng
建 科举 制 度 残 害 的 下 层 知 识 分子, 一 生

qióngchóu liáodǎo jì wèinéng jìnxué yòu búhuì yíngshēng
穷 愁 潦 倒,既 未 能 进 学,又 不 会 营 生」。

Kǒngyǐjǐ Xiánhēng jiǔdiàn
孔 乙己はよく「咸 亨 酒 店」というお店に行って（今の中国で「酒 店 jiǔdiàn」というと「ホテル」の意味やけど、ここではほんまにお酒を飲むお店のこと）、紹興酒「绍 兴 酒 shàoxīngjiǔ」（一般的には「黄 酒 huángjiǔ」と言う）と「茴 香 豆 huíxiāngdòu」というつまみ（ウイキョウマメ）を注文する。でも、いつもお金が払えんくって、お店の黒板に“つけ”を書いといてもらう。そしてお店に行く度に、“长 衫 chángshān”や“短 衣 duǎnyī”の人々から嘲笑される。（当時中国では、着てる服でその人物の階層が分かった。物語の中では、服の種類を述べることで人物の階層を区別してる。）。

chángshān
长 衫：長袖の服を着た人、学者や上流階級の人。「孔 乙己 kǒngyǐjǐ」もこの服を着てるんやけど、もうボロボロになってる。彼は学者の類になる。

duǎnyī
短 衣：短い袖の服を着た人、労働者たち

（以下、本文より）

「“孔 乙己，你 脸 上 又 添 上 新 伤 疤了!” Kǒngyǐjǐ nǐ liǎnshàng yòu tiānshàng xīnshāngbā le」

“孔乙己，おまえ顔にまた新しい傷作ったな。”

「他 不 回答， 对 柜 里 说，」 Tā bù huídá duì guìlǐ shuō

彼は答えずに、勘定台に向かって言った。

「“温 两 碗 酒，要 一 碟 茴 香 豆。”」 Wēn liǎngwǎnjiǔ yào yìdié huíxiāngdòu

“酒二本つけてくれ、それと茴香豆を一皿。”

Biàn páichū jiǔwén dàqián
「便 排 出 九 文 大 钱 。」 *そうして九文の大金を出した。*

Tāmen yòu gùyì de gāoshēng rǎngdào
「他 们 又 故意 的 高 声 嚷 道,」

彼らはまたわざと大声で言い放った。

Nǐ yídìng yòu tōu le rénjiā de dōngxi le
「“你 一 定 又 偷 了 人 家 的 东 西 了！”」

“おまえきっとまた人の家のもの盗んだんだろう！”

Kǒngyǐjǐ zhēng dàyǎnjīng shuō
「孔 乙己 睁 大眼 睛 说 ,」

孔乙己は目を大きく見張って言った。

Nǐ zěnme zhèyàng píngkōng wūrén qīngbái
「“你 怎 么 这 样 凭 空 污 人 清 白……”」

“君、どうしてそんな根拠もなく潔白な人を陥れるようなことを……”

Shénme qīngbái
「“什 么 清 白？」 *“何が潔白だって？*

Wǒ qiántiān qīnyǎn jiàn nǐ tōule Héjiā de shū
「我 前 天 亲 眼 见 你 偷 了何 家 的 书,」

俺はおとついこの目で、おまえが何さんちの本を盗むのを見たんだ。

diàozhedǎ
「吊 着打。”」 *それで殴られてたじゃないか。“*

Kǒngyǐjǐ biàn zhànghóngle liǎn
「孔 乙己 便 涨 红 了 脸 ,」 *孔乙己は顔を紅潮させて、*

é shàng de qīngjīn tiáotiáo zhànchū zhēngbiàndào
「额 上 的 青 筋 条 条 绽 出， 争 辩 道,」

額の上には青筋を何本も立てて、論争のたまった。

Qièshū bùnéng suàn tōu qièshū
「“窃 书 不 能 算 偷……窃 书！……」

”本を盗むって盗むことにはならん……本を盗む……“

Dúshūrén de shì néngsuàn tōu me
「读书 人 的 事，能 算 偷 么？”」

“勉学者のすること、盗むといえるのか？”

Jiēlián biàn shì nándǒng de huà
「接 连 便 是 难 懂 的 话，」

そう続けて口にしたのは分かりにくい言葉だった。

Kǒngyǐjǐ
孔 乙己は学者やけど、勉強しすぎて一般人が普通使わへんような言葉を使う「Tā duìrén shuōhuà zǒngshì mǎnkǒu zhīhūzhěyě
他 对 人 说 话，总 是 满 口 之乎者也，
jiàorén bàndǒng bùdǒng de
教 人 半 懂 不 懂 的。*(人に語りかける言葉は“之乎者也”[古典文語調]ばかりで、分かるような分からないような)*」。それに、“生活はどんどん貧窮していって、実際乞食をして生活せなあかんくらいやった”「Yúshì yùguò yùqióng nòngdào jiāngyào tǎo
于 是 愈 过 愈 穷，弄 到 将 要 讨
fàn le
饭 了。」。“duǎnyī
短 衣”の人たちは、労働者やから普通は“chángshān
长 衫”の人より下の階級なんやけど、“chángshān
长 衫”のKǒngyǐjǐ
孔 乙己に対しては、ここぞとばかりに、腹いせでいじめてた。Kǒngyǐjǐ
孔 乙己は、子供にまで馬鹿にされてた。

最後は悲惨や。段々お店にもこーへんようになってきて、最後に見たのがある年の初冬。その時の彼の様子は、

（以下、本文より）

Tā liǎnshàng hēi érqiě shòu yǐjīng bùchéng yàngzi
「他 脸 上 黑 而 且 瘦，已 经 不 成 样 子；」

その顔は黒ずみ、痩せて、見る影もなかった。

Chuān yíjiàn pò jiá'ǎo pánzhe liǎngtuǐ
「穿 一件 破夹 袄，盘着 两 腿，」

破れた一枚の長いあわせ上着を着て、あぐらをかいて（地面に座ってる。

xiàmiàn diàn yíge púbāo yòng cǎoshéng zài jiānshàng guàzhù
「下面 垫 一个蒲包，用 草 绳 在 肩 上 挂住。」

下にはガマ編みかますを敷き、草縄で肩から（それを）掛けている。

つまり、それはどういう状態やったんかというと、足の骨が折れて、肩からあぐらをかいた足を吊り下げてる状態や（日本人が腕の骨を折った時に、首から手を吊り下げるように、肩から足を吊り下げてる状態)。彼がただ何冊かの本を手にしただけで、挙人（科挙の試験に合格した人）に足の骨が折れるまで殴られたという設定や。そして、歩く時は手ではうような形になる。この時も孔乙己（Kǒngyǐjǐ）は、「おまえ、また人の家のもの盗んだんだろう。」と言って嘲笑されるだけで、同情の一言も声を掛けてくれる人はおらん。ひどい話や。そしてお酒を一杯だけ飲んだら、この時だけは現金で支払いを済ませて帰っていった（孔乙己（Kǒngyǐjǐ）は自分の中に「これからはもうここに来ることはないやろう。」という予感があったんかもしれん。それで、最後だけはきっちりとお金を払っとこうと思ったんかもしれん)。それ以来、孔乙己の姿は見られなくなっ

たけど、お店の黒板にはまだ彼の“つけ”が残ってた。番頭「掌柜 zhǎng guì」は季節が変わるごとに、

「孔乙己还欠十九个钱呢！」 Kǒngyǐjǐ hái qiàn shíjiǔ ge qián ne

孔乙己はまだ十九銭借りがあるぞ！

と言うんやけど、それから一年たっても現れへんかった。そして番頭も仕舞いには何も言わんようになってしまった。魯迅は最後、この言葉でこの小説を締めくくってる。

「大约孔乙己的确死了。」 Dàyuē Kǒngyǐjǐ díquè sǐ le

孔乙己はきっと死んでしまったのだろう。

ほんまに悲惨な話や。

上海浦西のレストラン街を歩いてたら、時々「咸亨酒店 Xiánhēng jiǔ diàn」という名のレストランを目にする（チェーン店「连锁店 liánsuǒ diàn」なのかは知らんけど何軒もある）。これを見たら、誰でも「孔乙己 kǒngyǐjǐ」の小説に出てくる同じ名前のお店を思い出すはずや。そして、そのレストランの料理は「孔乙己 Kǒngyǐjǐ」の舞台になった紹興の料理「绍兴菜 shàoxīngcài」に間違いない。

まず、紹興料理のお店に入ったら注文してみたいのが、「绍兴酒 shào xīngjiǔ」と「茴香豆 huíxiāngdòu」やろう。紹興料理の専門店で飲む「绍兴酒 shào xīngjiǔ」は格別にうまい。さすがに発祥地のものだけあって、他

の店で普通に売ってるのとは違う（「shàoxīngjiǔ 绍 兴 酒」は、本当は少し温めて飲む方がおいしいらしい）。「huíxiāngdòu 茴 香 豆」もなかなかいける。お酒のつまみにはバッチリや。「shàoxīngjiǔ 绍 兴 酒」によく合う。

さて、紹興料理といえば、yāncài 腌 菜（塩漬け料理）・chòucài 臭 菜（臭い料理）・méicài 霉 菜（かびのある料理）という三つの特徴が有名や。

1) jiàngcài yāncài 酱 菜 腌 菜（味噌漬け・塩漬け料理）

「jiàngyā 酱 鸭」（味噌漬けの鴨肉）が有名。鴨を丸ごと天日干しして（各家庭では、毎年旧暦の十二月に軒下などで天日干しをする慣わし）、味噌漬けか塩漬けにする。肉はとろけるように柔らかくて、味は濃厚。他にも、魚や鶏肉などでもできる。

2) chòucài 臭 菜（臭い料理）

「chòudòufu 臭 豆 腐」が有名。名前の通り臭い豆腐。見た目は腐ってるようで、表面に黒い斑点が見える。私はあんまりにおいは気にならへんねんけど、独特のにおいがあって、日本人でこのにおいが嫌いな人は結構多い。道端で紹興料理の店の前を通ると、「chòudòufu 臭 豆 腐」を調理するにおいがただよってくる。好きな人にはたまらんにおいやし、嫌いな人にはウッ……とくるにおいやろう。

「chòudòufu 臭 豆 腐」は、日本の冷奴みたいに生でそのまま食べること

はせぇへん。油で揚げて食べるのが一般的で、「炸 臭 豆腐 zhá chòudòufu」と呼ばれる。大抵は、辛いたれにつけて食べる。ちなみに、これは私の大好物。他にも「臭 冬 瓜 chòudōngguā」などがある。

3) 霉菜 méicài（カビ料理）

紹興料理は「霉 鲜 风 味 méi xiān fēng wèi」（カビ風味）で有名や。「霉干菜 méigāncài」という、カラシ菜の葉や花で作った食材が有名や。でも、実際にカビが生えてるわけじゃない。加工方法は、よく洗った後何日間も天日干しし、風通しの良い日陰で数日間風に当て、積み重ねて置く。積み重ねたカラシ菜の上下位置を何度も換えているうちに、黄緑色に変色してくるから、黄緑色になったらそれを塩漬けにする。

塩漬けにした後、また天日干しをすると、表面に白い粉が吹いているように見える。それがカビ「霉 méi」みたいに見えて、乾いた「干的 gānde」野菜「菜 cài」やから「霉干菜 méigāncài」と言う。

これを使った料理で、「霉干菜焖肉 méigāncài mènròu」というのがすごく有名でおいしい。

1972 年、アメリカのニクソン大統領が訪中した時に杭州を訪れ、当時首相だった周恩来「周 恩 来 Zhōu'Ēnlái」と共に、彼の郷土料理である「霉干菜焖肉 méigāncài mēnròu」を食べたらしい。ニクソンは、何度も

繰り返し「おいしい、おいしい。」と言ったそうや。

他に有名な食材に、「霉 千 张(méiqiānzhāng)」(カビゆば),「霉 毛 豆(méimáodòu)」(カビもやし),「霉 豆腐(méidòufu)」(カビ豆腐) などがある。これらも、どれもカビが生えているわけじゃない。「霉 干 菜(méigāncài)」と同様に、一旦乾燥させて塩漬けにし、また乾燥させてからそれを調理してるんやと思う。出来上がった料理の味は……そうやなぁ、中国料理にしてはあっさり味で、日本人好みとちゃうかなぁ。

紹興料理を食べに行く時、これらの知識があって食べに行ったらきっと一味も二味も変わってくるんとちゃうやろうか。特に、孔 乙己(Kǒngyǐjǐ)の物語を知ってるのと知らんのとでは、楽しみ方も違ってくるやろう。

3　新天地

最近では、この「新 天 地(Xīntiāndì)」は外されへん上海の観光スポットになってしまった。ガイドブックにも載ってるかもしれんけど一応知らん人の為に、どんなところかの説明を書く。

「新 天 地(Xīntiāndì)」は、簡単に言えば上海の昔の住居を改造して造ら

れたレストラン街や。紹介文には、「它是以上海近代建筑的标志一石库门的建筑旧区为基础，改造成集国际水平的餐饮、购物、演艺等功能的时尚、休闲文化娱乐中心。(*上海近代建築のシンボルである“石庫門”の旧い建築を基礎に、国際レベルのレストランやショッピング、芸能等の功能を持つ、オシャレな文化娯楽センターの集合体に改造されたところ*)」とある。日本で言うたら、神戸や横浜，北海道などにレンガ造りの昔ながらの建物をレストラン街に改造してるところがあると思う。あれによく似た感じや。でも、私の個人的意見を言わせてもらうと、上海の新天地は、日本のそれら以上に趣味がいい！

「石库门」っていうのは、近代上海の一般市民の共同住宅やったところで、今世紀上海の四大シンボルのうちのひとつやと言われてる。(上海の四大シンボル「四大象征」：外滩の外国風建築物群，繁華街である南京路，庭園風景を残す豫园，1920-30 年頃には上海市民の 60%が住んでいたと言われる石库门。）今でも上海市内の路地を歩いてると、「石库门」をよく見かける。実際、まだそこには人が住んでる。

北京といえば「四合院」。北京の路地「胡同」にある、平屋建て庭付きの共同住宅や。上海といえば「石库门」。アパート型

集合住宅の昔ながらの住居や。北京でも上海でも、今ではどんどんそれらの昔の住宅が壊されていってる。それを見て、外部の人間が勝手にノスタルジックを感じて、

Hěn kěxī de Xīwàng zhèsuǒ jiùde jiànzhùwù dōu bǎocún xiàqù
「很可惜的。希望这所旧的建筑物都保存下去。」

残念やなぁ。この昔ながらの建物を保存してほしいなぁ……。

と思ってしまうのは、私だけじゃないと思う。

そんな思いをビジネスにつなげて成功したのが新天地や。2001年末頃に上海市街地の中心に位置する石库门(shíkùmén)を改造して、レストラン街を中心とする娯楽センターとしてオープンしたんや。

上海の路地を歩いてると、今でも石库门(shíkùmén)以外に昔風のオシャレな建物に出会うことが多い（現存する石库门(shíkùmén)の中には、とても“オシャレ”とは思わへんくらいボロボロのところもあるけどな)。街並みとしてはすごい情緒があって、そこでじっと立ち止まって見てしまったりする。最近は、そんな昔風の建物（特に住宅）をちょっとアレンジするか改造して、喫茶店やレストランにする家が増えてきた。

新天地は、そんな中の代表的な存在やろう。今まで中国は、何でも新しいものばっかり追い求めて、旧いものに対して全然目を向けてこーへんかった「喜新厌旧(xǐxīn yànjiù)（新しいものを好み、古い

ものを嫌う)」。旧いものはどんどん壊して、捨てていってた。それが、嬉しいことやなぁと思う。最近は、旧いものの良さを残しながら、新しい感性をそのなかに融合させていって「推陈出新(tuīchén chūxīn)(古いものの基礎の上に新しいものを創造する)」、またそれをビジネスにつなげていってる。

新天地に入っていったら、そこはもう中国じゃない感じがする。どっか、ヨーロッパの国の狭い路地に迷い込んだかのように思われる。お店もオシャレなところが多くて、レストランでも高級感を漂わせるようなところばっかりや。お値段の方も、その辺の市内のお店よりはちょっと張る。私も、新天地にある全部のレストランに入ったわけじゃないから何とも言われへんけど、雰囲気代とお食事代(味もなかなかいける)と思えばそんなに高くもない。

ま、石库门(shíkùmén)を見たいと思って行くと、ちょっとほんまの石库门(shíkùmén)とは違う(きれすぎる)から、ほとんど参考にはならんと思うけど、「アジアの中のヨーロッパ的な雰囲気、ロマンチックな雰囲気を感じたいなぁ。」と思う人は是非行ってみてはどうやろうか?

4　台湾のチェーン店

中国に行くまで、中国と台湾って仲悪くて全然交流ないと思ってた。でも実際、文化面・経済面で中国と台湾の結びつきはものすごく強い。それに、中国は台湾のことをもちろん“国家”とは認めてなくて“台湾省”と呼んでるくらいやから、政治的には仲が悪くても、その他は同じ中華圏として密接な関係を持ってるんや。

台湾の食文化で中国大陸に一番浸透してるのは“喫茶店”やと思う。もともと中国にはお茶文化があって（中国茶道もあるくらい)、茶館「茶馆(cháguǎn)」っていうのも存在する。今でも街中には色んな「茶馆(cháguǎn)」があって、古典的な雰囲気を大切にしながら、現代風にオシャレにアレンジした店もあれば、ひなびて飾りっ気がなくて、ただおばちゃんがボンッ……と机にお茶を置いていくだけの茶館もある。

もともとは唐の時代に既に「茶室(cháshì)」というものがあったらく、それが発展したのが今の「茶馆(cháguǎn)」と呼ばれるところや。文革以前は中国人もよく「茶馆(cháguǎn)」を利用してたみたいやけど、文革で中国にあった色んな文化が破壊されて、文革以後 70 年代から 90 年代にかけて中国人は「茶馆(cháguǎn)」っていう空間に行く文化を失っ

てしまった（習慣が薄れてしまった）。それに、貧乏で「茶馆 cháguǎn」に行く経済的余裕がなかったというのもあるかもしれん。

でも、この文化は台湾人にはちゃんと受け継がれてみたいや。台湾では茶館「茶馆 cháguǎn」から喫茶店「咖啡店 kāfēidiàn」に発展して、今では色んな台湾喫茶店のチェーン店「连锁店 Liánsuǒdiàn」がある（もちろん「茶馆 cháguǎn」もある。「咖啡店 kāfēidiàn」と「茶馆 cháguǎn」の違いは、基本的にコーヒーや紅茶を飲むところが「咖啡店 kāfēidiàn」、中国茶を飲むところが「茶馆 cháguǎn」。）代表的な台湾系喫茶店は、

上岛咖啡店 Shàngdǎo kāfēidiàn (U.B.C Coffee)

1968 年台湾宝島でオープンされた喫茶店。1997 年に中国大陸へ進出。どんどんチェーン店を増やして、今では中国全土にものすごい数の店舗を持つ。（日本の UCC コーヒーとは違う。）

名典咖啡语茶 Míngdiǎn kāfēi yǔchá

1984 年台湾で一号店がオープン、1995 年に大陸へ進出。

老树咖啡厅 Lǎoshù kāfēitīng

1975 年台湾台北で一号店がオープン。

台湾の喫茶店の特徴は、店内にブランコ「秋千 qiūqiān」があることやろう（お店によってないところもあるけど）。ブランコに座ってお茶を飲むんや。デートしてる若者にはロマンチックな光景「很浪漫的风景 Hěn làngmàn de fēngjǐng」に映ることやろう。私もこれはいいと思っ

て座ったことがあった。でも、見た目はよくてもやっぱり実用的とちゃうねん。なんでかというと、お茶を飲んでるのに座席がぶらぶらするのはなんか落ち着かへんし、ブランコの下に白いジャリ石が敷かれてて、そのジャリの白い粉が靴について汚れるんや。それ以来、ブランコには座らんようにした。見てるだけの方がええ。

上岛咖啡店（Shàngdǎo kāfēidiàn）なんかは、97年に進出してきたばかりやのにすごい勢いで広がっていって、その五年後私が上海におる頃には、上海市内だけでもあちこちにお店ができてた。喫茶店や茶館を利用する習慣があまりなかった中国人にどんどん受け入れられて（経済的にもかなり裕福になってきたし）、今では日本人以上に喫茶店を利用する人が出てきたように思う。もともとお茶文化を持つ中国人やから、お茶を飲みながら友人と喋ったり、トランプをしたり、ただただ時間をつぶすのが好きなんやろうな（茶館でトランプしてる中国人は多い、中国人はトランプ好き）。そういう昔ながらの習慣が現代風に形を変えて、喫茶店でコーヒーやお茶を飲むようになってきたんや。文化復興か・・・。ええことや。

喫茶店の他に、上海市内でチェーン店をたくさん開いてる台湾の店がある。それは「永和大王（Yǒnghé dàwáng）」というファーストフードや。今、中国十一都市、七十店舗以上のチェーン店を展開中、上海市

内だけで三十二店舗もある。ここは私のお勧めのお店や。上海でいい店、豪華な店、オシャレな店、外国料理のお店、素敵なバーなんかに行こうと思ったらいくらでもある。でも反対に、庶民的なお店って日本人にはなかなか入る機会がないし、だからこそ興味をそそられるもんとちゃうやろうか。

この「永和大王（Yǒnghé dàwáng）」っていうお店は、庶民的で且つ清潔で、ファミリーレストランとファーストフードを足して割ったような便利さがある。営業時間も二十四時間っていう、夜中も起きて活動してる人「夜猫子（Yèmāozi）」とか朝早く出勤する人たちにとってはありがたいサービスもある。カウンターで注文して先にお金を払って、番号札を持って席で待ってると料理が運ばれてくる。待ち時間は短い。中国で、ファーストフード店も含めて、こういうお店を「快餐厅（Kuàicāntīng）」と呼ぶ。

「永和大王（Yǒnghé dàwáng）」はおもしろいことに、台湾人が作ったお店やけど台湾にお店はない。一号店は上海にできた。お店が作られるようになった背景がこう紹介されてる。

Zài yījiǔjiǔwǔ niánjiān dòujiāng yóutiáo zhèlèi chuántǒng zǎodiǎn, zài dàShànghǎi bìng fēixīnxiān wányì dàn Táiwān de Yǒnghé jítuán què yǐ zhèliǎngyàng bùqǐyǎn de zǎocān shípǐn wéi jīchǔ, zài Shànghǎitān jiànlìqǐ zhōngshì

在１９９５年间，豆浆、油条这类传统早点，在大上海并非新鲜玩意，但台湾的永和集团却以这两样不起眼的早餐食品为基础，在上海滩建立起中式

kuàicān wángguó
快 餐 王 国。

（1995年、豆乳や油条という油で揚げたパンのようなもの、こういった類の伝統的朝食は、この大上海では特に真新しいものではなかった。しかし、台湾の永和集団は逆にこの二つの目にも留まらないような朝食の食品を基盤にして、上海で中華式ファーストフード王国を立ち上げた。）

Lìngrén jīngqí de shì Yǒnghé jítuán zhíxíng fùzǒngcái Lǐ
令 人 惊 奇 的 是， 永 和 集 团 执 行 副 总 裁 李
Yùlín huíyì dāngshí kāidiàn mài dòujiāng yóutiáo wánquán
玉 麟 回 忆 当 时 开 店 卖 豆 浆 、油 条 完 全
shì Wúxīn chāliǔ。 Wǒ gāng dào Shànghǎi bùjiǔ chī zǎo
是“无 心 插 柳”：“我 刚 到 上 海 不 久， 吃 早
cānshí fāxiàn Shànghǎi de dòujiāng yóutiáo dōu zài línshí
餐 时 发 现 上 海 的 豆 浆 、油 条，都 在 临 时
dājiàn de xiǎozhàngpénglǐ mài érqiě wèidào bùjí Táiwān de
搭 建 的 小 帐 篷 里 卖,而 且 味 道 不 及 台 湾 的
hǎochī Wǒ biàn xiǎng rúguǒ kāijiā mài dòujiāng hé yóutiáo
好 吃。我 便 想 ,如 果 开 家 卖 豆 浆 和 油 条
de zǎocāndiàn yídìng yǒurén lái guānggù zhìshǎo zài Shàng
的 早 餐 店，一 定 有 人 来 光 顾，至 少 在 上
hǎi de Táiwānrén huì lái
海 的 台 湾 人 会 来。”

（驚いたことに、永和集団執行副総裁の李玉麟（LǐYùlín）：女性。目の大きな美人やというもっぱらの噂）は開店当時を思い出し、豆乳と油条を売ったのはまったくの“何も考えず無心でしたこと”と言っている。“私が上海に来て間もない頃、朝食を食べる時気付いたのは、上海の豆乳と油条はどれもその場で適当に作られて、小さなテントの中で売られているだけで、その上味はまったく台湾の

ものに及ばなかった。それで私が思いついたことに、もし豆乳と油条を売る朝食レストランを開いたら、きっとそれを気に入る人がいる､少なくとも上海にいる台湾人はきっと来るに違いない。”)

Yúshì LǐYùLín yāoqǐng tā zài měiguó dǎmájiàng péngyǒu Lín
于是,李玉麟 邀 请 她 在 美 国 打麻 将 朋 友 林
Yóu'ào yìqǐ mài dòujiāng Qǐchū diànpù hěn xiǎo zhǐyǒu yī
猷 澳一起 卖 豆 浆 。起初，店 铺 很 小，只 有 一
bǎi èrshí píngfāngmǐ tóuzī jǐn wǔwàn měijīn dàn diànmíng
百 二 十 平 方 米,投 资 仅 五 万 美 金，但 店 名
què hěn xiǎngliàng ——“Yǒnghé dàwáng”, Yǒu rú léishēng
却 很 响 亮 ——“ 永 和 大 王”，有 如 雷 声
guàněr Yǒnghéxiàn de dòujiāng zài Táiwān jiāyùhùxiǎo LǐYù
贯 耳。永 和 县 的豆 浆 在 台 湾 家喻户 晓，李玉
lín jièyòng Yǒnghé zhège shēnzhāopái wèi zìjǐ de shēngyì
麟 借 用 永 和 这 个 生 招 牌 为自己的 生 意
zuò guǎnggào
作 广 告。

（こうして、李玉麟はアメリカのマージャン友達である林猷澳(男性。現総裁)を誘って一緒に豆乳を売り始めた。当初店舗はすごく小さくて、たったの百二十平米、投資金額は五万US ドルにすぎなかった。でも、店名はとても響きが良かった。“Yǒnghé dàwáng”、これはまるで雷の音が耳を貫くかのような響きがあった。永和県の豆乳は台湾では誰でもみんな知っている。李玉麟はこの“永和”という生きた商標を借用して自分の商売の広告としたのである。）

このお店の出発点はこう紹介されてる。当初は豆乳と油条だけしかメニューがなかったようやけど、それが今では、メニューの

種類はかなり多い。台湾人好みの味にされた和食もある。和風ラーメンとか、和風カレーとか、キュウリ巻きとか。でも、やっぱり中華料理が一番おいしい。中でも豆乳はさすがにおいしいと思う。甘い点心もお勧めや。あ、そうそう、餃子も焼き餃子「锅贴(guōtiē)」があって、ごっついおいしかった。

中国の庶民が食べる伝統的なものを食べたいなぁ、気軽に清潔感のあるところで、どっかいいところがないやろうか……？と思った時は、永和大王(Yǒnghé dàwáng)に行ってみてはどうやろうか？

四　ショッピング

1　襄阳路服装市场

「襄阳路服装市场(Xiāngyánglù fúzhuāng shìchǎng)」は上海のショッピングには外されへんスポットやろう。ガイドブックにも載ってると思う。いわゆる“バッタもの（偽物）”「冒牌货(màopáihuò)」がおおっぴらげに売られてる広場や。2001年頃、もともと「华亭路(Huátínglù)」っていう一本の路地にあった商店街を、そこからすぐ近くにあった古い住宅街を壊して“バッタものショッピング広場”にしてしまった。それが「襄阳路服装市场(Xiāngyánglù fúzhuāng shìchǎng)」や。

中国はほんまにおかしな国やと思う。表向きは偽物の販売を禁止してるくせに、そこが観光スポットになってしまったら、それをわざわざ広い場所に移して、まるで奨励しているかのようや。ちゃんと定期的に工商局の監査があるみたいやけど、これも単なる形式的なもんやろう。

「襄阳路服装市场(Xiāngyánglù fúzhuāng shìchǎng)」には、約九百軒のお店が軒を連ねてて、国内外の有名ブランドの偽物がおよそ二百種類も売られてるそうや。時計、財布、洋服、靴、鞄など、ありとあらゆる偽ブランド品がこれだけたくさん売られてるのに、まるで公に認められてるかのように堂々と存在し続けてるのには、やっぱり

経済的な理由があるからやろう。あるブランドメーカーの営業マンが言うには、

Yíge pǐnpái bèi guǎngfàn fǎngmào
「一个 品 牌 被 广 泛 仿 冒,」

ひとつのモデルが偽物を作られそれが広範囲に及んだら、

shòudào qīnquán de tóngshí
「受 到 侵 权 的 同 时,」

知的所有権の侵害を受けると同時に、

yě huì cùjìn pǐnpái de tuīguǎng。」
「也 会 促 进 品 牌 的“推 广”。」

またそのモデルの“宣伝広告を促す”ことにもなる。

Yě yǒuxiē shìjiè zhùmíng pǐnpái jiàgé tàiguì méi duō shǎorén yòng
「也 有 些 世 界 著 名 品 牌 价 格 太 贵 没 多 少 人 用,」

世界で有名なブランド品は価格が高すぎてほとんどの人が使わへん、

zhōdàozhě shèn shǎo yídàn yǒurén fǎngmào
「知 道 者 甚 少，一 旦 有 人 仿 冒,」

知っている人はとても少ない、でも一旦ある人がそれをまねて偽物を使ったら、

zhège pǐnpái jiù huì jiāyùhùxiǎo,」
「这 个 品 牌 就 会“家喻户 晓”,」

このモデルはすぐ“誰でも知っている”ものになる、(安いから買う人が多い為)

Shìchǎng de zhīmíngdù huì xùnsù tígāo。」
「市 场 的 知 名 度 会 迅 速“提 高”。」

市場での知名度がすぐに“上がる”というもんや。

だから、この“バッタもの市場”に対する企業側からのクレームもほとんどないという。

確かに、上海でブランドものの服を着て、ブランドものの鞄を持ってる人はいっぱいおる。偽物やと知らんかった頃は、「全身バーバリーやん！ごっつぅー！」とか思ったもんや。でも大抵は偽物や。どのくらい安いんかと言うと、例えば日本で買ったら何十万円もするオメガ「欧米茄（Ōumǐjiā）」の腕時計が百元以内（日本円で約1300円以内）で買うことができる。それがごっつい本物によく似てる。

この市場で買い物する時は値切り交渉をするのが普通や。でも、最近では値切ってもあんまり値段を下げてくれへん店が多い。値段があんまり下がらん理由は、私が思うに、店同士底値を決めてるんやろう。それに、高くても買ってくれる日本人観光客が増えてきたからや（旅行で来ただけの日本人は、値段交渉がうまくない人が多い、自分ではうまく値切ったと思っても、実は高い値段で買わされてる）。その他に、偽物以外にも色んな中国チックな小物が売られてて、偽ブランド品であれアンティークであれ、ここで買ったものを自国に持ち帰ってそれを売る商売人たちが増えてきたことも一因やろう。彼らは大量に買ってくれるから、単品だけを買っていく一見のお客さんに安くするよりは、常連でたくさ

ん買っていってくれる客に安くする方がいいわけや。日本人でも、ここで買ったものをネット上で販売したりしてるのをよく見るし、日本人だけじゃなくて、色んな国の商売人がここで大量に買い物をしてる。

私も友人や会社の出張者が上海に来た時には、よくここを案内した。広場の中を歩いてると、あっちこっちから声がかかる。

Yàobuyào mǎi shǒubiǎo
「要不要 买 手 表？」 *腕時計いらんかぁ？*

不思議なことに、一緒に歩いてる友人や出張者には共通語で喋りかけるくせに、私には上海語で喋りかけてくる。

Búyào búyào
「不要，不要。」 *いらん、いらん。*

と私が言うと、

Wǒmen shì tóngxiāng búyào zhème lěngdàn de duìdài ba
「我们 是 同 乡，不要 这么 冷 淡 地 对 待 吧。」

俺ら同郷のものやのに、こんなに冷淡にせんでもええやんけ。

と言われたこともあった。日本語を喋りながら友人と歩いてるのに、なんで私のことを上海人と思うんやろう？ でも、値切り交渉をする時は日本人やとばれへん方がいい。中国人と思われてる方が交渉がスムーズに進む。

“バッタもの”を買いたいと思ってここに行く人は多いと思う。でも偽ブランド品にしろ、その他の物にしろ、ここで売られてる物の品質はイマイチなのが多い（見掛けはいいけどな）。服でもす

ぐ着られへんようになるものが多い。でも上海の若者は、品質が悪くても安いものでいいと思ってる。

Fúzhuāng de liúxíng měinián dōu huì biàn de
「服 装 的流 行 每 年 都 会 变 的。」

ファッションの流行は毎年変わるから、

Zhìliàng shāowēi chà yìdiǎn wúsuǒwèi de
「质 量 稍 微 差 一 点，无所 谓 的，」

品質が少々悪くても

Zài yíge jìjié zhīnèi nénggòu chuāngxiàqù jiù méi wèn tí le
「在 一个季 节 之 内 能 够 穿 下去 就 没 问 题了。」

ワンシーズン着られたらそれでいいねん。

Fǎnzhèng míngnián hái yào mǎi xīn yīfu la xīn xiézi lā
「反 正 明 年 还 要 买 新衣服啦，新 鞋子啦。」

どうせまた来年、新しい服や靴を買うんやから。

もし、日本人のようにいい物を長く使いたいと思うんやったら、ここでの買い物は不適当かもしれん。それに、日本でも偽ブランド品の国内への持込は法律で禁止されてるしな。だからここで買い物するんやったら、中国チックなアンティークなどを買うのをお勧めする。

買う時のコツは、ひとつひとつ品質を確かめて買うこと。それと、「あっ、これいい！」と思ってすぐそのお店で買わへんこと。これだけお店が多いと、同じものが別のお店でもたくさん売られてる。二，三軒のお店をまわって、そこで値段を聞いて、大体ど

のくらいで買えるんか自分で感覚を掴むことや。じゃないと、同じ物でも別のお店ではもっと安く買えたのに……とか、もっと色んな型があったのに……と悔しい思いをすることになりかねへんからな。

ここで買い物する時は、すごい人ごみを掻き分けながら、商売上手な上海の店主たちと値切り交渉バトルに立ち向かわなあかん。だからそれに備えて、やる気満々、エネルギー満タンで、体力使って時間かけて頑張って買い物してきてや！

追記：最近では、偽物商品はパッ……と目に付く場所には置かず、引き出しの中や店の奥にしまっておいて、言ったら出してきてくれるお店が増えた。

2　路地にあるお店

上海に住んでる時、私がやりたくでなかなかできへんかったことがあった。それは上海市内の散策や。蘇州に住んでる時は、上海に住む季のいとことよく、上海市内の路地をぶらぶら歩きながら一緒にショッピングをしたものやった。路地というよりは、ちょっと狭いけど車も通れる道幅の道を歩いてると、結構掘り出し

物のあるお店に出会ったもんやった。上海に住んでからは、出張で週末もつぶれることが多くて、なかなか時間がとれへんかったのが残念や。

上海はおもしろい街で、歴史的には中国でまれに見る不思議な空間「不可思议的空间（bùkěsīyì de kōngjiān）」と言うてもいいやろう。北京や南京、西安などの古い歴史を持つ都市とは違って、今あれだけの大都会になってる上海は、実は昔、蘇州管轄の「松江（Sōngjiāng）」という街に付随する単なる小さな漁村にすぎへんかった。今の「松江（Sōng jiāng）」は上海市近郊として位置づけされてて、色んな外資系企業が工場を進出させてるけど、でもまだまだ田舎っていう感じや。

その上海がどうやって発展してきたんかというと、きっかけは1840年に勃発したアヘン戦争「鸦片战争（Yāpiàn zhànzhēng）」や。イギリス、フランス、アメリカなどの列強国が、通商港「通商口岸（tōngshāng kǒuàn）」として上海を選んだ。そして、アヘン戦争後の上海は複数の国によって支配された。

「以黄浦区、静安区为英美势力范围,」（Yǐ Huángpǔqū Jìng'ānqū wéi YīngMěi shìlì fànwéi）

黄浦区と静安区はイギリスとアメリカの勢力範囲

「卢湾区、徐汇区为法国势力范围,」（Lúwānqū Xúhuìqū wéi Fǎguó shìlì fànwéi）

慮湾区と徐汇区はフランスの勢力範囲

「以及以后的虹口区和杨浦区部分为日本（yǐjí yǐhòu de Hóngkǒuqū hé Yángpǔqū bùfen wéi Rìběn）

shìlì fànwéi
势 力 范 围,」

それから以後の虹口区と楊浦区は日本の勢力範囲

háiyǒu Dé Éděng xīfāng guójiā yě gèbà yídì
「还 有 德、俄 等 西 方 国 家 也各霸一地。」

他にもドイツやロシア等の西側諸国の管轄地区もあった

ér zhǐyǒu yǐ Rénmínlù Zhōnghuálù suǒ wéichéng de jiù
「而 只 有 以 人 民路、 中 华路 所 围 成 的旧
Shànhǎixiànchéng wéi Zhōngguórén guǎnxiá
上 海 县 城 为 中 国 人 管 辖。」

人民路と中華路で囲まれた旧上海県城だけが中国人管轄やった。

ひとつの都市で、こんなにたくさんの国に占領されてた街は他に見ることはできへんやろう。上海の近代史っていうのは西側列強諸国の統治下によって作られてきたから、上海市内の建築様式も地域によって異なるんや。現在の地図と、昔の租界地図「租界地图」とを比べて見ながら上海市内を歩いてみると、建築物から当時の様子（どこの国の支配下やったか）を伺うことができる。これが結構おもしろい。色んな様式の洋館や「石库门」などの建築物を見ることができる。

「石库门」については、“新天地”の項で少し書いたけど、折角やからここで歴史的背景について触れてみようと思う。「石库门」は建物を指し、「石库门」が集まってできた住宅街を「弄堂」と呼ぶが（どちらも同じ意味で呼ばれることもある、発音は「lòngtáng」となるので注意)、「弄堂」というのは、も

ともと租界に住む華人の居住区やったものや。1845 年に制定された《上海土地章程(Shànghǎi tǔdì zhāngchéng)》という法律で、外国人は租界に、華人はそれ以外の土地に分かれて住むよう「华洋分居(huáyáng fēnjū)」規定され、華人は租界に住んだらあかんことになった。それが、太平天国の乱「太平天国运动(Tàipíng tiānguó yùndòng)」(1853 年)の戦火が江苏浙江(Jiāngsū Zhèjiāng)一帯にまで及んでくると、安全な場所を求めてたくさんの華人が租界に避難してくるようになった。租界に住む華人人口は、1854 年には二万人に、1865 年には十五万人にも膨れ上がって、その勢いに押される「顺水推舟(shùnshuǐ tuīzhōu)」ような形で、華人も租界に住むことを許されるようになった「华洋杂居(huáyáng zájū)」。そこで、租界に作られた華人を管理するための華人用集合住宅が「弄堂(lòngtáng)」や。「石库门(shíkùmén)」が何棟も集まった「弄堂(lòngtáng)」の入り口には大抵鉄門があって、いつでも門を閉開できるようになってた。「弄堂(lòngtáng)」は段々華界(もともと華人が住む地域と指定されてたところ)にも作られ始め、上海市内全域に見られるようになり、そして不動産業界を支える柱「房地产业的中坚(fángdìchǎnyè de zhōngjiān)」となっていった(供給不足「供不应求(gòngbúyìngqiú)」で価格は跳ね上がり、利益率は 30〜40%もあったそうや)。同じ「石库门(shíkùmén)」と呼ばれる建物やけど、どこでも同じものが建てられてたわけじゃない。地域によって華人住民の階層に差があったから、「石库门(shíkùmén)」の建築

条件も地域によってまちまちやった。

ほな、当時の華人の居住区分はどうなってたかというと、

Xúhuìqū Lúwānqū Jìng'ānqū Huángpǔqū jí Chángníngqū bùfen
徐汇区、卢湾区、静安区、黄浦区及长宁区部分

西洋人の居住区が多く、華人も中産階級と資本家の住居が多かった。この地区は「Shàngzhījiǎo上只角」と呼ばれていた。

Yángpǔqū Zháběiqū Pǔtuóqū
杨浦区、闸北区、普陀区

下層労働者階級の生活地区でもあり、工場地帯でもあった。中国人マフィア「hēibāng黑帮」の勢力範囲でもあったこの地区は「Xiàzhījiǎo下只角」と呼ばれていた。

Hóngkǒuqū xiànSìchuānběilù Hóngkǒu tǐyùchǎng yídài jí Dōngchángzhìlù yídài
虹口区现四川北路——虹口体育场一带及东长治路一带

日本人とユダヤ人「Yōutàirén犹太人」の居住区だったところで、地価が比較的高かった。

Yángpǔqū Zháběiqū Pǔtuóqū
杨浦区、闸北区、普陀区

工場と居住区が混在していた。生活環境としてはあまり理想的ではなかった。

上海市内を歩く時、「Shàngzhījiǎo上只角」を歩いてると感じのいい洋館を見ることができるやろう。そんな古い洋館でお店を開いてるところがよくあるんや。喫茶店「kāfēidiàn咖啡店」やったり、小物屋さん「lǐpǐndiàn礼品店」やったり、小さなギャラリー「xiǎoměishùguǎn小美术馆」

になってたり。カメラを持って歩くのもいいかもしれん。白黒写真に収めたくなるような建物がちらほら残ってるからな。

別に、どこの道をどう通るかは決めんでいい。ただぼぉーっとしながらぶらぶら歩くだけでいい。「上只角(Shàngzhījiǎo)」と呼ばれてた地区やったら、歩いてるうちに雑誌とかには載ってない、いいお店に出会えることは確実や。自転車やったらあかん。すぅーっと通り過ぎてしまうから、じっくり歩いて散策した方がいい。

「石库门(shíkùmén)」は今ではほんまに少なくなって、なかなか見ることができへんようになってきたけど、「上只角(Shàngzhījiǎo)」には「大型弄堂(dàxínglòngtáng)」などの、上流階級の華人が住んでた素敵な建物が残ってるかもしれへんな。(そういう私は、“素敵な石库门”っていうのには出会ったことがない。)もし「弄堂(lòngtáng)」を見つけたら、その中に入っていってもおもしろいと思う。(でも、あんまり観光客とバレバレの格好で入っていくと、住民の冷たい視線が感じられるかも……。入っていくなら中国人らしく、さりげない格好で入って行った方がええやろう。)未だにその軒下で、揚げパンなどの「小吃(xiǎochī)」を売ってたり、野外散髪屋をしてたり、「小卖部(xiǎomàibù)」(ビールや牛乳、アイスクリームなど、ちょっとしたものが売られてる売店)があったりする。

「下只角(Xiàzhījiǎo)」と呼ばれてた地区は、実は私は散策したことが

ない。どんなんやろ？　多分、すごい庶民的な下町がまだ残ってるんとちゃうやろうか。だから、きっと物価も低いはず。

何の目的もなく、ただぶらぶらしながらオシャレなお店を見てみたいなぁと思った時には「上只角（Shàngzhījiǎo）」地区を歩くのをお勧めする。いや、私は中国人の庶民の生活観溢れるお店に行きたいんや、と思った時には……まぁ、それはどこにでもあるやろうけど、とにかく、上海の街は歩いてまわるほど楽しいことはない。きっと、上海の歴史を感じさせる不思議な空間に出会えることやろう。

3　上海は買い物天国か？

中国でも上海は買い物天国「购物天堂（gòuwù tiāntáng）」として有名や。まず「购物天堂（gòuwù tiāntáng）」と聞いて思い浮かべるのは、浦东的（Pǔdōng de）正大广场（Zhèngdà guǎngchǎng）、时代广场（Shídài guǎngchǎng）、徐家汇的港汇广场（Xújiāhuì de Gǎnghuì guǎngchǎng）、虹桥的上海城（Hóngqiáo de Shànghǎichéng）、梅陇的南方友谊（Méilǒng de Nánfāng yǒuyí）などのショッピングスポットやろう。こういう所へ行ってみると、とにかく、いぃーっぱいお店が入ってる巨大なショッピングモールで、まずその規模に驚かされる。女性のファッ

ションや小物でも趣味がいいのがいっぱいあって、値段はそんなに安くない。ちょっとした服でも二百～三百元以上（日本円で五千円程度）はしてる。その代わり、そういう高い品物は品質もデザインもいい。

化粧品「化　妆　品（huàzhuāngpǐn）」もいっぱい置いてる。世界中のブランド化粧品があって、日本の百貨店と全然変わらへん。日本の化粧品で有名なのは、やっぱり資生堂「资　生　堂（Zīshēngtáng）」。早くから中国市場に参入してたから、中国人女性の中では“日本の化粧品で一番いいのは資生堂”っていうイメージがある。その後を追ってるのが、意外にもメナード「美伊娜多（Měiyīnàduō）」や。黒木瞳の広告がいい印象を与えてるみたいや。その次がカネボウ「嘉娜宝（Jiānàbǎo）」。ところが、最近資生堂を追い越す勢いで流行りだしてるのが「SKⅡ」や。でも、どの商品も日本で買うよりずっと高い。化粧品は日本で買った方がいい。

男性ものでもいいのがある。アジアブランドのかっこいいスーツ「西服（xīfú）」が、二千元代から三千元代（日本円で二万五千円から四万円以内くらい）で買うことができる。仕立てもいいし、生地もデザインもいい。

でも、それだけやったら何も上海に来て買うこともない。そのとおり。そしたら、上海で買い物してお得なものは何か？

観光客は普通行かへんような、地元の人たちだけが知ってる、本物のブランドの服がすごく安く買えるお店がある。それはどんなところか？

日本でもアウトレットというのがあるけど、中国にもそれによく似た「外贸货（wàimàohuò）」っていうのがある。これは、海外輸出用に中国で作られたものが、国内でも販売されてる商品のことをいう。中国では、輸出販売品と国内販売品の区別が厳しく管理されてて、本来国内販売する商品には”GB”っていう認証（国家标准（guó jiā biāo zhǔn）の”G”と”B”を取って”GB”）を取得せなあかんことになってる。”GB”を取得してなかったら国内販売ができへんのやけど、未取得のものでも国内で売られてることがある。

ここでブランド名を言うのは避けといた方がいいやろう。日本でも有名なブランドの服が多く中国で製造されてることは、誰でも知ってる「众所周知（zhòngsuǒzhōuzhī）」と思う。そこで作られて在庫になったもの（売り切れへんかったもの）とか、B級品で海外に輸出できへんかったものとか、どっかから流れ出てきたもの（中国人がポケットマネーを稼ぐ為に、工場から持ち出してきたもの）などが市場に流れてるんや。

それらが「外贸（wàimào）」と店先に看板を出されたところで売られ

てる。大抵は違法商品やと思うんやけどすごく普通に売られてて、違法とはみなされてないみたいや。

日本向けの「外贸货(wàimàohuò)」はすごく人気がある。もちろんセンスがいいからっていうのもあるけど、何より品質がいいのでよく知られてる。そこで売られてる服のどれが日本向けの商品かっていうのを、なんでか知らんけど買う人たちは知ってる（服の裏地に日本語のタグが付いてることも多いからな)。

中国はおかしな国で、中国で生産されたもので品質のいいものはみんな輸出される。例えば、陶器で有名な景徳鎮「景德镇(Jǐngdézhèn)」（陶器を作ってる街の名前、景徳鎮は地名)、中国各地で景徳鎮の陶器「景德镇陶瓷(Jǐngdézhèn táocí)」が販売されてて、もちろん日本や香港などで買うよりも安く販売されてる。景徳鎮まで行ったら、もっと安く売られてる。でも、一級品は中国国内で購入することはまずほとんど不可能と思ってもらっていい。景徳鎮の陶器は世界でも有名やから、中国国内では偽物も多く出回ってるし、目利きができる人やないと、いい陶器を買うのはかなり難しい。個人商店じゃなくてちゃんとした百貨店のようなお店に行くと、そこそこの品質のものが売られてるけど、一級品は大抵海外に輸出されてしまってるから、二級品以下のものしかないのが現状や（行く所に行ったら、いい物があるんかも

しれんけど、私は陶器についてまったくのド素人やから、中国のどこでなら本物で特級品質の陶器が手に入るかは知らない)。

それはひとつの例で、だから服でも同じことが言えるわけや。同じ中国で作った製品でも、海外向けに作られたものは往々にして品質がいいものが多い。国内向けの商品は、適当に作られたような品質の悪いものがよく目立つ。最近でこそ、国内販売の競争が激しくなってきてるから、国内販売品でも品質がよくなってきたけど、でもまだまだ日本へ輸出する商品と比べたら……。服にしても電気製品にしても、品質はまだまだ劣ると思う。

さぁ、こんな上海のショッピング。ここは買い物天国と言えるやろうか？　とりあえずは自分で行って見てみんことには分からん。百聞は一見にしかず「百 闻 不如 一 见 」(bǎiwén bùrú yíjiàn)やからな。

五 行 事

1 バレンタイン

蘇州でおる時は、さほどバレンタイン「情人节 Qíngrénjié」のことを気にかけてなかった。バレンタインデーに見る光景っていうたら、カラオケ小姐と駐在員のデートくらいやったからや。

でも上海のバレンタインは違う。すごい。ごっつい派手や。

上海のバレンタインでは、男性が女性に花を贈ることが多い。カーネーションやら、ユリやら、かすみ草やら「康乃馨啦 kāngnǎixīn la、百合花啦 bǎihéhuā la、满天星啦 mǎntiānxīng la」……。でも、一番多いのはやっぱりバラの花「玫瑰花 méiguìhuā」やろう。この日は花屋も大儲け！

街に行くと、レストランの前とか待ち合わせによく使われる場所に、大きな花束を持った若い男性がいっぱい立ってる。レストランは、花束を持った男女でいっぱいになる。私やったら、そんな大きな花束を公衆の前でもらったら、恥ずかしくて身の置き所がない「羞于见人 xiūyújiànrén」と思うけど、上海の女の子は違う。堂々と得意げに「得意洋洋 déyìyángyáng」花束を受け取る。そして男性にエスコートされながらレストランに入っていく。

もちろんチョコレート「巧克力 qiǎokèlì」もある。大抵は女性から男性に贈るみたいで、これは日本と変わらへん。他にも、色んなプ

レゼントを贈る習慣も広がってきて、バレンタインに近付くにつれ、百貨店などのお店は活気付いてくる。

ニュースでは、上海の若者がどうやってバレンタインを過ごしてるかや、どこでどんな特別な催しが行われてるかが紹介される。その中ですごいなぁと思ったのが、上海海洋水族館「上 海 海洋 水族馆 Shànghǎi hǎiyáng shuǐzúguǎn」や。上 海 浦东 陆家嘴 Shànghǎi pǔdōng Lùjiāzuǐに位置する観光及びデートスポットやけど、ここがバレンタインの日、男女カップルたちに場所を開放したんや。なんとその日、水族館がレストランに変身してしまった。そこで食事するのにいくら払わなあかんのかは報道されてなかったけど、海底トンネルの動く廊下にテーブルと椅子を置いて、そこで魚たちを見ながら食事ができるっていうサービスが紹介されてた。「そりゃ、ロマンチックやろうなぁ……」と一瞬思うけど、それが実際ニュースで見てたら結構変やった。廊下にテーブルが並べられて、ずぅーっと動いていく。動く廊下は狭くて、隣の席もごっつい近くて、何ていうか……あんまりロマンチックにゆったりと食事ができる雰囲気ではなかった。その海底トンネルは百五十五メートルあるらしいけど、廊下がなくなるまでに料理は食べられるんやろうか？　お茶飲むだけしかできへんのとちゃうやろうか？　そんな変な心配までしてしまったのは私だけやろうか。

でも、すごいのはそれだけじゃない。あるカップルがニュースで報道されてた。最初、女性だけがテーブルについて男性がおらへんかった。すると男性がいきなり、餌をやる飼育係のふりして水中ボンベを背負って水槽の中に現れた。バタバタもがいてなかなか思うように泳がれへんのやけど、何とかやっと彼女の目の前に来たかと思うと、ホワイトボードに文字を書き始めた。そのホワイトボードをくるっとひっくり返すと、

「Jià gěi wǒ ba
嫁 给 我吧!」　*結婚してくれ！*

と書いてあった。水中求婚や！　あれには驚いた。しばらくしてビショビショになった彼が彼女の前に現れて、もう一度指輪を差し出して求婚した。それで彼女はちょっとだけテレながら受け取ってた。その後、二人がインタビューされてるねんけど、女の子の方が、

「Wǒ hěn kāixīn. Hěn gǎndòng!
我 很 开 心！ 很 感 动!」

私、むっちゃ嬉しい！　むっちゃ感動した！

と言うてた。もし私の夫がそんなことしたら、私やったらごっつい引いてしまう「sǎoxìng
扫 兴」けどな。

上海人の愛の表現は、日本人のものより過激的や。

2　クリスマス

一昔前までは、中国にクリスマス「圣诞节(Shèngdànjié)」を祝う習慣はなかった。それが、ここ十年くらいの間で欧米文化がどんどん浸透していくと同時に、クリスマスを祝う習慣も広がっていった「近十年，欧美文化逐渐浸透的同时，庆祝圣诞节的习惯也扩展了(Jìnshínián Ōuměi wénhuà zhújiàn jìntòu de tóngshí qìng zhù Shèngdànjié de xíguàn yě kuòzhǎn le)」。各都市でクリスマスの雰囲気は違ってくると思うけど､大抵沿岸部の大都市では｢ああ、クリスマスやなぁ」と分かる程度の飾りつけは街中にしてあるもんや。内陸部に行くと、ちらほらとクリスマスの装飾をしてるところが出てきたかな……というくらいやと思う。

でも、中国はクリスマスを祝い始めてまだ長くはないから、大都市でもクリスマスを迎える雰囲気はいまいちや。特に、クリスマスソングがどこからも聞こえてこーへんっていうのはちょっと寂しい。実は、中国人はあんまりクリスマスソングを知らん。“諸人こぞりて”を知らんっていうんやから驚きや。百貨店に行ってもクリスマスソングが流れてるのを聞いたことがない。(もしかしたらどこかでは流れてるんかもしれんけど、あんまり印象に残ってない。)

でも、これには理由があるようや。クリスマスっていうのはも

ともとキリスト教のお祝い「基督 教 的 节日(Jīdūjiào de jiérì)」や。でも、中国では法律上宗教や思想の自由を許されてない「法律 上 不 允 宗 教 和思 想 的自由(Fǎlǜshàng bùyǔn zōngjiào hé sīxiǎng de zìyóu)」から、クリスマスを宗教的に煽り立てるような傾向を政府が恐れて、色んな措置を取ってるらしい。聞くところによると、ニュース番組などのアナウンサーは特に、クリスマスの宗教的な面を言及しないよう注意されてるそうや。

“圣 诞 是 宗 教 节日,各 位 主 持 人 不 要 在 节目 中 直 接 提及。(Shèngdàn shì zōngjiào jiérì gèwèi zhǔchírén búyào zài jiémùzhōng zhíjiē tíjí)”

クリスマスは宗教的祭日。各位アナウンサーは番組の中で直接言及しないように。

こういった注意がどっかから入るみたい。中国のマスコミはある一定範囲内で完全に中央政府からの制限と監視の下に報道を行ってる。マスコミの影響力っていうのは大きいからな。

例えば、こういう内容は報道されへん。上海市内にはたくさんの教会「教 堂(jiàotáng)」があって、クリスマスイブ「平 安夜(Píng'ānyè)」にはミサ「弥撒(mísà)」が行われてる。最近では、ミサに参加する若者もちらほら出てきた。でも、こんな内容は絶対に報道されへん。報道した結果、キリスト教信者「基督 教 信 仰(Jīdūjiào xìnyǎng)」が増えたりしたら、中央政府の恐怖にもなりかねへんからな。キリスト教信者た

ちが集まって思想の自由なんか主張し始められたら困るやろ。

以前、法輪功「法轮功（Fǎlúngōng）」っていう宗教団体の問題があった（在米のリーダーが中国大陸にいる信者たちをコントロールして、中国政府に抗議する意味で、信者たちが天安門広場で座禅を組み断食をした事件があった）。政府は、こういった宗教団体のことを「邪教（xié jiào）」だというプロパガンダを流して、政治にまで関与してくる宗教団体をけん制してる。チベットのダライ・ラマ「西藏的达赖喇嘛（Xīzàng de Dálài lǎma）」もそうや。私ら日本人は、ダライ・ラマの顔ってテレビや雑誌でよく見るけど、大多数の中国人はダライ・ラマの顔さえ見たことがない。どんなテレビ番組にも映されへんし、どんな雑誌にも載ってないからや。

話しを戻すけど、それでもさすがに中国政府や。クリスマスも経済的活動の範囲内やったら全然問題なく、どんどんやってくれってなもんや。

上海のクリスマスっていうたら、バレンタインの時と同じで街の中は若い男女でいっぱいになる。男性はやっぱり花束を手に、待ち合わせ場所で彼女を待ってる。そしてこの時とばかりに、ホテルのレストランや高級レストランなんかはセットやコースを用意して、普段より値段を上げたものを準備する。それでも彼女を喜ばす為に、上海の若い男性はお金を使って、オシャレなレスト

ランなんかで食事する。その上、まだプレゼントまで用意してるんやからな（花束以外やで）。クリスマス商戦っていうのも中国の大都市に近年見られるようになった現象や。

各ホテルは日本のホテルと同じで、クリスマス向けの特別な催し物を準備する。ホテルの中は、クリスマス一色になる。でも、このクリスマスの雰囲気作りも、ホテルによって良し悪しがまちまちや。私の友人に、ある四つ星ホテルで勤務してた日本人女性がおった。ホテルの中のクリスマス装飾をするのに会議を持った時、同僚から彼女の意見を求められたらしい。

Nǐ shì Rìběnrén Guānyú wǒmen zhècì yào nòngde zhuāngshì
「你 是 日本 人。关 于我 们 这 次 要 弄 的 装 饰,」

君は日本人やろ。オレらが今回やろうと思ってる装飾について、

cóng Rìběnrén de jiǎodù lái kàn
「 从 日本 人 的 角 度 来 看,」

日本人の目から見て、

nǐ duì wǒmen de zhǔyì yǒu shénme kànfǎ
「你 对 我 们 的 主 意 有 什 么 看法?」

君は俺らのアイディアに対してどう思う？

そう聞かれて、彼女はリンカーンの有名な言葉を文字って、こう答えたらしい。

Nǐmen de zhuāngshì jiùshì
「你 们 的 装 饰 就 是 ”Christmas of the Chinese, by the Chinese, for the Chinese!”」

あんた達の飾りつけっていうたら、“中国人の、中国人による、

中国人の為のクリスマス”やで。

彼女のこの言葉はすごくうまく表現されてると思った。上海の五つ星ホテルとか高級百貨店くらいになると、結構きれいな装飾がされてるけど、一般的なところやったら、リボンの色は緑と赤と金色を使っておけばいい、そして窓にはサンタクロース「圣诞爷爷 / Shèngdàn yéye 圣诞老人 Shèngdàn lǎorén」のシールを貼っておけばいい……っていう、この程度の装飾や。それも、窓に貼られてるサンタクロースのシールは大小は異なっても、なぜか絵柄がどこのもまったく同じやねん。ちょっとくらい変化を持たせて、店やホテルによって色んな種類のサンタクロースの絵を貼ればいいのに、信じられへんくらいどこも同じサンタクロースの絵を貼ってる。街中で同じ顔のサンタクロースの絵ばかりを見るのは、結構気持ち悪いもんがある。そして、その気持ち悪いサンタクロースの顔が、元旦を過ぎてもずっと貼られ続け、旧正月を迎えるまで放っとかれたままなんや。気が利かへんところやったら、最悪五月くらいまでずっとサンタクロースの顔を貼り付けたままのお店とかもある。

中国大陸のクリスマスはなんでこんなにパッとせぇへんのやろうと思ってたけど、政治と宗教の問題があったからなんやな。

3　誕生日

中国人の誕生日の過ごし方「过 生 日 的 方 式(guò shēngrì de fāngshì)」は、日本人と比べて大きく異なる点が三つあると思う。一つ目は、旧暦の誕生日を祝うことや。最近の若者世代では太陽暦で祝うのがほとんどやけど、五十代以上の人は、やっぱり旧暦で祝うのが普通みたいや。

二つ目に異なる点は、誕生日に麺を食べること「吃 面(chīmiàn)」。誕生日にバースデーケーキ「生 日 蛋 糕(shēngrì dàngāo)」を食べるのは、ここ数年の間に流行りだしてきたことで、一般的にはやっぱり麺を食べる。なんでかと言うと、

「面 是 长 的，（和 面 一 样）希 望 长 寿。」(Miàn shì chángde hé miàn yíyàng xīwàng chángshòu)

麺は長い、（面と同じように）長く生きてや。

という意味が込められてるそうや。

最近の若者の間で流行ってるのは、日本と同じで、誕生日にE-mailや携帯のSMS（ショート・メッセージ・サービス）「短 消 息(duǎn xiāoxi)」でお祝いのカード「贺卡(hèkǎ)」を送ることや。音楽付きのメッセージももちろんある。色んな音楽を添付することができるけど、お馴染みの誕生日の曲をここで紹介。英語の”Happy Birthday to you”の歌、中国語ヴァージョンがちゃんとある。

Shēngrì kuàilè
曲目:「生 日 快 乐」 *お誕生日おめでとう*

Zhùnǐ shēngrì kuàilè
「祝 你 生 日 快 乐」 *あなたのお誕生日おめでとう*

Zhùnǐ shēngrì kuàilè
「祝 你 生 日 快 乐」 *あなたのお誕生日おめでとう*

Niánnián suìsuì suìsuì niánnián
「年 年 岁 岁 岁 岁 年 年」 *年々年を重ねていく*

Shēngrì kuàilè kuàilè
「生 日 快 乐 快 乐」 *お誕生日おめでとう、おめでとう*

この歌、マクドナルドとかケンタッキーに行くと、時々かかってることがある。最近の子供たちは、マクドナルドやケンタッキーでお友達を呼んで誕生日会をする。親は家の中を掃除したり、料理の準備したりせんでも済む。子供はおいしいものたくさん食べられるし、お店からプレゼントももらえる。親子共々喜べるってわけや。

三つ目に大きく異なるのは、年の数え方や。私ら日本人は生まれた時は零歳、一年たって一歳になる。中国人は生まれた瞬間を一歳と数えるから、日本でいう年齢よりひとつ上の年齢になる。いわゆる“数え年”や。しかも、

Nǐ jīnnián duōdà
「你 今 年 多 大?」 *今年何歳になるん？*

と聞かれた時、下手すると、日本の年齢より二歳も年をくってしまうことがある。なんでかというと、まず数え年やから、必然的に年齢はひとつ上になる。その上、誕生日が来てなくてもその年に何歳になるかを答えるから、誕生日がまだ来てない時に中国

で年齢を答えると、日本の年齢より二歳も上になってしまうことになる。

例えば、2000 年 9 月 15 日生まれの子供ちゃんがおったとする。今が 2005 年 3 月 15 日として年齢を聞かれると、日本でなら四歳と六ヶ月やから「四歳」と答えればいい。でも、中国では五歳と六ヶ月、2005 年 9 月 15 日には六歳になるから「六歳」と答えなあかん。

ほな、こんな場合はどうなるか？　同じ子供ちゃんで、今が 2005 年 1 月 1 日として年齢を聞かれた。この時は「五歳」と答えていい。なんでか？　それは、中国の新年は旧暦で祝うからや（旧暦の正月は、大抵一月中旬から二月中旬にかけて）。日本でなら、2005 年 1 月 1 日には酉年「鸡 年 jīnián」になってる。でも、中国ではまだ申年「猴 年 hóunián」のままで、2005 年 2 月 9 日が酉年の正月「初一 chūyī」、この日を過ぎて年齢を聞かれたら「六歳」と答えることになるんや。

日本の干支と中国の干支「生肖 shēngxiāo」は同じや。

「你 属 什么 Nǐ shǔ shénme?」　*あんた、何年？*

と聞くこともよくある。中国人に何歳かと聞くと、自分と同じ年やと思っても実は自分より年下。それも、慣れてないと、一歳違いなんか、二歳違いなんか分からんようになってくる。そんな

場合は、相手の干支を聞いたらいい。年上や、と思ってても、干支を聞いたら自分と同年やったりするかもしれん。干支で聞く方が便利かもしれんな。

ここで、中国の十二支「十二生肖（shíèr shēngxiāo）」を書いておこう。

［口語］

shǔ niú hǔ
鼠、牛、虎、／ねずみ、牛、虎

tù lóng shé
兔、龙、蛇、／うさぎ、竜、蛇

mǎ yáng hóu
马、羊、猴、／馬、羊、猿

jī gǒu zhū
鸡、狗、猪、／鳥、犬、イノシシ（中国語で“猪”と書いて“ブタ”の意味）

［文語］

zǐ chǒu yín
子、丑、寅、／子、丑、寅

mǎo chén sì
卯、辰、巳、／卯、辰、巳

wǔ wèi shēn
午、未、申、／午、未、申、

yǒu xū hài
酉、戌、亥、／酉、戌、亥

なぁんや、これって日本と同じやん。そう、干支は中国から伝わってきた。でも、一点だけ気になるのは、中国では「猪（zhū）」で「ブタ」の意味やのに、日本で「猪」は「イノシシ」と読む。なんで、どこで、どうやって変わってしまったんやろうな。

六 帰 国

1 妊 娠

中国人と結婚して一番よく聞かれる質問は、

Nǐ néng shēng jǐge háizi
「你 能 生 几个 孩子?」 *あんた、何人子供産めるん？*

つまり、一人っ子政策をしてる国の人と結婚しても、二人以上子供を産めるんかっていう意味で聞いてる。

Yào shēng de huà jǐge dōu kěyǐ shēng de
「要 生 的 话，几个 都 可以 生 的。」

産みたいんやったら、いくらでも産んでいいねんで。

Dànshì wǒ zhǐyào shēng yíge jiù gòu le
「但 是，我 只 要 生 一个 就 够 了。」

でも、私は一人産んだら十分や。

これがいつもの私の答えや。ちなみに、中国人が外国人と結婚した場合は、その中国人が男性であれ女性であれ、相手がどこの国の人であれ、子供は何人産んでもいい、これが正しい答えや。

妊娠したかな……、と思った時、日中合弁の病院に行った。検査結果は陽性、

Tài hǎo le Wǒ yǒu háizi le
「太 好 了! 我 有 孩子了!」

やったぁ、赤ちゃん授かった！

と思った。(中国語で“妊娠”は「huáiyùn 怀 孕」と言う。でも、「wǒ yǒu le 我 有 了」だけでも口語では“妊娠した”の意味になる。日本語で

「私、できてしまってん」と言えば“妊娠した”という意味になるのと同じ。）

この時、この病院でもやっぱり聞かれた。

Nǐ yàobuyào
「你 要 不 要？」 *あんた、(この赤ちゃん)いるの、いらんの？*

「おめでとう！」じゃなくて「いるか、いらんか?」というこの言葉。予想はしてたけど、自分がその場になって聞かれると、ドキッとした。

Yào Yào Yào
「要！要！要！」 *いる！いる！いる！*

私は必死で答えた。

Nǐ dǎsuàn zài Zhōngguó shēng háizi háishì zài Rìběn shēng háizi
「你 打 算 在 中 国 生 孩 子，还 是 在 日 本 生 孩 子？」

あんた子供は中国で産むん？それとも日本で産むん？

と聞かれて、まだ夫と相談してないのに、

Wǒ yào zài Rìběn shēng háizi
「我 要 在 日 本 生 孩 子。」 *私、日本で子供産む。*

と答えた。結婚した時から、もし子供ができたら絶対に日本で出産する、と心の中で決めてた。蘇州の妇 保 医 院 Fùbǎo yīyuàn での光景（堕胎薬を飲んでスクワットをしている女性たち）を見てから、「胎児がこんな風に扱われてるところでは出産したくない。」という思いがあったからや。

もし中国で出産するんやったら、中国の母子手帳がもらえたそ

うや。でも、私はもらわんかった。

Rúguǒ yǒu shénme wèntí nǐ suíshí dōu kěyǐ guòlái de
「如 果 有 什 么 问 题，你 随 时 都 可 以 过 来 的。」

もし問題があったら、いつでも来てええで。

Dànshì méiyǒu wèntí de huà jiù búyào lái le
「但 是，没 有 问 题 的 话，就 不 要 来 了。」

でも、問題なかったら来んでもええ。

Chūchǎn jiùshì rén de zìrán xiànxiàng
「出 产 就 是 人 的 自 然 现 象，」

出産っていうのは人間の自然現象やから、

Tīngqízìrán jiù xíng le
「听 其 自 然 就 行 了。」

自然に任せてたら、それでええんや。

医者にそう言われて、ちょっとびっくりした。

「ええ!? 定期健診もないん？ ここで出産せぇへんから？ま、自然現象と言われればその通りやけど、でも、“出産するまで、医者に診てもらう必要はない”っていうことやろ？ そりゃ、昔むかしの女性たちはそうやったんかもしれんけど……。」

かなり不安やった。実際私の妊娠の経過はそんなに順調でなく、何度か日本の産婦人科に電話して対応を聞き、医師にはこう言われたものの、帰国までの間、ここで通院していた。

妊娠が分かって帰国を決意した。夫には“寝耳に水”やったと思う。でも、夫にも夫の両親にも、

Wǒ yǒu le háizi yào zài Rìběn yǎng
「我 有 了 孩 子，要 在 日 本 养。」

子供ができたら、日本で育てる。

と以前から言ってたから、突然の話でも夫は一緒に日本へ行ってくれることに了承してくれた。私にとっても、上海でのキャリアを捨てるのはもったいないことやったけど、でも、子供を産んで日本で育てるっていうことは、私の人生の中で一番輝いたものに思えた。さぁ、上海とも別れが近付いてきた。

2　SARS の流行

SARS は、2003 年 1 月頃から中国広東省で流行り始め、中国全土に広がり、世界中に広がっていった、治療方法不明のまま死に至ってしまう（治癒率が低い）という恐ろしい感染病や。

中国語で SARS は「非 典 型 肺 炎（Fēidiǎnxíng fèiyán）」と言って、普通はそれを略して「非 典（Fēidiǎn）」と言う。中国政府は当初この病気のことを公開せんかったけど、状況は益々悪化していって、政府も隠し通せんようになってきたのが 2003 年 3 月頃や。2 月頃には、中国国内におった私らにも、

「好 象 在 广 东 省 流 行 肺 炎（Hǎoxiàng zài Guǎngdōngshěng liúxíng fèiyán）。」

広東省で肺炎が流行ってるらしい。

という情報は入ってきた。でも、それが原因不明、治療方法不明の死に至る感染病というのは、まだその頃は知らんかった。今でも覚えてるのは、ちょうど 2 月に広東省で社員研修が約一週間行われるということで、本来私も行かなあかんところやった。それが、妊娠してた為に広東省までの出張はムリやということで、この研修には参加せんでもよくなった。今思ったらラッキーやったと思う。下手したら感染してたかもしれんからな……。

私らが「非 典 型 肺 炎（Fēidiǎnxíng fèiyán）」という名前を耳にし始めたのは、2 月末から 3 月初旬に掛けてやったと思う。政府もその感染病の存在は認めて、色々措置を取り始めたところやった。政府が感染病の存在を認めるやいなや、街には人気がなくなるわ、レストランはガラガラやわ、バスも乗客はちらほらやわ……。みんな外出を極力避けるようになった。私も妊娠中ということで、上司の計らいもあって、自宅勤務するようになった。アメリカ本社からも、「中国 B 社の社員は海外出張してはいけない（つまり、中国から出るなということ）、グローバル B 社の社員は中国へ出張してはいけない」、という社長命令が通達された。中国 B 社のトップも、中国国内出張禁止命令を出した。顧客からも、訪問に来んでええで（来てくれるな）、という連絡が相次いだ。

上海市内のバスやタクシーや電車は、一斉に毎日車内に消毒を

行った。消毒した後は、「已消毒(yǐxiāodú)」と書かれ、消毒した日にちも一緒に書かれた紙が車内に貼られた。私のマンションのエレベーターも毎日消毒され、同じように消毒済みシールが貼られた。

テレビでは始終 SARS の報道番組が流されて、献身的な医師や看護婦の働く様子が映し出された。あれを見てたら、ほんまにすごいなぁと思った。特に看護婦……。六枚から八枚くらい、服でもマスクでも手袋でも重ねて着なあかん。ほとんど息もできへんくらい着込んで、何時間も病人と接しながら看病せなあかん。ほんまに、ほんまに、すごいなぁ……と思った。彼女たちは病院の寮に入って、家には帰られへん。家族とは電話でしか話することができへん。病人も孤独やけど、その病人を看病してる医師や看護婦たちもすごい孤独で、死と向き合いながら病気と闘ってる。私なんかやったら、とてもそんな仕事はできへんと思った。ほんまに命かけて病人の世話をしてるんやからな……。それで実際死んでしまった医師や看護婦もおったし……。

今でもはっきりと覚えてる。2003 年 4 月 10 日午後 7 時、何の予告もなく、いきなり政府が中国全土と世界に向けて記者会見を開いた。そこで、どの都市でどのくらいの SARS 患者「非典患者(Fēidiǎn huànzhě)」と SARS 予備患者「非典疑似患者(Fēidiǎn yísì huànzhě)」(SARS の疑いがある患者)がいるか、都市名と人数を逐次世界に向けて公

開発表すると言った。その上、死者と感染者をたくさん出した北京市長は更迭や。中国政府がSARSに関し、世界に対してはっきりとしたメッセージを発した初めての日やった。私はその記者会見の生中継番組を約一時間、じっと見てた。

私はSARSの状況を見ながら、早い目に帰国した方がええやろうと思い始めてた。

3　帰　国

2003年4月28日、私は上海から大阪に帰ることになった。ほんまやったら、帰国前に蘇州に戻って夫の親戚や友人たちに挨拶せなあかんところやけど、SARSが猛威を振るってたし、妊娠の経過があんまり思わしくなかったから、長距離の移動はなるべく避けた方がいい、と親戚たちも了承してくれた。

正直な気持ち、早く日本に帰りたかった。一日、一日を数えて暮らした。おもしろいことに帰国の日程が決まった頃から、毎晩日本の夢を見た。それも、小学校や中学校の時の友人が毎日代わる代わる夢の中に出てきた。そして、今やから書けることやけど、その夢の中に出てきた友人たちとは、帰国してから実際ほとんど

みんなに会った。同窓会で会ったり、中国から帰国したと聞いて私を訪ねてきてくれたり……。こういうのを“デジャヴー”って言うんやろうか？

妊娠で体調もずっと優れへんかったし、SARS もあったし、帰国当日は“名残惜しい”という気持ちより、“やっと帰れる！”という気持ちの方が大きかった。浦東空港までは、帰国の準備を手伝いに一週間前から来てくれてた夫の両親と共にタクシーで向かった。空港に着くと、人はものすごく少なくて、マスクしてる人がよく見られた。SARS に関するポスターもあちこちに貼られてて、私は記念に、そのポスターの前で写真撮影をした。

義父母は、最後の最後までほんまに私によくしてくれた。中国におる間、私の家族は日本におるからと、自分の子供以上に私をかわいがってくれた。義母は、一ヶ月に一回は上海の私たちの家まで来てくれ、仕事で忙しい私たち二人の生活を助けてくれた。私が好きなものをたくさん料理してくれたりもした。義父も時々来てくれては、力仕事などをしてくれた。私は義父母からしてもらうばかりで、何もお返しすることがなかった。それでもずっとずっと私をかわいがってくれた。私のわがままも聞いてくれた。私と季が喧嘩しても、いつも私の肩を持ってくれた。そんな義父母と別れ、日本に帰り、子供を日本で産んで育てるというのは、

本当にすごくわがまま「自私自利（zìsīzìlì）」なことやと思った。でも、義父母は全部受け入れてくれた。

空港で別れた。でも、また会える、子供が生まれて少し大きくなったら、必ず連れて帰ってくるから、と約束して私は飛行機に乗り込んだ。

飛行機の中はガラガラやった。多分二十人くらいしか乗客がおらんかったんとちゃうやろうか。乗客が少ないせいで、出発時間は予定より早かった。さぁ、日本に向けて離陸するで！

バイバイ上海、バイバイ蘇州、バイバイ北京。次にこの大地に足を下ろすのはいつのことやろう。その時は二本の足じゃなくて、四本の足で、子供を連れてこの大地に戻ってくるんや。ここは、私にとって心惹かれてやまへんあこがれの大地なんやからな。

〈完〉

≪著者紹介≫

久米ひろみ（くめひろみ）

1973 年大阪生まれ

中国語といえば「ニーハオ！」だけしか知らなかった著者が、就職先で 中国関係の部署へ配属。出張で初めて行った北京に魅了され虜になり、 退職して中国へ留学しようと決心。そこから中国と著者との不思議な縁が 始まる。北京へ留学、その後蘇州で就職、結婚、そして上海へ転職……。

出産を機に中国人の夫と共に帰国、今は二歳半になる息子の子育てと中国語会話教室の運営に追われる日々を送る。

中国人の使う中国語　使わない中国語
－疑似体験・中文生活－

2006 年 4 月 10 日　紙版発行
2011 年 9 月　1 日　デジタル発行

著者 ――― 久米ひろみ
紙版発行 ― 株式会社 かんぽうサービス
デジタル発行 ― 株式会社 シルクふぁみりぃ
電話……(0745)60-2696 ／ FAX……(0745)60-3098

©2006 Printed in Japan　Hiromi Kume